

Fujitsu Software Systemwalker Service Quality Coordinator V15.2.4

リファレンスマニュアル

Windows/Solaris/Linux

J2X1-7662-11Z0(00)
2023年7月

まえがき

■本書の目的

本書では、Systemwalker Service Quality Coordinatorのコマンドリファレンスや、メッセージについて説明しています。

■本書の読者

本書は、Systemwalker Service Quality Coordinatorのコンソール画面上で操作される方を対象としています。

また、本書を読む場合、OSやGUIの一般的な操作、およびTCP/IPやSMTPなどの一般的な知識をご理解の上でお読みください。

■本製品のマニュアル体系

Systemwalker Service Quality Coordinatorのマニュアル構成は以下です。

- Systemwalker Service Quality Coordinator 解説書
機能の概要について説明しています。
- Systemwalker Service Quality Coordinator 導入手引書
インストール、セットアップについて説明しています。
- Systemwalker Service Quality Coordinator 使用手引書
機能の使用方法について説明しています。
- Systemwalker Service Quality Coordinator 使用手引書(コンソール編)
機能の使用方法のうち、画面の使用に関する説明をしています。
- Systemwalker Service Quality Coordinator リファレンスマニュアル
コマンド、データフォーマット、メッセージ等について説明しています。
- Systemwalker Service Quality Coordinator トラブルシューティングガイド
トラブルの対処方法について説明しています。
- Systemwalker Service Quality Coordinator Web利用状況管理編
本製品の提供する機能のうち、Web利用状況分析機能、Webコンテンツの改ざん監視機能について説明しています。
- Systemwalker Service Quality Coordinator 用語集
Systemwalker Service Quality Coordinatorの用語について説明しています。

■本書の位置づけ

本書は、Systemwalker Service Quality Coordinatorの共通マニュアルです。本書は、以下の製品のWindows版/Solaris版/Linux版に対応しています。

- Systemwalker Service Quality Coordinator Enterprise Edition V15.2.4
- Systemwalker Service Quality Coordinator Standard Edition V15.2.4

■略語表記について

- 以下の製品すべてを示す場合は、"Windows Server 2022"と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2022 Standard
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2022 Datacenter
- 以下の製品すべてを示す場合は、"Windows Server 2019"と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2019 Standard
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2019 Datacenter
- 以下の製品すべてを示す場合は、"Windows Server 2016"と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2016 Standard
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2016 Datacenter
- 以下の製品すべてを示す場合は、"Windows Server 2012 R2"と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Foundation
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Standard
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Datacenter
- 以下の製品すべてを示す場合は、"Windows Server 2012"と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Foundation
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Standard
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Datacenter
- 以下の製品すべてを示す場合は、"Windows Server 2012 Standard"と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Standard
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Standard
- 以下の製品すべてを示す場合は、"Windows Server 2012 Datacenter"と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Datacenter
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Datacenter
- Server Coreインストールした以下の製品すべてを示す場合は、"Windows Server 2012 Server Core"と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Foundation
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Standard
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Datacenter
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Foundation
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Standard
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Datacenter
- 以下の製品すべてを示す場合は、"Windows Server 2008 R2"と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Foundation
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter
- 以下の製品すべてを示す場合は、"Windows Server 2008"と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Foundation

- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Foundation
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V(TM)
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V(TM)
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter without Hyper-V(TM)
- 以下の製品すべてを示す場合は、"Windows Server 2008 Enterprise" と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V(TM)
- 以下の製品すべてを示す場合は、"Windows Server 2008 Datacenter" と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter without Hyper-V(TM)
- Server Coreインストールした以下の製品すべてを示す場合は、"Windows Server 2008 Server Core" と表記します。
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V(TM)
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V(TM)
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter without Hyper-V(TM)
- 以下の製品すべてを示す場合は、"Windows 11"と表記します。
 - Windows(R) 11 Home
 - Windows(R) 11 Pro
 - Windows(R) 11 Enterprise
- 以下の製品すべてを示す場合は、"Windows 10"と表記します。
 - Windows(R) 10 Home
 - Windows(R) 10 Pro
 - Windows(R) 10 Enterprise
- 以下の製品すべてを示す場合は、"Windows 8.1"と表記します。
 - Windows(R) 8.1
 - Windows(R) 8.1 Pro
 - Windows(R) 8.1 Enterprise

- 以下の製品すべてを示す場合は、"Windows 8"と表記します。
 - Windows(R) 8
 - Windows(R) 8 Pro
 - Windows(R) 8 Enterprise
- Internet Explorer(R) 11を"Internet Explorer"と表記します。
- Microsoft Edgeの"Internet Explorer (IE)モード"を"IEモード"と表記します。
- Microsoft(R) SQL Server(R) を、"SQL Server"と表記します。
- Oracle SolarisはSolaris, Solarisオペレーティングシステム, Solaris Operating System, Solaris OSと記載することがあります。
- Oracle Solaris ゴーストはSolarisコンテナと記載することがあります。
- Oracle WebLogic Serverを"WebLogic Server"と表記します。
- Oracle Databaseを"Oracle"と表記します。
- Systemwalker Centric Managerを"Centric Manager"と表記します。
- Systemwalker Resource Coordinatorを"Resource Coordinator"と表記します。
- Interstage Application Serverを"Interstage"と表記します。
- Symfoware Serverを"Symfoware"と表記します。
- VMware ESX(R)を"VMware ESX"または"ESX"と表記します。
- VMware ESXi(TM)を"VMware ESXi"または"ESXi"と表記します。
- VMware vCenter(R)を"VMware vCenter"または"vCenter"と表記します。
また、Windows版VMware vCenterを"VMware vCenter"と表記します。
- VMware vCenter Server(R) Appliance(TM)を"VMware vCenter Server Appliance"または"vCenter Server Appliance"と表記します。
- Windows版VMware vCenterとvCenter Server Applianceを区別する必要がない場合は、"VMware vCenter"または"vCenter"と表記することがあります。
- VMware vSphere(R)を"VMware vSphere"と表記します。
- Windows上で動作するSystemwalker Service Quality Coordinatorを"Windows版"と表記します。
- Solarisで動作するSystemwalker Service Quality Coordinatorを"Solaris版"と表記します。
- Linux上で動作するSystemwalker Service Quality Coordinatorを"Linux版"と表記します。
- Red Hat Enterprise Linux 9上で動作するSystemwalker Service Quality Coordinatorを"RHEL9版"と表記します。
- Red Hat Enterprise Linux 8上で動作するSystemwalker Service Quality Coordinatorを"RHEL8版"と表記します。
- Red Hat Enterprise Linux 7上で動作するSystemwalker Service Quality Coordinatorを"RHEL7版"と表記します。
- Solaris版およびLinux版のSystemwalker Service Quality Coordinatorを包括して、"UNIX版"と表記します。
- Agent for Server/Agent for Businessの共通記事を"Agent"と表記します。

■本書の表記について

- エディションによる固有記事について

本書では、標準仕様である「Systemwalker Service Quality Coordinator Standard Edition」の記事と区別するため、エディションによる固有記事に対して以下の記号をタイトル、または本文につけています。



Systemwalker Service Quality Coordinator Enterprise Edition固有の記事です。

Systemwalker Service Quality Coordinator Standard Edition固有の記事です。

また、Systemwalker Service Quality Coordinator Enterprise Editionを“EE版”、Systemwalker Service Quality Coordinator Standard Editionを“SE版”と表記している箇所があります。

- Windows版とUNIX版の固有記事について

本書は、Windows版、UNIX版共通に記事を掲載しています。Windows版のみの記事、UNIX版のみの記事は、以下のように記号をつけて共通の記事と区別しています。

【Windows版】

Windows版固有の記事です。

【UNIX版】

UNIX版固有の記事です。

本文中でSolaris/Linux/Red Hat Enterprise Linux 9/Red Hat Enterprise Linux 8/Red Hat Enterprise Linux 7/AIX/HP-UXの記載が分かれる場合は、「【Solaris版】」、「【Linux版】」、「【RHEL9版】」、「【RHEL8版】」、「【RHEL7版】」、「【AIX版】」、「【HP-UX版】」のように場合分けして説明しています。

また、特に注意が必要な場合には、以下のように記号をつけて共通の記事と区別しています。

Windows版固有の記事です。

Solaris版固有の記事です。

Linux版固有の記事です。

■記号について

コマンドで使用している記号について以下に説明します。

【記述例】

[PARA={a | b | c | …}]

【記号の意味】

記号	意味
[]	この記号で囲まれた項目を省略できることを示します。
{}	この記号で囲まれた項目の中から、どれか1つを選択することを示します。
—	省略可能記号“[]”内の項目をすべて省略したときの省略値が、下線で示された項目であることを示します。
	この記号を区切りとして並べられた項目の中から、どれか1つを選択することを示します。
…	この記号の直前の項目を繰り返して指定できることを示します。

■輸出管理規制について

本ドキュメントを輸出または第三者へ提供する場合は、お客様が居住する国および米国輸出管理関連法規等の規制をご確認のうえ、必要な手続きをおとりください。

■商標について

- Adobe、Adobeロゴ、Acrobat、およびReaderは、Adobe Systems Incorporatedの米国またはその他の国における商標または登録商標です。
- Apache、Tomcatは、The Apache Software Foundationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- HP-UXは、米国Hewlett-Packard社の登録商標です。
- IBM、IBMロゴ、AIX、HACMP、ViaVoiceは米国におけるIBM Corporationの登録商標または商標です。
- Intel、Itaniumは、アメリカ合衆国および/またはその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標です。
- Linux®は米国及びその他の国におけるLinus Torvaldsの登録商標です。
- Microsoft、Windows、および Windows Serverは、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- OpenStackのワードマークは、米国とその他の国におけるOpenStack Foundationの登録商標/サービスマークまたは商標/サービスマークのいずれかであり、OpenStack Foundationの許諾の下に使用されています。
- OracleとJavaは、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。
- PostgreSQLはPostgreSQLの米国およびその他の国における商標です。
- Red Hat、Red Hat Enterprise Linux、Shadowmanロゴ、JBossは、米国およびその他の国において登録されたRed Hat, Inc.の商標です。
- R/3およびSAPは、SAP SEの登録商標です。
- SPARC Enterprise、SPARC64、SPARC64ロゴ、およびすべてのSPARC商標は、米国SPARC International, Inc.のライセンスを受けて使用している、同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- UNIXは、米国およびその他の国におけるオープン・グループの登録商標です。
- VMware、VMwareロゴおよびVMotionは、米国およびその他の地域における VMware 商標および登録商標です。
- そのほか、本マニュアルに記載されている会社名および製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。
- 本書に記載されている会社名、システム名、製品名等には必ずしも商標表示(TM・(R))を付記しておりません。
- Microsoft Corporationのガイドラインに従って画面写真を使用しています。

■謝辞

This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (<http://www.openssl.org/>)

■出版年月および版数

版数	マニュアルコード
2012年 7月 初版	J2X1-7662-01Z0(00)/J2X1-7662-01Z2(00)
2012年 9月 第1.1版	J2X1-7662-01Z0(01)/J2X1-7662-01Z2(01)
2013年 1月 第2版	J2X1-7662-02Z0(00)/J2X1-7662-02Z2(00)
2013年12月 第2.1版	J2X1-7662-02Z0(01)/J2X1-7662-02Z2(01)
2014年 3月 第3版	J2X1-7662-03Z0(00)/J2X1-7662-03Z2(00)
2014年10月 第4版	J2X1-7662-04Z0(00)/J2X1-7662-04Z2(00)
2015年10月 第5版	J2X1-7662-05Z0(00)/J2X1-7662-05Z2(00)
2015年12月 第5.1版	J2X1-7662-05Z0(01)/J2X1-7662-05Z2(01)

版数	マニュアルコード
2018年 4月 第5.2版	J2X1-7662-05Z0(02)/J2X1-7662-05Z2(02)
2019年 4月 第6版	J2X1-7662-06Z0(00)/J2X1-7662-06Z2(00)
2019年10月 第7版	J2X1-7662-07Z0(00)/J2X1-7662-07Z2(00)
2020年10月 第8版	J2X1-7662-08Z0(00)/J2X1-7662-08Z2(00)
2021年12月 第9版	J2X1-7662-09Z0(00)/J2X1-7662-09Z2(00)
2022年12月 第10版	J2X1-7662-10Z0(00)/J2X1-7662-10Z2(00)
2023年 7月 第11版	J2X1-7662-11Z0(00)/J2X1-7662-11Z2(00)

■著作権表示

Copyright 2003-2023 Fujitsu Limited

目 次

第1章 コマンドリファレンス	1
1.1 ポリシーコマンド	1
1.1.1 sqcRPolicy(サーバ内リソース情報収集ポリシー作成コマンド)	4
1.1.2 sqcAPolicy(レスポンス情報収集ポリシー作成コマンド)	8
1.1.3 sqcSetPolicy(ポリシー適用コマンド)	11
1.1.4 sqcMdPolicy(ポリシー一時変更コマンド)	17
1.1.5 sqcViewPolicy(ポリシー定義情報確認コマンド)	19
1.1.6 sqcSendPolicy(ポリシー定義情報配付コマンド)	23
1.1.7 sqcCtrlPolicy(ポリシーリモート操作コマンド)	26
1.2 sqcEmSetup(Managerの二階層運用セットアップコマンド)	29
1.3 sqcHmSetup(Managerの二重化運用Managerセットアップコマンド)	34
1.4 sqcHaSetup(Managerの二重化運用Agent/Proxy Managerセットアップコマンド)	37
1.5 クラスタ設定コマンド	41
1.5.1 sqcsetupclp/sqcsetupcls(クラスタセットアップコマンド)	41
1.5.2 sqcunsetcl(クラスタアンセットアップコマンド)	43
1.6 インストールレス型Agentコマンド	44
1.6.1 sqcRemoteCheck(インストールレス型Agent管理通信確認コマンド)	44
1.6.2 sqcCollectSpec(インストールレス型Agent管理スペック情報収集コマンド)	47
1.6.3 sqcAgentlessCleanUp(インストールレス型Agent管理収集用スクリプト削除コマンド)	50
1.6.4 インストールレス型Agentコマンド実行時に出力されるメッセージ	53
1.7 PDBコマンド	66
1.7.1 sqcPDBcout(CSV出力コマンド)	66
1.7.2 sqcPDBcload(ユーザーデータ入力コマンド)	73
1.7.3 sqcPDBerase(データ削除コマンド)	77
1.7.4 sqcPDBexport(構成情報移行コマンド)	80
1.7.5 sqcSetPDBManage(PDBの保持期間変更コマンド)	81
1.7.6 sqcSetPDBStore(PDBファイルの格納先変更コマンド)	84
1.8 Manager設定コマンド	88
1.8.1 sqcSetMgrInfo(Agent/Proxy Manager用)	88
1.8.2 sqcSetMgrInfo(運用管理クライアント用)	90
1.9 定期レポート運用コマンド	92
1.9.1 sqcMakeReport(定期レポート作成コマンド)	92
1.9.2 sqcDeleteReport(定期レポート削除コマンド)	95
1.10 コンソール定義コマンド	96
1.10.1 sqcSetupConsoleDefine(コンソール定義構成コマンド)	96
1.10.2 sqcGetXMLConfig(構成情報取得コマンド)	101
1.10.3 sqcSetupServerSpecInfo(集約先サーバスペック情報登録コマンド)	103
1.11 sqcSetOVMconfig(OVM紐づけ定義格納コマンド)	108
1.12 sqcSetSELinux(SELinux対応設定コマンド)	112
1.13 sqcSetUXDISKSPACE(ディスクスペース情報の除外設定コマンド)	114
1.14 sqcCheckAlertconfig(しきい値監視定義チェックコマンド)	116
1.15 genpwd(パスワード暗号化コマンド)	119
1.16 swSilentSetup(サイレントインストール用コマンド)	121
1.17 sqcMigrationReports.bat(登録済みレポート移行コマンド)	124
第2章 常駐プロセス、起動と停止	126
2.1 Manager	126
2.2 Proxy Manager	128
2.3 Agent	130
2.4 Enterprise Manager	132
2.5 httpdサービス/デーモンの自動起動設定	134
第3章 リソース構成情報(MiddlewareConf.xml)	137
3.1 格納場所	137
3.2 編集方法	137

第4章 データフォーマット	140
4.1 サマリ情報	140
4.1.1 UserResponseMonitor	140
4.1.2 ServiceAvailMonitor	141
4.1.3 WebTrnMonitor	141
4.1.4 ServerMonitor	142
4.1.5 ZoneMonitor(Solaris10)/ZoneStackMonitor(Solaris10)	144
4.1.6 Enterprise Application Platform(GlassFish ServerCluster)Monitor	144
4.1.7 Interstage(EJB)Monitor	145
4.1.8 Interstage(TD)Monitor	145
4.1.9 Interstage(CORBA)Monitor	146
4.1.10 Interstage(IJServer)Monitor	146
4.1.11 Interstage(IJServerCluster)Monitor	147
4.1.12 TxnSyncMonitor	147
4.1.13 TxnAsyncMonitor	147
4.1.14 TxnOssJavaMonitor	148
4.1.15 ISI SequenceMonitor	148
4.1.16 ISI QueueMonitor	148
4.1.17 WebLogicServerMonitor	149
4.1.18 MS-.NET_Monitor	149
4.1.19 SymfowareMonitor	150
4.1.20 SymfowareAnalyticsServerMonitor	150
4.1.21 OracleMonitor	151
4.1.22 MS-SQL_Monitor	152
4.1.23 PostgresMonitor	152
4.1.24 OperationMgrMonitor	154
4.1.25 TcpNetworkMonitor	154
4.1.26 StorageMonitor	155
4.1.27 SAP Monitor	156
4.1.28 ROR(VMpool)Monitor	157
4.1.29 ROR(StoragePool)Monitor	157
4.1.30 ROR(NetworkPool)Monitor	158
4.1.31 ROR(ServerPool)Monitor	158
4.1.32 ROR(AddressPool)Monitor	158
4.1.33 VMware(Virtual)StackMonitor	159
4.1.34 VMware(Physical)Monitor	161
4.1.35 VMware(Cluster)Monitor	163
4.1.36 VMware(ResourcePool)Monitor	163
4.1.37 HyperV(Virtual)StackMonitor	164
4.1.38 HyperV(Physical)Monitor	165
4.1.39 KVM(Virtual)StackMonitor	165
4.1.40 Xen(Virtual)StackMonitor	166
4.1.41 cgroupMonitor	167
4.1.42 ZoneMonitor	169
4.1.43 OVMSPARCMonitor	169
4.1.44 OpenStack(Compute)Monitor	170
4.1.45 OpenStackCompute(Resource)Monitor	171
4.1.46 PrimesoftMonitor	171
4.1.47 UserDataMonitor	173
4.2 詳細/レポート情報	174
4.2.1 ResponseConditionフォルダ配下/エンドユーザーレスポンスレポート	174
4.2.2 ServiceConditionフォルダ配下/(HTTP/DNS/SMTP/PORT)サービスレポート	178
4.2.3 WebTrnフォルダ配下/Webトランザクションレポート	180
4.2.4 Windowsフォルダ配下/Windows～レポート	180
4.2.5 Webフォルダ配下/レポートなし	188
4.2.6 MSMQフォルダ配下/レポートなし	189
4.2.7 Solaris&Linuxフォルダ配下/UNIX～レポート	190

4.2.8 Enterprise Application Platformフォルダ配下/Enterprise Application Platform～レポート	212
4.2.9 Interstageフォルダ配下/Interstage～レポート	219
4.2.10 Interstage(TxnAnalysis)JavaEE&Interstage(TxnAnalysis)フォルダ配下/レポートなし	236
4.2.11 TxnAnalysis(Sync)フォルダ配下/レポートなし	237
4.2.12 TxnAnalysis(Async)フォルダ配下/レポートなし	238
4.2.13 TxnAnalysis(OssJava)フォルダ配下/レポートなし	238
4.2.14 ISIフォルダ配下/ISI～レポート	239
4.2.15 WebLogicServerフォルダ配下/WebLogic Serverレポート	240
4.2.16 MS-.NETフォルダ配下/MS-.NET～レポート	243
4.2.17 Symfowareフォルダ配下/Symfoware～レポート	249
4.2.18 SymfowareAnalyticsServerフォルダ配下/SymfowareAnalyticsServerレポート	258
4.2.19 Oracleフォルダ配下/Oracle～レポート	259
4.2.20 MS-SQLフォルダ配下/MS-SQL～レポート	264
4.2.21 PostgreSQL配下/PostgreSQL～レポート	275
4.2.22 詳細なし/Centric Manager～レポート	279
4.2.23 OperationMGRフォルダ配下/Operation Manager～レポート	281
4.2.24 詳細なし/Network Manager～レポート	283
4.2.25 TcpNetworkフォルダ配下/TcpNetworkレポート	288
4.2.26 StorageResourceフォルダ配下/Storage～レポート	289
4.2.27 Resource Orchestratorフォルダ配下/～プール(需要予測)レポート	292
4.2.28 SAPフォルダ配下/SAP～レポート	294
4.2.29 ECOフォルダ配下/レポートなし	301
4.2.30 VMwareフォルダ配下/VMware～レポート	302
4.2.31 Hyper-Vフォルダ配下/Hyper-V～レポート	326
4.2.32 KVMフォルダ配下/KVM～レポート	331
4.2.33 Xenフォルダ配下/Xen～レポート	334
4.2.34 cgroupフォルダ配下/cgroupレポート	336
4.2.35 SolarisZoneフォルダ配下/Solaris Zone～レポート	340
4.2.36 OVMSPARCフォルダ配下/OVM for SPARC～レポート	342
4.2.37 OpenStackフォルダ配下/OpenStackカテゴリ配下のレポート	344
4.2.38 OpenStackCompute(Resource)フォルダ配下/OpenStack Computeリソースカテゴリ配下のレポート	346
4.2.39 Primesoftフォルダ配下/Primesoft～レポート	347
4.2.40 UserDataフォルダ配下/レポートなし	352
4.2.41 詳細なし/P2Vシミュレーション	354
4.2.42 詳細なし/スペック～レポート	360
4.3 ログデータ(Troubleshoot)情報	365
4.3.1 WIN_PROCESSおよびUX_PROCESS以外のヘッダー形式	366
4.3.2 WIN_PROCESSのヘッダー形式	366
4.3.3 UX_PROCESSのヘッダー形式	367
4.4 管理コンソールの操作ログ情報	367
4.4.1 操作ログファイル名	367
4.4.2 操作ログフォーマット	368
第5章 メッセージ	369
5.1 共通メッセージ	369
5.2 Windows 固有メッセージ	438
5.3 UNIX固有メッセージ	440
5.4 FJSCirが出力するエラーメッセージ	441
5.5 「アンインストールと管理(ミドルウェア)」機能が出力するエラーメッセージ	445
付録A インストールレス型Agent(WMI通信)の収集項目とWMIカウンタの対応一覧	449

第1章 コマンドリファレンス

Systemwalker Service Quality Coordinatorが提供するコマンドについて説明します。

1.1 ポリシーコマンド

Enterprise Manager/Manager/Proxy Manager/Agentをインストールした後、収集ポリシーを作成して適用することにより、性能情報収集が開始されます。



対象サーバで以下の作業が行われた場合には、ポリシーの再作成、および、運用管理クライアントでの構成情報の取得が必要になります。

- ・ 情報収集ポリシーを変更した場合

例)

収集テンプレート(template.dat)の変更

レスポンス管理対象構成情報(ServiceConf.xml)の変更

- ・ 連携するミドルウェア等をインストールした場合

例)

Symfoware Serverのインストール

【Windows版】

以下のミドルウェアをインストールした場合は、ポリシーの再作成後、「[第2章 常駐プロセス、起動と停止](#)」を参照してサービス/デーモンの再起動を行ってください。

ー Oracle Database Server

- ・ 連携するミドルウェア等をアンインストールした場合

例)

Operation Managerのアンインストール

- ・ 連携するミドルウェア等の設定を変更した場合

例)

Interstageの設定変更

Symfoware Serverの設定変更

Oracleの設定変更

Centric Manager連携設定の変更

- ・ サーバのハードウェア構成の変更があった場合

例)

Linuxサーバのシングルプロセッサ/マルチプロセッサの変更

- ・ OSの環境変更があった場合

例)

ホスト名の変更

Linuxのパッチ適用によるsysstatのバージョン変更

- ・ インストールレス型Agentの監視サーバのIPアドレス、ユーザー、パスワードなどの変更により、定義ファイルを変更した場合

例)

接続アカウント定義ファイル(remoteAccount.txt)の変更

リモート監視定義ファイル(remoteAgent.txt)の変更

ポイント

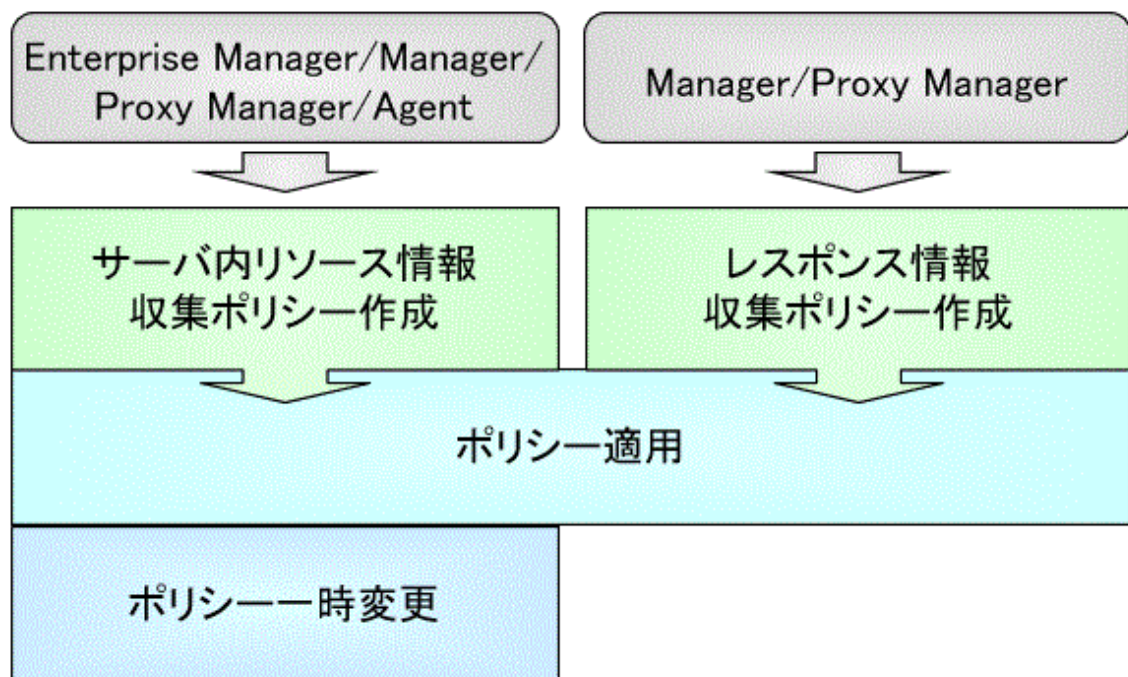
- 収集する情報には、大きく2種類があります。
 - ー サーバ内リソース情報 (Enterprise Manager/Manager/Proxy Manager/Agentで収集可能な情報)
 - ー レスポンス情報 (Manager/Proxy Managerで収集可能な情報)
- 収集ポリシーは、ポリシー作成からポリシー適用というステップで行われます。
- 一度適用したポリシーを、一時的に変更することができます。
それぞれの操作に対応するコマンドが提供されています。
- 情報の収集は、収集ポリシーを作成することで、初めて行われます。必ず収集ポリシーを作成した上で、ポリシー適用を実施してください。

ここで説明するポリシーコマンドには、サーバ上で実行するコマンドと、運用管理クライアント上で実行するコマンドがあります。

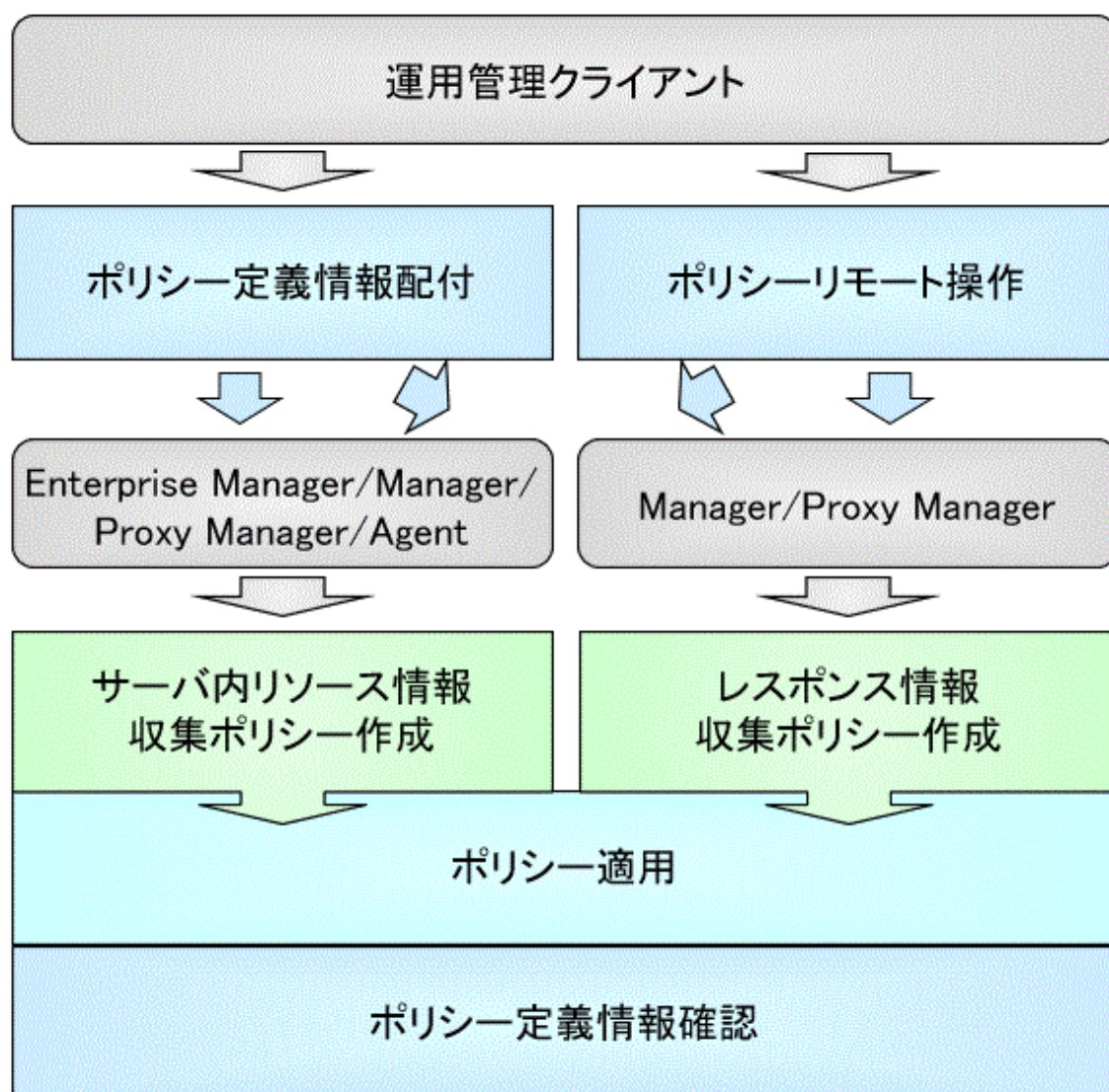
実行環境	コマンド名	用途
Enterprise Manager/ Manager/ Proxy Manager/ Agent	1.1.1 sqcRPolicy(サーバ内リソース情報収集ポリシー作成コマンド)	性能情報を収集する場合使用します。
	1.1.2 sqcAPolicy(レスポンス情報収集ポリシー作成コマンド)	
	1.1.3 sqcSetPolicy(ポリシー適用コマンド)	
	1.1.4 sqcMdPolicy(ポリシー一時変更コマンド)	収集動作を一時的に変更(停止/起動)します。
運用管理 クライアント	1.1.5 sqcViewPolicy(ポリシー定義情報確認コマンド)	ポリシー配付機能を使用する場合使用します。
	1.1.6 sqcSendPolicy(ポリシー定義情報配付コマンド)	
	1.1.7 sqcCtrlPolicy(ポリシーリモート操作コマンド)	

※ポリシー配付機能については、使用手引書「ポリシー配付」を参照してください。

■性能情報を収集するサーバ上でポリシーの作成と適用を実施する場合



■ポリシー配付機能を使用する場合



ポイント

.....
ポリシー配付機能は、同一の定義を複数のサーバに配付する場合に効果的です。管理対象となるサーバ台数や状況に応じて使用してください。
.....

1.1.1 sqcRPolicy(サーバ内リソース情報収集ポリシー作成コマンド)

■機能説明

サーバ内リソース情報の収集ポリシーを作成します。その際、管理対象となるミドルウェア等を検出し、インストール状況を確認します。

注意

.....
本コマンドは複数同時に実行しないでください。
.....

管理対象およびその資源は、以下のとおりです。

本コマンドを実行する前に、各管理対象の導入確認や定義が必要です。詳細は、使用手引書の各管理対象についての説明を参照してください。

- サーバ性能
- Interstage Application Server
ワークユニット名、オブジェクト名
- Interstage Business Application Server
- Primesoft Server
- Microsoft .NET Server
- SAP NetWeaver
- Symfoware Server(V12以降のNativeインターフェース)/Symfoware Server(V11以前)
RDBシステム名
- Symfoware Server(Postgres)/PostgreSQL
データベースクラスタのポート番号、データベース名
- Symfoware Analytics Server
- Oracle Database Server
- Microsoft SQL Server
- Interstage Service Integrator
グループ、キュー、シーケンス
- Systemwalker Operation Manager
サブシステム番号、プロジェクト名、キュー名
- Systemwalker Centric Manager
- Systemwalker Network Manager
- ETERNUS SF Storage Cruiser
Storage,storage-device,Zone,LUNMapping,LUN_R,LUN_PO,LUN_R,LUN_V,CM,Switch
- Hyper-V
- Linux仮想マシン機能 (KVM)
- cgroup
- Solaris ゾーン
- Oracle VM Server for SPARC
- Webトランザクション量管理
分析対象ログの識別名
- エンドユーザーレスポンス管理
- ユーザーデータ管理

■実行に必要な権限

【Windows版】

Administratorsグループに所属するユーザー権限が必要です。

【UNIX版】

システム管理者(スーパーユーザー)権限が必要です。

■実行環境

Enterprise Manager/Manager/Proxy Manager/Agentで実行可能です。



各ミドルウェア等の検出を行うためには、本コマンド実行前に各管理対象の性能情報が収集できる状態にしておく必要があります。1度検出された管理対象は、2回目以降のコマンド実行時には管理対象構成情報(リソース構成情報)を基にするため、動作していない状態でも検出されます。

サーバ内リソース情報の収集ポリシーは、以下の2つの情報を基にして、作成されます。

- ・ 管理対象構成情報(リソース構成情報)

このサーバ内に、どのような管理対象となるリソース(サーバ/ソフトウェア/ソリューション製品情報)が存在するかを示す情報です。この情報は、本コマンドを実行することにより、自動検出されます。



クラスタシステム運用を実施している場合は、それぞれ、ポリシー作成を行う側のノードにフェイルオーバーし、管理対象となるミドルウェア等が動作している状況で実行してください。(クラスタシステム運用はEnterprise Editionで提供される機能です。)

- ・ テンプレート

常時収集する性能項目が定義された情報です。このテンプレートは、製品インストール時に以下のファイルで提供されます。

【Windows版】

```
<可変ファイル格納ディレクトリ>%control%\template.dat
```

【UNIX版】

```
/etc/opt/FJSVssqc/template.dat
```

■記述形式

【Windows版】

```
<インストールディレクトリ>%bin%\sqcRPolicy.exe
```

【UNIX版】

```
/opt/FJSVssqc/bin/sqcRPolicy.sh
```

■オプション

なし

■復帰値

0 : 正常終了

1 : 異常終了

正常終了した場合には、以下のメッセージを出力します。

```
(Success) : sqcRPolicy succeeded.
```

異常終了した場合には、以下のメッセージを出力します。

```
(Error) : The file was not able to be created because of insufficient file access.
```

ファイルアクセスエラー(アクセス権やディスクの空きなし等)です。

また、sqcRPolicyを実行したサーバに管理対象となるミドルウェア等が検出された場合、以下のメッセージを出力します。

```
(Success) : Middleware product <middleware name> has been detected.  
            The configuration definitions for the detected middleware has been added.
```

<middleware name>には検出されたミドルウェア等が表示されます。管理対象になるミドルウェア等については「[機能説明](#)」を参照してください。

■使用例

【Windows版】

```
C:>cd C:\Program Files\Fujitsu\Systemwalker\SQC\bin  
C:\Program Files\Fujitsu\Systemwalker\SQC\bin>sqcRPolicy  
(Success) : Middleware product <InterstageApplicationServer> has been detected.  
            The configuration definitions for the detected middleware has been added.  
(Success) : sqcRPolicy succeeded.  
C:\Program Files\Fujitsu\Systemwalker\SQC\bin>
```

【UNIX版】

```
# cd /opt/FJSVssqc/bin/  
# ./sqcRPolicy.sh  
(Success) : Middleware product Interstage has been detected.  
            The configuration definitions for the detected middleware has been added.  
(Success) : SqcRPolicy succeeded.  
#
```

■ファイル

本コマンドが成功すると、以下のファイルが生成されます。

【Windows版】

```
<可変ファイル格納ディレクトリ>\control\MiddlewareConf.xml
```

【UNIX版】

```
/opt/FJSVssqc/control/MiddlewareConf.xml
```

サーバ内リソース情報収集ポリシー作成後、「[1.1.3 sqcSetPolicy\(ポリシー適用コマンド\)](#)」を参照して、sqcSetPolicyを実行してください。

ポイント

サーバ内リソース情報収集ポリシー作成コマンド(sqcRPolicy)、または「[1.1.7 sqcCtrlPolicy\(ポリシーリモート操作コマンド\)](#)」の、sqcCtrlPolicy.exe -e RPコマンドを実行すると、MiddlewareConf.xmlが生成されます。管理対象を削除したい場合は、「[第3章 リソース構成情報\(MiddlewareConf.xml\)](#)」を参照して、MiddlewareConf.xmlの内容を変更してください。

1.1.2 sqcAPolicy(レスポンス情報収集ポリシー作成コマンド)

■機能説明

事前に定義された管理対象構成情報ファイル(レスポンス管理対象構成情報)を読み込んで、レスポンス情報の収集ポリシーを作成します。

注意

本コマンドは複数同時に実行しないでください。

■実行に必要な権限

【Windows版】

Administratorsグループに所属するユーザー権限が必要です。

【UNIX版】

システム管理者(スーパーユーザー)権限が必要です。

■実行環境

Manager/Proxy Managerで実行可能です。

レスポンス情報の収集ポリシーは、以下の2つの情報を基にして、作成されます。

- ・ 管理対象構成情報(レスポンス管理対象構成情報)

レスポンス情報は、Browser Agentに関する情報です。

以下の定義ファイルに定義します。

【Windows版】

`<可変ファイル格納ディレクトリ>%control%ServiceConf.xml`

【UNIX版】

`/etc/opt/FJSVssqc/ServiceConf.xml`

上記と同じディレクトリ上にServiceConf.sampleというサンプルファイルがあります。このサンプルのバックアップを取り、ServiceConf.xmlとリネームして編集してください。

本構成情報ファイルの編集方法については、使用手引書「レスポンス管理対象構成情報(ServiceConf.xml)」を参照してください。

ポイント

.....

現在管理対象となっているレスポンス情報を管理対象から削除するには、上述の管理対象構成情報からエントリを削除して、sqcAPolicy/sqcSetPolicyコマンドおよび、環境設定画面での構成情報取得を再実行してください。

.....

・ テンプレート

常時収集する性能項目が定義された情報です。このテンプレートは、製品インストール時に以下のファイルで提供されます。

【Windows版】

```
<可変ファイル格納ディレクトリ>%control%template.dat
```

【UNIX版】

```
/opt/FJSVssqc/control/template.dat
```

■記述形式

【Windows版】

```
<インストールディレクトリ>%bin%sqcAPolicy.bat
```

【UNIX版】

```
/opt/FJSVssqc/bin/sqcAPolicy.sh
```

■オプション

なし

■復帰値

0: 正常終了

1: 異常終了

本コマンド実行時、以下のように表示されます。

```
HTTPPage1,-1
DNS,-1
SMTP,-1
PORT123,-1
Do you apply to these configuration?(yes/no)
```

構成を適用するかの問い合わせには、noを選択してください。

異常終了した場合、以下のメッセージが出力されることがあります。

```
sqcAPolicy ServiceConf.xml error.
```

ServiceConf.xmlの内容に誤りがあります。

■使用例

【Windows版】

```
C:¥>cd C:¥Program Files¥Fujitsu¥SystemwalkerSQC¥bin
C:¥Program Files¥Fujitsu¥SystemwalkerSQC¥bin>sqcAPolicy
HTTPPage1,-1
DNS,-1
SMTP,-1
PORT123,-1
Do you apply to these configurations?(yes/no)
no
C:¥Program Files¥Fujitsu¥SystemwalkerSQC¥bin>
```

【UNIX版】

```
# cd /opt/FJSVssqc/bin/
# ./sqcAPolicy.sh
HTTPPage1,-1
DNS,-1
SMTP,-1
PORT123,-1
Do you apply to these configurations?(yes/no)
no
#
```

■ファイル

本コマンドが成功すると、管理対象構成情報ファイルに記述された内容に応じて、以下のファイルが生成されます。

【Windows版】

```
<可変ファイル格納ディレクトリ>¥control¥WSLM.ini
<可変ファイル格納ディレクトリ>¥control¥AlertTarget.csv
```

【UNIX版】

```
/opt/FJSVssqc/control/WSLM.ini
/opt/FJSVssqc/control/AlertTarget.csv
```

レスポンス情報収集ポリシー作成後、「[1.1.3 sqcSetPolicy\(ポリシー適用コマンド\)](#)」を参照して、sqcSetPolicyを実行してください。

1.1.3 sqcSetPolicy(ポリシー適用コマンド)

■機能説明

ポリシーを適用します。-hオプションでシステム名を変更することができます。



本コマンドは複数同時に実行しないでください。



- Systemwalker Service Quality Coordinator V13.3.0以降は、ポリシー適用コマンド実行時にサービス/デーモンの事前停止は不要です。サービス/デーモンが動作中で各ミドルウェア等の性能データが収集中であった場合、それらはポリシー適用の実施中は一時的に停止され、終了後に再収集を開始します。

ただし、-hオプション/-pオプションを使用する場合は、サービス/デーモンの停止が必要です。「第2章 常駐プロセス、起動と停止」を参照して、サービス/デーモンを停止した上で実行してください。サービス/デーモンを停止してポリシーを適用した場合は、実行後にサービス/デーモンを起動してください。

- ポリシーを適用した後は、コンソールへの構成情報の取得反映操作が必要です。構成情報の取得反映については使用手引書(コンソール編)「Agents」を参照してください。
- ポリシー適用後に管理対象の構成を変更した場合は、再度ポリシーの適用を実施する必要があります。

■実行に必要な権限

【Windows版】

Administratorsグループに所属するユーザー権限が必要です。

【UNIX版】

システム管理者(スーパーユーザー)権限が必要です。

■実行環境

Enterprise Manager/Manager/Proxy Manager/Agentで実行可能です。

■記述形式

【Windows版】

<インストールディレクトリ>%bin%sqcSetPolicy.exe [-h <host name>] [-p <IP address>]
--

<インストールディレクトリ>%bin%sqcSetPolicy.exe -v
--

【UNIX版】

/opt/FJSVssqc/bin/sqcSetPolicy.sh [-h <host name>] [-p <IP address>]
--

/opt/FJSVssqc/bin/sqcSetPolicy.sh -v

■オプション

-h <host name>

管理対象のシステム名を変更したい場合には、本オプションで設定したいシステム名を指定します。

また、以下のようなクラスタ運用を行っている場合にも、本オプションでシステム名を指定します。

- ー Managerで、かつManagerのサーバ内リソース情報を収集する場合
⇒引継ぎノード名を指定します。
- ー Agentで、かつノード名引継ぎを実施しているシステムの場合
⇒各Agentのノード名を指定します。

本オプションを省略した場合は、インストール時のホスト名、または、前回-hオプションで設定したシステム名が継続して設定されます。

ホスト名を変更しても自動的に反映はされませんので、本オプションで設定してください。

なお、本オプションを使用する場合は、サービス/デーモンの停止が必要です。「第2章 常駐プロセス、起動と停止」を参照して、サービス/デーモンを停止した上で実行してください。

サービス/デーモンが動作中で各ミドルウェア等の性能データが収集中であった場合、それらはポリシー適用の実施中は一時的に停止され、終了後に再収集を開始します。



注意

すでに本製品の運用環境が存在し、一度Agentが登録してある状況において、当コマンドの再投入またはAgentを再インストールする場合に、-hオプションを使用する場合には、以前に使用していたシステム名を使用してください。

システム名を変更する必要がある場合には、「1.7.3 sqcPDBerase(データ削除コマンド)」で説明するデータ削除コマンドで、以前のシステム名の情報をPDBより削除してから行ってください。ただしこの場合、以前に取得された性能情報は参照できなくなります。



ポイント

実行環境以外の管理対象のシステム名を変更したい場合

- ー インストール型Agentのシステム名を変更したい場合
情報を収集しているAgent(Agent機能を使用しているEnterprise Manager/Manager/Proxy Managerも含む)上で、-hオプションに変更したいシステム名を指定してsqcSetPolicy(ポリシー適用コマンド)を実行します。
- ー インストールレス型Agent
リモート監視定義ファイル(remoteAgent.txt)の「DISPLAYNAME」に変更したいシステム名を指定します。詳細は、使用手引書「リモート監視定義ファイル」を参照してください。

-p <IP address>

クラスタ運用を行っている場合は、引継ぎIPアドレスを指定してください。

本オプションを省略した場合は、前回-pオプションで設定したIPアドレスが継続して設定されます。

IPアドレスを変更しても自動的に反映はされませんので、本オプションで設定してください。

なお、本オプションを使用する場合は、サービス/デーモンの停止が必要です。「第2章 常駐プロセス、起動と停止」を参照して、サービス/デーモンを停止した上で実行してください。

サービス/デーモンが動作中で各ミドルウェア等の性能データが収集中であった場合、それらはポリシー適用の実施中は一時的に停止され、終了後に再収集を開始します。



注意

インストール後に初めて本コマンドを実行し、かつ本オプションを省略した場合は、自動的に取得したIPアドレスが設定されますが、複数のIPアドレスが存在する場合などは、接続するManager/Enterprise Managerに通信可能なIPアドレスが取得できないことがあります。必ず-pオプションで管理対象のIPアドレスを指定してください。

-v

設定されているシステム名やIPアドレスを表示します。

■復帰値

0: 正常終了

1: 異常終了

正常終了した場合には、以下のメッセージを出力します。

```
(Success) : sqcSetPolicy succeeded.
```

sqcSetPolicyを実行したサーバに管理対象となるミドルウェア等が検出された場合、以下のメッセージを出力します。

```
The policy has been set for the <middleware name>
```

```
(Success) : sqcSetPolicy succeeded.
```

<middleware name>には検出されたミドルウェア等が表示されます。

異常終了した場合には、以下のメッセージを出力します。

```
(Error ) : sqcSetPolicy Parameter error.
```

パラメーターの指定エラーです。

```
(Error ) : The file was not able to be created because of insufficient file access rights or disk space.
```

ファイルアクセスエラー(アクセス権やディスクの空きなし等)です。

```
(Error ) : There is an error in section [Section : XXX] of the template file sqcSetPolicy Template define error.
```

テンプレートの定義に誤りがあります。

```
(Error ) : DCM is running and so sqcSetPolicy can not be run.  
Please stop dcm and retry sqcSetPolicy.
```

Systemwalker SQC DCMサービス/dcmdプロセスが起動しています。



注意

これらのエラーメッセージが表示された場合、その前に表示されたポリシー設定のメッセージのポリシーは有効になりません。

■使用例

【Windows版】

正常終了の場合

```
C:\Program Files\Fujitsu\Systemwalker\SQL\bin>sqlSetPolicy
```

```
This Computer Name is "XXXX"
```

```
The policy has been set for the <YYYY>
```

```
(Success) : sqlSetPolicy succeeded.
```

異常終了の場合

```
C:\Program Files\Fujitsu\Systemwalker\SQL\bin>sqlSetPolicy
```

```
This Computer Name is "XXXX"
```

```
(Error ) : There is an error in section [Section:ZZZZ] of the template file.
```

-pオプションを指定した場合

```
C:\Program Files\Fujitsu\Systemwalker\SQL\bin>sqlSetPolicy -p 192.0.2.10
```

```
This Computer Name is "XXXX"
```

```
This IP Address is "192.0.2.10"
```

```
The policy has been set for the <YYYY>
```

```
(Success) : sqlSetPolicy succeeded.
```

-vオプションを指定した場合

```
C:\Program Files\Fujitsu\Systemwalker\SQL\bin>sqlSetPolicy -v
```

```
This Computer Name is "XXXX"
```

```
This IP Address is "192.0.2.10"
```

```
(Success) : sqlSetPolicy succeeded.
```

【UNIX版】

正常終了の場合

```
# cd /opt/FJSVssqc/bin/
```

```
# ./sqlSetPolicy.sh
```

```
This Host Name is "XXXX"
```

```
The policy has been set for the <YYYY>
```

```
(Success) : sqlSetPolicy succeeded.
```

異常終了の場合

```
# cd /opt/FJSVssqc/bin/
```

```
# ./sqlSetPolicy.sh
```

```
This Host Name is "XXXX"
```

```
(Error ) : There is an error in section [Section : ZZZZ] of the template file sqlSetPolicy Template define error.
```

-pオプションを指定した場合

```
# cd /opt/FJSVssqc/bin/
```

```
# ./sqlSetPolicy.sh -p 192.0.2.10
```

```
This Host Name is "XXXX"
```

```
This IP Address is "192.0.2.10"
```

```
The policy has been set for the <YYYY>
```

```
(Success) : sqlSetPolicy succeeded.
```

-vオプションを指定した場合

```
# cd /opt/FJSVssqc/bin/
```

```
# ./sqlSetPolicy.sh -v
```

```
This Host Name is "XXXX"
```

```
This IP Address is "192.0.2.10"
```

```
(Success) : sqcSetPolicy succeeded.
```

XXXXは、-hオプションで指定した名前が表示されます。-hオプションが省略された場合は、インストール時のホスト名、または、前回-hオプションで設定したシステム名が表示されます。

YYYYは、検出されたミドルウェア等が表示されます。この行は、検出された管理対象数分表示されます。

ZZZZは、テンプレートファイルにおいて定義に誤りのあるセクション名です。

■ファイル

本コマンドが成功すると、管理対象構成情報ファイルに記述された内容に応じて、以下のファイルが生成されます。

【Windows版】

```
<可変ファイル格納ディレクトリ>%control%\ManagedConf_XXXX.xml
```

XXXXは、-hオプションで指定した名前です。-hオプションが省略された場合は、インストール時のホスト名、または、前回-hオプションで設定したシステム名です。

【UNIX版】

```
/etc/opt/FJSVssqc/ManagedConf_XXXX.xml
```

XXXXは、-hオプションで指定した名前です。-hオプションが省略された場合は、インストール時のホスト名、または、前回-hオプションで設定したシステム名です。

■定義エラーファイル

本コマンドが実行された際に、

- ・ インストールレス型Agent管理
- ・ 仮想資源管理

のいずれかについて定義された内容が不正の場合、エラーメッセージが以下のファイルに出力されます。

【Windows版】

```
<可変ファイル格納ディレクトリ>%log%\setpolicy_error.log
```

【UNIX版】

```
/var/opt/FJSVssqc/setpolicy_error.log
```

ファイルに出力されるメッセージの内容は以下のとおりです。

インストールレス型Agent管理、仮想資源管理の定義に関するエラーメッセージ

メッセージ文	対応
[Install-less Agent: %1, %2]	【意味】 インストールレス型Agent管理の定義にエラーがあったことを表します。 %1: リモート監視定義ファイル名 %2: 接続アカウント定義ファイル名 【対処方法】

メッセージ文	対応
	次の行以降に出力されているエラーメッセージについて、エラー内容を確認し、該当する項目の定義を修正してください。
%1 is Empty (Section: %2)	【意味】 設定が必須である項目に、値が設定されていません。 %1: エラー対象の項目名 %2: エラーが存在する被監視サーバ設定のセクション名 【対処方法】 定義ファイルの定義方法を確認し、指定された項目に値を設定してください。
%1 is too long or short (Section: %2)	【意味】 項目に設定された値が長すぎます、または短すぎます。 %1: エラー対象の項目名 %2: エラーが存在する被監視サーバ設定のセクション名 【対処方法】 定義ファイルの定義方法から項目に設定できる文字数を確認し、指定された項目の長さを変更してください。
%1 is wrong value (Section: %2)	【意味】 設定できる値が限定される項目(選択項目)に、正しい値が設定(選択)されていません。 %1: エラー対象の項目名 %2: エラーが存在する被監視サーバ設定のセクション名 【対処方法】 定義ファイルの定義方法から項目に設定できる値を確認し、指定された項目に正しい値を設定してください。
%1 contains wrong letter (Section: %2)	【意味】 項目に設定された値に不当な文字が使用されています。 %1: エラー対象の項目名 %2: エラーが存在する被監視サーバ設定のセクション名 【対処方法】 定義ファイルの定義方法から項目の値として使用できる文字を確認し、指定された項目の値を変更してください。
The combination of %1 and %2 is invalid (Section: %3)	【意味】 通信方式および、2つの項目に設定された値の組み合わせが正しくありません。 %1: エラー対象の項目名1 %2: エラー対象の項目名2 %3: リモート監視定義ファイル内のエラーが存在するセクション名 【対処方法】 使用手引書「インストールレス型Agent管理」を確認し、指定された各項目に、通信方式、OS種別およびVM種別の組み合わせとして正しい値を設定してください。
Selected ACCOUNT is not exist (Section: %1)	【意味】 リモート監視定義ファイルで設定されたACCOUNTが、接続アカウント定義ファイルに設定されていません。

メッセージ文	対応
	%1: エラーが存在する被監視サーバ設定のセクション名 【対処方法】 指定されたセクションで設定されているACCOUNTを、接続アカウント定義ファイルに設定してください。もしくは、ACCOUNTにすでに接続アカウント定義ファイルに設定されているアカウント名を設定してください。
%1 has a already been used by other section (Section: %2)	【意味】 セクションごとに固有の値を設定すべき項目に対して、2つ以上のセクションで同じ値が設定されています。 ※HOSTNAMEおよびDISPLAYNAMEのいずれかに設定した値は、別のセクションのHOSTNAMEおよびDISPLAYNAMEのどちらにも使用することができません。 %1: エラー対象の項目名 %2: エラーが存在する被監視サーバ設定のセクション名 【対処方法】 指定されたセクションの項目に設定されている値が別のセクションで使用されていることを確認し、同じ値とならないよう設定を変更してください。

1.1.4 sqcMdPolicy(ポリシー一時変更コマンド)

■機能説明

ポリシー適用後の運用中(収集動作中)に、ポリシーを一時的に変更します。具体的には、以下のミドルウェア等に対する情報収集ポリシーが作成・適用されている状態で、その収集動作を停止したり(off指定時)、起動したり(on指定時)することができます。

- ・ Symfoware Server(V12以降のNativeインターフェース)/Symfoware Server(V11以前)
- ・ Oracle Database Server
- ・ Operation Manager
- ・ サーバ性能



本コマンドは複数同時に実行しないでください。

■実行に必要な権限

【Windows版】

Administratorsグループに所属するユーザー権限が必要です。

【UNIX版】

システム管理者(スーパーユーザー)権限が必要です。



業務の運用形態に合わせて収集動作を制御したい場合や、クラスタの運用形態に合わせて収集動作を制御したい場合に使用します。

■実行環境

Enterprise Manager/Manager/Proxy Manager/Agentで実行可能です。

■記述形式

【Windows版】

```
<インストールディレクトリ>\bin\sqcMdPolicy.exe on|off|stat -c Type [ -i instance-name ]
```

【UNIX版】

```
/opt/FJSVssqc/bin/sqcMdPolicy.sh on|off|stat -c Type [ -i instance-name ]
```

■オプション

on|off|stat

変更種別として、以下のいずれかを指定します。

- on: 対象ポリシーを有効化します。
- off: 対象ポリシーを無効化します。
- stat: ポリシーの状態を表示します。
表示結果の"Execute"の列に、"on"または"sample"と表示される場合: ポリシーの状態は有効
表示結果の"Execute"の列に、"off"と表示される場合: ポリシーの状態は無効

-c Type

以下のいずれかの管理対象を指定します。

- sym: Symfoware Server(V12以降のNativeインターフェース)/Symfoware Server(V11以前)
- ora: Oracle Database Server
- jla: Operation Manager
- reg: サーバ性能 (Windows版のみ)
「[4.2.4 Windowsフォルダ配下/Windows～レポート](#)」の各表において、「Source」が「reg」である性能情報が対象です。
サマリデータについてはリソースデータに準じます。
- sar: サーバ性能 (Unix版のみ)
「[4.2.7 Solaris&Linuxフォルダ配下/UNIX～レポート](#)」の各表において、「Source」が「sar」である性能情報が対象です。
サマリデータについてはリソースデータに準じます。

-i instance-name(DBサーバのみ指定可)

-cで指定する管理対象に対するインスタンス名を指定します。本オプションを省略した場合は、管理対象の全インスタンスが対象になります。

- symの場合: RDBシステム名
- oraの場合: template.datのOracleの収集セクションのSIDに指定した名前

ポイント

- symの場合: RDBシステム名に名前がない場合は、-i @defaultを指定してください。

— oraの場合:Non-CDBおよびCDBの場合はOracleインスタンス名、PDBの場合はPDBへの接続識別子になります。
.....

■復帰値

0: 正常終了

>0: 異常終了

1. パラメーターの指定方法が違います。
2. 処理に必要なメモリを獲得できませんでした。
3. 変更対象がありませんでした。
4. 内部エラーが発生しました。
5. ファイルのアクセスでエラーが発生しました。

■使用例

【Windows版】

```
C:\Program Files\Fujitsu\Systemwalker\SQLC\bin>sqlMdPolicy on -c sym -i systemwalker
```

【UNIX版】

```
# cd /opt/FJSVssqc/bin/  
# ./sqlMdPolicy.sh off -c ora -i orcl
```



注意

Enterprise Manager/Manager/Proxy Manager/Agent稼働中に一時変更コマンドで動作変更を行い、後に元へ戻す場合はコマンドの再実行が必要です。
.....

1.1.5 sqlViewPolicy(ポリシー定義情報確認コマンド)

■機能説明

ポリシー定義情報確認コマンドは、ポリシー配付対象となるシステム名の一覧表示、および配付先サーバがポリシー配付可能かどうかを確認します。



注意

本コマンドは複数同時に実行しないでください。
.....

■実行に必要な権限

Administratorsグループに所属するユーザー権限が必要です。



注意

管理者権限で実行してください。

■実行環境

運用管理クライアントで実行可能です。

■記述形式

<運用管理クライアントインストールディレクトリ>%bin%sqViewPolicy.exe [-l [as ab mg pm em]]
<運用管理クライアントインストールディレクトリ>%bin%sqViewPolicy.exe -c

■オプション

-l パラメーター

ポリシー配付の対象となる、パラメーターで指定されたインストール種別のシステム名を一覧で表示します。

※パラメーター指定がない場合は、すべてが対象になります。

-c

配付先サーバがポリシー配付可能な状態になっているか確認します。

■パラメーター

パラメーターはインストール種別の略称を指定します。

各略称に対応するインストール種別は以下のとおりです。

as : Agent for Server

ab : Agent for Business

mg : Manager

pm : Proxy Manager

em : Enterprise Manager

■復帰値

0 : 正常終了

1 : パラメーターエラー

2 : サーバ処理エラー

3 : 通信エラー

10 : その他のエラー

■実行結果/出力形式

正常終了

標準出力に対し、正常終了メッセージとともに以下の情報を出力します。

• sqcViewPolicy.exe -l の場合

```
サーバ名,インストール種別,バージョン,エディション
サーバ名,インストール種別,バージョン,エディション
:
(Success) : sqcViewPolicy succeeded.,000
```

サーバー一覧出力形式 (CSV形式)

項目	内容	出力形式(例)
サーバ名	サーバ名称	
インストール種別	インストール種別	EM/MG/PM/AB/AS
バージョン	バージョン情報	15.2.0
エディション	エディション情報	SE/EE

• sqcViewPolicy.exe -c の場合

```
{ OK | NG } : { alive | noresp | refuse },systemname,{ インストール種別 },{ バージョン },{ エディション },
{ IP : port }
:
(Success) : sqcViewPolicy succeeded.,000
```

NGの場合の対処については以下を参照してください。

ー NG:norespの場合

接続先のIPアドレスのポートに接続できない状態。

原因	対処の方法
Agent側のサーバ、またはAgent側のSystemwalker SQC thttpdサービス/thttpdプロセスが起動していない。	サーバおよびSystemwalker SQC thttpdサービス/thttpdプロセスが起動しているか確認し、起動してください。
Agentが自動取得したIPアドレスで、運用管理クライアントからAgentに到達できない。	Agentをインストールしたサーバに複数のネットワークインターフェースが存在している場合に発生する可能性があります。運用管理クライアントからAgentに接続可能なIPアドレスを確認し、agentlist.cfgファイルで接続可能なIPアドレスを定義してください。このとき、agentlist.cfgファイルに記載するホスト名はsystemnameに出力された文字列を定義してください。
ファイアーウォールでパケットが到達できない。	ファイアーウォールの設定を確認してください。

ー NG:refuseの場合

接続先のIPアドレスのポートに接続したが正しい応答が戻ってこない場合。

原因	対処の方法
接続先のIPアドレスのポートに接続したが正しい応答が戻ってこない。	Systemwalker SQC tthtpdサービス/tthtpdプロセスの設定に誤りがある可能性があります。Agent側のセットアップが正しく行われているか確認してください。

異常終了

1. 標準エラー出力に対し、エラーメッセージを出力します。

(Error) : メッセージ, エラー番号

エラーメッセージと対応するエラー番号

エラー番号	メッセージ	内容
010	parameter error.(エラー詳細コード)	パラメーターの指定エラー
020	Server access error.(エラー詳細コード)	サーバ処理エラー
030	aborted connection error.(エラー詳細コード)	通信エラー
100	system error.	その他何らかのエラー

2. エラー時の対処について

エラー時の状況に応じて、以下の対処を実施します。

エラー番号	内容	対処の方法
010	パラメーターエラー	パラメーターを修正して、再実行
020	サーバアクセスエラー	Managerへの接続状況を確認後、再実行
030	通信エラー	Managerへの接続状況を確認後、再実行
100	システムエラー	保守情報を採取し、技術員に連絡してください。

■使用例1

ポリシー配付の対象となるシステム名をすべて表示する場合

```
C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC-C\bin\sqcViewPolicy.exe -l
```

■使用例2

ポリシー配付の対象となるAgent for Server のシステム名を一覧で表示する場合

```
C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC-C\bin\sqcViewPolicy.exe -l as
```

■使用例3

ポリシー配付の対象となるサーバに対し、配付可能な状態になっているか確認する場合

```
C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC-C\bin\sqcViewPolicy.exe -c
```

1.1.6 sqcSendPolicy(ポリシー定義情報配付コマンド)

■機能説明

作成したポリシー定義情報ファイルを配付先サーバに配付するには、運用管理クライアント上でsqcSendPolicy (ポリシー定義情報配付コマンド)を実行します。



本コマンドは複数同時に実行しないでください。

■実行に必要な権限

Administratorsグループに所属するユーザー権限が必要です。



管理者権限で実行してください。

■実行環境

運用管理クライアントで実行可能です。

■配付可能サーバ

Enterprise Manager/Manager/Proxy Manager/Agentへポリシーの配付が可能です。

「[1.1.5 sqcViewPolicy\(ポリシー定義情報確認コマンド\)](#)」を参照して確認してください。

■記述形式

<インストールディレクトリ>%bin%sqcSendPolicy.exe	-g <ポリシー配付グループ名>,...
	-g <ポリシー配付グループ名> [-s <サーバ名>,...]

■オプション

-g <ポリシー配付グループ名>

ポリシー配付グループ名を指定します。

グループを指定することにより、ポリシー配付グループフォルダで作成したポリシー定義情報ファイルを、ポリシー配付定義ファイル(Distribute.ini)で定義したサーバに配付します。

-s <サーバ名>

配付先となるサーバ名を指定します。

-sオプションが指定されている場合は、-gで指定したポリシー配付グループのポリシー配付定義ファイル(Distribute.ini)は無効になり、格納されているポリシー定義情報ファイルすべてが指定したサーバに配付されます。

また、-sオプションを指定している場合は、-gで指定するポリシー配付グループは1つのみにになります。

■実行結果/出力形式

正常終了

標準出力に対して、正常終了メッセージとともに配付先サーバおよび配付定義情報を出力します。

```
(Success) : sqcSendPolicy succeeded.,000,サーバ名,時刻,定義ファイル
:
```

実行例

以下の定義でポリシーリモート操作(配付)を実施した場合

【ポリシー配付定義ファイル(Distribute.ini)で定義した配付先サーバ】
wasabi1,wasabi2

【ポリシー定義情報ファイル】
しきい値監視定義

```
(Success) : sqcSendPolicy succeeded.,000,wasabi1,20xx-12-25 00:00,alertconfig.txt
(Success) : sqcSendPolicy succeeded.,000,wasabi2,20xx-12-25 00:00,alertconfig.txt
```

異常終了

1. 標準エラー出力に対し、エラーメッセージを出力します。

```
(Error) : エラーメッセージ,エラー番号,サーバ名,時刻,定義ファイル
```

エラーメッセージと対応するエラー番号

エラー番号	メッセージ	内容
010	parameter error.(エラー詳細コード)	パラメーターの指定エラー
011	Not found file	配付可能なファイルがない
020	Server access error.(エラー詳細コード)	サーバ処理エラー
030	aborted connection error.(エラー詳細コード)	通信エラー
100	system error.(エラー詳細コード)	その他何らかのエラー

実行例

以下の定義でポリシーリモート操作を実施した場合

【ポリシー配付定義ファイル(Distribute.ini)で定義した配付先サーバ】
wasabi1,wasabi2

【ポリシー定義情報ファイル】
しきい値監視定義

【エラー例】
wasabi1への配付で通信エラーが発生した場合

```
(Error) : abort connection error.(XXX),030,wasabi1,20xx-12-25 00:00,alertconfig.txt
(Success) : sqcSendPolicy succeeded.,000,wasabi2,20xx-12-25 00:00,alertconfig.txt
```

※XXXは詳細コード

2. エラー時の対処について

エラー時の状況に応じて、以下の対処を実施します。

エラー番号	内容	対処の方法
010	パラメーターエラー	パラメーターを修正して、再実行
011	配付可能なファイルがない	配付先サーバの種別に応じたファイルが、ポリシー配付グループフォルダに登録されているか確認。
020	サーバ処理エラー	Manager、配付先サーバへの接続状況を確認後、再実行
030	通信エラー	Manager、配付先サーバへの接続状況を確認後、再実行
100	システムエラー	保守情報を採取し、技術員に連絡してください。

■使用例1

以下の定義で配付を実施する場合

【ポリシー配付グループ】

USER_DEFINE_FOLDER1

【ポリシー配付定義ファイル(Distribute.ini)で定義した配付先サーバ】

wasabi1,wasabi2

【ポリシー定義情報ファイル】

しきい値監視定義

```
C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC-C\bin\sqcSendPolicy.exe -g USER_DEFINE_FOLDER1
```

説明1

-g でUSER_DEFINE_FOLDER1を指定することで、ポリシー配付定義ファイル(Distribute.ini)で定義した配付先サーバ(wasabi1,wasabi2)に、ポリシー定義情報ファイル(しきい値監視定義)が配付されます。

■使用例2

以下の定義で配付を実施する場合

【ポリシー配付グループ】

USER_DEFINE_FOLDER

【ポリシー配付定義ファイル(Distribute.ini)で定義した配付先サーバ】

wasabi1,wasabi2

【ポリシー定義情報ファイル】

しきい値監視定義

```
C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC-C\bin\sqcSendPolicy -g USER_DEFINE_FOLDER -s wasabi3,wasabi4
```

説明2

-s でwasabi3,wasabi4を指定することで、ポリシー配付定義ファイル(Distribute.ini)で定義した配付先サーバ(wasabi1,wasabi2)が無効になり、ポリシー定義情報ファイル(しきい値監視定義)がwasabi3,wasabi4に配付されます。

1.1.7 sqcCtrlPolicy(ポリシーリモート操作コマンド)

■機能説明

配付先サーバに対して、運用管理クライアント上からリモートでポリシーの作成と適用を行います。

- ・ 収集ポリシーの作成 (sqcRPolicy:サーバ内リソース情報収集ポリシー)
- ・ 収集ポリシーの作成 (sqcAPolicy:レスポンス情報収集ポリシー)
- ・ 収集ポリシーの適用 (sqcSetPolicy)

注意

本コマンドは複数同時に実行しないでください。

ポイント

Systemwalker Service Quality Coordinator V13.3.0以降は、ポリシー適用コマンド実行時にサービス/デーモンの事前停止は不要です。

ただし、サービス/デーモンが動作中で各ミドルウェア等の性能データが収集中であった場合、それらはポリシー適用の実施中は一時的に停止され、終了後に再収集を開始します。

■実行に必要な権限

Administratorsグループに所属するユーザー権限が必要です。

注意

管理者権限で実行してください。

■実行環境

運用管理クライアントで実行可能です。

■記述形式

<運用管理クライアントインストールディレクトリ>%bin ¥sqcCtrlPolicy.exe	-e <操作コマンド種別> {-g <ポリシー配付グループ>,... -s <サーバ名>,...}
--	--

■オプション

-e <操作コマンド種別>

リモート操作するコマンド種別を指定します。

- AP: 収集ポリシー作成コマンド (sqcAPolicy:レスポンス情報収集ポリシー)
- RP: 収集ポリシー作成コマンド (sqcRPolicy:サーバ内リソース情報収集ポリシー)
- SP: 収集ポリシー適用コマンド (sqcSetPolicy)

-g <ポリシー配付グループ>

ポリシー配付グループフォルダ名を指定します。

-s <サーバ名>

リモート操作先のサーバを指定します。

■復帰値

0: 正常終了

1: パラメーターエラー

2: サーバ処理エラー

3: 通信エラー

10: その他のエラー

エラーの詳細については、エラーメッセージを参照してください。

複数のエラーが発生した場合は、復帰値の最大値が返ります。

例えば、リモート操作実行先サーバAでサーバ処理エラー/リモート操作実行先サーバBでその他エラーが発生した場合は、10が復帰値として返ります。

■実行結果/出力形式

正常終了

標準出力に対し、正常終了メッセージを出力します。

```
(Success) : sqcCtrlPolicy succeeded. ,000, サーバ名, 時刻
-- リモート実行コマンド名 Command Log Start ----
~コマンド実行の結果~
-- リモート実行コマンド名 Command Log End ----
```

実行例

以下の定義でポリシーリモート操作を実施した場合

【操作サーバ】

wasabi1, wasabi2

【操作コマンド】

収集ポリシー作成 (sqcRPolicy)

```
(Success) : sqcCtrlPolicy succeeded. ,000, wasabi1, 20xx-12-25 00:00:00
-- sqcRPolicy Command Log Start ----
(Success) : Middleware product <Interstage Application Server> has been detected.
           The configuration definitions for the detected middleware has been added.
(Success) : sqcRPolicy succeeded.
-- sqcRPolicy Command Log End ----

(Success) : sqcCtrlPolicy succeeded. ,000, wasabi2, 20xx-12-25 00:00:00
-- sqcRPolicy Command Log Start ----
(Success) : Middleware product <Interstage Application Server> has been detected.
           The configuration definitions for the detected middleware has been added.
(Success) : sqcRPolicy succeeded.
-- sqcRPolicy Command Log End ----
```

異常終了

1. 標準エラー出力に対し、エラーメッセージを出力します。

```
(Error) : メッセージ, エラー番号, サーバ名, 時刻  
-- リモート実行コマンド名 Command Log Start ----  
~コマンド実行の結果~  
-- リモート実行コマンド名 Command Log End ----
```

エラーメッセージと対応するエラー番号

エラー番号	メッセージ	内容
010	parameter error.(エラー詳細コード)	パラメーターの指定エラー
020	Server access error.(エラー詳細コード)	サーバ処理エラー
030	aborted connection error.(エラー詳細コード)	通信エラー
100	system error.(エラー詳細コード)	その他何らかのエラー

実行例

以下の定義でポリシーリモート操作を実施した場合

【操作サーバ】

wasabi1

【操作コマンド】

収集ポリシー適用 (sqcSetPolicy)

【エラー例】

ファイル操作で失敗した場合

```
(Error) : system error. (XXX), 100, wasabi1, 20xx-12-25 00:00:00  
-- sqcSetPolicy Command Log Start ----  
(Error ) : The file was not able to be created because of insufficient file access rights or disk  
space.  
-- sqcSetPolicy Command Log End ----
```

※XXXは詳細コード

2. エラー時の対処について

エラー時の状況に応じて、以下の対処を実施します。

エラー番号	内容	対処の方法
010	パラメーターエラー	パラメーターを修正して、再実行
020	サーバ処理エラー	Manager、配付先サーバへの接続状況を確認後、再実行
030	通信エラー	Manager、配付先サーバへの接続状況を確認後、再実行
100	システムエラー	保守情報を採取し、技術員に連絡してください。

■使用例

以下の定義でポリシーリモート操作を実施する場合

【操作サーバ】

wasabi

【操作コマンド】

収集ポリシー作成 (sqcRPolicy)

```
C:\Program Files\Fujitsu\Systemwalker\SQLC-C\bin\sqcCtrlPolicy.exe -e RP -s wasabi
```

EE

1.2 sqcEmSetup(Managerの二階層運用セットアップコマンド)

■機能説明

Enterprise Managerでシステム全体の一元管理を行うためには、Managerをインストール後、各ManagerにてManagerの二階層運用セットアップコマンドを実行する必要があります。

sqcEmSetup(Managerの二階層運用セットアップコマンド)は、Enterprise Managerを導入したManagerの二階層運用の環境を構築、または削除します。



本コマンドは複数同時に実行しないでください。

■実行に必要な権限

【Windows版】

Administratorsグループに所属するユーザー権限が必要です。

【UNIX版】

システム管理者(スーパーユーザー)権限が必要です。

■実行環境

Managerで実行可能です。

■本手順を行う前に

Managerの常駐プロセスが起動している場合は、「[第2章 常駐プロセス、起動と停止](#)」を参照して、サービス/デーモンを停止してください。また、常駐プロセスが停止しているか確認してください。

■記述形式

【Windows版】

```
<インストールディレクトリ>\bin\sqcEmSetup.exe -h <host name> [-s on|off] [-m on|off]  
<インストールディレクトリ>\bin\sqcEmSetup.exe -u  
<インストールディレクトリ>\bin\sqcEmSetup.exe -d
```

【UNIX版】

```
/opt/FJSVssqc/bin/sqcEmSetup.sh -h <host name> [-s on|off] [-m on|off]  
/opt/FJSVssqc/bin/sqcEmSetup.sh -u  
/opt/FJSVssqc/bin/sqcEmSetup.sh -d
```


■オプション

-h <host name>

Enterprise Managerのホスト名またはIPアドレスを指定します。本オプションは、-uおよび-dオプションと同時に指定することはできません。

-s on|off

-hオプションを指定した場合に、サマリデータをManagerに格納するかどうかを指定します。

- on : サマリデータをManagerに格納します。
- off : サマリデータをManagerに格納しません。

本オプションを指定しない場合は、offが設定されたものとみなします。

-sオプションと-mオプションの組み合わせについては、-mオプションの下のポイントを参照してください。

-m on|off

-hオプションおよび-s onオプションを指定した場合に、サマリデータをEnterprise Managerに格納するかどうかを指定します。

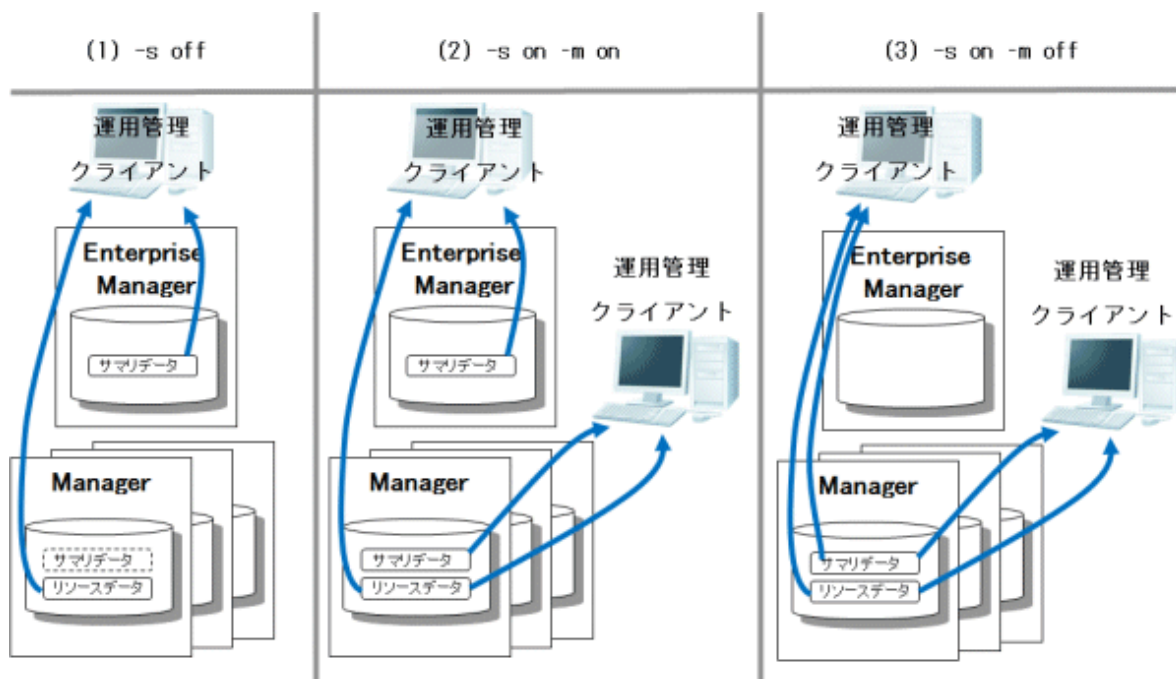
- on : サマリデータをEnterprise Managerに格納します。
- off : サマリデータをEnterprise Managerに格納しません。
ただし、Enterprise ManagerでAgentの機能を使用して自身の性能情報を収集する場合、-m offオプションを指定しても、自身のサマリデータはEnterprise Managerに格納されます。

本オプションを指定しない場合は、onが設定されたものとみなします。

-sオプションと-mオプションの組み合わせについては、以下のポイントを参照してください。

ポイント

-sおよび-mオプションの組み合わせ



(1) -s off

通常の運用形態です。

- ー サマリデータをEnterprise Managerに格納します。各Managerには格納しません。
- ー Enterprise Managerに接続した運用管理クライアントからシステム全体を一元管理します。
- ー システム全体の状況を把握するためのサマリデータを素早く表示できます。

(2) -s on -m on

部門単位の管理を実施する場合の運用形態です。

- ー サマリデータをEnterprise Managerおよび各Managerに格納します。
- ー Enterprise Managerではシステム全体の管理を、Managerでは部門単位の管理を行うことができます。
- ー システム全体の状況を把握するためのサマリデータを素早く表示できます。

(3) -s on -m off

部門単位の管理を実施する場合の運用形態です。

- ー サマリデータを各Managerに格納します。Enterprise Managerには格納しません。
- ー Enterprise Managerではシステム全体の管理を、Managerでは部門単位の管理を行うことができます。
- ー Enterprise Managerで管理するManagerの台数を増やすことができます。
- ー Enterprise Managerに接続した運用管理クライアントでサマリデータを表示する場合は、各Managerに格納されているサマリデータを取得して表示します。

.....

-u

Managerの二階層運用の解除を行います。本オプションは、-h および -dオプションと同時に指定することはできません。

-d

現在設定されているEnterprise Managerを表示します。本オプションは、-h および -uオプションと同時に指定することはできません。

■復帰値

0: 正常終了

1: 異常終了

正常終了した場合には、以下のメッセージを出力します。

Command Succeeded.

異常終了した場合には、以下のメッセージを出力します。

Usage : sqcEmSetup.exe -h hostname [-s on off] [-m on off] sqcEmSetup.exe -u sqcEmSetup.exe -d
--

オプションを指定せずにコマンドを実行したり、コマンドの使用方法が誤っていたりした場合は、コマンドヘルプが表示されます。

Failed to write environment settings to DSAconfiguration.txt.
Command failed.

DSAconfiguration.txtの書き込みに失敗しました。

Failed to read environment settings from DSAconfiguration.txt.
Command failed.

DSAconfiguration.txtの読み込みに失敗しました。

Failed to read environment settings from registry.
Command failed.

レジストリの読み込みに失敗しました。

Failed to get service status.
Command failed.

Systemwalker SQC DCMサービスの状態が取得できませんでした。(Window版のみ)

DCM is running and so sqcEmSetup can not be run.
Please stop DCM and retry sqcEmSetup.
Command failed.

Systemwalker SQC DCMサービス/dcmdプロセスが起動しています。

An error occurred. Cause code = XXX
Command failed.

その他のエラー(XXXはエラーコード)が発生しました。

■使用例

Managerの二階層運用環境をセットアップする場合は、以下のように実行します。

【Windows版】

```
C:\>cd C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC\bin
C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC\bin>sqcEmSetup.exe -h hostname
Command Succeeded.
C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC\bin>
```

【UNIX版】

```
# cd /opt/FJSVssqc/bin/
# ./sqcEmSetup.sh -h hostname
Command Succeeded.
#
```

Managerに運用管理クライアントを接続し、各部門単位での管理を行う場合は、以下のように実行します。

【Windows版】

```
C:\>cd C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC\bin
C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC\bin>sqcEmSetup.exe -h hostname -s on
Command succeeded.
C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC\bin>
```

【UNIX版】

```
# cd /opt/FJSVssqc/bin/
# ./sqcEmSetup.sh -h hostname -s on
Command succeeded.
#
```

Managerの二階層運用を解除する場合は、以下のように実行します。

【Windows版】

```
C:\>cd C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC\bin
C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC\bin>sqcEmSetup.exe -u
Command succeeded.
C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC\bin>
```

【UNIX版】

```
# cd /opt/FJSVssqc/bin/
# ./sqcEmSetup.sh -u
Command succeeded.
#
```

設定されているEnterprise Managerを表示する場合は、以下のように実行します。

【Windows版】

```
C:\>cd C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC\bin
C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC\bin>sqcEmSetup.exe -d
Enterprise manager host name : XXXX
C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC\bin>
```

【UNIX版】

```
# cd /opt/FJSVssqc/bin/
# ./sqcEmSetup.sh -d
Enterprise Manager host name : XXXX
#
```

XXXXは、現在Enterprise Managerとして設定されているホスト名またはIPアドレスです。Managerの二階層運用を実施しておらず、Enterprise Managerが存在しない場合は、ホスト名(「XXXX」の部分)が空白で表示されます。

■ファイル

本コマンドが成功すると、以下のファイルが編集されます。

【Windows版】

```
<可変ファイル格納ディレクトリ>%control%\DSAconfiguration.txt
```

【UNIX版】

```
/etc/opt/FJSVssqc/DSAconfiguration.txt
```

EE

1.3 sqcHmSetup(Managerの二重化運用Managerセットアップコマンド)

■機能説明

Managerを二重化する場合は、ManagerおよびAgent/Proxy Managerにて二重化セットアップコマンドを実行する必要があります。

sqcHmSetup(Managerの二重化運用Managerセットアップコマンド)は、Managerを二重化運用するための、Managerの環境を構築、または削除します。



注意

本コマンドは複数同時に実行しないでください。



ポイント

本コマンドは、導入手引書「2台目のManagerでの作業」で記載されているとおり、Pull運用の場合の2台目のManagerでのみ実行してください。

■実行に必要な権限

【Windows版】

Administratorsグループに所属するユーザー権限が必要です。

【UNIX版】

システム管理者(スーパーユーザー)権限が必要です。

■実行環境

Pull運用の場合の二重化の2台目のManagerで実行可能です。

■本手順を行う前に

Managerの常駐プロセスが起動している場合は、「[第2章 常駐プロセス、起動と停止](#)」を参照して、サービス/デーモンを停止してください。また、常駐プロセスが停止しているか確認してください。

■記述形式

【Windows版】

```
<インストールディレクトリ>%bin%sqcHmSetup.exe [-u]
```

【UNIX版】

```
/opt/FJSVssqc/bin/sqcHmSetup.exe [-u]
```

■オプション

-u

Managerの二重化運用の解除を行います。

■復帰値

0 : 正常終了

1 : 異常終了

正常終了した場合には、以下のメッセージを出力します。

```
Command succeeded.
```

異常終了した場合には、以下のメッセージを出力します。

```
Usage : sqcHmSetup.exe [-u]
```

本コマンドの使用方法が間違っています。

```
Failed to write environment settings to dmcoll.ini.  
Command failed.
```

dmcoll.iniの書き込みに失敗しました。

```
Failed to read environment settings from dmcoll.ini.  
Command failed.
```

dmcoll.iniの読み込みに失敗しました。

```
Failed to read environment settings from registry.  
Command failed.
```

レジストリの読み込みに失敗しました。(Window版のみ)

```
Failed to get service status.  
Command failed.
```

Systemwalker SQC sqcschdleサービス/sqcschdleプロセスの状態が取得できませんでした。

```
"sqcschdle" is running and so sqcHmSetup can not be run  
Please stop "sqcschdle" and retry sqcHmSetup.  
Command failed.
```

Systemwalker SQC sqcschdleサービス/sqcschdleプロセスが起動しています。

■使用例

Managerを二重化運用する場合には、以下のように実行します。

【Windows版】

```
C:>cd C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC\bin  
C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC\bin>sqcHmSetup.exe  
Command Succeeded.  
C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC\bin>
```

【UNIX版】

```
# cd /opt/FJSVssqc/bin/  
# ./sqcHmSetup.exe  
Command Succeeded.  
#
```

Managerの二重化運用を解除する場合には、以下のように実行します。

【Windows版】

```
C:>cd C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC\bin  
C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC\bin>sqcHmSetup.exe -u  
Command Succeeded.  
C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC\bin>
```

【UNIX版】

```
# cd /opt/FJSVssqc/bin/  
# ./sqcHmSetup.exe -u  
Command Succeeded.  
#
```

■ファイル

本コマンドが成功すると、以下のファイルが編集されます。

【Windows版】

```
<可変ファイル格納ディレクトリ>%control%data%dmcoll.ini
```

【UNIX版】

```
/etc/opt/FJSVssqc/data/dmcoll.ini
```

EE

1.4 sqcHaSetup(Managerの二重化運用Agent/Proxy Manager セットアップコマンド)

■機能説明

Managerを二重化する場合は、ManagerおよびAgent/Proxy Managerにて二重化セットアップコマンドを実行する必要があります。

sqcHaSetup(Managerの二重化運用Agent/Proxy Managerセットアップコマンド)は、Managerを二重化運用するための、Agent/ Proxy Managerの環境を構築、または削除します。



本コマンドは複数同時に実行しないでください。

■実行に必要な権限

【Windows版】

Administratorsグループに所属するユーザー権限が必要です。

【UNIX版】

システム管理者(スーパーユーザー)権限が必要です。

■実行環境

Agent/Proxy Managerで実行可能です。

■本手順を行う前に

Agent/Proxy Managerの常駐プロセスが起動している場合は、「[第2章 常駐プロセス、起動と停止](#)」を参照して、サービス/デーモンを停止してください。また、常駐プロセスが停止しているか確認してください。

■記述形式

【Windows版】

```
<インストールディレクトリ>%bin%sqcHaSetup.exe -h <host name>  
<インストールディレクトリ>%bin%sqcHaSetup.exe -u  
<インストールディレクトリ>%bin%sqcHaSetup.exe -d
```

【UNIX版】


```
/opt/FJSVssqc/bin/sqcHaSetup.sh -h <host name>  
/opt/FJSVssqc/bin/sqcHaSetup.sh -u  
/opt/FJSVssqc/bin/sqcHaSetup.sh -d
```

■オプション

-h <host name>

Agentのインストール時に設定しなかった方のManagerのホスト名またはIPアドレスを指定します。本オプションは、他のオプションと同時に指定することはできません。

-u

Managerの二重化運用の解除を行います。本オプションは、他のオプションと同時に指定することはできません。

-d

現在接続先として設定されているManagerを表示します。本オプションは、他のオプションと同時に指定することはできません。



このオプションはPush運用の場合のみ指定できます。

■復帰値

0 : 正常終了

1 : 異常終了

正常終了した場合には、以下のメッセージを出力します。

```
Command Succeeded.
```

異常終了した場合には、以下のメッセージを出力します。

```
Usage : sqcHaSetup.exe -h hostname  
sqcHaSetup.exe -u  
sqcHaSetup.exe -d
```

オプションが指定されていません。または本コマンドの使用方法が間違っています。

```
Failed to write environment settings to DSAconfiguration.txt.  
Command failed.
```

DSAconfiguration.txtの書き込みに失敗しました。

```
Failed to read environment settings from DSAconfiguration.txt.  
Command failed.
```

DSAconfiguration.txtの読み込みに失敗しました。

Failed to read environment settings from registry.
Command failed.

レジストリの読み込みに失敗しました。

Failed to create/delete directory.
Command failed.

ディレクトリの作成・削除に失敗した場合

Failed to get service status.
Command failed.

Systemwalker SQC DCMサービスの状態が取得できませんでした。(Window版のみ)

DCM is running and so sqcHaSetup can not be run.
Please stop DCM and retry sqcHaSetup.
Command failed.

Systemwalker SQC DCMサービス/dcmdプロセスが起動しています。

An error occurred. Cause code = XXX
Command failed.

その他のエラー(XXXはエラーコード)が発生しました。

■使用例

2台目のManagerを追加する場合には、以下のように実行します。

【Windows版】

```
C:\>cd C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC\bin
C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC\bin>sqcHaSetup.exe -h hostname
Command succeeded.
C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC\bin>
```

【UNIX版】

```
# cd /opt/FJSVssqc/bin/
# ./sqcHaSetup.sh -h hostname
Command succeeded.
#
```

Managerの二重化運用を解除する場合には、以下のように実行します。

【Windows版】

```
C:¥>cd C:¥Program Files¥Fujitsu¥SystemwalkerSQC¥bin
C:¥Program Files¥Fujitsu¥SystemwalkerSQC¥bin>sqcHaSetup.exe -u
Command succeeded.
C:¥Program Files¥Fujitsu¥SystemwalkerSQC¥bin>
```

【UNIX版】

```
# cd /opt/FJSVssqc/bin/
# ./sqcHaSetup.sh -u
Command Succeeded.
#
```

現在接続先として設定されているManagerを表示する場合には、以下のように実行します。(Push運用の場合のみ)

【Windows版】

```
C:¥>cd C:¥Program Files¥Fujitsu¥SystemwalkerSQC¥bin
C:¥Program Files¥Fujitsu¥SystemwalkerSQC¥bin>sqcHaSetup.exe -d
Manager host name 1 : XXXX
Manager host name 2 : YYYY
C:¥Program Files¥Fujitsu¥SystemwalkerSQC¥bin>
```

【UNIX版】

```
# cd /opt/FJSVssqc/bin/
# ./sqcHaSetup.sh -d
Manager host name 1 : XXXX
Manager host name 2 : YYYY
#
```

XXXXおよびYYYYは、現在接続先のManagerとして設定されているホスト名です。Managerの二重化運用を実施していない場合は、「Manager host name 2」のホスト名(「YYYY」の部分)が空白で表示されます。また、二重化運用を実施していても、Pull運用の場合は空白で表示されます。

■ファイル

本コマンドが成功すると、以下のファイルが編集されます。

【Windows版】

```
<可変ファイル格納ディレクトリ>¥control¥DSAconfiguration.txt
```

【UNIX版】

```
/etc/opt/FJSVssqc/Dsaconfiguration.txt
```

1.5 クラスタ設定コマンド

クラスタ環境を構築、削除するコマンドについて説明します。

1.5.1 sqcsetupclp/sqcsetupcls(クラスタセットアップコマンド)

■機能説明

クラスタ環境を構築する場合には、クラスタセットアップコマンドを実行する必要があります。

以下、sqcsetupclp - クラスタ環境構築(現用系)、sqcsetupcls - クラスタ環境構築(待機系)コマンドについて説明します。



本コマンドは複数同時に実行しないでください。

■実行に必要な権限

【Windows版】

Administratorsグループに所属するユーザー権限が必要です。

【UNIX版】

システム管理者(スーパーユーザー)権限が必要です。

■実行環境

Manager/Enterprise Managerで実行可能です。

■本手順を行う前に

Manager/Enterprise Managerの常駐プロセスが起動している場合は、「[第2章 常駐プロセス、起動と停止](#)」を参照して、サービス/デーモンを停止してください。また、常駐プロセスが停止しているか確認してください。

■記述形式

【Windows版】

(現用系)

```
<インストールディレクトリ>%bin%sqcsetupclp.exe -m <共用ディスク> -h <論理ホスト名>
```

(待機系)

```
<インストールディレクトリ>%bin%sqcsetupcls.exe -m <共用ディスク>
```

【UNIX版】

(現用系)

```
/opt/FJSVssqc/bin/sqcsetupclp -m <共用ディスクのマウントポイント> -h <論理ホスト名>
```

(待機系)

```
/opt/FJSVssqc/bin/sqcsetupcls -m <共用ディスクのマウントポイント>
```

■オプション

【Windows版】

-m <共用ディスク>

クラスタ運用で利用する共用ディスク装置のドライブを指定します

-h <論理ホスト名>

クラスタ運用で利用する論理ホスト名または論理IPアドレスを指定します。



注意

運用中のシステムで本オプションを使用すると、ManagerのIPアドレス/ホスト名が変更されるためAgent側の設定変更も必要になります。導入手引書「Agent/Proxy Managerが認識するManagerのIPアドレス/ホスト名の変更」を参照し、変更を実施してください。

【UNIX版】

-m <共用ディスクのマウントポイント>

クラスタ運用で利用する共用ディスク装置のマウントポイントを指定します。

-h <論理ホスト名>

クラスタ運用で利用する論理ホスト名または論理IPアドレスを指定します。



注意

運用中のシステムで本オプションを使用すると、ManagerのIPアドレス/ホスト名が変更されるためAgent側の設定変更も必要になります。導入手引書「Agent/Proxy Managerが認識するManagerのIPアドレス/ホスト名の変更」を参照し、変更を実施してください。

■復帰値

0: 正常終了

1: 異常終了

正常終了した場合には、以下のメッセージを出力します。

```
Cluster setup succeeded
```

■使用例

【Windows版】

(現用系 sqcsetupclp)

```
C:¥>cd C:¥Program Files¥Fujitsu¥SystemwalkerSQC¥bin
```

```
C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC\bin>sqcsetupclp.exe -m F:\ -h hostname  
126 個のファイルをコピーしました  
0 個のファイルをコピーしました  
0 個のファイルをコピーしました  
0 個のファイルをコピーしました  
0 個のファイルをコピーしました  
0 個のファイルをコピーしました  
0 個のファイルをコピーしました  
0 個のファイルをコピーしました  
0 個のファイルをコピーしました  
0 個のファイルをコピーしました  
0 個のファイルをコピーしました  
0 個のファイルをコピーしました  
0 個のファイルをコピーしました  
0 個のファイルをコピーしました  
Cluster setup succeeded  
C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC\bin>
```

(待機系 sqcsetupcls)

```
C:\>cd C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC\bin  
C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC\bin>sqcsetupcls.exe -m F:\  
Cluster setup succeeded  
C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC\bin>
```

【UNIX版】

(現用系 sqcsetupclp)

```
# cd /opt/FJSVssqc/bin/  
# ./sqcsetupclp -m /share -h hostname  
Cluster setup succeeded  
#
```

(待機系 sqcsetupcls)

```
# cd /opt/FJSVssqc/bin/  
# ./sqcsetupcls -m /share  
Cluster setup succeeded  
#
```

1.5.2 sqcunsetcl(クラスタアンセットアップコマンド)

■機能説明

Systemwalker Service Quality Coordinatorのクラスタ環境を解除します。



本コマンドは複数同時に実行しないでください。

■実行に必要な権限

【Windows版】

Administratorsグループに所属するユーザー権限が必要です。

【UNIX版】

システム管理者(スーパーユーザー)権限が必要です。

■実行環境

Manager/Enterprise Managerで実行可能です。

■本手順を行う前に

Manager/Enterprise Managerの常駐プロセスが起動している場合は、「[第2章 常駐プロセス、起動と停止](#)」を参照して、サービス/デーモンを停止してください。また、常駐プロセスが停止しているか確認してください。

■記述形式

【Windows版】

```
<インストールディレクトリ>%bin%sqcunsetcl
```

【UNIX版】

```
/opt/FJSVssqc/bin/sqcunsetcl
```

■オプション

なし

■復帰値

0 : 正常終了

1 : 異常終了

1.6 インストールレス型Agentコマンド

1.6.1 sqcRemoteCheck(インストールレス型Agent管理通信確認コマンド)

■機能説明

インストールレス型Agent管理で設定された被監視サーバとManager/Proxy Manager間で通信可能かの確認を行います。
-hオプションで、通信確認を行う対象の被監視サーバを指定することができます。



注意

本コマンドは複数同時に実行しないでください。

■実行に必要な権限

【Windows版】

Administratorsグループに所属するユーザー権限が必要です。

【UNIX版】

システム管理者(スーパーユーザー)権限が必要です。

■実行環境

Manager/Proxy Managerで実行可能です。

■記述形式

【Windows版】

```
<インストールディレクトリ>%bin%sqcRemoteCheck.exe [-h <hostname>]
```

【UNIX版】

```
/opt/FJSVssqc/bin/sqcRemoteCheck.sh [-h <hostname>]
```

■オプション

-h <host name>

通信を確認したい被監視サーバの識別名を指定します。

本オプションを省略した場合は、インストールレス型Agent管理で管理しているすべての被監視サーバが対象となります。



ポイント

被監視サーバの識別名には、リモート監視定義ファイル(remoteAgent.txt)の「HOSTNAME」に指定した文字列を指定してください。

■復帰値

0: 正常終了

1: 異常終了

■実行結果/出力形式

正常終了

標準出力に対し、正常終了メッセージを出力します。

```
(Success): sqcRemoteCheck.exe succeeded.
```

実行例: 通信確認

```
C:\Program Files\Fujitsu\Systemwalker\SQL\bin>sqcRemoteCheck.exe
Server1 OK
Server2 OK
Server3 NG
<detail>
****dsa_telnet**** ===== Connect Error =====
server: TestServer3 [Server3]
SOCKET Message: そのようなホストは不明です。
State: Start connection: Resolve host address

*** "NG" has been output. Please refer to the Reference Guide. ***

(Success): sqcRemoteCheck.exe succeeded.
```

実行結果として「NG」と出力された場合は、「[1.6.4 インストールレス型Agentコマンド実行時に出力されるメッセージ](#)」を参照してください。

異常終了

標準エラー出力に対し、エラーメッセージを出力します。

```
(Error エラー番号):メッセージ
```

エラーメッセージと対応するエラー番号、内容、対処方法は以下のとおりです。

エラー番号	メッセージ	内容	対処方法
010	Parameter error.	パラメーターの指定エラー	パラメーターを修正して、再実行してください。
020	Invalid argument to '-h'	-hオプションの引数エラー	-hオプションの引数に、リモート監視定義ファイル(remoteAgent.txt)の「HOSTNAME」に指定した文字列を指定して再実行してください。監視停止中の被監視サーバ(「CONNECTION」が「OFF」に設定されている被監視サーバ)を指定した場合、エラーとなります。
100	System error.	その他のエラー	保守情報を採取し、技術員に連絡してください。

実行例

以下の定義でインストールレス型Agent管理通信確認コマンドを実施した場合

[被監視サーバの識別名]

```
server1
server2
server3
```

[エラー例]

sqcRemoteCheckコマンドが何らかのエラーとなった場合

```
(Error 100):System error.
```

■使用例

【Windows版】

```
C:\Program Files\Fujitsu\Systemwalker\SQL\bin>sqcRemoteCheck.exe
Server1 OK
Server2 OK
Server3 NG
<detail>
*****dsa_telnet***** ===== Connect Error =====
server: TestServer3 [Server3]
SOCKET Message: そのようなホストは不明です。
State: Start connection: Resolve host address

*** "NG" has been output. Please refer to the Reference Guide. ***

(Success):sqcRemoteCheck.exe succeeded.
```

【UNIX版】

```
#cd /opt/FJSVssqc/bin
#./sqcRemoteCheck.sh
Server1 OK
Server2 OK
Server3 NG
<detail>
*****dsa_telnet***** ===== Connect Error =====
server: TestServer3 [Server3]
SOCKET Message: そのようなホストは不明です。
State: Start connection: Resolve host address

*** "NG" has been output. Please refer to the Reference Guide. ***

(Success):sqcRemoteCheck succeeded.
```

W

1.6.2 sqcCollectSpec(インストールレス型Agent管理スペック情報収集コマンド)

■機能説明

インストールレス型Agent管理で設定された被監視サーバに対し、スペック情報の収集を行います。

-hオプションで、スペック情報の収集を行う対象の被監視サーバを指定することができます。

収集した情報は、「スペック情報」カテゴリのレポートで参照します。レポート表示前に、本コマンドを実行してください。「スペック情報」カテゴリのレポートについての詳細は、使用手引書(コンソール編)「スペック情報」を参照してください。

収集対象は以下のとおりです。

- Windows(WMI通信の場合のみ)
- Solaris
- Linux
- VMware ESXi

注意

本コマンドは複数同時に実行しないでください。

■実行に必要な権限

【Windows版】

Administratorsグループに所属するユーザー権限が必要です。

■実行環境

Windows版のManager/Proxy Managerで実行可能です。

■記述形式

【Windows版】

```
<インストールディレクトリ>%bin%sqcCollectSpec.bat [-h <hostname>]
```

■オプション

-h <host name>

スペック情報を収集したい被監視サーバの識別名を指定します。

本オプションを省略した場合は、インストールレス型Agent管理で管理しているすべての被監視サーバが対象となります。

ポイント

被監視サーバの識別名には、リモート監視定義ファイル(remoteAgent.txt)の「HOSTNAME」に指定した文字列を指定してください。

■復帰値

0: 正常終了

1: 異常終了

■実行結果/出力形式

正常終了

標準出力に対し、正常終了メッセージを出力します。

```
(Success): sqcCollectSpec.bat succeeded.
```

実行例

```
C:\Program Files\Fujitsu\Systemwalker\SQC\bin>sqcCollectSpec.bat
Server1 NG
<detail>
exception 10060 for server Server1 id Server1

Server2 OK
```

Server3 OK

*** "NG" has been output. Please refer to the Reference Guide. ***

(Success): sqcCollectSpec.bat succeeded.

実行結果として「NG」と出力された場合は、「[1.6.4 インストールレス型Agentコマンド実行時に出力されるメッセージ](#)」を参照してください。

異常終了

標準エラー出力に対し、エラーメッセージを出力します。

(Error エラー番号):メッセージ

エラーメッセージと対応するエラー番号、内容、対処方法は以下のとおりです。

エラー番号	メッセージ	内容	対処方法
010	Parameter error.	パラメーターの指定エラー	パラメーターを修正して、再実行してください。
020	Invalid argument to '-h'	-hオプションの引数エラー	-hオプションの引数に、リモート監視定義ファイル(remoteAgent.txt)の「HOSTNAME」に指定した文字列を指定して再実行してください。監視停止中の被監視サーバ (「CONNECTION」が「OFF」に設定されている被監視サーバ)を指定した場合、エラーとなります。 また、「 機能説明 」で説明する収集対象以外の被監視サーバを指定した場合、エラーとなります。
100	System error.	その他のエラー	保守情報を採取し、技術員に連絡してください。

実行例

以下の定義でインストールレス型Agent管理スペック情報収集コマンドを実施した場合

【被監視サーバの識別名】

server1
server2
server3

【エラー例】

sqcCollectSpecコマンドが何らかのエラーとなった場合

(Error 100):System error.

■使用例

Server1のスペック情報を収集する場合の例を示します。

【Windows版】

```
C:\Program Files\Fujitsu\Systemwalker\SQLC\bin>sqlCollectSpec.bat -h Server1  
Server1 OK  
(Success): sqlCollectSpec.bat succeeded.
```

1.6.3 sqlAgentlessCleanUp(インストールレス型Agent管理収集用スクリプト削除コマンド)

■機能説明

被監視サーバに配備したインストールレス型Agent管理収集用スクリプトファイルの削除を行います。

-hオプションで、削除する対象の被監視サーバを指定することができます。

注意

本コマンドは複数同時に実行しないでください。

参考

インストールレス型Agent管理収集スクリプトは、監視のための通信方式がTELNET、SSHの場合に、Manager/Proxy Managerのサービスの再起動で配備されます。

■実行に必要な権限

【Windows版】

Administratorsグループに所属するユーザー権限が必要です。

【UNIX版】

システム管理者(スーパーユーザー)権限が必要です。

■実行環境

Manager/Proxy Managerで実行可能です。

■本手順を行う前に

Manager/Proxy Managerの常駐プロセスが起動している場合は、「[第2章 常駐プロセス、起動と停止](#)」を参照して、サービス/デーモンを停止してください。また、常駐プロセスが停止しているか確認してください。

注意

Manager/Proxy Managerの常駐プロセスが起動しているときに本コマンドを実行すると、性能データが収集されない場合があります。

■記述形式

【Windows版】

```
<インストールディレクトリ>%bin%sqcAgentlessCleanUp.exe [-h <host name>]
```

【UNIX版】

```
/opt/FJSVssqc/bin/sqcAgentlessCleanUp.sh [-h <host name>]
```

■オプション

-h <host name>

削除したい被監視サーバの識別名を指定します。監視のための通信方式がTELNET、SSHである被監視サーバを指定してください。

本オプションを省略した場合は、インストールレス型Agent管理で管理しているすべての被監視サーバが対象となります。

ポイント

被監視サーバの識別名には、リモート監視定義ファイル(remoteAgent.txt)の「HOSTNAME」に指定した文字列を指定してください。

■復帰値

0 : 正常終了

1 : 異常終了 (削除失敗)

注意

被監視サーバがWindowsの場合、以下のディレクトリは削除されません。

- ・ %USERPROFILE%\sqc_tempディレクトリ
(%USERPROFILE% : ユーザープロファイルフォルダのパス名)

■実行結果/出力形式

正常終了

標準出力に対し、正常終了メッセージを出力します。

```
(Success):sqcAgentlessCleanUp.exe succeeded.
```

実行例

```
C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQL\bin>sqcAgentlessCleanUp.exe

The script for Agent for Agentless Monitoring management collection of the following servers is
deleted.
server1
server2
server3
Execute it? (Y/N) : Y

server1 : OK
server2 : OK
server3 : OK
```

(Success):sqcAgentlessCleanUp.exe succeeded.

異常終了

標準エラー出力に対し、エラーメッセージを出力します。

(Error エラー番号):メッセージ

エラーメッセージと対応するエラー番号、内容、対処方法は以下のとおりです。

エラー番号	メッセージ	内容	対処方法
010	Parameter error.	パラメーターの指定エラー	パラメーターを修正して、再実行してください。
020	invalid argument to '-h'	-hオプションの引数エラー	-hオプションの引数に、リモート監視定義ファイル(remoteAgent.txt)の「HOSTNAME」に指定した文字列を指定して再実行してください。監視停止中の被監視サーバ(「CONNECTION」が「OFF」に設定されている被監視サーバ)を指定した場合、エラーとなります。 また、監視のための通信方式がTELNET、SSHでない被監視サーバを指定した場合、エラーとなります。
030	Failure file delete.	ファイルの削除失敗エラー	本メッセージより前に表示されたメッセージの"detail"を参照し、対処してから再実行してください。
100	System error.	その他のエラー	保守情報を採取し、技術員に連絡してください。

実行例

以下の定義でインストールレス型Agent管理収集用スクリプト削除コマンドを実施した場合

[被監視サーバの識別名]

server1
server2
server3

[エラー例]

Server2のファイル削除で失敗した場合

```
C:\Program Files\Fujitsu\Systemwalker\SQL\bin>sqcAgentlessCleanUp.exe
The script for Agent for Agentless Monitoring management collection of the following servers is
deleted.
server1
server2
server3
Execute it? (Y/N) : Y
server1 OK
server2 NG
<detail>
```

```
*****dsa_telnet***** ===== Connect Error =====  
server: TestServer2 [Server2]  
SOCKET Message: そのようなホストは不明です。  
State: Start connection: Resolve host address  
  
server3 OK  
(Error 030): Failure file delete.
```

■使用例

【Windows版】

```
C:\Program Files\Fujitsu\Systemwalker\SQLC\bin>sqlAgentlessCleanUp.exe  
  
The script for Agent for Agentless Monitoring management collection of the following servers is deleted.  
server1  
server2  
server3  
Execute it? (Y/N) : Y  
  
server1 : OK  
  
server2 : OK  
  
server3 : OK  
  
(Success):sqlAgentlessCleanUp.exe succeeded.
```

【UNIX版】

```
#cd /opt/FJSVssql/bin  
#./sqlAgentlessCleanUp.sh  
  
The script for Agent for Agentless Monitoring management collection of the following servers is deleted.  
server1  
server2  
server3  
Execute it? (Y/N) : Y  
  
server1 : OK  
  
server2 : OK  
  
server3 : OK  
  
(Success):sqlAgentlessCleanUp succeeded.
```

1.6.4 インストールレス型Agentコマンド実行時に出力されるメッセージ

sqlRemoteCheck(インストールレス型Agent管理通信確認コマンド)、sqlCollectSpec(インストールレス型Agent管理スペック情報収集コマンド)、およびsqlAgentlessCleanUp(インストールレス型Agent管理収集用スクリプト削除コマンド)実行時に出力される代表的なエラーについて、対象となる通信方法、原因、および対処方法は以下のとおりです。

その他のエラーが出力された場合は、被監視サーバのOSのマニュアルを参考に、対処してください。

sqlRemoteCheck(インストールレス型Agent管理通信確認コマンド)/sqlCollectSpec(インストールレス型Agent管理スペック情報収集コマンド)/sqlAgentlessCleanUp(インストールレス型Agent管理収集用スクリプト削除コマンド)実行時のエラー:

エラー内容	通信方法	原因	対処方法
IPアドレス : (800706ba) Connection failed : RPC サーバーを利用 できません。	WMI	以下のいずれかが原因です。 1. ホスト名が名前解決 されていない。 2. 対象の被監視サーバ が起動していない。 3. ファイアーウォールが 有効になっている。	原因に合わせて以下の対処を 行ってください。 1. リモート監視定義ファイル の「HOSTNAME」に、名 前解決されるホスト名、ま たはIPアドレスを指定して ください。 2. 対象の被監視サーバを 起動してください。 3. 使用手引書「被監視サー バがWindowsの場合」 - 「■ WMIで通信する場 合」 - 「ファイアーウォール の設定」の手順を確認し てください。
IPアドレス : (80070005) Connection failed : ア クセスが拒否されまし た。	WMI	以下のいずれかが原因です。 1. WMI の サービス (Windows Management Instrumentation) が 起動していない。 2. ユーザー名またはパ スワードに誤りがある。 3. ユーザーアカウント制 御 (UAC) が有効に なっているが設定が 正しくされていない。	原因に合わせて以下の対処を 行ってください。 1. WMI の サービス (Windows Management Instrumentation) を起 動 してください。 2. ユーザー名とパスワードを 確認してください。パス ワード に つ い て は、 genpwd(パスワード暗号 化コマンド)で出力された 文字列が、接続アカウント 定 義 フ ァ イ ル (remoteAccount.txt)に設 定されていることを確認し てください。 3. 使用手引書「被監視サー バがWindowsの場合」 - 「■ WMIで通信する場 合」 - 「WMIでアクセスす るためのアカウントの準 備」の手順を確認してくだ さい。
*****dsa_telnet***** * ===== Connect Error ===== server: DISPLAYNAME [IP アドレス] Message: Connection timed out SOCKET Message: recv() return error State: Connecting	TEL NET SSH	以下のいずれかが原因です。 1. 対象の被監視サーバ が起動していない。 2. ファイアーウォールが 有効になっている。 3. TELNETデーモンま たはSSHデーモンが 起動していない。	原因に合わせて以下の対処を 行ってください。 1. 対象の被監視サーバを 起動してください。 2. ファイアーウォールの設 定を確認してください。 3. 対象の被監視サーバの TELNETデーモンまたは SSHデーモンを起動して ください。

エラー内容	通信方法	原因	対処方法
*****dsa_telnet***** * ===== Connect Error ===== server: DISPLAYNAME [IP アドレス] Message: Invalid login/password SOCKET Message: send() returns error State: Checking Login/Password: Set system prompt and wait it	TEL NET	以下のいずれかが原因です。 1. 対象の被監視サーバが起動していない。 2. ファイアーウォールが有効になっている。 3. TELNETデーモンが起動していない。	原因に合わせて以下の対処を行ってください。 1. 対象の被監視サーバを起動してください。 2. ファイアーウォールの設定を確認してください。 3. 対象の被監視サーバのTELNETデーモンを起動してください。
*****dsa_telnet***** * ===== Connect Error ===== server: DISPLAYNAME [IP アドレス] Message: No route to host SOCKET Message: recv() return error State: Connecting	TEL NET SSH	ファイアーウォールが有効になっています。	ファイアーウォールの設定を確認してください。
*****dsa_telnet***** * ===== Connect Error ===== server: DISPLAYNAME [IP アドレス] SOCKET Message: 要求した名前は有効 ですが、要求された種 類のデータは見つかり ませんでした。 State: Start connection: Resolve host address	TEL NET SSH	以下のいずれかが原因です。 1. ホスト名が名前解決されていない。 2. 対象の被監視サーバが起動していない。	原因に合わせて以下の対処を行ってください。 1. リモート監視定義ファイルの「HOSTNAME」に、名前解決されるホスト名、またはIPアドレスを指定してください。 2. 対象の被監視サーバを起動してください。
*****dsa_telnet***** * ===== Connect Error ===== server: DISPLAYNAME [IP アドレス] SOCKET Message: node name or service name not known			

エラー内容	通信方法	原因	対処方法
State: Start connection: Resolve host address			
*****dsa_telnet***** * ===== Connect Error ===== server: DISPLAYNAME [<i>IP アドレス</i>] SOCKET Message: そのようなホストは不明です。 State: Start connection: Resolve host address	TEL NET SSH	ホスト名が名前解決されていません。	リモート監視定義ファイルの「HOSTNAME」に、名前解決されるホスト名、またはIPアドレスを指定してください。
*****dsa_telnet***** * ===== Connect Error ===== server: DISPLAYNAME [<i>IP アドレス</i>] SOCKET Message: Name or service not known State: Start connection: Resolve host address			
*****dsa_telnet***** * ===== Connect Error ===== server: DISPLAYNAME [<i>IP アドレス</i>] SOCKET Message: exception 10060 for server <i>IPアドレス</i> id DISPLAYNAME State: Connecting	TEL NET SSH	以下のいずれかが原因です。 1. 対象の被監視サーバが起動していない。 2. ファイアウォールが有効になっている。 3. TELNETデーモンが起動していない。	原因に合わせて以下の対処を行ってください。 1. 対象の被監視サーバを起動してください。 2. ファイアウォールの設定を確認してください。 3. 対象の被監視サーバのTELNETデーモンを起動してください。
*****dsa_telnet***** * ===== Connect Error ===== server: DISPLAYNAME [<i>IP アドレス</i>] SOCKET Message: exception 10061 for server <i>IPアドレス</i> id DISPLAYNAME	TEL NET	TELNETデーモンが起動していません。	対象の被監視サーバのTELNETデーモンを起動してください。

エラー内容	通信方法	原因	対処方法
State: Connecting			
*****dsa_telnet***** * ===== Connect Error ===== server: DISPLAYNAME [<i>IP</i> アドレス.TELNET] SOCKET Message: exception 10061 for server <i>IP</i>アドレス.TELNET id DISPLAYNAME State: Connecting	TELNET	TELNETデーモンが起動していません。	対象の被監視サーバのTELNETデーモンを起動してください。
*****dsa_telnet***** * ===== Connect Error ===== server: DISPLAYNAME [<i>IP</i> アドレス] Message: Transport endpoint is not connected SOCKET Message: send() returns error State: Checking Login/Password: Set system prompt and wait it	SSH	以下のいずれかが原因です。 1. 対象の被監視サーバが起動していない。 2. ファイアーウォールが有効になっている。	原因に合わせて以下の対処を行ってください。 1. 対象の被監視サーバを起動してください。 2. ファイアーウォールの設定を確認してください。
*****dsa_telnet***** * ===== Connect Error ===== server: DISPLAYNAME [<i>IP</i> アドレス] SOCKET Message: exception 10061 for server <i>IP</i>アドレス id DISPLAYNAME State: Connecting	SSH	SSHデーモンが起動していません。	対象の被監視サーバのSSHデーモンを起動してください。
*****dsa_telnet***** * ===== Connect Error ===== server: DISPLAYNAME [<i>IP</i> アドレス] Message: Connection refused	TELNET SSH	TELNETデーモンまたはSSHデーモンが起動していません。	対象の被監視サーバのTELNETデーモンまたはSSHデーモンを起動してください。

エラー内容	通信方法	原因	対処方法
SOCKET Message: recv() return error State: Connecting			
*****dsa_telnet***** * ===== Connect Error ===== server: DISPLAYNAME [IP アドレス] SOCKET Message: Server disconnects State: 可変文字列	TEL NET	ユーザー名またはパスワードに誤りがあります。	ユーザー名とパスワードを確認してください。
*****dsa_telnet***** * ===== Connect Error ===== server: DISPLAYNAME [IP アドレス] Message: Unexpected message SSH2_MSG_USERA UTH_FAILURE. State: Authentication	SSH	ユーザー名またはパスワードに誤りがあります。	
*****dsa_telnet***** * ===== Connect Error ===== server: DISPLAYNAME [IP アドレス] SOCKET Message: Server disconnects State: Checking Login/Password: Set system prompt and wait it	TEL NET	ユーザー名またはパスワードに誤りがあります。	ユーザー名とパスワードを確認してください。
*****dsa_telnet***** * ===== Connect Error ===== server: DISPLAYNAME [IP アドレス] SOCKET Message: Server disconnects State: Password request found	TEL NET	接続アカウントとして指定したユーザーは、TELNETで接続できません。	接続アカウントとしてTELNETで接続できるユーザーを指定してください。

エラー内容	通信方法	原因	対処方法
*****dsa_telnet***** * ===== Connect Error ===== server: DISPLAYNAME [IP アドレス] Message: Unexpected message SSH2_MSG_USERA UTH_FAILURE. State: Authentication	SSH	接続アカウントとして指定したユーザーは、SSHで接続できません。	接続アカウントとしてSSHで接続できるユーザーを指定してください。
*****dsa_telnet***** * ===== Connect Error ===== server: DISPLAYNAME [IP アドレス] Message: Invalid login/password State: Checking Login/Password: Set system prompt and wait it	SSH	ユーザー名またはパスワードに誤りがあります。	ユーザー名とパスワードを確認してください。
*****dsa_telnet***** * ===== Connect Error ===== server: DISPLAYNAME [IP アドレス] Message: Password has invalid encryption State: Reading DSAconfiguration Parameter: 接続方 法,IPアドレ ス,OS,DISPLA YNA ME,ポート番号,ユー ザー名,パスワード 可変文字列 注)「接続方法」、 「ポート番号」、「ユー ザー名」、「パスワー ド」は可変です。 「OS」には「win」また は「ux」が出力されま す。	TEL NET SSH	パスワードに誤りがあります。	genpwd(パスワード暗号化コマンド)で出力された文字列が、接続アカウント定義ファイル(remoteAccount.txt)に設定されていることを確認してください。

エラー内容	通信方法	原因	対処方法
*****dsa_telnet***** * ===== Connect Error ===== server: DISPLAYNAME [IP アドレス] Message: Unexpected message SSH2_MSG_UNIM PLEMENTED. State: Checking Login/Password: Set system prompt and wait it	SSH	被監視サーバとのSSH接続に時間がかかり、タイムアウトが発生した可能性があります。	被監視サーバとのSSH接続にかかる時間を確認してください。 SSH接続が遅い場合は、名前解決に時間がかかっている可能性があります。 被監視サーバ側の以下のファイルの定義を確認してください。 - /etc/resolv.conf - /etc/ssh/sshd_config
*****dsa_telnet***** * ===== Connect Error ===== server: DISPLAYNAME [IP アドレス] Message: Broken pipe SOCKET Message: send() returns error State: Channel request	SSH	被監視サーバとのSSH接続に時間がかかり、タイムアウトが発生した可能性があります。	被監視サーバとのSSH接続にかかる時間を確認してください。 SSH接続が遅い場合は、名前解決に時間がかかっている可能性があります。 被監視サーバ側の以下のファイルの定義を確認してください。 - /etc/resolv.conf - /etc/ssh/sshd_config
*****dsa_vsphere** *** ===== Connect Error ===== Server: DISPLAYNAME [https://IPアドレス: ポート番号/sdk] State: Retrieve ServiceContent from remote server Message: 要求した名前は有効ですが、要求された種類のデータは見つかりませんでした。 Detail: getaddrinfo failed in tcp_connect()	HTT PS	ホスト名が名前解決されていません。	リモート監視定義ファイルの「HOSTNAME」に、名前解決されるホスト名、またはIPアドレスを指定してください。
*****dsa_vsphere** *** ===== Connect Error ===== Server: DISPLAYNAME			

エラー内容	通信方法	原因	対処方法
[https:// <i>IPアドレス</i> : <i>ポート番号</i> /sdk] State: Retrieve ServiceContent from remote server Message: node name or service name not known Detail: getaddrinfo failed in tcp_connect()			
****dsa_vsphere** *** ===== Connect Error ===== Server: DISPLAYNAME [https:// <i>IPアドレス</i> : <i>ポート番号</i> /sdk] State: Retrieve ServiceContent from remote server Message: そのようなホ ストは不明です。 Detail: getaddrinfo failed in tcp_connect() 注)「 <i>ポート番号</i> 」は可 変です。	HTT PS	ホスト名が名前解決されて いません。	リモート監視定義ファイルの 「HOSTNAME」に、名前解決さ れるホスト名、またはIPアドレスを 指定してください。
****dsa_vsphere** *** ===== Connect Error ===== Server: DISPLAYNAME [https:// <i>IPアドレス</i> : <i>ポート番号</i> /sdk] State: Retrieve ServiceContent from remote server Message: 接続済みの 呼び出し先が一定の 時間を過ぎても正しく 応答しなかったため、 接続できませんでした。 または接続済みのホ ストが応答しなかった ため、確立された接続 は失敗しました。 Detail: connect failed in tcp_connect()	HTT PS	対象の被監視サーバが起 動していません。	対象の被監視サーバを起動して ください。

エラー内容	通信方法	原因	対処方法
注)「ポート番号」は可変です。			
*****dsa_vsphere** *** ===== Connect Error ===== Server: DISPLAYNAME [https://<i>IPアドレス</i>: ポート番号/sdk] State: Login to remote server Message: Cannot complete login due to an incorrect user name or password. 注)「ポート番号」は可変です。	HTTP	ユーザー名またはパスワードに誤りがあります。	ユーザー名とパスワードを確認してください。
*****dsa_vsphere** *** ===== Connect Error ===== Server: DISPLAYNAME [https://<i>IPアドレス</i>: ポート番号/sdk] State: Parsing server parameter Parameter: DISPLAYNAME,https://<i>IPアドレス</i>: ポート番号/sdk, ユーザー名, パスワード Message: Server password encryption is invalid No 'server' parameters are defined 注)「ポート番号」、「ユーザー名」、「パスワード」は可変です。	HTTP	パスワードに誤りがあります。	genpwd(パスワード暗号化コマンド)で出力された文字列が、接続アカウント定義ファイル(remoteAccount.txt)に設定されていることを確認してください。
*****dsa_vsphere** *** ===== Connect Error ===== Server: DISPLAYNAME [https://<i>IPアドレス</i>: ポート番号/sdk]	HTTP	ホスト名が名前解決されていません。	リモート監視定義ファイルの「HOSTNAME」に、名前解決されるホスト名、またはIPアドレスを指定してください。

エラー内容	通信方法	原因	対処方法
State: Retrieve ServiceContent from remote server Message: Name or service not known Detail: getaddrinfo failed in tcp_connect() 注)「 ポート番号 」は可変です。			
*****dsa_vsphere** *** ===== Connect Error ===== Server: DISPLAYNAME [https:// IPアドレス : ポート番号 /sdk] State: Retrieve ServiceContent from remote server Message: Connection timed out Detail: connect failed in tcp_connect() 注)「 ポート番号 」は可変です。	HTTP PS	対象の被監視サーバが起動していません。	対象の被監視サーバを起動してください。

sqcCollectSpec(インストールレス型Agent管理スペック情報収集コマンド)実行時のエラー:

エラー内容	通信方法	原因	対処方法
SQC***Err: server= DISPLAYNAME : -2147023174: RPC サーバーを利用できません。: namespace root/cimv2 SQC***Err: server= DISPLAYNAME : 1: Collection failed for agent DISPLAYNAME	WMI	以下のいずれかが原因です。 1. ホスト名が名前解決されていない。 2. 対象の被監視サーバが起動していない。 3. ファイアーウォールが有効になっている。	原因に合わせて以下の対処を行ってください。 1. リモート監視定義ファイルの「HOSTNAME」に、名前解決されるホスト名、またはIPアドレスを指定してください。 2. 対象の被監視サーバを起動してください。 3. ファイアーウォールの設定を確認してください。
SQC***Err: server= DISPLAYNAME : -2147024891: アクセスが拒否されました。:	WMI	ユーザー名またはパスワードに誤りがあります。	ユーザー名とパスワードを確認してください。パスワードについては、genpwd(パスワード暗号化コマンド)で出力された文字列が、接続アカウント定義ファイル

エラー内容	通信方法	原因	対処方法
namespace root/ cimv2 SQC***Err: server= DISPLAYNAME : 1: Collection failed for agent DISPLAYNAME			(remoteAccount.txt)に設定されていることを確認してください。
Invalid password for IPアドレス	WMI	パスワードに誤りがあります。	genpwd(パスワード暗号化コマンド)で出力された文字列が、接続アカウント定義ファイル(remoteAccount.txt)に設定されていることを確認してください。
SQC***Err: server= DISPLAYNAME : 424: オブジェクトがありません。: 可変文字列	WMI	管理者アカウントで接続していません。	管理者アカウントで接続してください。
exception 10060 for server IPアドレス id DISPLAYNAME	TEL NET SSH	以下のいずれかが原因です。 1. 対象の被監視サーバが起動していない。 2. ファイアーウォールが有効になっている。	原因に合わせて以下の対処を行ってください。 1. 対象の被監視サーバを起動してください。 2. ファイアーウォールの設定を確認してください。
exception 10061 for server IPアドレス id DISPLAYNAME State: Connecting	TEL NET SSH	TELNETデーモンまたはSSHデーモンが起動していない。	対象の被監視サーバのTELNETデーモンまたはSSHデーモンを起動してください。
Server disconnects: IPアドレス	TEL NET	ユーザー名またはパスワードに誤りがあります。	ユーザー名とパスワードを確認してください。
DISPLAYNAME : chmod: WARNING: can't access inv- ux_al.sh DISPLAYNAME : chmod: WARNING: can't access inv_ux.sh	TEL NET SSH	接続アカウントとして指定したユーザーのホームディレクトリが存在しない、または、書き込みできる権限がありません。(Solarisの場合)	接続アカウントとして指定したユーザーのホームディレクトリを作成し、書き込みできる権限を設定してください。
DISPLAYNAME : chmod: cannot access `inv-ux_al.sh': No such file or directory  <b>DISPLAYNAME</b> : chmod: cannot access `inv_ux.sh': No such file or directory	TEL NET SSH	接続アカウントとして指定したユーザーのホームディレクトリが存在しない、または、書き込みできる権限がありません。(Linuxの場合)	
DISPLAYNAME : df: cannot statvfs パス : Permission denied 注)「 パス 」は可変です。	TEL NET SSH	監視対象がSolarisのglobal zoneのとき、接続アカウントとして一般ユーザーを指定しています。	
			Solarisのglobal zoneを監視する場合は、接続アカウントとしてシステム管理者(スーパーユーザー)を指定してください。

エラー内容	通信方法	原因	対処方法
可変文字列 Command failed with code errorcode. sudo 可変文字列 注)「errorcode」は可変です。	TEL NET SSH	sudoersファイルが正しく設定されていません。(Linuxの場合)	以下のマニュアルを参照し、sudoersファイルを正しく設定してください。 使用手引書 ・「被監視サーバがUNIXの場合」-「■被監視サーバがLinuxの場合」 ・「被監視サーバがLinux仮想マシン機能(KVM)の場合」 ・「被監視サーバがOracle VM Server for x86の場合」
SOAP return error 28(SOAP_TCP_ERROR). File[line]=.. ¥config.cpp[行数] Server: DISPLAYNAME (https://IPアドレス: ポート番号/sdk). Text: 要求した名前は有効ですが、要求された種類のデータは見つかりませんでした。 Detail: getaddrinfo failed in tcp_connect() 注)「行数」、「ポート番号」は可変です。	HTTP	ホスト名が名前解決されていません。	リモート監視定義ファイルの「HOSTNAME」に、名前解決されるホスト名、またはIPアドレスを指定してください。
SOAP return error 28(SOAP_TCP_ERROR). File[line]=.. ¥config.cpp[行数] Server: DISPLAYNAME (https://IPアドレス: ポート番号/sdk). Text: 接続済みの呼び出し先が一定の時間を過ぎても正しく応答しなかったため、接続できませんでした。または接続済みのホストが応答しなかったため、確立された接続は失敗しました。 Detail: connect failed in tcp_connect()	HTTP	対象の被監視サーバが起動していません。	対象の被監視サーバを起動してください。

エラー内容	通信方法	原因	対処方法
注)「行数」、「ポート番号」は可変です。			
SOAP return error 12(SOAP_FAULT). File[line]=.. ¥config.cpp[行数] Server: DISPLAYNAME (https://IPアドレス: ポート番号/sdk). Text: Cannot complete login due to an incorrect user name or password. Detail: 注)「行数」、「ポート番号」は可変です。	HTTP PS	ユーザー名またはパスワードに誤りがあります。	ユーザー名とパスワードを確認してください。

本項の表中の「IPアドレス」および「DISPLAYNAME」については以下のとおりです。

- ・ エラー内容の「IPアドレス」には、リモート監視定義ファイル(remoteAgent.txt)で定義した「HOSTNAME」が入ります。
- ・ エラー内容の「DISPLAYNAME」には、リモート監視定義ファイル(remoteAgent.txt)で定義した「DISPLAYNAME」が入ります。

1.7 PDBコマンド

PDBに関するコマンドについて説明します。

1.7.1 sqcPDBcout(CSV出力コマンド)

■機能説明

PDBに格納されているデータ(サマリデータまたはリソースデータ)をCSV形式で出力するコマンドです。抽出条件をパラメーターで指定して実行します。



注意

本コマンドは複数同時に実行しないでください。

■実行に必要な権限

【Windows版】

Administratorsグループに所属するユーザー権限が必要です。

【UNIX版】

システム管理者(スーパーユーザー)権限が必要です。

■実行環境

Manager/Enterprise Manager、もしくは運用管理クライアントで実行可能です。

■記述形式

Manager/Enterprise Managerの場合

【Windows版】

```
<インストールディレクトリ>%bin%sqlPDBcout.exe -R record-id [-sys system] [-rid resource-id] [-tmbin time] [-tmfin time] [-intval interval] [-lcltm on|off] [-h on|off] [-csvfmt on|off]
```

```
<インストールディレクトリ>%bin%sqlPDBcout.exe -f sql-file [-h on|off] [-csvfmt on|off]
```

【UNIX版】

```
/opt/FJSVssqc/bin/sqlPDBcout.sh -R record-id [-sys system] [-rid resource-id] [-tmbin time] [-tmfin time] [-intval interval] [-lcltm on|off] [-h on|off] [-csvfmt on|off]
```

```
/opt/FJSVssqc/bin/sqlPDBcout.sh -f sql-file [-h on|off] [-csvfmt on|off]
```

運用管理クライアントの場合

```
<インストールディレクトリ>%bin%sqlPDBcout.exe -R record-id -name manager [-sys system] [-rid resource-id] [-tmbin time] [-tmfin time] [-intval interval] [-lcltm on|off] [-h on|off] [-csvfmt on|off]
```

```
<インストールディレクトリ>%bin%sqlPDBcout.exe -f sql-file -name manager [-h on|off] [-csvfmt on|off]
```

■オプション

-R record-id

抽出条件をオプションで指定するモードです。record-idには、レコードIDを指定します。レコードIDの詳細については、「[第4章 データフォーマット](#)」を参照してください。

-f sql-file

抽出条件をSQLで指定するモードです。sql-fileには、SQLが記述されたファイルを絶対パスで指定します。

SQL文の記述方法については、下記使用例2を参照してください。なお、FROM句に指定するテーブル名は、「[第4章 データフォーマット](#)」を参照してください。SELECT/WHERE句に指定するフィールド名は、下記出力結果を参照してください。



注意

- SQL文の途中で改行コードを入れないでください。
- SELECT文においてはFROM句およびWHERE句のみ使用できます。
- サブクエリは使用できません。

-name manager

Managerを指定するモードです。managerには、出力するPDBデータを持つManagerのホスト名を指定します。

-sys system

抽出条件となる、システム名を指定します。省略した場合は、`sqlPDBcout`コマンドを実行したManager/Enterprise Manager (運用管理クライアントで実行した場合は、`-name`で指定したManager)のPDBに格納されているすべてのシステムのデータが抽出対象になります。



注意

Enterprise Managerで自システム以外の性能情報を出力する場合は、本オプションを指定して実行してください。

-rid resource-id

抽出条件となる、リソースIDを指定します。省略した場合は、すべてのリソースのデータが抽出対象になります。

-tmbin time

抽出開始時間を、`-lcltm`オプションの指定に従って、GMT(グリニッジ標準時)またはローカルタイムで指定します。省略した場合は、PDBに格納されている最古のデータ以降が抽出対象になります。

なお、時間の形式は、以下のとおりです。

"YYYY-MM-DD hh:mm:ss" (YYYY:西暦、MM:月、DD:日、hh:時間、mm:分、ss:秒)



注意

`time`には有効な日時を指定してください。不当な日時を指定した場合、コマンドの実行結果が正しく表示されない場合があります。

-tmfin time

抽出終了時間を、`-lcltm`オプションの指定に従って、GMT(グリニッジ標準時)またはローカルタイムで指定します。省略した場合は、PDBに格納されている最新のデータ以前が抽出対象になります。

なお、時間の形式は、以下のとおりです。

"YYYY-MM-DD hh:mm:ss" (YYYY:西暦、MM:月、DD:日、hh:時間、mm:分、ss:秒)



注意

`time`には有効な日時を指定してください。不当な日時を指定した場合、コマンドの実行結果が正しく表示されない場合があります。

-intval interval (リソースデータの場合のみ指定可)

抽出条件となる、リソースデータの種別を指定します。省略した場合は、すべてのリソースデータが抽出対象になります。

intervalに指定する値	リソースデータの種別
600	リソースデータ(10分)
3600	リソースデータ(1時間)
86400	リソースデータ(1日)

-lcltm on|off

-tmbinおよび-tmfinオプションに指定する抽出開始時間および抽出終了時間と、出力するCSV形式のデータ内の時間に、ローカルタイムを使用するか、しないかを指定します。省略した場合はGMT(グリニッジ標準時)が使用されます。

ローカルタイムには、sqcPDBcoutコマンドを実行するマシンで設定されている時間帯が使用されます。

なお、-intvalオプションに「86400」(リソースデータ(1日))を指定している時に、本オプションにonを指定すると、GMT(グリニッジ標準時)の"YYYY-MM-DD 00:00:00"のデータが、現地時間に変換されて表示されます。(日本時間の場合、"YYYY-MM-DD 09:00:00")

-h on|off

出力結果の先頭にヘッダー情報を表示するか、しないかを指定します。省略した場合は、ヘッダー情報は表示しません。

-csvfmt on|off

出力するフィールドに改行、カンマ、ダブルクォーテーションが含まれていた場合に、フィールドを整形するか、しないかを指定します。

本オプションにoffを指定した場合、フィールドを整形せずに出力します(V15.1.1以前の動作と同じ)。

本オプションにonを指定、または本オプションを省略した場合、以下のように動作します。

- ー 出力するフィールドに改行またはカンマが含まれる場合、フィールド全体がダブルクォーテーションで囲まれます。
- ー 出力するフィールドにダブルクォーテーションが含まれる場合、ダブルクォーテーションはダブルクォーテーションでエスケープされ、さらにフィールド全体がダブルクォーテーションで囲まれます。



-fオプションで指定されたSQL文で、フィールドがダブルクォーテーションで囲まれるように指定されていた場合は、上記加工は行われず指定されたとおりに出力されます。

なお、出力するフィールドに改行、カンマ、ダブルクォーテーションを含まないことが分かっており、かつ出力するデータ量が多い場合、on指定時に比べてコマンドの実行時間を短縮できるoffを指定してください。

■復帰値

0: 正常終了

>0: 異常終了 (以下に詳細)

1: PDBロックエラー

AgentやProxy Managerで収集した情報のPDBへの書き込み処理と競合した場合や、毎日午前2:00に実行されるPDBメンテナンス処理と競合した場合などに発生します。

本エラーが発生した場合は、正常終了するまでsqcPDBcoutコマンドを再実行してください。ただし、PDBメンテナンス処理を実行している時間帯で、PDBロックが長時間解消されないような場合には、sqcPDBcoutコマンドを実行するタイミングを、PDBメンテナンス処理が行われていない時間帯にずらしてください。

3: Manager通信エラー

Managerとの通信に失敗した場合に発生します。当エラーが発生した場合は、Managerが正常に起動されているか確認を行い、Managerが停止している場合はManagerを起動してから実行してください。

4: その他のエラー

コマンドへのオプション指定ミスや、環境などの問題により発生します。コマンドへのオプション指定内容や、実行環境の見直しなどを行ってください。

■実行結果/出力形式

出力結果の先頭にヘッダー情報をつける場合は、以下のような情報が表示されます。

- ・ サマリデータの場合

```
system_name,record_id,resource_id,start_date_time,end_date_time,end_time,data_num1,
data_num2,data_num3,data_num4,data_num5,data_num6,data_num7,data_text1
```

- ・ リソースデータの場合 (Table nameがresource_dataの場合の例)

```
system_name,record_id,resource_id,start_date_time,end_date_time,consol_flag,consol_interval,
coverage,data_num1,data_num2,data_num3,data_num4,data_num5,data_num6,data_num7,data_text1,
data_text2,data_text3,data_text4,data_text5
```

ヘッダー情報の各項目について説明します。

system_name

システム名です。

record_id

レコードIDです。詳細については、「[第4章 データフォーマット](#)」を参照してください。

resource_id

リソースIDです。

start_date_time

収集開始時刻をGMT(グリニッジ標準時)で示します。

end_date_time

収集終了時刻をGMT(グリニッジ標準時)で示します。

end_time (サマリデータのみ)

旧版との互換のための項目です。値は出力されません。

time_flag (-f指定時のみ)

内部制御情報です。

time_zone (-f指定時のみ)

内部制御情報です。

daylight_saving (-f指定時のみ)

内部制御情報です。

cycle_nr (-f指定時、かつ、サマリデータのみ)

内部制御情報です。

consol_flag (リソースデータのみ)

リソースデータの種別を示します。

表示される値	リソースデータの種別
1	リソースデータ(10分)
2	リソースデータ(1時間)
3	リソースデータ(1日)

consol_interval (リソースデータのみ)

リソースデータの収集間隔(600、3600、86400秒)を示します。

coverage (リソースデータのみ)

データのカバー率を示します。例えば、カバー率1は、ロストデータがないことを示します。カバー率0.9は、10%のデータがロストしたことを示します。

data_num1～data_num42

各フィールド(数値)を示します。

data_numの数は、表示されたRecord IDのTable nameの種別によって異なります。

Table name	data_numの数
summary_data	7
resource_data	7
resource_data_twide	7
resource_data_wide	14
resource_data_ttwide	14
resource_data_vwide	21
resource_data_ttvwide	21
resource_data_uwide	28
resource_data_uuwide	42
conres_data	14

詳細については、「[第4章 データフォーマット](#)」を参照してください。

data_text1～data_text9

各フィールド(テキスト)を示します。

data_textの数は、表示されたRecord IDのTable nameの種別によって異なります。

Table name	data_textの数
summary_data	1
resource_data	5
resource_data_twide	9
resource_data_wide	5
resource_data_ttwide	9
resource_data_vwide	5
resource_data_ttvwide	9
resource_data_uwide	5
resource_data_uuwide	5
conres_data	1

詳細については、「[第4章 データフォーマット](#)」を参照してください。

■使用例1

抽出条件オプション指定(-R)の実行例。

【Windows版】

```
C:\>cd C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC\bin  
C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC\bin>sqcPDBcout -R WIN_DISKSPACE -sys LABRET -rid C:\  
-tmbin "20xx-07-01 10:00:00" -intval 3600 -h off  
  
LABRET,WIN_DISKSPACE,C:\,20xx-07-01 11:00:00,20xx-07-01  
12:00:00,2,3600,1,74857984,2113864192,,,,,,,,,  
  
LABRET,WIN_DISKSPACE,C:\,20xx-07-01 12:00:00,20xx-07-01  
13:00:00,2,3600,1,105043456,2113864192,,,,,,,,,  
  
End.
```

【UNIX版】

```
# cd /opt/FJSVssqc/bin/  
# ./sqcPDBcout.sh -R WIN_DISKSPACE -sys LABRET -rid C:\ -tmbin "20xx-07-01 10:00:00" -intval 3600 -  
h off  
  
LABRET,WIN_DISKSPACE,C:\,20xx-07-01 11:00:00,20xx-07-01  
12:00:00,2,3600,1,74857984,2113864192,,,,,,,,,  
  
LABRET,WIN_DISKSPACE,C:\,20xx-07-01 12:00:00,20xx-07-01  
13:00:00,2,3600,1,105043456,2113864192,,,,,,,,,  
  
End.
```

■使用例2

抽出条件sqlファイル指定(-f)の実行例。

【Windows版】

```
C:\>cd C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC\bin  
C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC\bin>sqcPDBcout -f C:\sql.txt  
  
LABRET,WIN_DISKSPACE,C:\,20xx-07-01 11:00:00,20xx-07-01  
12:00:00,2,3600,1,74857984,2113864192,,,,,,,,,  
  
LABRET,WIN_DISKSPACE,C:\,20xx-07-01 12:00:00,20xx-07-01  
13:00:00,2,3600,1,105043456,2113864192,,,,,,,,,  
  
End.
```

【UNIX版】

```
# cd /opt/FJSVssqc/bin/  
# ./sqcPDBcout.sh -f /var/tmp/sql.txt  
  
LABRET,WIN_DISKSPACE,C:\,20xx-07-01 11:00:00,20xx-07-01  
12:00:00,2,3600,1,74857984,2113864192,,,,,,,,,  
  
LABRET,WIN_DISKSPACE,C:\,20xx-07-01 12:00:00,20xx-07-01  
13:00:00,2,3600,1,105043456,2113864192,,,,,,,,,  
  
End.
```

この時のsql.txtの内容は以下のとおりです。実際にはSQL文の途中で改行コードはありません。

```
select * from resource_data where record_id='WIN_DISKSPACE' AND system_name='LABRET' AND  
consol_interval=3600;
```

1.7.2 sqcPDBcload(ユーザーデータ入力コマンド)

■機能説明

以下の条件を満たす形式のユーザーデータ、およびSystemwalker Centric Managerの性能情報(トラフィック情報)をPDBに格納します。本コマンドは、使用手引書「ユーザーデータ管理」および「性能情報(トラフィック情報)のPDB格納」の手順に従って実行してください。

- ・レコード中の各フィールドを、カンマをデリミタとして列挙した形式(CSV形式)であること
- ・1レコードごとに改行されていること
- ・各レコードが同一形式であること
- ・レコード中にそのレコードを識別する識別子(リソースID)があること
- ・1レコードの文字列長が32766バイト以内であること
- ・1フィールドの文字列長が1000バイト以内であること

■実行に必要な権限

【Windows版】

Administratorsグループに所属するユーザー権限が必要です。

【UNIX版】

システム管理者(スーパーユーザー)権限が必要です。

■実行環境

Enterprise Manager/Manager/Proxy Manager/Agentで実行可能です。

■記述形式

【Windows版】

```
<インストールディレクトリ>%bin%sqcPDBcload.exe -u udata-file -i conv-file
```

```
<インストールディレクトリ>%bin%sqcPDBcload.exe -c trafficdata-file
```

【UNIX版】

```
/opt/FJSVssqc/bin/sqcPDBcload.sh -u udata-file -i conv-file
```

```
/opt/FJSVssqc/bin/sqcPDBcload.sh -c trafficdata-file
```

■オプション

-u udata-file

PDBに格納するユーザーデータファイル(CSVファイル)を指定します。**-c** オプションと同時に指定することはできません。
CSVファイルのフィールド中にシングルクォーテーションを含めることはできません。



- ー CSVファイルのフィールド中にダブルクォーテーションを含める場合、ダブルクォーテーションをダブルクォーテーションでエスケープして、さらにフィールド全体をダブルクォーテーションで囲んでください。

例)

フィールドの値が「aaa"bbb」の場合、「"aaa""bbb"」と記述してください。

CSVファイルは以下のようになります。

「…,xxx,"aaa""bbb",xxx,…」

- ー CSVファイルのフィールド中にカンマを含める場合、フィールド全体をダブルクォーテーションで囲んでください。

例)

フィールドの値が「aaa,bbb」の場合、「"aaa,bbb"」と記述してください。

CSVファイルは以下のようになります。

「…,xxx,"aaa,bbb",xxx,…」

-i conv-file

データ変換定義ファイル(iniファイル形式)を指定します。**-c** オプションと同時に指定することはできません。

データ変換ファイルとは、ユーザーデータをPDBへ格納するレコード形式に変換する際の変換ルールが記述された以下のようなファイルです。

```
[USERDATA]
consol_flag=2
record_id=1
col_resource_id=2,5
col_start_date_time=6
col_data_num1=10
col_data_num2=9
col_data_text1=4
```

【データ変換定義ファイル(conv-file)】

生成されるレコードの形式については、「[第4章 データフォーマット](#)」を参照してください。

consol_flag

データの種別を指定します。データの種別には、以下があります。それぞれ表示機能と保持期間が異なります。解説書「製品構成」を参照して、どのデータ種別で格納するかを設計してください。

- 0: サマリデータ
- 1: リソースデータ(10分)
- 2: リソースデータ(1時間)
- 3: リソースデータ(1日)

0 を指定すると、「SUM_UDATA_*n*」レコードが生成されます。
 1～3 を指定すると、「UDATA_*n*」レコードが生成されます。

record_id

生成するレコード「SUM_UDATA_1～20」または「UDATA_1～20」の内、どれを生成するかを1～20の値で指定します。

col_resource_id

リソースIDとするユーザーデータファイルのフィールドの番号を指定します。リソースIDとは、そのレコードを一意に識別する識別子です。

例えば、プロセス情報なら、プロセス名がリソースIDになります。

なお、複数のフィールドをつなげてリソースIDにすることもできます。その場合は、col_resource_id=2,5とすることで、フィールド2と5を1つにつなげるという意味になります。

col_start_date_time

収集開始時刻となるフィールドの番号を指定します。

なお、格納するデータの形式は、以下のとおりです。

‘YYYY-MM-DD [hh[:mm[:ss]]]’

(YYYY:西暦、MM:月、DD:日、hh:時間、mm:分、ss:秒)

col_data_num1 ～ 14

フィールド「smud~~n~~data1～7」または「ud~~n~~data1～14」に格納する、ユーザーデータファイルのデータ(数値)のフィールド番号を指定します。

Record ID	指定できるフィールド番号	データが格納されるフィールド
SUM_UDATA_1 ～ 20	col_data_num1 ～ 7	smud n data1 ～ 7
UDATA_1、2、3、6、7、8、 11、12、13、16、17、18	col_data_num1 ～ 7	ud n data1 ～ 7
UDATA_4、5、9、10、 14、15、19、20	col_data_num1 ～ 14	ud n data1 ～ 14

データ(数値)は1つ以上指定してください(col_data_num1は必ず指定してください)。

col_data_txt1 ～ 5

フィールド「smud~~n~~txt1」または「ud~~n~~txt1～5」に格納する、ユーザーデータファイルのデータ(テキスト)のフィールド番号を指定します。

【データ変換定義ファイル指定と生成されるレコードの例】

データ変換定義ファイル指定	生成されるレコード		補足
	Record ID	Field Name	
consol_flag=0 record_id=1 col_data_num3=9	SUM_UDATA_1	smud1data3	consol_flagに0を指定することで、SUM_UDATA_ <i>n</i> のレコードが生成される。 record_idに1を指定することで、SUM_UDATA_1のレコードが生成される。 col_data_num3に9を指定することで、sumud1data3のフィールドには、CSVファイルの9番目のフィールドが格納される。
consol_flag=1 record_id=1	UDATA_1	ud1data3	consol_flagに1～3を指定することで、UDATA_ <i>n</i> のレコードが生成される。

データ変換定義ファイル指定	生成されるレコード		補足
	Record ID	Field Name	
col_data_num3=9			record_idに1を指定することで、UDATA_1のレコードが生成される。 col_data_num3に9を指定することで、ud1data3のフィールドには、CSVファイルの9番目のフィールドが格納される。
consol_flag=3 record_id=2 col_data_num3=9	UDATA_2	ud2data3	consol_flagに1～3を指定することで、UDATA_nのレコードが生成される。 record_idに2を指定することで、UDATA_2のレコードが生成される。 col_data_num3に9を指定することで、ud2data3のフィールドには、CSVファイルの9番目のフィールドが格納される。

-c trafficdata-file

PDBに格納する、トラフィックデータファイル(CSVファイル)を指定します。トラフィックデータファイルは、F3crTrfBcsv(性能情報のCSV出力コマンド)の出力結果です。-u および -i オプションと同時に指定することはできません。

■復帰値

0 : 正常終了

0以外 : 異常終了



注意

ユーザーデータが、以下の場合、そのデータはPDBに格納されません。

- ・ "col_resource_id"で指定したフィールド番号のデータが空白の場合。
- ・ "col_start_date_time"で指定したフィールド番号のデータが形式と違う場合。
- ・ 収集開始時刻のフォーマットが一致しない場合

■使用例:ユーザーデータの場合

【Windows版】

```
C:\>cd C:\Program Files\Fujitsu\Systemwalker\SQC\bin
C:\Program Files\Fujitsu\Systemwalker\SQC\bin>sqcPDBcload -u C:\temp\udata.csv -i C:\temp\conv.ini
sqcPDBcload succeeded
```

【UNIX版】

```
# cd /opt/FJSVssqc/bin/
# ./sqcPDBcload.sh -u /var/tmp/udata.csv -i /var/tmp/conv.ini
sqcPDBcload succeeded.
```

この時、udata.csvの内容は以下のとおり。

```
20xx-09-09 10:00:00,kaminaka,2,octets,data,767872,28856,22400
```

また、conv.iniの内容は以下のとおり。

```
[USERDATA]
consol_flag=2
record_id=1
col_resource_id=2,3
col_start_date_time=1
col_data_num1=6
col_data_num2=7
col_data_text1=4
```

■使用例: Systemwalker Centric Managerの性能情報(トラフィック情報)の場合

【Windows版】

```
C:\>cd C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC\bin
C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC\bin>sqcPDBcload -c traffic.csv
sqcPDBcload succeeded
```

【UNIX版】

```
# cd /opt/FJSVssqc/bin/
# ./sqcPDBcload.sh -c traffic.csv
sqcPDBcload succeeded.
```

1.7.3 sqcPDBerase(データ削除コマンド)

■機能説明

PDBに格納されているデータの内、指定されたシステムに関するデータを削除します。

コマンドを実行すると、本当に削除するか問い合わせがありますので、"Y"(Yes)か"N"(No)を入力してください。"Y"を入力した場合に、該当のデータが削除されます。



本コマンドは複数同時に実行しないでください。

■実行に必要な権限

【Windows版】

Administratorsグループに所属するユーザー権限が必要です。

【UNIX版】

システム管理者(スーパーユーザー)権限が必要です。

■実行環境

Manager/Enterprise Managerで実行可能です。

■本手順を行う前に

Enterprise Manager/Managerの常駐プロセスが起動している場合は、「[第2章 常駐プロセス、起動と停止](#)」を参照して、サービス/デーモンを停止してください。また、常駐プロセスが停止しているか確認してください。



クラスタ環境で上記サービス/デーモンを停止すると、共有ディスクにアクセスできなくなります。

クラスタ環境で本コマンドを実行する場合は、上記サービス/デーモンの停止と常駐プロセスの停止確認を実施した後に、共有ディスクをマウントしなおしてください。

■記述形式

【Windows版】

```
<インストールディレクトリ>%bin%sqcPDBerase.exe system [-r record_id]
```

【UNIX版】

```
/opt/FJSVssqc/bin/sqcPDBerase.sh system [-r record_id]
```

■オペランド

system

削除対象のシステム名を指定します。

大文字小文字は区別されます。

■オプション

-r record_id

削除対象のレコードIDを指定します。レコードIDの詳細については、「[第4章 データフォーマット](#)」を参照してください。

■復帰値

0: 正常終了

1: 異常終了

■使用例

-rオプションを指定しない場合の実行例です。

【Windows版】

```
C:\>cd C:\Program Files\Fujitsu\Systemwalker\SQLC\bin
C:\Program Files\Fujitsu\Systemwalker\SQLC\bin>sqcPDBerase TEST1
Do you erase data of system_name"TEST1"?(Y/N)
y
sqcPDBerase succeeded
```

【UNIX版】

```
# cd /opt/FJSVssqc/bin/
# ./sqcPDBerase.sh TEST1
Do you erase data of system_name"TEST1"?(Y/N)
y
sqcPDBerase succeeded.
```

-rオプションを指定した場合の実行例です。

【Windows版】

```
C:\Program Files\Fujitsu\Systemwalker\SQLC\bin>sqcPDBerase TEST1 -r UDATA_1
#####The conditions to erase #####
Record ID : UDATA_1
#####
Do you erase data of system_name "TEST1"?(Y/N)
y
sqcPDBerase succeeded.
```

【UNIX版】

```
# /opt/FJSVssqc/bin/sqcPDBerase TEST1 -r UDATA_1
#####The conditions to erase #####
Record ID : UDATA_1
#####
Do you erase data of system_name "TEST1"?(Y/N)
y
sqcPDBerase succeeded.
```

■実行結果/出力形式

正常終了

標準出力に対し、正常終了メッセージを出力します。

```
sqcPDBerase succeeded.
```

異常終了

標準エラー出力に対し、エラーメッセージを出力します。

Parameter Error

1.7.4 sqcPDBexport(構成情報移行コマンド)

■機能説明

PDBに格納されている構成情報をファイルに出力します。

構成情報とは、Managerの名前、および、Agentの名前とそのAgentがどのような情報を取得しているかを表す情報です。

出力した構成情報は、以下の目的で使うことができます。

- Managerを別マシンに移行するために、元のManagerから新しいManagerに持ってきたPDB内の構成情報を、新しいManagerの名前に置き換える場合。
- PDBを初期化(再作成)するが、構成情報は、旧環境のものをそのまま使用する場合。

■実行に必要な権限

【Windows版】

Administratorsグループに所属するユーザー権限が必要です。

【UNIX版】

システム管理者(スーパーユーザー)権限が必要です。

■実行環境

Manager/Enterprise Managerで実行可能です。

■記述形式

【Windows版】



カレントディレクトリを、<インストールディレクトリ>\bin へ移動後、コマンドを実行してください。

sqcPDBexport.bat -o folder_path [-n host_name]

【UNIX版】

/opt/FJSVssqc/bin/sqcPDBexport.sh -o folder_path [-n host_name]

■オプション

-o folder_path

構成情報のデータファイル(agententry.tmp)を出力するフォルダのパスを指定します。

-n host_name

構成情報の移行先のManagerのホスト名を指定します。省略した場合は、そのままのホスト名の構成情報になります。

■復帰値

0 : 正常終了

0以外 : 異常終了

■使用例

【Windows版】

```
C:>cd C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC\bin
C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC\bin>sqcPDBexport -o C:\temp -n HOSTNAME
```

出力された構成情報ファイル(agententry.tmp)を、PDBに格納する場合は、以下のディレクトリに配置して、Systemwalker SQC DCMサービスを起動してください。

```
<可変ファイル格納ディレクトリ>\transfer\DsaPDBWriter
```

【UNIX版】

```
# cd /opt/FJSVssqc/bin/
# ./sqcPDBexport.sh -o /var/tmp -n HOSTNAME
```

出力された構成情報ファイル(agententry.tmp)を、PDBに格納する場合は、以下のディレクトリに配置して、dcmdプロセスを起動してください。

```
/var/opt/FJSVssqc/temp/DsaPDBWriter
```

60秒ほどで、PDBに格納されます。その際、agententry.tmpファイルは削除されます。

1.7.5 sqcSetPDBManage(PDBの保持期間変更コマンド)

■機能説明

Enterprise ManagerおよびManager環境において、管理されているサマリ/詳細/レポートの保持期間パラメーターを変更します。



注意

.....
本コマンドは複数同時に実行しないでください。
.....

■実行に必要な権限

【Windows版】

Administratorsグループに所属するユーザー権限が必要です。

【UNIX版】

システム管理者(スーパーユーザー)権限が必要です。

■実行環境

Enterprise Manager、Managerで実行可能です。



注意

本コマンド実行時には、Systemwalker Service Quality Coordinator DCMサービス/dcmdプロセスが起動していることが必要です。「[第2章 常駐プロセス、起動と停止](#)」を参照し、サービス/デーモンが起動していることを確認した上で実行してください。

■記述形式

【Windows版】



注意

カレントディレクトリを、<インストールディレクトリ>%bin へ移動後、コマンドを実行してください。

```
sqcSetPDBManage.bat -M <保持期間> | -m <保持期間> | -h <保持期間> | -d <保持期間> | -s
```

【UNIX版】

```
/opt/EJSVssqc/bin/sqcSetPDBManage.sh -M <保持期間> | -m <保持期間> | -h <保持期間> | -d <保持期間> | -s
```

■オプション

-M <保持期間>

サマリデータの保持期間を、1～65536の整数で設定します。(単位: 日)

保持期間に比例してサマリ画面の表示に時間が掛かりますので、31日を推奨します。

-m <保持期間>

リソースデータ(10分)の保持期間を、1～65536の整数で設定します。(単位: 日)

-h <保持期間>

リソースデータ(1時間)の保持期間を、1～65536の整数で設定します。(単位: 週)

-d <保持期間>

リソースデータ(1日)の保持期間を、1～65536の値で設定します。(単位: 月)

-s

現在の保持期間設定値を表示します。

注意

保持期間を延ばすと、保持期間に比例してディスクの使用領域が増加しますので、注意してください。保持期間変更時のデータ容量の見積りは、導入手引書「性能データベース/アーカイブファイル容量の見積り方法について」を参照してください。

■復帰値

- 0 : 正常終了
- 1 : パラメータエラー
- 10 : その他エラー

■実行結果/出力形式

正常終了(保持期間の変更 オプション指定:-M/-m/-h/-dの場合)

標準出力に対して、正常終了メッセージを出力します。

```
(Success) sqcSetPDBManage succeeded.
```

正常終了(現在の保持期間表示 オプション指定:-sの場合)

標準出力に対して、現在の保持期間情報を出力します。(データタイプ、保持期間)

```
DataType, Maintenance period
-----, -----
Monitor, 3 days
Drill Down, 7 days
Reprot(1Hour), 6 weeks
Reprot(1Day), 13 months
(Success) sqcSetPDBManage succeeded.
```

ポイント

表示されているDataTypeは以下のとおりです。

- Monitor: サマリデータ
- Drill Down: リソースデータ(10分)
- Report: リソースデータ(1時間)・リソースデータ(1日)

異常終了

標準エラー出力に対して、エラーメッセージを出力します。

```
(Error) : エラー番号, メッセージ
```

エラーメッセージ出力形式(CSV形式)

エラー番号	メッセージ	内容
000	sqcSetPDBManage succeeded.	正常
010	parameter error.(エラー詳細コード)	パラメーターの指定エラー
100	system error.(エラー詳細コード)	その他何らかのエラー

ポイント

変更された定義内容はPDBメンテナンス処理(毎日午前2:00に実行)で使用される保持期間情報です。上記処理にて、保持期間超過データの削除が実施されますので、すべての変更作業はそれまでに終了してください。

■使用例

リソースデータ(10分)の保持期間を10日へ変更する場合

【Windows版】

```
C:>cd C:\Program Files\Fujitsu\Systemwalker\SQLC\bin
C:\Program Files\Fujitsu\Systemwalker\SQLC\bin>sqcSetPDBManage.bat -m 10
```

【UNIX版】

```
# /opt/FJSVssqc/bin/sqcSetPDBManage.sh -m 10
```

1.7.6 sqcSetPDBStore(PDBファイルの格納先変更コマンド)

■機能説明

Enterprise ManagerおよびManager環境において、PDBファイル(サマリデータおよびリソースデータ(10分用・1時間用・1日用))の格納先の変更、表示、初期値(導入手引書「管理データ」に示す手順によって、性能データベース(管理データ)の格納先が変更されている場合は、管理データの移動先)の復元を行います。

注意

本コマンドは複数同時に実行しないでください。

■実行に必要な権限

【Windows版】

Administratorsグループに所属するユーザー権限が必要です。

【UNIX版】

システム管理者(スーパーユーザー)権限が必要です。

■実行環境

Enterprise Manager、Managerで実行可能です。

■本手順を行う前に

Enterprise Manager/Managerの常駐プロセスが起動している場合は、「[第2章 常駐プロセス、起動と停止](#)」を参照して、サービス/デーモンを停止してください。また、常駐プロセスが停止しているか確認してください。

■記述形式

- ・ PDBファイルの格納先を変更する場合

【Windows版】

```
<インストールディレクトリ>%bin%sqlSetPDBStore.bat -M|-m|-h|-d -S <格納先ディレクトリパス名>
```

【UNIX版】

```
/opt/FJVSsql/bin/sqlSetPDBStore.sh -M|-m|-h|-d -S <格納先ディレクトリパス名>
```

- ・ PDBファイルの格納先を表示する場合

【Windows版】

```
<インストールディレクトリ>%bin%sqlSetPDBStore.bat -M|-m|-h|-d -V
```

【UNIX版】

```
/opt/FJVSsql/bin/sqlSetPDBStore.sh -M|-m|-h|-d -V
```

- ・ PDBファイルの格納先を初期値(導入手引書「管理データ」に示す手順によって、性能データベース(管理データ)の格納先が変更されている場合は、管理データの移動先)に戻す場合

【Windows版】

```
<インストールディレクトリ>%bin%sqlSetPDBStore.bat -M|-m|-h|-d -R
```

【UNIX版】

```
/opt/FJVSsql/bin/sqlSetPDBStore.sh -M|-m|-h|-d -R
```

■オプション

-M

サマリデータ用のPDBファイルの操作を行うことを意味します。

-m

リソースデータ(10分)用のPDBファイルの操作を行うことを意味します。

-h

リソースデータ(1時間)用のPDBファイルの操作を行うことを意味します。

-d

リソースデータ(1日)用のPDBファイルの操作を行うことを意味します。

-S <格納先ディレクトリパス名>

PDBファイルの格納先を、指定したディレクトリパスに変更します。

-M,-m,-h,-dオプションとともに指定して、それぞれのオプションの意味するPDBファイルの格納先を変更します。

指定するディレクトリパス名は絶対パスで指定してください。

PDBファイルの格納先ディレクトリパスに、マルチバイト文字は使用しないでください。

存在するパスを指定してください。

UNIX版の場合、変更先のディレクトリのパスに空白を含めることはできません。

-V

現在のPDBファイルの格納先を表示します。

-M,-m,-h,-dオプションとともに指定して、それぞれのオプションの意味するPDBファイルの格納先を表示します。

-R

PDBファイルの格納先を、初期値(導入手引書「管理データ」に示す手順によって、性能データベース(管理データ)の格納先が変更されている場合は、管理データの移動先)に戻します。

-M,-m,-h,-dオプションとともに指定して、それぞれのオプションの意味するPDBファイルの格納先を初期値に戻します。

PDBファイルの格納先の初期値は以下のとおりです。

【Windows版】

<可変ファイル格納ディレクトリ>%data%

【UNIX版】

/var/opt/FJSVssqc/PDB/

■復帰値

0: 正常終了

1: パラメーターエラー

10: その他エラー

■実行結果/出力形式

正常終了(PDBファイルの格納先変更、初期値の復元 オプション指定:-S/-Rの場合)

標準出力に対して、正常終了メッセージを出力します。

(Success) sqcSetPDBStore succeeded.

正常終了(PDBファイルの格納先表示 オプション指定:-Vの場合)

標準出力に対して、現在の格納先の情報を出力します。(データタイプ、格納先ディレクトリパス名)

```
DataType = %s  
Stored directory path name = %s  
(Success) sqcSetPDBStore succeeded.
```

ポイント

"DataType" には以下のいずれかを出力します。

- Monitor: サマリデータ (-M オプション指定時)
- Drill Down: リソースデータ (10分) (-m オプション指定時)
- Report (1Hour): リソースデータ (1時間) (-h オプション指定時)
- Report (1Day): リソースデータ (1日) (-d オプション指定時)

"Stored directory path name" には、上記データタイプの PDB ファイルの格納先ディレクトリパス名 (絶対パス名) を出力します。

■ 使用例

- サマリデータ用の PDB ファイルの格納先を変更する場合

【Windows版】

```
C:\>cd C:\Program Files\Fujitsu\Systemwalker\SQL\bin  
C:\Program Files\Fujitsu\Systemwalker\SQL\bin>sqcSetPDBStore.bat -M -S D:\PDB_summary
```

【UNIX版】

```
# /opt/FJSVssqc/bin/sqcSetPDBStore.sh -M -S /data/PDB/PDB_summary
```

- リソースデータ (10分) 用の PDB ファイルの現在の格納先を表示する場合

【Windows版】

```
C:\>cd C:\Program Files\Fujitsu\Systemwalker\SQL\bin  
C:\Program Files\Fujitsu\Systemwalker\SQL\bin>sqcSetPDBStore.bat -m -V
```

【UNIX版】

```
# /opt/FJSVssqc/bin/sqcSetPDBStore.sh -m -V
```

■ その他

本コマンドで -S オプションおよび -R オプション指定時は、コマンドが成功すると、以下のファイルが更新されます。

【Windows版】

```
<可変ファイル格納ディレクトリ>\data\pdb.dat
```

【UNIX版】

```
/var/opt/FJSVssqc/PDB/pdb.dat
```

上記のファイルは、導入手引書「管理データ」に示す手順によって、格納先が変更されている場合もあります。

1.8 Manager設定コマンド

1.8.1 sqcSetMgrInfo(Agent/Proxy Manager用)

■機能説明

Agent/Proxy Managerが認識するManagerのホスト名またはIPアドレスを設定します。

また、Managerのホスト名またはIPアドレスの設定内容を確認できます。



.....
本コマンドは複数同時に実行しないでください。
.....

■実行に必要な権限

【Windows版】

Administratorsグループに所属するユーザー権限が必要です。

【UNIX版】

システム管理者(スーパーユーザー)権限が必要です。



.....
管理者権限で実行してください。
.....

■実行環境

Proxy Manager/Agent

■本手順を行う前に

- ・ 認識するManagerを変更する(-hオプションを指定する場合)
Proxy Manager/Agentの常駐プロセスが起動している場合は、サービス/デーモンを停止してください。
また、常駐プロセスが停止しているか確認してください。

■記述形式

- ・ 認識するManagerを変更する場合

【Windows版】

`<インストールディレクトリ>%bin%sqcSetMgrInfo.bat -h <ホスト名/IPアドレス>`

【UNIX版】

```
/opt/FJSVssqc/bin/sqcSetMgrInfo.sh -h <ホスト名/IPアドレス>
```

- ・ 設定されているManagerを表示する場合

【Windows版】

```
<インストールディレクトリ>%bin%sqcSetMgrInfo.bat -v
```

【UNIX版】

```
/opt/FJSVssqc/bin/sqcSetMgrInfo.sh -v
```

■オプション

-h <ホスト名/IPアドレス>

Agent/Proxy Managerが認識するManagerのホスト名またはIPアドレスを設定することができます。

他のオプションとは併用できません。

-v

Managerのホスト名またはIPアドレスの設定内容を確認することができます。

他のオプションとは併用できません。

■復帰値

0 : 正常終了

1 : 異常終了

■使用例

Agent/Proxy Managerが認識するManagerのホスト名またはIPアドレスを設定する場合

【Windows版】

```
C:>%cd C:%Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC%bin
```

```
C:%Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC%bin>sqcSetMgrInfo.bat -h new_manager
```

【UNIX版】

```
/opt/FJSVssqc/bin/sqcSetMgrInfo.sh -h new_manager
```

Managerのホスト名またはIPアドレスの設定内容を確認する場合

【Windows版】

```
C:>%cd C:%Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC%bin
```

```
C:%Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC%bin>sqcSetMgrInfo.bat -v
```

【UNIX版】

```
/opt/FJSVssqc/bin/sqcSetMgrInfo.sh -v
```

■実行結果/出力形式

正常終了(-hオプションの場合)

標準出力に対し、正常終了メッセージを出力します。

```
(Success) sqcSetMgrInfo succeeded.
```

正常終了(-vオプションの場合)

標準出力に対し、正常終了メッセージを出力します。

```
Manager IP Address/Hostname : new_manager  
(Success) sqcSetMgrInfo succeeded.
```

異常終了

標準エラー出力に対し、エラーメッセージを出力します。

```
(Error) エラー番号,メッセージ
```

エラーメッセージと対応するエラー番号、メッセージ、内容は以下のとおりです。

エラー番号	メッセージ	内容
010	parameter error.(エラー詳細コード)	パラメーターの指定エラー
100	System error.(エラー詳細コード)	その他のエラー

1.8.2 sqcSetMgrInfo(運用管理クライアント用)

■機能説明

運用管理クライアントが認識するManagerのホスト名またはIPアドレスを設定します。

また、Managerのホスト名またはIPアドレスの設定内容を確認できます。



本コマンドは複数同時に実行しないでください。

■実行に必要な権限

Administratorsグループに所属するユーザー権限が必要です。



管理者権限で実行してください。

■実行環境

運用管理クライアント

■記述形式

- ・ 認識するManagerを変更する場合

```
<インストールディレクトリ>%bin%sqcSetMgrInfo.exe -p <ホスト名またはIPアドレス>
```

- ・ 設定されているManagerを表示する場合

```
<インストールディレクトリ>%bin%sqcSetMgrInfo.exe -v
```

■オプション

-p <ホスト名/IPアドレス>

運用管理クライアントが認識するManagerのホスト名またはIPアドレスを設定することができます。

他のオプションとは併用できません。

-v

Managerのホスト名またはIPアドレスの設定内容を確認することができます。

他のオプションとは併用できません。

■復帰値

0 : 正常終了

1 : 異常終了

■使用例

運用管理クライアントが認識するManagerのホスト名またはIPアドレスを設定する場合

```
C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC-C\bin\sqcSetMgrInfo.exe -p new_manager
```

Managerのホスト名またはIPアドレスの設定内容を確認する場合

```
C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC-C\bin\sqcSetMgrInfo.exe -v
```

■実行結果/出力形式

正常終了(-pオプションの場合)

標準出力に対し、正常終了メッセージを出力します。

```
(Success) sqcSetMgrInfo succeeded.
```

正常終了(-vオプションの場合)

標準出力に対し、正常終了メッセージを出力します。

```
Manager IP Address/Hostname : new_manager
```

(Success) sqcSetMgrInfo succeeded.

異常終了

標準エラー出力に対し、エラーメッセージを出力します。

(Error) エラー番号,メッセージ

エラーメッセージと対応するエラー番号、メッセージ、内容は以下のとおりです。

エラー番号	メッセージ	内容
010	parameter error.(エラー詳細コード)	パラメーターの指定エラー
100	System error.(エラー詳細コード)	その他のエラー

1.9 定期レポート運用コマンド

登録した定期レポートを作成、削除するコマンドについて説明します。

これらのコマンドをSystemwalker Operation Managerなどのスケジューラ・ソフトウェアと組み合わせて使用することで、定期レポートの自動運用が可能となります。

1.9.1 sqcMakeReport(定期レポート作成コマンド)

■機能説明

定期レポート登録画面から登録した定期レポートを作成するコマンドです。スケジューラへ登録して実行させることにより、自動運用が可能になります。

作成されたレポートは、定期レポートの表示画面で参照できます。



ブラウザのポップアップブロック機能が有効である場合、sqcMakeReport(定期レポート作成コマンド)の実行に失敗する場合があります。運用管理クライアント上のWebブラウザで、運用管理クライアントについてポップアップを許可してください。

■実行に必要な権限

Administratorsグループに所属するユーザー権限が必要です。



- 管理者権限で実行してください。
- タスクスケジューラに登録して実行する場合は、登録するタスクのプロパティウィンドウ内で[全般]タブを選択し[最上位の特権で実行する(I)]にチェックを入れてください。

■実行環境

運用管理クライアントで実行可能です。

■記述形式

<インストールディレクトリ> ¥bin¥sqcMakeReport.exe	-c console_define [-g system_group] [-t begin_time -w begin_day -d begin_date] daily weekly monthly
<インストールディレクトリ> ¥bin¥sqcMakeReport.exe	-c console_define [-g system_group] [-s start_day -e end_day] daily weekly monthly

■オプション

-c console_define

作成対象レポートのコンソール定義名を指定します。コンソール定義名を指定してレポートを作成する場合、本パラメータは省略できません。

本オプションは、-rオプションと同時に指定することはできません。

-g system_group

システムグループ名を指定します。登録された定期レポートの条件中に、指定されたシステムグループを含む定期レポートのみ作成します。本オプションを省略した場合、登録されたすべての定期レポートを作成します。

ポイント

本オプションを指定してスケジューラへ登録することで、定期レポートのスケジューリングがシステムグループ単位に行えます。

-t begin_time

日報の起点時間(0～23)をローカルタイムで指定します。指定された時間を起点として、24時間分のデータより日報を作成します。省略した場合、0時を起点とします。

-w begin_day

週報の起点曜日(Su,Mo,Tu,We,Th,Fr,Sa)を指定します。指定された曜日を起点として、7日分のデータより週報を作成します。省略した場合、日曜日を起点とします。

-d begin_date

月報の起点日(1～28)を指定します。指定された日付を起点として、1か月分のデータより月報を作成します。省略した場合、1日を起点とします。

-s start_day

本コマンドを手動で実行する場合に、レポート期間を設定するオプションです。レポートの開始日を指定します。開始日の形式は以下のとおりです。

YYYYMMDD (YYYY:西暦、MM:月、DD:日)

-eオプションと共に指定します。

-e end_day

本コマンドを手動で実行する場合に、レポート期間を設定するオプションです。レポートの終了日を指定します。終了日の形式は以下のとおりです。

YYYYMMDD (YYYY:西暦、MM:月、DD:日)

-sオプションと共に指定します。

ポイント

-sおよび-eオプションを省略した場合は、以下のデータでレポートが作成されます。

- ・ 日報:コマンド実行日時の前日分のデータ
- ・ 週報:コマンド実行日時の前週分のデータ
- ・ 月報:コマンド実行日時の前月分のデータ

■オペランド

日報:daily、週報:weekly、月報:monthlyから、いずれかのレポート形式を指定します。

■復帰値

0: 正常終了

>0: 異常終了

注意

コマンド実行時に以下のメッセージが表示される場合は、コンソール定義の読み込みに失敗しています。

-cオプションで指定したコンソール定義名が正しくない可能性があります。確認後、本コマンドを再実行してください。

- ・ Faild : Policy.xml download from Manager

■使用例1

9時を起点とした日報を作成する場合のオプション指定例。定期レポートの登録条件に、業務システムAを指定したレポートのみ作成します。

```
> sqcMakeReport -c DefaultConsole -g 業務システムA -t 9 daily
```

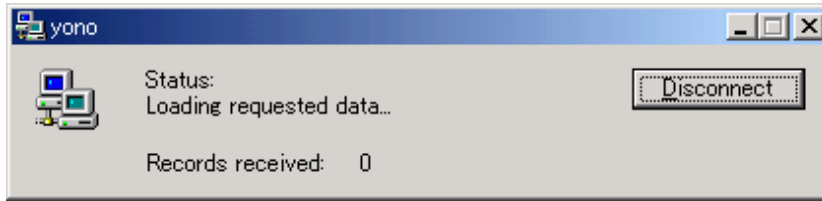
■使用例2

登録された定期レポートから、20xx年9月1日の日報を作成します。

```
> sqcMakeReport -c DefaultConsole -s 20xx0901 -e 20xx0901 daily
```

注意

レポート作成コマンドが実行される際、Windowsのデスクトップに以下のようなポップアップが複数回瞬間的に開いては閉じることがあります。



これはPDBからデータを抽出する際に表示されるもので、特に問題はありません。

例外コード:0xe06d7363が表示され異常終了した場合は、デスクトップヒープが不足している可能性があります。導入手引書「デスクトップ ヒープの拡張方法」を参照してデスクトップ ヒープを拡張してください。

スケジューラへの登録時に設定する「実行するアカウント名」に、普段ログインに使用するユーザーとは異なるユーザーを登録しておくことで、表示させなくすることが可能です。

レポート作成コマンド実行後は、[定期レポート]画面で確認してください。詳細は、使用手引書(コンソール編)「定期レポートの表示」を参照してください。

1.9.2 sqcDeleteReport(定期レポート削除コマンド)

■機能説明

保存日数を超えた定期レポートを削除するコマンドです。スケジューラへ登録して定期レポートの自動削除に使用します。

■実行に必要な権限

Administratorsグループに所属するユーザー権限が必要です。



注意

- ・ 管理者権限で実行してください。
- ・ タスクスケジューラに登録して実行する場合は、登録するタスクのプロパティウィンドウ内で[全般]タブを選択し[最上位の特権で実行する(I)]にチェックを入れてください。

■実行環境

運用管理クライアントで実行可能です。

■記述形式

<インストールディレクトリ>%bin ¥sqcDeleteReport.exe	-c console_define -d retention_days -w retention_days -m retention_days
<インストールディレクトリ>%bin ¥sqcDeleteReport.exe	-r tenant_name -d retention_days -w retention_days -m retention_days

■オプション

-c console_define

削除対象レポートのコンソール定義名を指定します。コンソール定義名を指定してレポートを削除する場合、本パラメーターは省略できません。

-d retention_days

日報の保存日数(0～1500)を指定します。本パラメーターは省略できません。

-w retention_days

週報の保存日数(0～1500)を指定します。本パラメーターは省略できません。

-m retention_days

月報の保存日数(0～1500)を指定します。本パラメーターは省略できません。



ポイント

保存日数を0と指定した場合、指定されたレポート形式に関して削除を行いません。

コマンド実行日時から、XX日以前に作成されたレポートを削除します。

■復帰値

0 : 正常終了

>0 : 異常終了

■使用例1

DefaultConsoleの定期レポートについて、日報の保存期間を10日、週報の保存期間を60日、月報の保存期間を365日とした場合のオプション指定例。

```
> sqcDeleteReport -c DefaultConsole -d 10 -w 60 -m 365
```

■使用例2

テナントAの定期レポートについて、日報の保存期間を10日、週報の保存期間を60日、月報の保存期間を365日とした場合のオプション指定例。

```
> sqcDeleteReport -r テナントA -d 10 -w 60 -m 365
```

1.10 コンソール定義コマンド

1.10.1 sqcSetupConsoleDefine(コンソール定義構成コマンド)

■機能説明

通常管理コンソールで行う以下の項目の登録は、事前に作成したコンソール定義ファイルをもとに、本コマンドでも行うことができます。

- コンソール定義
- システムグループ
- Proxy Manager
- Agent



注意

本コマンドは複数同時に実行しないでください。

■実行に必要な権限

Administratorsグループに所属するユーザー権限が必要です。

■実行環境

運用管理クライアントで実行可能です。

■記述形式

```
<インストールディレクトリ>%bin%sqlSetupConsoleDefine.bat -f <console_define_file>
```

■オプション

-f <console_define_file>

コンソール定義ファイルを絶対パスで指定します。

本ファイルはXML形式で作成します。

拡張子は「xml」です。以下の書式に従ってください。

タグ名	属性名	設定内容
ConsoleDefine	DisplayName	コンソール定義名を設定してください。 コンソール定義名には、半角英数字 [a-z,A-Z,0-9]、'-'(ハイフン)、および '_'(アンダーバー) のみ使用できます。 ただし、'-'(ハイフン) を先頭文字に使用することはできません。 コンソール定義名は、大文字小文字は区別しません。 長さの制限は64文字以内です。
SystemGroup	DisplayName	システムグループを識別するための表示名を設定してください。 管理構成内で一意になるように設定してください。ただし、Agent名やProxyManager名と重なるのは構いません。 Shift-JISコードの以下の文字が使用できます。 ・全角文字 ・半角英数字

タグ名	属性名	設定内容
		・半角記号(ただし¥,;<>"\$'[]=&以外) 機種依存文字は使用できません。 長さの制限は、半角全角に係わらず64文字以内です。
ProxyManager	DisplayName	Proxy Managerを識別するための表示名を設定してください。 管理構成内で一意になるように設定してください。ただし、システムグループ名やAgent名と重なるのは構いません。 Shift-JISコードの以下の文字が使用できます。 ・全角文字 ・半角英数字 ・半角記号(ただし¥,;<>"\$'[]=&以外) 機種依存文字は使用できません。 長さの制限は、半角全角に係わらず64文字以内です。
	InstanceName	Proxy Managerの識別名を設定してください。 1つのグループ内で重複して登録することはできませんが、異なるグループには同じホスト名を登録することが可能です。 1つのProxy Managerが複数の業務で使用されていた場合、業務ごとにシステムグループを作成し、それぞれのシステムグループに同一のProxy Managerを登録することが可能です。ただし、ProxyManager名(表示名)は異なる文字列を指定してください。 識別名は、sqcSetPolicy(ポリシー適用コマンド)で表示される名前です。ポリシー適用コマンドについては、「1.1.3 sqcSetPolicy(ポリシー適用コマンド)」を参照してください。
Agent	DisplayName	Agentを識別するための表示名を設定してください。 管理構成内で一意になるように設定してください。ただし、システムグループ名やProxyManager名と重なるのは構いません。 Shift-JISコードの以下の文字が使用できます。 ・全角文字 ・半角英数字 ・半角記号(ただし¥,;<>"\$'[]=&以外) 機種依存文字は使用できません。 長さの制限は、半角全角に係わらず64文字以内です。
	InstanceName	Agentの識別名を設定してください。 1つのグループ内で重複して登録することはできませんが、異なるグループには同じホスト名を登録することが可能です。 1つのAgentが複数の業務で使用されていた場合、業務ごとにシステムグループを作成し、それぞれのシステムグループに同一のAgentを登録することが可能です。ただし、Agent名(表示名)は異なる文字列を指定してください。 識別名は、sqcSetPolicy(ポリシー適用コマンド)で表示される名前です。ポリシー適用コマンドの詳細については、「1.1.3 sqcSetPolicy(ポリシー適用コマンド)」を参照してください。

タグ名	属性名	設定内容
		 ポイント Agentがクラスタ運用の場合は、物理ホスト名または物理IPアドレスを指定してください。

ポイント

.....

コンソール定義ごとに本定義ファイルを用意します。

サンプルファイル (ConsoleDefine_sample.xml) をコピーして任意のファイル名にリネームし、編集してください。

サンプルファイル格納場所:

```
<インストールディレクトリ>%www%control%ConsoleDefine_sample.xml
```

システムグループを複数定義する場合は、SystemGroupタグ (<SystemGroup> から </SystemGroup> までのブロック) を複数定義してください。

ProxyManagerを複数定義する場合は、ProxyManagerタグ (<ProxyManager> から </ProxyManager> までのブロック) を複数定義してください。

Agentを複数定義する場合は、Agentタグ (<Agent> から </Agent> までのブロック) を複数定義してください。

.....

■復帰値

0: 正常終了

1: 異常終了

■実行結果/出力形式

正常終了

標準出力に対し、正常終了メッセージを出力します。

```
(Success):sqsSetupConsoleDefine
```

実行例

```
"C:%Program Files%Fujitsu%SystemwalkerSQC-C%bin%sqsSetupConsoleDefine.bat" -f "C:%tmp%condef1.xml" (Success):sqsSetupConsoleDefine
```

異常終了

標準エラー出力に対し、エラーメッセージを出力します。

```
(Error):メッセージ,エラー番号
```

エラーメッセージと対応するエラー番号、内容、対処方法は以下のとおりです。

エラー番号	メッセージ	内容	対処の方法
010	Parameter error.(エラー詳細コード)	パラメーターの指定エラー	パラメーターを修正して、再実行してください。
020	Server access error.(エラー詳細コード)	サーバ通信エラー	Managerの接続状態を確認して再実行してください。

エラー番号	メッセージ	内容	対処の方法
030	Definition file error.(エラー詳細コード)	コンソール定義ファイルの読み込みエラー	コンソール定義ファイルの内容を確認して再実行してください。
100	System error.(エラー詳細コード)	その他のエラー	保守情報を収集し、技術員に連絡してください

実行例

指定されたコンソール定義ファイルが存在しない場合

```
"C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC-C\bin\sqcSetupConsoleDefine.bat" -f "C:\tmp\%condef2.xml" "C:\tmp\%condef2.xml" is not found.
(Error):Parameter error.(11), 010
```

実行例

ManagerのSystemwalker SQC DCMサービスが停止している場合

```
"C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC-C\bin\sqcSetupConsoleDefine.bat" -f "C:\tmp\%condef1.xml" Cannot connect to the Manager.
(Error):Server access error.(21), 020
```

実行例

Agent名が重複して指定されている場合(コンソール定義ファイルの誤り)

```
"C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC-C\bin\sqcSetupConsoleDefine.bat" -f "C:\tmp\%condef3.xml" Specified "DisplayName" of "Agent" already exists.
DisplayName = Agent01
(Error):Definition file error.(34), 030
```

■使用例

以下の定義でコンソール定義を作成する場合の例を示します。

コンソール定義ファイルのフルパス

C:\tmp\%condef1.xml

定義内容

コンソール定義名

Console1

システムグループ

GRP1

GRP2

GRP1の登録内容

ProxyManager

表示名:SYSTEM01/システム名:SYSTEM01

Agent

表示名:SYSTEM01/システム名:SYSTEM01

GRP2の登録内容

Agent

表示名:SYSTEM01#/システム名:SYSTEM01

表示名:SYSTEM02/システム名:SYSTEM02

コンソール定義ファイル(C:\tmp\condef1.xml)

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<ConsoleSettings>
  <ConsoleDefine DisplayName="Console1">
    <SystemGroup DisplayName="GRP1">
      <ProxyManager DisplayName="SYSTEM01" InstanceName="SYSTEM01"/>
      <Agent DisplayName="SYSTEM01" InstanceName="SYSTEM01"/>
    </SystemGroup>
    <SystemGroup DisplayName="GRP2">
      <Agent DisplayName="SYSTEM01#" InstanceName="SYSTEM01"/>
      <Agent DisplayName="SYSTEM02" InstanceName="SYSTEM02"/>
    </SystemGroup>
  </ConsoleDefine>
</ConsoleSettings>
```

1.10.2 sqcGetXMLConfig(構成情報取得コマンド)

■機能説明

通常定義画面で行うProxy Manager/Agentの構成情報の取得を、登録済みのコンソール定義をもとに、本コマンドでも行うことができます。



本コマンドは複数同時に実行しないでください。

■実行に必要な権限

Administratorsグループに所属するユーザー権限が必要です。

■実行環境

運用管理クライアントで実行可能です。

■記述形式

```
<インストールディレクトリ>\bin\sqcGetXMLConfig.bat -c console_define [-g system_group] [-t]
```



オプションは、-c console_define [-g system_group] [-t] の順で指定してください。

■オプション

-c <console_define>

構成情報取得対象のコンソール定義名を指定します。

-g <system_group>

システムグループ名を指定します。指定されたシステムグループに登録されているProxy Manager/Agentの構成情報を取得します。

本オプションを省略した場合、すべてのシステムグループに登録されているProxy Manager/Agentの構成情報を取得します。

-t

本オプションが指定された場合、Proxy Manager/Agentの構成情報の取得日時を表示します。

■復帰値

0: 正常終了

1: 異常終了

■実行結果/出力形式

正常終了

標準出力に対し、正常終了メッセージを出力します。

```
システムグループ名1
<ProxyManager>
表示名1(ホスト名1), 構成情報取得日時
<Agent>
表示名1(ホスト名1), 構成情報取得日時

システムグループ名2
<Agent>
表示名2(ホスト名2),
表示名3(ホスト名3), 構成情報取得日時

(Success): sqcGetXMLConfig
```

※構成情報の取得が行えなかった場合、構成情報取得日時は空白となり、コマンドは正常終了します。

実行例

```
GRP1
<ProxyManager>
SYSTEM01(SYSTEM01), 20xx-08-22 19:34:12
<Agent>
SYSTEM01(SYSTEM01), 20xx-08-22 19:34:13

GRP2
<Agent>
SYSTEM01#(SYSTEM01), 20xx-08-22 19:34:14
SYSTEM02(SYSTEM02), 20xx-08-22 19:34:15

(Success): sqcGetXMLConfig
```

異常終了

標準エラー出力に対し、エラーメッセージを出力します。

```
(Error):メッセージ,エラー番号
```

エラーメッセージと対応するエラー番号、内容、対処方法は以下のとおりです。

エラー番号	メッセージ	内容	対処の方法
010	Parameter error.(エラー詳細コード)	パラメーターの指定エラー	パラメーターを修正して、再実行してください。
020	Server access error.(エラー詳細コード)	サーバ通信エラー	Managerの接続状態を確認して再実行してください。
100	System error.(エラー詳細コード)	その他のエラー	保守情報を収集し、技術員に連絡してください

実行例

指定されたコンソール定義名が存在しない場合

```
"C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC-C\bin\sqcGetXMLConfig.bat" -c Console1
Target console definition (Console1) is not found.
(Error):Parameter error.(11), 010
```

実行例

ManagerのSystemwalker SQC DCMサービスが停止している場合

```
"C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC-C\bin\sqcGetXMLConfig.bat" -c Console1
Cannot connect to the Manager.
(Error):Server access error.(21), 020
```

■使用例

以下の内容で構成情報を取得する場合の例を示します。

コンソール定義名

Console1

```
"C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC-C\bin\sqcGetXMLConfig.bat" -c Console1
```

以下の内容で構成情報取得日時を取得する場合の例を示します。

コンソール定義名

Console1

システムグループ

GRP1

```
"C:\Program Files\Fujitsu\SystemwalkerSQC-C\bin\sqcGetXMLConfig.bat" -c Console1 -g GRP1 -t
```

1.10.3 sqcSetupServerSpecInfo(集約先サーバスペック情報登録コマンド)

■機能説明

サーバ組合せシミュレーションの集約先サーバタイプで選択する、サーバタイプのスペック情報を定義し、登録することができます。

注意

管理コンソールを起動している状態で本コマンドを実行した場合は、管理コンソールを再起動してください。

■実行に必要な権限

Administratorsグループに所属するユーザー権限が必要です。

■実行環境

運用管理クライアントで実行可能です。

■記述形式

- ・ サーバタイプのスペック定義ファイルをインポートする場合

```
<インストールディレクトリ>%bin%sqlSetupServerSpecInfo.bat -i <server_spec_file>
```

- ・ サーバタイプのスペック定義ファイルをエクスポートする場合

```
<インストールディレクトリ>%bin%sqlSetupServerSpecInfo.bat -o <server_spec_file>
```

- ・ インポートされているサーバタイプのサーバスペック定義ファイルのスペック情報を削除する場合

```
<インストールディレクトリ>%bin%sqlSetupServerSpecInfo.bat -u
```

- ・ インポートされているサーバタイプのスペック定義ファイルのスペック情報を表示する場合

```
<インストールディレクトリ>%bin%sqlSetupServerSpecInfo.bat -v
```

■オプション

-i <server_spec_file>

サーバスペック定義ファイルを指定し、サーバタイプのスペック情報をインポートします。

サーバスペック定義ファイルはCSV形式で作成します。

注意

すでにインポートされているサーバスペック定義は、新しい定義に上書きされます。

サーバタイプの追加/変更を行いたい場合は、**-o**オプションで現在のサーバスペック定義をエクスポートし、編集してからインポートしてください。

-o <server_spec_file>

サーバスペック定義ファイルの出力先ファイル名を指定し、サーバタイプのスペック定義ファイルをエクスポートします。

本ファイルはCSV形式で出力されます。

ポイント

出力先にファイルがすでに存在する場合はエラーになります。出力先を変更するか、ファイルを削除してください。

-u

インポートされているサーバタイプのサーバスペック定義ファイルのスペック情報を削除します。



注意

削除する前に、-oオプションでスペック定義ファイルをエクスポートしてください。

-v

インポートされているサーバタイプのスペック定義ファイルのスペック情報を表示します。

<サーバスペック定義ファイル>

本ファイルはCSVファイル形式で作成します。

CSVファイルの区切り文字の前後に半角空白を挿入しないでください。

文字コードはShift-JIS、改行コードはCR+LFです。

■定義方法

本ファイルを使用して、サーバスペックの定義を行います。

カラム 位置	項目	必須 /任意	説明	定義例
1	サーバタイプ	必須	サーバタイプを指定します。 Shift-JISコードの以下の文字が使用できます。 ・ 全角文字 ・ 半角英数字 ・ 半角記号(ただし¥, < > " \$ ' [] = & および半角空白以外) 機種依存文字は使用できません。 長さの制限は32文字以内です。 文字列は必ず""で括ってください。 サーバスペック定義ファイル内で同じサーバタイプの名前を指定することはできません。  ポイント [サーバ組合せシミュレーション]画面の[集約先サーバタイプ]には、以下のように表示されます。 形式: <サーバタイプ> (CPU:<CPUクロック数>GHz x <CPU数>, MEM:<搭載メモリサイズ>GB) SERVER_LIMIT:<組合せサーバ上限数> 例) SpecType_L (CPU:2.0GHz x 1, MEM:4.0GB) SERVER_LIMIT:5 ディスクI/O回数を指定した場合、ディスクI/O回数が追加で表示されます。 形式:	"SpecType_L"

カラム 位置	項目	必須 /任意	説明	定義例
			<サーバタイプ> (CPU:<CPUクロック数>GHz x <CPU数>, MEM:<搭載メモリサイズ>GB, DISK:<ディスクI/O回数>IOPS) SERVER_LIMIT:<組合せサーバ上限数> 例) SpecType_L (CPU:2.0GHz x 1, MEM:4.0GB, DISK:100IOPS) SERVER_LIMIT:5	
2	CPUクロック数	必須	サーバタイプのCPUのクロック数(GHz)を数値で指定します。 単位:GHz 範囲:0.001以上1000以下の数を指定してください デフォルト:なし	2.0
3	CPU数	必須	集約先のサーバのCPU数を数値で指定します。 単位:個 範囲:1以上9999以下の整数を指定してください。 デフォルト:なし	1
4	搭載メモリサイズ	必須	集約先のサーバのメモリの搭載メモリの容量(GB)を数値で指定します。 単位:GB 範囲:0.001以上1000000以下の数を指定してください。 デフォルト:なし	4.0
5	ディスクI/O回数	任意	集約先のサーバのディスクI/O回数(IOPS:1秒あたりのI/O回数)を数値で指定します。 単位:IOPS 範囲:0.001以上100000000以下の数を指定してください。 デフォルト:なし	100
6	集約先サーバの 組合せサーバ上 限数	任意	集約先のサーバに収まるサーバ数の上限値を数値で指定します。 単位:台 範囲:1以上64以下の整数を指定してください。 デフォルト:5	5

■定義例

"SpecType_S",2.0,1,1.0
"SpecType_M",2.0,1,2.0
"SpecType_L",2.0,1,4.0,100

■復帰値

0: 正常終了

1: 異常終了

■実行結果/出力形式

正常終了

標準出力に対し、正常終了メッセージを出力します。

```
(Success):sqcSetupServerSpecInfo
```

実行例: サーバスペック定義ファイルを指定し、サーバタイプのスペック情報をインポートする場合

```
"C:¥Program Files¥Fujitsu¥SystemwalkerSQC-C¥bin¥sqcSetupServerSpecInfo.bat" -i "C:¥temp¥server_spec.csv"
(Success):sqcSetupServerSpecInfo
```

実行例: サーバスペック定義ファイルの出力先ファイル名を指定し、サーバタイプのスペック定義ファイルをエクスポートする場合

```
"C:¥Program Files¥Fujitsu¥SystemwalkerSQC-C¥bin¥sqcSetupServerSpecInfo.bat" -o "C:¥temp¥server_spec.csv"
(Success):sqcSetupServerSpecInfo
```

実行例: インポートされているサーバタイプのサーバスペック定義ファイルのスペック情報を削除する場合

```
"C:¥Program Files¥Fujitsu¥SystemwalkerSQC-C¥bin¥sqcSetupServerSpecInfo.bat" -u
Do you delete server_spec_info? (Y/N) y
(Success):sqcSetupServerSpecInfo
```

実行例: インポートされているサーバタイプのスペック定義ファイルのスペック情報を表示する場合

```
"C:¥Program Files¥Fujitsu¥SystemwalkerSQC-C¥bin¥sqcSetupServerSpecInfo.bat" -v

server_type,cpu_clock,cpu_num,mem_size,disk_io,server_limit,
-----
"K5_S-1",2.0,1,4.0,,5,
"K5_M-1",2.0,1,8.0,,5,
"SpecType_S",2.0,1,1.0,,5,
"SpecType_M",2.0,1,2.0,,5,
"SpecType_L",2.0,1,4.0,100,5,

(Success):sqcSetupServerSpecInfo
```

異常終了

標準エラー出力に対し、エラーメッセージを出力します。

```
(Error エラー番号):メッセージ
```

エラーメッセージと対応するエラー番号、内容、対処方法は以下のとおりです。

エラー番号	メッセージ	内容	対処の方法
010	Parameter error.(エラー詳細コード)	パラメーターの指定エラー	パラメーターを修正して、再実行してください。

エラー番号	メッセージ	内容	対処の方法
			または、定義ファイルが存在するか確認して、再実行してください。
020	Server access error.(エラー詳細コード)	サーバ通信エラー	Managerの接続状態を確認して再実行してください。
030	Definition file error.(エラー詳細コード)	定義エラー	定義ファイルの内容を確認して再実行してください。
100	System error.(エラー詳細コード)	その他のエラー	保守情報を収集し、技術員に連絡してください

実行例

パラメーターの指定に誤りがある場合

```
"C:\Program Files\Fujitsu\Systemwalker\SQL-C\bin\sqcSetupServerSpecInfo.bat" -a
Usage : sqcSetupServerSpecInfo.bat -i <server_spec_file>
       sqcSetupServerSpecInfo.bat -o <server_spec_file>
       sqcSetupServerSpecInfo.bat -u
       sqcSetupServerSpecInfo.bat -v

(Error 010):Parameter error. (10)
```

実行例

指定したサーバスペック定義ファイルの構文に誤りがある場合

```
"C:\Program Files\Fujitsu\Systemwalker\SQL-C\bin\sqcSetupServerSpecInfo.bat" -i "C:\temp
¥server_spec.csv"
server_type does not include doublequote. (server_type = example_server_type)
server_spec_file is abnormal format. (line = example_server_type,2,2,2,,6, server_type =
example_server_type)
"C:\temp¥server_spec.csv" is not format of server_spec_file.
(Error 030):Definition file error. (30)
```

1.11 sqcSetOVMconfig(OVM紐づけ定義格納コマンド)

■機能説明

Oracle VM Server for SPARCのドメイン名とAgentのシステム名の紐づけ定義をManagerに格納します。



本コマンドは複数同時に実行しないでください。



- ・ 本コマンドにより保存した紐づけ定義は、**sqcPDBexport(構成情報移行コマンド)**の出力対象となります。
- ・ Oracle VM Server for SPARCで管理されている全ドメインについて定義してください。
- ・ 本コマンドを複数回実行した場合は、最後の実行時に指定した紐づけ定義ファイルの情報が有効となります。

■実行に必要な権限

Administratorsグループに所属するユーザー権限が必要です。

■実行環境

運用管理クライアントで実行可能です。

■記述形式

紐づけ定義をManagerに保存する場合

```
<インストールディレクトリ>%bin%sqcSetOVMconfig.bat -f <config_path>
```

Managerに保存された紐づけ定義を確認する場合

```
<インストールディレクトリ>%bin%sqcSetOVMconfig.bat -v
```

■オプション

-f <config_path>

Oracle VM Server for SPARCのドメイン名とAgentのシステム名の紐づけ定義ファイルのフルパスを指定します。

他のオプションとは併用できません。

■紐づけ定義ファイルの定義方法

本ファイルはCSV形式で作成します。Oracle VM Server for SPARCのドメインに紐づくAgentごとに1行ずつ定義します。

制御ドメイン(2カラム目のドメイン名が「primary」)の場合は4カラム目以降、その他のドメインの場合は3カラム目以降の定義は、無効となります。

定義ファイル内に空行は入れないでください。

なお、文字コードや改行コードについて意識する必要はありません。

カラム位置	説明	定義例
1	Agentの識別名を設定してください。 識別名は、 sqcSetPolicy(ポリシー適用コマンド) で表示される名前です。 本カラムは、省略できません。	Agent1
2	Oracle VM Server for SPARC ドメイン名を設定してください。 ドメイン名は、「ldm ls-dom」コマンドで出力されるNAMEを設定してください。 本カラムは、省略できません。	domain1
3	Oracle VM Server for SPARC ノード名を設定してください(何かと設定を合わせる必要はありません。区別可能な名前を設定してください)。 指定されたノード名は、OVM for SPARC リソース使用状況(全体)で表示されるノード名として使用されます。 ドメイン名が「primary」の場合、省略できません。 ノード名には、以下の文字が使用できます。 - 半角英数字 - 半角記号(ただし¥,;, <> "\$[]=&以外) 64文字以内で設定してください。	node1

カラム位置	説明	定義例
	 ポイント Oracle VM Server for SPARCのドメイン名が「primary」の場合のみ有効です。	

■紐づけ定義ファイルの定義例

```
OVM1,primary,node1
OVM2,primary,node2
OVM3,primary,node3
Agent1,domain1
Agent2,domain2
Agent3,domain3
Agent4,domain4
Agent5,domain5
Agent6,domain6
Agent7,domain7
```

-v

Managerに保存された紐づけ定義を確認することができます。

本オプションで出力された情報は、「End.」行以降を削除することで、紐づけ定義ファイルとして使用することができます。

他のオプションとは併用できません。

■復帰値

0: 正常終了

1: 異常終了

■実行結果/出力形式

正常終了

標準出力に対し、正常終了メッセージを出力します。

```
(Success):sqcSetOVMconfig
```

実行例: 紐づけ定義をManagerに格納する場合

```
C:\Program Files\SystemwalkerSQC-C\bin>sqcSetOVMconfig.bat -f "c:\work\ovmsparc.txt"
(Success):sqcSetOVMconfig
```

実行例: Managerに格納された紐づけ定義を確認する場合

```
C:\Program Files\SystemwalkerSQC-C\bin>sqcSetOVMconfig.bat -v
OVM1,primary,node1
OVM2,primary,node2
OVM3,primary,node3
Agent1,domain1,
Agent2,domain2,
Agent3,domain3,
```

```
Agent4, domain4,  
Agent5, domain5,  
Agent6, domain6,  
Agent7, domain7,  
End.  
(Success):sqcSetOVMconfig
```

異常終了

標準エラー出力に対し、エラーメッセージを出力します。

```
(Error エラー番号):メッセージ
```

エラーメッセージと対応するエラー番号、内容、対処方法は以下のとおりです。

エラー番号	メッセージ	内容	対処の方法
010	Parameter error.(エラー詳細コード)	パラメーターの指定エラー	パラメーターを修正して、再実行してください。
020	Server accsee error.(エラー詳細コード)	サーバ通信エラー	Managerの接続状態を確認して再実行してください。
030	Definition file error.(エラー詳細コード)	紐づけ定義ファイルの読み込みエラー	紐づけ定義ファイルの内容を確認して再実行してください。
100	System error. (エラー詳細コード)	その他エラー	保守情報を収集し、技術員に連絡してください。

実行例: 指定された紐づけ定義ファイルが存在しない場合

```
C:\Program Files\SystemwalkerSQC-C\bin>sqcSetOVMconfig.bat -f "c:\work\ovmsparc.txt"  
"c:/work/ovmsparc.txt" is not found.  
(Error):Definition file error. (11), 010
```

実行例: ManagerのSystemwalker SQC DCMサービスが停止している場合

```
C:\Program Files\SystemwalkerSQC-C\bin>sqcSetOVMconfig.bat -f "c:\work\ovmsparc.txt"  
Cannot connect to the Manager.  
(Error):Server access error. (20), 020
```

実行例: OVMSPARC紐づけ定義でドメイン名の指定がされなかった場合

```
C:\Program Files\SystemwalkerSQC-C\bin>sqcSetOVMconfig.bat -f "c:\work\ovmsparc.txt"  
Please specify agent_name or domain_name. line:4  
(Error):Definition file error. (30), 030
```

■使用例

紐づけ定義をManagerに格納する場合

紐づけ定義ファイルパス:C:\ovmconfig.txt

```
C:\Program Files\SystemwalkerSQC-C\bin>sqcSetOVMconfig.bat -f "C:\ovmconfig.txt"
```

Managerに格納された紐づけ定義を確認する場合

```
C:\Program Files\SystemwalkerSQC-C\bin>sqcSetOVMconfig.bat -v
```

■補足事項

- Agentを追加する場合は、前回の紐づけ定義ファイルに対象のAgentを追加し、本コマンドを実行してください。
- Agentを削除する場合は、前回の紐づけ定義ファイルから対象のAgentを削除し、本コマンドを実施してください。
- 本コマンドの実行とコンソール定義の登録の順序は問いません。
コンソールの分析/プランニングおよび定期レポート作成までに、本コマンドでの紐づけ定義格納と、コンソール定義へのAgent登録を行ってください。

L

1.12 sqcSetSELinux(SELinux対応設定コマンド)

■機能説明

SELinux(Security-Enhanced Linux)機能が有効になっているLinux環境に対応するための設定、または設定の解除を行います。



注意

本コマンドは複数同時に実行しないでください。



ポイント

インストール時に、SELinux(Security-Enhanced Linux)機能が有効になっている場合は、本コマンドが自動的に実行され、Linux環境に対応するための設定が行われます。そのため、本コマンドの実行は不要です。

インストール後に、SELinux(Security-Enhanced Linux)機能を有効に変更した場合に、本コマンドを実行してください。

■実行に必要な権限

【Linux版】

システム管理者(スーパーユーザー)権限が必要です。

■実行環境

Enterprise Manager/Manager/Proxy Manager/Agentで実行可能です。

■記述形式

【Linux版】

```
/opt/FJSVssqc/bin/sqcSetSELinux.sh -s  
/opt/FJSVssqc/bin/sqcSetSELinux.sh -u
```

■オプション

-s

SELinux機能が有効になっているLinux環境に対応するための設定を行います。

-u

SELinux機能が有効になっているLinux環境に対応するための設定を解除します。

■復帰値

0: 正常終了

>0: 異常終了

■実行結果/出力形式

正常終了

標準出力に対し、正常終了メッセージを出力します。

```
Command succeeded.
```

実行例

```
# /opt/FJSVssqc/bin/sqcSetSELinux.sh -s  
Command succeeded.
```

異常終了

標準エラー出力に対し、エラーメッセージを出力します。

```
ERROR: Failed to execute "/usr/sbin/semodule".  
Command failed.
```

エラーメッセージと対応する内容、対処方法は以下のとおりです。

メッセージ	内容	対処方法
Usage : sqcSetSELinux.sh -s -u	書式に誤りがあります。	正しい書式で再度コマンドを実行してください。
ERROR: The command can only be executed by the root.	このコマンドはシステム管理者(スーパーユーザー)権限でのみ実行が可能です。	システム管理者(スーパーユーザー)権限で再度コマンドを実行してください。
INFO: It is not SELinux environment.("<コマンド名>" not found)	SELinux機能に必要なモジュールが見つかりません。("<コマンド名>"が見つかりません)	SELinux機能を正しくセットアップ後、コマンドの存在を確認してから、再度コマンドを実行してください。
WARNING: The operation setting of SELinux is not set.	SELinux機能が設定されていません。	SELinux環境の設定は解除済、もしくは実施されていません。そのため対処は不要です。
ERROR: Failed to execute "<実行したコマンド>".	コマンドの実行に失敗しました。"<実行したコマンド>"	失敗したコマンドが実行できるか確認後、再度コマンドを実行してください。
WARNING: It has already been defined.	すでに設定されています。	すでにSELinux環境の設定は実施済みです。そのため対処は不要です。
INFO: SELinux function is disabled.	SELinux機能は無効です。	SELinux機能は無効のため、設定できません。
ERROR: Failed to compile the policy module of SELinux.	SELinuxのポリシーモジュールのコンパイルに失敗しました。	出力されたメッセージの対処を実行後、再度コマンドを実行してください。

実行例

```
# /opt/FJSVssqc/bin/sqcSetSELinux.sh -s
ERROR: Failed to execute "/usr/sbin/semodule".
Command failed.
```

■使用例

SELinux機能が有効になっているLinux環境に対応するための設定を行う場合

【Linux版】

```
# /opt/FJSVssqc/bin/sqcSetSELinux.sh -s
```

SELinux機能が有効になっているLinux環境に対応するための設定を解除する場合

【Linux版】

```
# /opt/FJSVssqc/bin/sqcSetSELinux.sh -u
```



1.13 sqcSetUXDISKSPACE(ディスクスペース情報の除外設定コマンド)

■機能説明

ディスクスペース情報のレコード(UX_DISKSPACE)について、ハードディスクを使用しない以下のファイルシステムを収集対象外とするための設定、または設定の解除を行います。

- ・ 仮想ファイルシステム
- ・ 光学ディスクのファイルシステム



注意

本コマンドは複数同時に実行しないでください。



ポイント

インストール直後は、本設定は解除された状態になっています。

■実行に必要な権限

【UNIX版】

システム管理者(スーパーユーザー)権限が必要です。

■実行環境

Enterprise Manager/Manager/Proxy Manager/Agentで実行可能です。

ポイント

本コマンドはインストール型Agentに対してのみ適用可能です。Agent(Agent機能を使用しているEnterprise Manager/Manager/Proxy Managerも含む)上で実行してください。

■記述形式

【UNIX版】

```
/opt/FJSVssqc/bin/sqcSetUXDISKSPACE.sh -s  
/opt/FJSVssqc/bin/sqcSetUXDISKSPACE.sh -u
```

■オプション

-s

ハードディスクを使用しないファイルシステムを収集対象外とするための設定を行います。

-u

ハードディスクを使用しないファイルシステムを収集対象外とするための設定を解除します。

ポイント

【Linux版】

-sオプションで設定した後、OSのカーネルを更新した際は本コマンドの再実行が必要です。一旦-uオプションで解除し、再度-sオプションで設定してください。

■復帰値

0: 正常終了

>0: 異常終了

■実行結果/出力形式

正常終了

標準出力に対し、正常終了メッセージを出力します。

```
Command succeeded.
```

実行例

```
# /opt/FJSVssqc/bin/sqcSetUXDISKSPACE.sh -s  
Command succeeded.
```

異常終了

標準エラー出力に対し、エラーメッセージを出力します。

エラーメッセージと対応する内容、対処方法は以下のとおりです。

メッセージ	内容	対処方法
Usage : sqcSetUXDISKSPACE.sh -s -u	書式に誤りがあります。	正しい書式で再度コマンドを実行してください。
ERROR: The command can only be executed by the root.	このコマンドはシステム管理者(スーパーユーザー)権限でのみ実行が可能です。	システム管理者(スーパーユーザー)権限で再度コマンドを実行してください。
WARNING: It has already been defined.	すでに設定されています。	対処は不要です。
WARNING: The exclusion setting is not set.	すでに解除されています。	対処は不要です。
ERROR: System error: <エラー詳細>	その他のエラーです。	保守情報を収集し、技術員に連絡してください。

実行例

```
# /opt/FJSVssqc/bin/sqcSetUXDISKSPACE.sh -s
WARNING: It has already been defined.
```

■使用例

ハードディスクを使用しないファイルシステムを収集対象外とするための設定を行う場合

【UNIX版】

```
# /opt/FJSVssqc/bin/sqcSetUXDISKSPACE.sh -s
```

ハードディスクを使用しないファイルシステムを収集対象外とするための設定を解除する場合

【UNIX版】

```
# /opt/FJSVssqc/bin/sqcSetUXDISKSPACE.sh -u
```

1.14 sqcCheckAlertconfig(しきい値監視定義チェックコマンド)

■機能説明

しきい値監視定義(alertconfig.txt)の定義が正しいかどうかを確認します。

現在設定されている定義が期待した動作をしないためにチェックを行いたい場合や、これから使用するしきい値監視定義が正しく設定されているかの確認を行いたい場合に、本コマンドを使用することで文法の誤りがないかを確認することができます。

本コマンドは定義を実施したいシステムで実行してください。



注意

本コマンドは複数同時に実行しないでください。

■実行に必要な権限

【Windows版】

Administratorsグループに所属するユーザー権限が必要です。

【UNIX版】

システム管理者(スーパーユーザー)権限が必要です。

■実行環境

Enterprise Manager/Manager/Proxy Manager/Agentで実行可能です。

■記述形式

【Windows版】

```
<インストールディレクトリ>%bin%sqcCheckAlertconfig.bat  
<インストールディレクトリ>%bin%sqcCheckAlertconfig.bat -f <しきい値監視定義ファイル(alertconfig.txt)のフルパス>
```

【UNIX版】

```
/opt/FJSVssqc/bin/sqcCheckAlertconfig.sh  
/opt/FJSVssqc/bin/sqcCheckAlertconfig.sh -f <しきい値監視定義ファイル(alertconfig.txt)のフルパス>
```

■オプション

-f <しきい値監視定義ファイル(alertconfig.txt)のフルパス>

確認したいしきい値監視定義ファイルをフルパスで指定します。

本オプションを指定しない場合は、現在設定されているしきい値監視定義(alertconfig.txt)について確認します。現在設定されているしきい値監視定義の場所については、使用手引書「しきい値監視定義」を参照してください。

■復帰値

0: 正常終了(しきい値監視定義にエラーがあった場合も含む)

1: 異常終了(しきい値監視定義チェックができなかった場合)

■実行結果/出力形式

正常終了

標準出力に対し、正常終了メッセージを出力します。

```
C:\>"C:\Program Files\Fujitsu\Systemwalker\SQLC\bin\sqcCheckAlertconfig.bat"  
Check alertconfig file.  
-----  
The definition of alertconfig file is correct.  
-----  
Command succeeded.
```

異常終了

標準エラー出力に対し、エラーメッセージを出力します。メッセージは最初に見つかったエラーの箇所を表示します。

メッセージ	内容	対処方法
ERROR: <confilename>: (詳細メッセージ)	“詳細メッセージ”に示す理由のため、<confilename>ファイルのオープンに失敗しました。	“詳細メッセージ”で示される原因を取り除き、再度コマンドを実行してください。
ERROR: <confilename>, line <N>, col <C>, value = <value>:(誤っている定義内容)	<confilename>ファイルの<N>行目の<C>番目の<value>定義について、“誤っている定義内容”に示す誤りがあります。	“誤っている定義内容”で示される定義を見直し、再度コマンドを実行してください。
ERROR: <confilename>, line <N>, col <C>:(誤っている定義の内容)	<confilename>ファイルの<N>行目の<C>番目の定義について、“誤っている定義内容”に示す誤りがあります。	“誤っている定義内容”で示される定義を見直し、再度コマンドを実行してください。
ERROR: <confilename>, line <N>:(誤っている定義の内容)	<confilename>ファイルの<N>行目の定義について、“誤っている定義内容”に示す誤りがあります。	“誤っている定義内容”で示される定義を見直し、再度コマンドを実行してください。
"<confilename>" is not exist or file.	指定した<confilename>ファイルがないか、ファイルではありません。	指定したファイル名が正しいか、フルパスになっているかを確認し、修正後再度コマンドを実行してください。
(Error) : Parameter error. Usage : sqcCheckAlertconfig.bat [- f <alertconfig>]	指定したパラメーターに誤りがあります。	指定したパラメーターを確認し、修正後再度コマンドを実行してください。

メッセージ中の<confilename>、<N>、<C>、<value>、(誤っている定義の内容)は可変の値です。

実行例 1

```
C:\>"C:\Program Files\Fujitsu\Systemwalker\SQL\bin\sqcCheckAlertconfig.bat" -f c:
\alerconfig.txt

"c:/alertconfig.txt" is not exist or file.

(Error) : Parameter error.

Usage : sqcCheckAlertconfig.bat [-f <alertconfig>]
```

実行例 2

```
C:\>"C:\Program Files\Fujitsu\Systemwalker\SQL\bin\sqcCheckAlertconfig.bat"

Check alertconfig file.

-----

ERROR: alertconfig.txt, line 82, col 1, value = AlertId1: Alert Id is not unique.

-----

Command succeeded.
```

■使用例1

しきい値監視定義を行ったが、期待したタイミングでメッセージを通知しない場合、以下のようにコマンドを実行します。

以下の例では、現在設定されているしきい値監視定義の82行目、1番目に設定されている「AlertId1」が他のAlert Idと重複していることを表しています。Alert Idは他の行と重複のないように定義を見直してください。

【Windows版】

```
C:\>"C:\Program Files\Fujitsu\Systemwalker\SQL\bin\sqcCheckAlertconfig.bat"
Check alertconfig file.
-----
ERROR: alertconfig.txt, line 82, col 1, value = AlertId1: Alert Id is not unique.
-----
Command succeeded.
```

【UNIX版】

```
# /opt/FJSVssqc/bin/sqcCheckAlertconfig.sh
Check alertconfig file.
-----
ERROR: alertconfig.txt, line 82, col 1, value = AlertId1: Alert Id is not unique.
-----
Command succeeded.
```

■使用例2

これから設定しようとするしきい値監視定義を確認したい場合、以下のようにコマンドを実行します。

以下の例では、しきい値監視定義の84行目、7番目に設定されている「01:00:00」が開始時刻(Start time)よりも前の時刻になっていることを表しています。終了時刻(End time)は開始時刻(Start time)と同じか後の時刻となるよう定義を見直してください。

【Windows版】

```
C:\>"C:\Program Files\Fujitsu\Systemwalker\SQL\bin\sqcCheckAlertconfig.bat"-f c:\alertconfig.txt
Check alertconfig file.
-----
ERROR: c:\alertconfig.txt, line 84, col 7, value = 01:00:00: End time must be >= Start time.
-----
Command succeeded.
```

【UNIX版】

```
# /opt/FJSVssqc/bin/sqcCheckAlertconfig.sh -f /var/tmp/alertconfig.txt
Check alertconfig file.
-----
ERROR: /var/tmp/alertconfig.txt, line 84, col 7, value = 01:00:00: End time must be >= Start time.
-----
Command succeeded.
```

1.15 genpwd(パスワード暗号化コマンド)

■機能説明

暗号化されたパスワードを生成します。

インストールレス型Agentの接続アカウント定義ファイル(remoteAccount.txt)において、本コマンドを実行して暗号化されたパスワードを生成し、接続するためのパスワードのパラメーターに定義する必要があります。



注意

本コマンドは複数同時に実行しないでください。

■実行に必要な権限

【Windows版】

Administratorsグループに所属するユーザー権限が必要です。

【UNIX版】

システム管理者(スーパーユーザー)権限が必要です。

■実行環境

Enterprise Manager/Manager/Proxy Manager/Agentで実行可能です。

■記述形式

【Windows版】

```
<インストールディレクトリ>%bin%genpwd.exe
```

【UNIX版】

```
/opt/FJSVssqc/bin/genpwd.sh
```

■オプション

なし

■復帰値

1: 正常終了

1以外: 異常終了

■使用例

暗号化されたパスワードを生成する場合は、以下のように実行します。

コマンドを実行するとパスワードとパスワードの確認の入力の問い合わせがありますので、暗号化したいパスワードを入力してください。128バイトまで指定可能です。

生成された文字列をコピーして、定義ファイルのパスワードのパラメーターに貼り付けてください。

【Windows版】

```
C:>%cd C:%Program Files%Fujitsu%SystemwalkerSQC%bin
```

```
C:¥Program Files¥Fujitsu¥SystemwalkerSQC¥bin>genpwd.exe  
Password:  
Confirm password:  
oShc+uU9Gl8=  
C:¥Program Files¥Fujitsu¥SystemwalkerSQC¥bin>
```

【UNIX版】

```
# cd /opt/FJSVssqc/bin  
# ./genpwd.sh  
Password:  
Confirm password:  
oShc+uU9Gl8=  
#
```

1.16 swSilentSetup(サイレントインストール用コマンド)

■機能説明

サイレントインストールを行うコマンドです。

インストール時に必要な情報を、あらかじめ作成した"インストール情報ファイル"から読み込んで自動的にインストールを行います。



本コマンドは複数同時に実行しないでください。

■実行に必要な権限

【Windows版】

Administratorsグループに所属するユーザー権限が必要です。

【UNIX版】

システム管理者(スーパーユーザー)権限が必要です。

■記述形式

【Windows版】

```
DVD-ROMドライブ¥swSilentSetup.bat -t <インストール種別> -f <インストール情報ファイル> [-p <インストール結果の出力先ディレクトリ>]
```

【UNIX版】

- ・ サーバの場合

```
<マウントポイント>/swSilentSetup.sh -t <インストール種別> -f <インストール情報ファイル> [-p <インストール結果の出力先ディレクトリ>]
```

- ・ 運用管理クライアントの場合

DVD-ROMドライブ: %client%swSilentSetup.bat -t sqc-cl -f <インストール情報ファイル> [-p <インストール結果の出力先ディレクトリ>]

注意

DVD-ROMを使用せず、ネットワーク経由でインストールを実行する場合、インストーラの場所がローカルネットワーク外に存在すると、「プログラムの作成者が確認できない」という内容のメッセージが表示され、サイレントインストールが停止する場合があります。インストーラの場所をローカルネットワークとして設定後、サイレントインストールを実施してください。

■オプション

-t <sqc-em | sqc-m | sqc-pm | sqc-a-sv | sqc-a-biz | sqc-cl>

サイレントインストールのインストール種別を指定します。

- sqc-em: Enterprise Managerのサイレントインストールを行います。
- sqc-m: Managerのサイレントインストールを行います。
- sqc-pm: Proxy Managerのサイレントインストールを行います。
- sqc-a-sv: Agent for Serverのサイレントインストールを行います。
- sqc-a-biz: Agent for Businessのサイレントインストールを行います。
- sqc-cl: 運用管理クライアントのサイレントインストールを行います。

-f <インストール情報ファイル>

サイレントインストールのためのインストール情報ファイルの絶対パスを指定します。

Windows版の場合、パス内に空白を含む場合はパスをダブルクォーテーションで囲んでください。

UNIX版の場合、パスに空白を含めることはできません。

インストール情報ファイルについての詳細は、導入手引書「インストール情報ファイルの作成」を参照してください。

-p <インストール結果の出力先ディレクトリ>

インストール結果の出力先ディレクトリの絶対パスを指定します。

パス内に空白を含む場合はパスをダブルクォーテーションで囲んでください。

指定されたディレクトリが存在しない場合は、ディレクトリを新規作成します。

インストールが正常終了した場合は、"swinst.success"ファイルが作成されます。

インストールが異常終了した場合は、"swinst.err"ファイルが作成されます。ファイルに出力されている内容を参照して対処してください。

指定したディレクトリに前回のインストール結果が格納されていた場合は、前回のインストール結果が削除されます。

■復帰値

- 0: 正常終了
- 2: コマンドのパラメーターの指定エラー
- 3: 製品を使用する前にコンピュータの再起動が必要な状態
- 4: インストール情報ファイルの指定エラー
- 5: インストール結果の出力先ディレクトリの指定エラー
- 34: インストーラを二重起動した場合のエラー

35: 不整合なインストールがあるため、インストールができない場合のエラー

36: 以下のいずれかの場合のエラー

- インストールパラメーターの値に誤りがある場合

- インストールの前提条件が満たされていない場合

- Systemwalker Centric Managerの業務サーバに同梱されているSystemwalker Service Quality Coordinator Agentがインストールされている場合

上記以外: その他のエラー

■使用例

【Windows版】

```
D:¥swSilentSetup.bat -t sqc-a-sv -f D:¥tools¥Sample¥SilentInstall¥sqc_ag_pm_win.csv -p "C:¥sqc_instresult¥"
```

【UNIX版】

```
/mnt/cdrom/swSilentSetup.sh -t sqc-a-biz -f /mnt/cdrom/tools/Sample/SilentInstall/sqc_ag_pm_ux.csv -p  
"/tmp/instlog sqc"
```

■実行結果/出力形式

正常終了

正常終了は復帰値の値で判断します。

また、インストール結果の出力先ディレクトリを指定した場合は、以下のファイルが作成されます。

```
<インストール結果の出力先ディレクトリ>¥swinst.success
```

異常終了

異常終了は復帰値の値で判断します。

また、インストール結果の出力先ディレクトリを指定した場合は、以下のファイルが作成されます。

```
<インストール結果の出力先ディレクトリ>¥swinst.err
```

ファイルの先頭行のエラーコードを確認し、下記の「[エラー時の対処について](#)」に記載されている対処方法を実施してください。ファイルの2行目以降は、技術員が使用する調査用ログのため確認不要です。

エラー時の対処について

復帰値とその内容、対処方法は以下のとおりです。

復帰値	内容	対処方法
2	コマンドのパラメーターの指定エラー	コマンドのパラメーターを修正して、再実行してください。
3	製品を使用する前にコンピュータの再起動が必要な状態	インストールは正常に終了しています。製品を使用する前にコンピュータを再起動してください。
4	インストール情報ファイルの指定エラー	インストール情報ファイルのフォーマットを修正して、再実行してください。
5	インストール結果の出力先ディレクトリの指定エラー	インストール結果の出力先ディレクトリを修正して、再実行してください。

復帰値	内容	対処方法
34	インストーラを二重起動した場合のエラー	[アンインストールと管理(ミドルウェア)]が起動している場合は、終了してから再実行してください。 また、以下のプロセスが動作していないか確認してください。 【Windows】 run.exe 【UNIX】 run.sh 上記のプロセスが動作している場合は、製品のインストールまたはアンインストールが実行されています。プロセスが終了するまで待ってから再実行してください。
35	不整合なインストールがあるため、インストールができない場合のエラー	[アンインストールと管理(ミドルウェア)]を起動して不整合なインストールを解決し、再実行してください。
36	以下のいずれかの場合のエラー - インストールパラメーターの値に誤りがある場合 - インストールの前提条件が満たされていない場合 - Systemwalker Centric Managerの業務サーバに同梱されているSystemwalker Service Quality Coordinator Agentがインストールされている場合	導入手引書「インストール条件と資源見積り」に記載されているインストール条件を満たしていることを確認してください。また、インストール情報ファイルに設定されているインストールパラメーターの内容に誤りがないことを確認し、再実行してください。 Systemwalker Centric Managerの業務サーバに同梱されているSystemwalker Service Quality Coordinator Agentがインストールされている場合は、導入手引書「Systemwalker Centric Managerバンドル版Systemwalker Service Quality Coordinator Agentがインストールされている環境に、本製品をインストールする場合」参照して、バンドル版Systemwalker Service Quality Coordinator Agentをアンインストールしてから本製品のインストールを行ってください。
上記以外	その他のエラー	技術員に連絡してください。

1.17 sqcMigrationReports.bat(登録済みレポート移行コマンド)

■機能説明

V13.5.0以前の登録済みレポート(V13.3以前の場合、即時レポート、V13.4/V13.5の場合、分析)を移行することができます。移行した場合は、[分析/プランニング]画面の「Myカテゴリー」内に、「移行レポート」カテゴリーとして表示されます。



注意

本コマンドは複数同時に実行しないでください。

■実行に必要な権限

Administratorsグループに所属するユーザー権限が必要です。

■実行環境

運用管理クライアントで実行可能です。

■記述形式

```
<インストールディレクトリ>%bin%sqcMigrationReports.bat -c console_define
```

■オプション

-c console_define

登録済みレポートの移行を行うコンソール定義名を指定します。

■復帰値

0: 正常終了

1: 異常終了

■実行結果/出力形式

正常終了

標準出力に対し、正常終了メッセージを出力します。

```
(Success):sqcMigrationReports
```

異常終了

標準エラー出力に対し、エラーメッセージを出力します。

```
(Error):メッセージ,エラー番号
```

エラーメッセージと対応するエラー番号、内容、対処方法は以下のとおりです。

エラー番号	メッセージ	内容	対処の方法
010	Parameter error.(エラー詳細コード)	パラメーターの指定エラー	パラメーターを修正して、再実行してください。
020	Setting error.(エラー詳細コード)	設定のエラー	標準出力に出力されるメッセージを確認して、再実行してください。
100	System error.(エラー詳細コード)	その他のエラー	保守情報を収集し、技術員に連絡してください

■使用例

```
C:\Program Files\Systemwalker\SQC-C\%bin>sqcMigrationReports.bat -c DefaultConsole  
(Success):sqcMigrationReports
```


第2章 常駐プロセス、起動と停止

ここでは、本製品の常駐プロセスの起動と停止方法について説明します。

2.1 Manager

【Windows版】

プロセス	起動と停止	説明
dcm.exe dsa_pdb_writer3.exe dsa_pdb_reader3.exe dsa_listener2.exe dsa_file.exe dsa_tis.exe dsa_cmd.exe dsa_spacemon.exe dsa_logfile.exe dsa_execute.exe dsa_forwarder.exe dsa_telnet.exe dsa_snmp.exe dsa_mf.exe	以下のサービスを起動(開始)/停止します。 Systemwalker SQC DCM  注意 • [Systemwalker SQC DCM]サービスの再起動を実施する場合、Windowsのサービス画面で「サービスの再起動」を実行しないでください。 • クラスタシステムに登録している場合には、クラスタ環境から起動/停止を行ってください。	dcm.exeがメインプロセスです。起動確認はこのプロセスで行ってください。 常駐する、「dsa_」で始まるプロセスは、動作条件によって異なります。
sqcschdle.exe	以下のサービスを起動(開始)/停止します。 Systemwalker SQC sqcschdle	本製品のPull方式での通信を使用する時に起動させるプロセスです。
thttpd.exe	以下のサービスを起動(開始)/停止します。 Systemwalker SQC thttpd	ポリシー配付機能を使用する場合に起動させるプロセスです。 Systemwalker SQC thttpdサービスを自動起動させる方法は、「2.5 thttpdサービス/デーモンの自動起動設定」を参照してください。

【Linux版】

プロセス	起動と停止	説明
dcmd dsa_pdb_writer3 dsa_pdb_reader3 dsa_listener2 dsa_file dsa_tis dsa_cmd dsa_spacemon	以下のコマンドで起動/停止します。 起動： systemctl start ssqcdcm 停止： systemctl stop ssqcdcm	dcmdがメインプロセスです。起動確認はこのプロセスで行ってください。 常駐する、「dsa_」で始まるプロセスは、動作条件によって異なります。

プロセス	起動と停止	説明
dsa_logfile dsa_execute dsa_forwarder dsa_telnet dsa_snmp dsa_mf		 注意 クラスタシステムに登録している場合には、クラスタ環境から起動/停止を行ってください。
sqcschdle.exe	以下のコマンドで起動/停止します。 起動： systemctl start ssqcsch 停止： systemctl stop ssqcsch	本製品のPull方式での通信を使用する時に起動させるプロセスです。
tthttpd	以下のコマンドで起動/停止します。 起動： systemctl start ssqchttp 停止： systemctl stop ssqchttp	ポリシー配付機能を使用する場合に起動させるプロセスです。 tthttpdデーモンを自動起動させる方法は、「 2.5 tthttpdサービス/デーモンの自動起動設定 」を参照してください。

ポイント

.....

上記のsystemctlコマンドにstatusを指定して実行すると、Systemwalker Service Quality Coordinatorの状態を表示します。

.....

注意

.....

defunctプロセスが一時的に見えることがありますが、自動的に削除されますので対処は不要です。

.....

【Solaris版】

プロセス	起動と停止	説明
dcmd dsa_pdb_writer3 dsa_pdb_reader3 dsa_listener2 dsa_file dsa_tis dsa_cmd dsa_spacemon dsa_logfile dsa_execute dsa_forwarder dsa_telnet dsa_snmp	以下のスクリプトで起動/停止します。 起動： /etc/rc2.d/S99ssqcdcm start 停止： /etc/rc0.d/K00ssqcdcm stop 完全停止： /etc/rc0.d/K00ssqcdcm stop_wait	dcmdがメインプロセスです。起動確認はこのプロセスで行ってください。 常駐する、「dsa_」で始まるプロセスは、動作条件によって異なります。  ポイント 停止オプション(stop)の場合、プロセスの終了シグナルを送信し、プロセスの終了を待たずにコマンドを完了します。 完全停止オプション(stop_wait)の場合、プロセスの終了シグナルを送信し、起動していたプロセスが終了するのを待ってからコマンドを完了します。 プロセスの再起動を行う場合、完全停止オプション(stop_wait)を利用して停

プロセス	起動と停止	説明
		止し、コマンドの完了後に起動オプション(start)で起動してください。  注意 クラスタシステムに登録している場合には、クラスタ環境から起動/停止を行ってください。
sqcschdle.exe	以下のスクリプトで起動/停止します。 起動： /etc/rc2.d/S99ssqcsch start 停止： /etc/rc0.d/K00ssqcsch stop	本製品のPull方式での通信を使用する時に起動させるプロセスです。
thttpd	以下のスクリプトで起動/停止します。 起動： /opt/FJSVssqc/bin/ssqchttp start 停止： /opt/FJSVssqc/bin/ssqchttp stop	ポリシー配付機能を使用する場合に起動させるプロセスです。 thttpdデーモンを自動起動させる方法は、「2.5 thttpdサービス/デーモンの自動起動設定」を参照してください。

ポイント

上記スクリプトのstart/stop/stop_waitのオペランドを省略して実行すると、Systemwalker Service Quality Coordinatorの状態を表示します。

注意

defunctプロセスが一時的に見えることがありますが、自動的に削除されますので対処は不要です。

2.2 Proxy Manager

【Windows版】

プロセス	起動と停止	説明
dcm.exe	以下のサービスを起動(開始)/停止します。	dcm.exeがメインプロセスです。起動確認はこのプロセスで行ってください。
dsa_forwarder.exe	Systemwalker SQC DCM	常駐する、「dsa_」で始まるプロセスは、動作条件によって異なります。
dsa_listener2.exe	 注意	
dsa_file.exe		
dsa_tis.exe	[Systemwalker SQC DCM]サービスの再起動を実施する場合、Windowsのサービス画面で「サービスの再起動」を実行しないでください。	
dsa_cmd.exe		
dsa_spacemon.exe	「サービスの停止」を実行してから、しばらくして、「サービスの開始」を実行してください。	
dsa_logfile.exe		
dsa_execute.exe		
dsa_telnet.exe		

プロセス	起動と停止	説明
dsa_snmp.exe dsa_mf.exe		
thttpd.exe	以下のサービスを起動(開始)/停止します。 Systemwalker SQC thttpd	Pull方式での通信およびポリシー配付機能を使用する場合に起動させるプロセスです。 Systemwalker SQC thttpdサービスを自動起動させる方法は、「 2.5 thttpdサービス/デーモンの自動起動設定 」を参照してください。

【Linux版】

プロセス	起動と停止	説明
dcmd dsa_forwarder dsa_listener2 dsa_file dsa_tis dsa_cmd dsa_spacemon dsa_logfile dsa_execute dsa_telnet dsa_snmp dsa_mf	以下のコマンドで起動/停止します。 起動： systemctl start ssqcdcm 停止： systemctl stop ssqcdcm	dcmdがメインプロセスです。起動確認はこのプロセスで行ってください。 常駐する、「dsa_」で始まるプロセスは、動作条件によって異なります。
thttpd	以下のコマンドで起動/停止します。 起動： systemctl start ssqchttp 停止： systemctl stop ssqchttp	Pull方式での通信およびポリシー配付機能を使用する場合に起動させるプロセスです。 thttpdデーモンを自動起動させる方法は、「 2.5 thttpdサービス/デーモンの自動起動設定 」を参照してください。

ポイント

上記のsystemctlコマンドにstatusを指定して実行すると、Systemwalker Service Quality Coordinatorの状態を表示します。

注意

defunctプロセスが一時的に見えることがありますが、自動的に削除されますので対処は不要です。

【Solaris版】

プロセス	起動と停止	説明
dcmd	以下のスクリプトで起動/停止します。	dcmdがメインプロセスです。起動確認はこのプロセスで行ってください。

プロセス	起動と停止	説明
dsa_forwarder dsa_listener2 dsa_file dsa_tis dsa_cmd dsa_spacemon dsa_logfile dsa_execute dsa_telnet dsa_snmp	起動 : /etc/rc2.d/S99ssqcdcm start 停止 : /etc/rc0.d/K00ssqcdcm stop 完全停止 : /etc/rc0.d/K00ssqcdcm stop_wait	常駐する、「dsa_」で始まるプロセスは、動作条件によって異なります。  ポイント 停止オプション(stop)の場合、プロセスの終了シグナルを送信し、プロセスの終了を待たずにコマンドを完了します。 完全停止オプション(stop_wait)の場合、プロセスの終了シグナルを送信し、起動していたプロセスが終了するのを待ってからコマンドを完了します。 プロセスの再起動を行う場合、完全停止オプション(stop_wait)を利用して停止し、コマンドの完了後に起動オプション(start)で起動してください。
thttpd	以下のスクリプトで起動/停止します。 起動 : /opt/FJSVssqc/bin/ssqchttp start 停止 : /opt/FJSVssqc/bin/ssqchttp stop	Pull方式での通信およびポリシー配付機能を使用する場合に起動させるプロセスです。 thttpdデーモンを自動起動させる方法は、「 2.5 thttpdサービス/デーモンの自動起動設定 」を参照してください。

ポイント

上記スクリプトのstart/stop/stop_waitのオペランドを省略して実行すると、Systemwalker Service Quality Coordinatorの状態を表示します。

注意

defunctプロセスが一時的に見えることがありますが、自動的に削除されますので対処は不要です。

2.3 Agent

【Windows版】

プロセス	起動と停止	説明
dcm.exe dsa_forwarder.exe dsa_file.exe dsa_tis.exe dsa_cmd.exe dsa_spacemon.exe dsa_logfile.exe dsa_reg3.exe dsa_openreg.exe	以下のサービスを起動(開始)/停止します。 Systemwalker SQC DCM  注意 [Systemwalker SQC DCM]サービスの再起動を実施する場合、Windowsのサービス画面で「サービスの再起動」を実行しないでください。 「サービスの停止」を実行してから、しばらくして、「サービスの開始」を実行してください。	dcm.exeがメインプロセスです。起動確認はこのプロセスで行ってください。 「dsa_」で始まるプロセスは、動作条件によって、常駐しないことがあります。

プロセス	起動と停止	説明
dsa_execute.exe dsa_mf.exe		
thttpd.exe	以下のサービスを起動(開始)/停止します。 Systemwalker SQC thttpd	Pull方式での通信およびポリシー配付機能を使用する場合に起動させるプロセスです。 Systemwalker SQC thttpdサービスを自動起動させる方法は、「 2.5 thttpdサービス/デーモンの自動起動設定 」を参照してください。

【Linux版】

プロセス	起動と停止	説明
dcmd dsa_forwarder dsa_file dsa_tis dsa_cmd dsa_spacemon dsa_logfile dsa_execute dsa_mf	以下のコマンドで起動/停止します。 起動： systemctl start ssqcdcm 停止： systemctl stop ssqcdcm	dcmdがメインプロセスです。起動確認はこのプロセスで行ってください。 常駐する、「dsa_」で始まるプロセスは、動作条件によって異なります。
thttpd	以下のコマンドで起動/停止します。 起動： systemctl start ssqchttp 停止： systemctl stop ssqchttp	Pull方式での通信およびポリシー配付機能を使用する場合に起動させるプロセスです。 thttpdデーモンを自動起動させる方法は、「 2.5 thttpdサービス/デーモンの自動起動設定 」を参照してください。



ポイント

上記のsystemctlコマンドにstatusを指定して実行すると、Systemwalker Service Quality Coordinatorの状態を表示します。



注意

defunctプロセスが一時的に見えることがありますが、自動的に削除されますので対処は不要です。

【Solaris版】

プロセス	起動と停止	説明
dcmd dsa_forwarder dsa_file dsa_tis	以下のスクリプトで起動/停止します。 起動： /etc/rc2.d/S99ssqcdcm start 停止： /etc/rc0.d/K00ssqcdcm stop	dcmdがメインプロセスです。起動確認はこのプロセスで行ってください。 常駐する、「dsa_」で始まるプロセスは、動作条件によって異なります。

プロセス	起動と停止	説明
dsa_cmd dsa_spacemon dsa_logfile dsa_execute	完全停止 : /etc/rc0.d/K00ssqcdcm stop_wait	 ポイント 停止オプション(stop)の場合、プロセスの終了シグナルを送信し、プロセスの終了を待たずにコマンドを完了します。 完全停止オプション(stop_wait)の場合、プロセスの終了シグナルを送信し、起動していたプロセスが終了するのを待ってからコマンドを完了します。 プロセスの再起動を行う場合、完全停止オプション(stop_wait)を利用して停止し、コマンドの完了後に起動オプション(start)で起動してください。
thttpd	以下のスクリプトで起動/停止します。 起動 : /opt/FJSVssqc/bin/ssqchttp start 停止 : /opt/FJSVssqc/bin/ssqchttp stop	Pull方式での通信およびポリシー配付機能を使用する場合に起動させるプロセスです。 thttpdデーモンを自動起動させる方法は、「 2.5 thttpdサービス/デーモンの自動起動設定 」を参照してください。

ポイント

上記スクリプトのstart/stop/stop_waitのオペランドを省略して実行すると、Systemwalker Service Quality Coordinatorの状態を表示します。

注意

defunctプロセスが一時的に見えることがありますが、自動的に削除されますので対処は不要です。



2.4 Enterprise Manager

【Windows版】

プロセス	起動と停止	説明
dcm.exe dsa_pdb_writer3.exe dsa_pdb_reader3.exe dsa_listener2.exe dsa_file.exe dsa_tis.exe dsa_cmd.exe dsa_spacemon.exe dsa_logfile.exe dsa_execute.exe	以下のサービスを起動(開始)/停止します。 Systemwalker SQC DCM  注意 [Systemwalker SQC DCM]サービスの再起動を実施する場合、Windowsのサービス画面で「サービスの再起動」を実行しないでください。 「サービスの停止」を実行してから、しばらくして、「サービスの開始」を実行してください。	dcm.exeがメインプロセスです。起動確認はこのプロセスで行ってください。 常駐する、「dsa_」で始まるプロセスは、動作条件によって異なります。

プロセス	起動と停止	説明
dsa_mf.exe	クラスタシステムに登録している場合には、クラスタ環境から起動/停止を行ってください。	
thttpd.exe	以下のサービスを起動(開始)/停止します。 Systemwalker SQC thttpd	ポリシー配付機能を使用する場合に起動させるプロセスです。 Systemwalker SQC thttpdサービスを自動起動させる方法は、「 2.5 thttpdサービス/デーモンの自動起動設定 」を参照してください。

【Linux版】

プロセス	起動と停止	説明
dcmd dsa_pdb_writer3 dsa_pdb_reader3 dsa_listener2 dsa_file dsa_tis dsa_cmd dsa_spacemon dsa_logfile dsa_execute dsa_mf	以下のコマンドで起動/停止します。 起動： systemctl start ssqcdcm 停止： systemctl stop ssqcdcm	dcmdがメインプロセスです。起動確認はこのプロセスで行ってください。 常駐する、「dsa_」で始まるプロセスは、動作条件によって異なります。  注意 クラスタシステムに登録している場合には、クラスタ環境から起動/停止を行ってください。
thttpd	以下のコマンドで起動/停止します。 起動： systemctl start ssqchttp 停止： systemctl stop ssqchttp	ポリシー配付機能を使用する場合に起動させるプロセスです。 thttpdデーモンを自動起動させる方法は、「 2.5 thttpdサービス/デーモンの自動起動設定 」を参照してください。



ポイント

上記のsystemctlコマンドにstatusを指定して実行すると、Systemwalker Service Quality Coordinatorの状態を表示します。



注意

defunctプロセスが一時的に見えることがありますが、自動的に削除されますので対処は不要です。

【Solaris版】

プロセス	起動と停止	説明
dcmd dsa_pdb_writer3 dsa_pdb_reader3	以下のスクリプトで起動/停止します。 起動： /etc/rc2.d/S99ssqcdcm start	dcmdがメインプロセスです。起動確認はこのプロセスで行ってください。

プロセス	起動と停止	説明
dsa_listener2 dsa_file dsa_tis dsa_cmd dsa_spacemon dsa_logfile dsa_execute	停止 : /etc/rc0.d/K00ssqcdcm stop 完全停止 : /etc/rc0.d/K00ssqcdcm stop_wait	常駐する、「dsa_」で始まるプロセスは、動作条件によって異なります。  ポイント 停止オプション(stop)の場合、プロセスの終了シグナルを送信し、プロセスの終了を待たずにコマンドを完了します。 完全停止オプション(stop_wait)の場合、プロセスの終了シグナルを送信し、起動していたプロセスが終了するのを待ってからコマンドを完了します。 プロセスの再起動を行う場合、完全停止オプション(stop_wait)を利用して停止し、コマンドの完了後に起動オプション(start)で起動してください。  注意 クラスタシステムに登録している場合には、クラスタ環境から起動/停止を行ってください。
thttpd	以下のスクリプトで起動/停止します。 起動 : /opt/FJSVssqc/bin/ssqchttp start 停止 : /opt/FJSVssqc/bin/ssqchttp stop	ポリシー配付機能を使用する場合に起動させるプロセスです。 thttpdデーモンを自動起動させる方法は、「 2.5 thttpdサービス/デーモンの自動起動設定 」を参照してください。

ポイント

上記スクリプトのstart/stop/stop_waitのオペランドを省略して実行すると、Systemwalker Service Quality Coordinatorの状態を表示します。

注意

defunctプロセスが一時的に見えることがありますが、自動的に削除されますので対処は不要です。

2.5 thttpdサービス/デーモンの自動起動設定

ここでは、Pull方式での通信およびポリシー配付機能を使用する場合に起動するプロセスを、自動起動させる場合の手順を説明します。

■実行に必要な権限

【Windows版】

Administratorsグループに所属するユーザー権限が必要です。

【UNIX版】

システム管理者(スーパーユーザー)権限が必要です。

■自動起動設定手順

【Windows版】

1. [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス]を選択します。
2. 「Systemwalker SQC thttpd」を選択し、[プロパティ]を起動します。
3. [全般]タブの、「スタートアップの種類」を「自動」に変更します。

【Linux版】

以下のコマンドを実行してデーモンの自動起動設定を行います。

```
# systemctl enable ssqchttp
```

【Solaris版】

以下のコマンドを実行して起動スクリプトを設定します。

```
# cd /etc/rc2.d
# ln -s /opt/FJSVssqc/bin/ssqchttp S99ssqchttp
```

以下のコマンドを実行して停止スクリプトを設定します。

```
# cd /etc/rc0.d
# ln -s /opt/FJSVssqc/bin/ssqchttp K00ssqchttp
```

■自動起動解除手順

【Windows版】

1. [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス]を選択します。
2. 「Systemwalker SQC thttpd」を選択し、[プロパティ]を起動します。
3. [全般]タブの、「スタートアップの種類」を「手動」に変更します。

【Linux版】

以下のコマンドを実行してデーモンの自動起動解除を行います。

```
# systemctl disable ssqchttp
```

【Solaris版】

以下のコマンドを実行して起動・停止スクリプトを削除します。

```
# rm -f /etc/rc2.d/S99ssqchttp
```

```
# rm -f /etc/rc0.d/K00ssqchttp
```

第3章 リソース構成情報(MiddlewareConf.xml)

本構成情報ファイルは、XMLの構造になっています。

本ファイルは、「1.1.1 sqcRPolicy(サーバ内リソース情報収集ポリシー作成コマンド)」または「1.1.7 sqcCtrlPolicy(ポリシーリモート操作コマンド)」の、sqcCtrlPolicy.exe -e RPコマンドを実行することにより自動生成されます。

ただし、コマンドが本ファイルを生成した後に、内容を編集することで、管理対象を削除することができます。必要に応じて編集してください。編集する場合には、本製品のDVD-ROMの、以下の場所に添付されているXMLエディタを使用すると、簡単に編集することができます。

■格納場所

```
<DVD-ROM>
|
+-tools
|
+-xml
|
+-OpeneXeed.exe
```



注意

本ファイルを編集する際には、編集する前にリネームするなどして、必ずオリジナルファイルのバックアップをとってください。一度削除した管理対象を再度追加する際に必要になります。

以下、MiddlewareConf.xmlの編集方法について説明します。

3.1 格納場所

本ファイルの格納場所は以下のとおりです。

【Windows版】

```
<可変ファイル格納ディレクトリ>%control%\MiddlewareConf.xml
```

【UNIX版】

```
/etc/opt/FJSVssqc/MiddlewareConf.xml
```

3.2 編集方法

■定義内容

本ファイルは、「1.1.1 sqcRPolicy(サーバ内リソース情報収集ポリシー作成コマンド)」または「1.1.7 sqcCtrlPolicy(ポリシーリモート操作コマンド)」の、sqcCtrlPolicy.exe -e RPコマンドを実行することにより自動生成されます。

ファイル内部には、コマンド実行によって自動検出されたOSの識別と各ミドルウェアの検出結果がXML形式で定義されます。

本ファイルに定義されるタグ情報について、下表に示します。

タグ名	管理対象
Interstage	Interstage Application Server情報
Interstage_Txn	Interstage トランザクション内訳分析情報
TxnAnalysisSync	トランザクション内訳分析(同期)
TxnAnalysisAsync	トランザクション内訳分析(非同期)
TxnAnalysisOssJava	オープンJavaフレームワーク性能情報
Symfoware	Symfoware Server(V12以降のNativeのインターフェース)/ Symfoware Server(V11以前)情報
Postgres	Symfoware Server(Postgres)/ PostgreSQL 情報
SRC_Storage	ETERNUS SF Storage Cruiser情報
OperationMgr	Systemwalker Operation Manager情報
ISI	Interstage Service Integrator情報
SAP	SAP NetWeaver情報

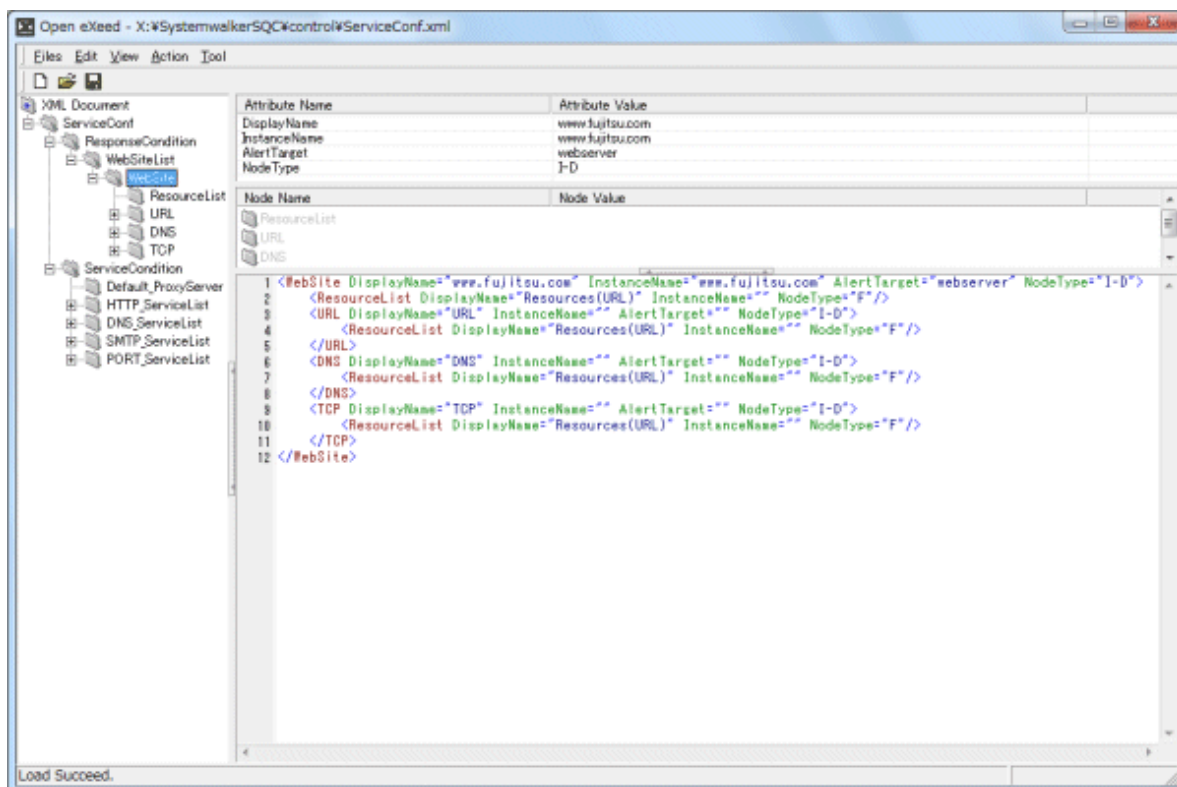
■編集方法

本ファイルに定義された管理対象を対象から除外したい場合に、本ファイルの編集を行います。該当ミドルウェアのタグで囲まれたリソース構成情報の内容をすべて削除してください。

編集する際に、本製品付属のXMLエディタを使用する場合は、以下がポイントとなります。

- 各タグは、XMLエディタのツリー(View:XML Structure)で確認してください。
- 属性を定義する場合は、ツリー上で編集対象のタグを選択し、タグの属性が表示されている箇所(View:XML Data)において定義する属性名(Attribute Name)をダブルクリック、または右クリックメニューの[Edit]から表示される[属性の編集]ウィンドウにて属性を定義してください。

- ・タグ単位に追加をする場合は、[Edit]メニューの[Copy][Paste]や右クリックメニューの[Duplicate]または[Copy][Paste]などを使用すると、簡単に編集できます。



ポイント

- ・ Symfoware Server(Postgres)/PostgreSQL情報の場合、以下の手順によりデータベース単位で管理対象から除外することができます。
 1. 「Postgres」タグ配下の「Postgres_Port」タグの中から、対象のインスタンスの使用するポート番号を「InstanceName」属性に持つものを探します。
 2. 手順1.で探した「Postgres_Port」タグ配下の「Postgres_DB」タグの中から、対象のデータベース名を「InstanceName」属性に持つものを探し、対象の「Postgres_DB」タグを削除します。
- ・ 一度削除したミドルウェアを再度管理対象とする場合には、バックアップファイルより、該当箇所をコピーして本ファイルに追加してください。

第4章 データフォーマット

この章では、PDBに格納される性能情報の一覧を掲載します。

注意

- 増減がある項目の場合はマイナスの値が表示されることがあります。
例えば「Description」欄に「システムが解放」と説明がある項目でマイナスの値が表示された場合は、「システムが割り当てた」と言う意味になります。
- 連携製品のサービスやインスタンスの起動、停止のタイミングによって、フィールドに値が格納されない場合があります。
- 一時的なシステム負荷やネットワーク負荷により、フィールドに値が格納されない場合がありますが、頻発しなければ問題ありません。

4.1 サマリ情報

本情報は、サマリ機能で使用するサマリデータの情報です。

ポイント

- しきい値監視で使用する、レコード番号とフィールド名は、それぞれRecord No.とField Nameに対応します。
- サマリデータの収集間隔は、情報により異なります。
- 以降の説明で、Description欄に<Windows>,<Solaris>等とある説明は、それぞれ<>内に示すOS、CPU等の固有情報です。

本バージョンレベルのサポート対象外のOSについての記載は、旧版のAgentが接続する場合のための説明です。

注意

- コンソールのサマリ表示では、テキスト情報には、表示されないものがあります。
- コンソールのサマリ表示では、ここで示されるすべての情報が表示されるわけではありません。複数の情報の計算結果が表示されることや、表示に使用されない情報があることがあります。

モニタごとに説明します。

4.1.1 UserResponseMonitor

収集間隔は10分です。

Record ID : SUM_USERRES

Record No. : F1004

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
wElapsedTime	BrowserAgent	seconds	Webページの表示にかかった時間
wAgent	BrowserAgent		Agent名

4.1.2 ServiceAvailMonitor

収集間隔は1、2、5、10分の指定が可能です。

設定手順については、サービス稼働管理を行うProxy Managerのバージョンレベルの使用手引書「サービス稼働管理」を参照してください。

Record ID : SUM_SERVICERES

Record No. : F1005

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
HTTPResponse	swmprototyping	mseconds/number	HTTP/DNS/SMTPサービス およびポートの稼働状態。 HTTP/DNS/SMTPサービス ・ 0以上:稼働中(応答時間) ・ -1:停止中 ポート ・ 0:稼働中 ・ -1:停止中

4.1.3 WebTrnMonitor

収集間隔は10分です。

Record ID : SUM_TLA

Record No. : F1020

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
hitserver	tlawatch	times	サーバヒット数(総量)
hitclient	tlawatch	times	クライアントヒット数(総量)
hitremote	tlawatch	times	リモートヒット数(総量)
selapse	tlawatch	seconds	所要時間(最大値) (注1)
traffic	tlawatch	Kbytes	トラフィック量(総量) (注2)

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
error	tlawatch	times	エラー数(総量)
errorfmt	tlawatch	times	フォーマットエラー数(総量)

注1) トランザクションログ定義ファイルのFormat文でs-elapseが設定されていない場合は、データは収集されません。

注2) フィールド「traffic」のデータは、トランザクションログ定義ファイルのFormat文でs-bytesが設定されていない場合は、データは収集されません。

4.1.4 ServerMonitor

収集間隔はインストール型Agentの場合は1分です。インストールレス型Agentの場合は5分です。

Record ID : SUM_PROC (注)

Record No. : 1052

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
usrproc	OS	percent	ユーザーモードにおけるCPU使用率
sysproc	OS	percent	システムモードにおけるCPU使用率
intproc	OS	percent	Unix:単位時間内でのI/O完了待ち時間率 <AIX, HP-UX, Linux sysstat-5以降, Solaris(Solaris 11.2以降は除く)> Windows:単位時間内でのI/O中断待ち時間率
totproc	OS	percent	合計CPU使用率

注) Oracle Solaris ゾーンのglobal zoneおよびnon-global zoneより性能情報を収集する場合、各項目の値については以下のとおりです。

- ・ゾーンにCPUの割り当てを行っている場合、割り当てたリソースプール単位の情報が合算で出力されます。
- ・ゾーンにCPUの割り当てを行っていない場合、システム全体の情報が収集されます。

Record ID : SUM_MEM(注1)

Record No. : 1053

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
freemem	OS	bytes	ユーザープロセスに利用できるメモリサイズ <UNIX> (注2) 利用可能メモリサイズ(Free、ZeroedおよびStandby) <Windows>

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
			 注意 Solarisの場合、本フィールドにはZFSファイルキャッシュの使用分は含まれていません。 ZFSファイルキャッシュを加味した利用可能なメモリ量の値は、下記のレコード・フィールドにおいて確認が可能です。 ・ UX_MEMSTATレコードのavailablememフィールド
pagins	OS	pages	ページインされたページ数 <Solaris, Windows> (注3)
		Kbytes	ページインされたページサイズ <Linux>
pagflts	OS	faults	ページフォルト数 <HP-UX, Solaris, Windows> (注3)
swapused	OS	percent	使用中のスワップまたはページファイル数の割合 (注4)
pagouts	OS	pages	ページアウトされたページ数 <Solaris, Windows> (注3)
		Kbytes	ページアウトされたページサイズ <Linux>

注1) 本レコードのデータは一時的なシステム負荷などにより収集コマンドの結果が復帰しなかった場合に、値が入らないフィールドがあることがありますが、頻発しなければ問題ありません。

注2) Oracle Solaris ゾーンのglobal zoneおよびnon-global zoneより性能情報を収集する場合、ゾーンごとではなく、システム全体の値となります。

注3) Oracle Solaris ゾーンのglobal zoneおよびnon-global zoneより性能情報を収集する場合、項目の値については以下のとおりです。

- ・ゾーンにCPUの割り当てを行っている場合、割り当てたリソースプール単位の情報が合算で出力されます。
- ・ゾーンにCPUの割り当てを行っていない場合、システム全体の情報が収集されます。

注4) Oracle Solaris ゾーンのglobal zoneおよびnon-global zoneより性能情報を収集する場合、項目の値については以下のとおりです。

- ・ゾーンにcapped-memoryのswapの設定を行っている場合、ゾーンごとの情報が表示されます。
- ・ゾーンにcapped-memoryのswapの設定を行っていない場合、システム全体の情報が収集されます。

Record ID : SUM_DISK (注)

Record No. : 1054

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
dskreads	OS	reads	ディスクからの読み込み回数 <Linux, Solaris, Windows> ディスクからの読み込み + 書き込み回数 <AIX, HP-UX>
dskwrits	OS	writes	ディスクへの書き込み回数 <Linux, Solaris, Windows>

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
kbread	OS	Kbytes	キロバイト単位でのディスクからの読み込み量 <AIX, Linux, Solaris, Windows> キロバイト単位でのディスクからの読み込み + 書き込み量 <HP-UX>
kbwritn	OS	Kbytes	キロバイト単位でのディスクへの書き込み量 <AIX, Linux, Solaris, Windows>
dsksrvctim	OS	seconds	Read/Writeのサービス時間
dskwaittim	OS	seconds	Read/Writeの待ち時間

注) 以下の注意事項があります。

•Oracle Solarisゾーンのglobal zoneおよびnon-global zoneより性能情報を収集する場合、ゾーンごとではなく、システム全体の値となります。

•Linuxの場合、nfsの情報は収集されません。

4.1.5 ZoneMonitor(Solaris10)/ZoneStackMonitor(Solaris10)

収集間隔は1分です。

Record ID : SUM_ZONE

Record No. : 1088

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
zsummem	prstat -Z	percent	Solarisゾーンのプロセスのメモリ使用率 <Solaris 10>
zsumcpu	prstat -Z	percent	SolarisゾーンのプロセスのCPU使用率 <Solaris 10>  ポイント intervalの間に終了したプロセスの情報は含まれない。したがって実際のCPU使用率より低い値となることがある。 Solarisゾーンをプロセッサセットにバインドして使用している場合、CPU使用率はプロセッサセット単位に100%となる。
zsumname	prstat -Z		Solarisゾーンのゾーン名 <Solaris 10>

4.1.6 Enterprise Application Platform(GlassFish ServerCluster)Monitor

収集間隔は5分です。

Record ID : SUM_EAP_JMX_JAVAEE_JVM

Record No. : F1070

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
eapjmxjheapavg	eapjmx	byte	メモリ割り当てプールサイズ(サーバーインスタンス単位)
eapjmxjvmprn	eapjmx	byte	メタスペースサイズ(サーバーインスタンス単位)
eapjmxgbcnt	eapjmx	number	ガーベジコレクション(Full GC+GC)の発生回数(サーバーインスタンス単位)

4.1.7 Interstage(EJB)Monitor

収集間隔は5分です。

Record ID : SUM_ISPEJBAPL

Record No. : F1007

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
eMaxReqTime	ispreport -k EJBAPL	msecond s	収集間隔内の、当該スレッドにおける監視対象メソッドの最大処理時間
eMaxWaitTime	ispreport -k EJBAPL	msecond s	収集間隔内の、クライアントアプリケーションからの要求を受け付けてからメソッドの処理開始までの最大処理待ち時間
eReqNum	ispreport -k EJBAPL	number	収集間隔内に、当該EJBアプリケーションの累積処理回数
eWaitNum	ispreport -k EJBAPL	number	収集間隔内の、当該EJBアプリケーションに対して処理待ちとなった要求の最大数。EJBアプリケーションがMessage-driven Beanの場合には、必ず”0”

4.1.8 Interstage(TD)Monitor

収集間隔は5分です。

Record ID : SUM_ISPTDOBJ

Record No. : F1006

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
tMaxReqTime	ispreport - k TDOBJ	msecond s	収集間隔内に当該プロセスで処理されたオペレーションの最大処理時間

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
tMaxWaitTime	ispreport - k TDOBJ	mseconds	クライアントアプリケーションからの要求を受け付けてからサーバアプリケーションの処理を開始するまでの時間で収集間隔内の最大処理待ち時間
tReqNum	ispreport - k TDOBJ	number	性能監視開始時からの当該オブジェクトの累積処理数
tWaitNum	ispreport - k TDOBJ	number	収集間隔内に当該オブジェクトに対して処理待ちとなった要求の最大数

4.1.9 Interstage(CORBA)Monitor

収集間隔は5分です。

Record ID : SUM_ISPIMPLID

Record No. : F1008

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
iMaxReqTime	ispreport - k IMPLID	mseconds	収集間隔内の、当該スレッドにおける当該オペレーションの最大処理時間
iMaxWaitTime	ispreport - k IMPLID	mseconds	収集間隔内の、クライアントアプリケーションからの要求を受け付けてからオブジェクトの処理開始までの最大処理時間
iReqNum	ispreport - k IMPLID	number	収集間隔内の、当該オブジェクトの累積処理回数
iWaitNum	ispreport - k IMPLID	number	収集間隔内の、当該オブジェクトに対して処理待ちとなった要求の最大数

4.1.10 Interstage(IJServer)Monitor

収集間隔は5分です。

Record ID : SUM_ISJMXJVM

Record No. : F1029

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
isjmxjheapavg	jmxif	number	現在のヒープ使用量の平均値(ワークユニット単位)
isjmxjheapmax	jmxif	number	現在のヒープ使用量の最大値(ワークユニット単位)

4.1.11 Interstage(IJServerCluster)Monitor

収集間隔は5分です。

Record ID : SUM_IS_JMX_JAVAEE_JVM

Record No. : F1058

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
isjmxjheapavg	isjmx	byte	現在のヒープ使用量の平均値(サーバーインスタンス単位) <Java EE 5、Java EE 6> メモリ割り当てプールの現在値(サーバーインスタンス単位)<Java EE 7、Jakarta EE>
isjmxjvmpm	isjmx	byte	Perm領域のヒープ使用量の現在値(サーバーインスタンス単位) <Java EE 5、Java EE 6> メタスペースの現在値(サーバーインスタンス単位) <Java EE 7、Jakarta EE>
isjmxgbgcnt	isjmx	number	ガーベジコレクションの発生回数(サーバーインスタンス単位) <Java EE 5、Java EE 6> ガーベジコレクション(Full GC+GC)の発生回数(サーバーインスタンス単位)<Java EE 7、Jakarta EE>

4.1.12 TxnSyncMonitor

収集間隔は10分です。

Record ID : SUM_TDASYNC

Record No. : F1030

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
trxsync	Log	number	トランザクション数
avgtimsync	Log	second	トランザクション平均実行時間(秒)
maxtimsync	Log	second	トランザクション最大実行時間(秒)

4.1.13 TxnAsyncMonitor

収集間隔は10分です。

Record ID : SUM_TDAASYNC

Record No. : F1031

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
trxasync	Log	number	トランザクション数
avgtimasync	Log	second	トランザクション平均実行時間(秒)
maxtimasync	Log	second	トランザクション最大実行時間(秒)

4.1.14 TxnOssJavaMonitor

収集間隔は10分です。

Record ID : SUM_TDAOSSJAVA

Record No. : F1057

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
txrossjava	Log	number	トランザクション数
avgtimossjava	Log	second	トランザクション平均実行時間(秒)
maxtimossjava	Log	second	トランザクション最大実行時間(秒)

4.1.15 ISI SequenceMonitor

収集間隔は1分です。

Record ID : SUM_ISISEQ (注)

Record No. : F1032

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
sseqnum	ISI	number	シーケンス処理件数
stext	ISI		送受信;プロトコル;同期種別;エンドポイント説明

注) 本レコードのデータは、フィールド「sseqnum」の値が0の場合は収集されません。

4.1.16 ISI QueueMonitor

収集間隔は1分です。

Record ID : SUM_ISIQUE

Record No. : F1033

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
qincflag	ISI	number	キュー滞留数増加傾向フラグ(10秒間隔ごとの6回のサンプリング結果が連続して増加傾向にあった場合、1を設定します)
qnumofsty50	ISI	number	キュー滞留数50秒前
qnumofsty40	ISI	number	キュー滞留数40秒前
qnumofsty30	ISI	number	キュー滞留数30秒前
qnumofsty20	ISI	number	キュー滞留数20秒前
qnumofsty10	ISI	number	キュー滞留数10秒前
qnumofsty	ISI	number	キュー滞留数最新
qtext	ISI		プロトコル:送受信:キュー説明

4.1.17 WebLogicServerMonitor

収集間隔は5分です。

Record ID : SUM_WL_JMX_JAVAAEE_JVM

Record No. : F1059

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
wljmxjheapavg	wljmx	byte	現在のヒープ使用量の平均値(管理サーバまたは管理対象サーバ単位)
wljmxgbcnt	wljmx	number	ガーベジコレクションの発生回数(管理サーバまたは管理対象サーバ単位) (Solarisの場合収集されません。)

4.1.18 MS-.NET_Monitor

収集間隔は1分です。

Record ID : SUM_ASP_NET

Record No. : 1106

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
reqqd	MS.NET	number	処理待ち要求数
apprsr	MS.NET	number	アプリケーションが再起動された回数
wprestrt	MS.NET	number	ワーカープロセスが再起動された回数
errtot	MS.NET	number	発生したエラーの総数

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
reqsec	MS.NET	number	収集期間中に実行した要求数

4.1.19 SymfowareMonitor

Symfoware Server (Openインターフェース) およびSymfoware Server (Postgres) の場合は、[4.1.23 PostgresMonitor](#)を参照してください。

収集間隔は5分です。

Record ID : SUM_RDBSAR

Record No. : F1009

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ebHitRate	rdbsar -e -b	percent	アクセス対象のページがバッファ上に存在した割合
Alarm	rdbsar -e -b	number	危険率に到達した回数
DryUp	rdbsar -e -b	number	バッファ枯渇数

Record ID : SUM_RDBPS

Record No. : F1010

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
TOTALEXEC	rdbps -s/sp	number	SQL文実行回数
rDeadLock	rdbps -r	number	デッドロック回数
rLockWait	rdbps -r	number	占有待ち回数

4.1.20 SymfowareAnalyticsServerMonitor

収集間隔は5分です。

Record ID : SUM_SYMFOAS_STAT_CONNECT

Record No. : F1085

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
sumpgxa_active_connect	pg_stat_activity	number	実行中(active)のクライアントのコネクション数 本製品の性能情報収集のためのアクセスによる値(1～インスタンス内のデータベース総数)が含まれます。
sumpgxa_active_long_connect	pg_stat_activity	number	長時間待ち状態のクライアントのコネクション数  ポイント - 本製品の性能情報収集のためのアクセスによる値(0～インスタンス内のデータベース総数)が含まれる場合があります。 - 待ち状態とは、トランザクション中でかつ待ち状態(idle in transaction)のクライアントのコネクションを示します。 - 長時間待ちと判断する時間は、デフォルトでは60分以上です。長時間待ちの設定についての詳細は、使用手引書"Symfowaser Analytics Serverとの連携"を参照してください。

4.1.21 OracleMonitor

収集間隔は5分です。

Record ID : SUM_ORAIO (注)

Record No. : F1011

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
blkget	Oracle	number	獲得DBブロック数
phyread	Oracle	number	物理読み込み数
congets	Oracle	number	Consistent gets(一貫性のある読み込み)

注) CDBから収集したデータは、マルチテナント・コンテナ・データベース全体を表す値になります。

Record ID : SUM_ORAQUE (注)

Record No. : F1012

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
enqwt	Oracle	number	Enqueue待ち数
enqddlks	Oracle	number	Enqueueデッドロック数

注)CDBから収集したデータは、マルチテナント・コンテナ・データベース全体を表す値になります。

4.1.22 MS-SQL_Monitor

収集間隔は1分です。

Record ID : SUM_SQLS

Record No. : 1107

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
bmbch	MSSQL	percent	バッファキャッシュヒット率
dbtra	MSSQL	transactions	トランザクション数
lolws	MSSQL	waits	待機待ちロック要求数
lodlk	MSSQL	deadlocks	デッドロック数
accfss	MSSQL	scans	フルスキャン数

4.1.23 PostgresMonitor

Symfoware Server (Openインターフェース) およびSymfoware Server (Postgres) の場合は本項を参照してください。

収集間隔は5分です。

Record ID : SUM_POSTGRES_PG_STAT_DB_IO

Record No. : F1075

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
sumpgstatdb_numbackends	pg_stat_database	number	接続中のバックエンドプロセス数 本製品の性能情報収集のためのアクセスによる値(1～インスタンス内のデータベース総数)が含まれます。
sumpgstatdb_xact_commit	pg_stat_database	number	コミットされた回数 本製品の性能情報収集のためのアクセスによる値(16)が含まれます。
sumpgstatdb_xact_rollback	pg_stat_database	number	ロールバックされた回数

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
			本製品の性能情報収集のためのアクセスによる値(0～16程度)が含まれる場合があります。
sumpgstatdb_blks_read	pg_stat_database	number	ブロックリード数 本製品の性能情報収集のためのアクセスによる値(0～3018程度)が含まれる場合があります。
sumpgstatdb_blks_hit	pg_stat_database	number	ブロックのキャッシュヒット数 本製品の性能情報収集のためのアクセスによる値(0～3018程度)が含まれる場合があります。

Record ID : SUM_POSTGRES_PG_STAT_DB_SQL

Record No. : F1076

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
sumpgstatdb_tup_returned	pg_stat_database	number	表スキャンでの読み取り行数 本製品の性能情報収集のためのアクセスによる値が含まれる場合があります。
sumpgstatdb_tup_fetched	pg_stat_database	number	インデックススキャンでの読み取り行数 本製品の性能情報収集のためのアクセスによる値が含まれる場合があります。
sumpgstatdb_tup_inserted	pg_stat_database	number	INSERTされた行数
sumpgstatdb_tup_updated	pg_stat_database	number	UPDATEされた行数
sumpgstatdb_tup_deleted	pg_stat_database	number	DELETEされた行数

Record ID : SUM_POSTGRES_PG_DATABASE_SIZE

Record No. : F1078

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
sumpgdbsize_database_size	pg_stat_database	GB	データベースで使用されるディスク領域

4.1.24 OperationMgrMonitor

収集間隔は5分です。

Record ID : SUM_JLA

Record No. : F1021

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
maxjobsum	dsajla	jobs	ジョブ多重度
maxothjobsum	dsajla	jobs	ネットワーク・負荷分散ジョブ多重度(受ける分)
maxwjobsum	dsajla	jobs	実行待ちジョブ数

Record ID : SUM_JLA2

Record No. : F1056

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
jobnumsum	dsajla	jobs	終了ジョブ数
errorjobnumsum	dsajla	jobs	エラージョブ数

4.1.25 TcpNetworkMonitor

収集間隔は5分です。

Record ID : SUM_NET1

Record No. : F1002

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
Opkts	Tcpstat	number	送信パケット数
Osize	Tcpstat	number	送信パケットサイズ
Ipkts	Tcpstat	number	受信パケット数
Isize	Tcpstat	Number	受信パケットサイズ
Odup	Tcpstat	Percent	再送率(全コネクション中のエラー検知コネクションの割合)
Idup	Tcpstat	Percent	重複受信率(全コネクション中のエラー検知コネクションの割合)
Ilost	Tcpstat	Percent	パケットロスト率(全コネクション中のエラー検知コネクションの割合)

Record ID : SUM_NET2

Record No. : F1003

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
Town	Tcpstat	Number	自ノードに問題があると推定しsyslog通知を行った回数
Tnei	Tcpstat	Number	隣接ネットワークを含むネットワークに問題があると推定しsyslog通知を行った回数
Tnet	Tcpstat	Number	隣接以外のネットワークに問題があると推定しsyslog通知を行った回数
Trem	Tcpstat	Number	相手ノードおよびその近接ネットワークに問題があると推定しsyslog通知を行った回数

4.1.26 StorageMonitor

収集間隔は5分です。

Record ID : SUM_SSCRGREAD

Record No. : F1022

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
riops	sc_perf_stat	IO/s	READ IO回数がRAIDGroup内のLVの中で最も大きい値
rthruput	sc_perf_stat	MB/s	READスループットがRAIDGroup内のLVの中で最も大きい値
rrestime	sc_perf_stat	Msec	READレスポンスタイムがRAIDGroup内のLVの中で最も大きい値
rcrate	sc_perf_stat	Percent	READキャッシュヒット率がRAIDGroup内のLVの中で最も小さい値
rpricrate	sc_perf_stat	Percent	READプリフェッチキャッシュヒット率がRAIDGroup内のLVの中で最も小さい値

Record ID : SUM_SSCRGWRITE

Record No. : F1023

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
wiops	sc_perf_stat	IO/s	WRITE IO回数がRAIDGroup内のLVの中で最も大きい値
wthruput	sc_perf_stat	MB/s	WRITEスループットがRAIDGroup内のLVの中で最も大きい値

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
wrestime	sc_perf_stat	Msec	WRITEレスポンスタイムがRAIDGroup内のLVの中で最も大きい値
wcrate	sc_perf_stat	Percent	WRITEキャッシュヒット率がRAIDGroup内のLVの中で最も小さい値
puserate	sc_perf_stat	Percent	RAIDGroup内のDiskの使用率の平均値

4.1.27 SAP Monitor

収集間隔は5分です。

Record ID : SUM_R3ENQ

Record No. : F1034

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
R3sumenqreq	SAP CCMS	Request/sec	エンキュー依頼の数(エンキュー操作)
R3sumdeqreq	SAP CCMS	Request/sec	デキュー依頼の数
R3sumquelen	SAP CCMS	Percent	キューの長さのパーセント

Record ID : SUM_R3DIALOG

Record No. : F1035

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
R3sumdiaresp	SAP CCMS	Msec	ダイアログ応答時間
R3sumdiastep	SAP CCMS	Steps/min	ダイアログステップ数

Record ID : SUM_R3BACKGRND

Record No. : F1036

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
R3sumbgutil	SAP CCMS	Percent	バックグラウンドプロセス負荷率

Record ID : SUM_R3RFC

Record No. : F1037

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
R3sumrfctcall	SAP CCMS	Calls/sec	自システム上で実行待ち状態である受信tRFC/qRFC コールの数

4.1.28 ROR(VMPool)Monitor

収集間隔は5分です。

Record ID : SUM_VMPOOLCPU

Record No. : F1061

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vmpoolprocpcent	ROR	percent	VMプールのCPU使用率
vmpoolproc	ROR	GHz	VMプールのCPU使用量
vmpoolproctenant	ROR		VMプールが属しているテナント名

Record ID : SUM_VMPOOLMEM

Record No. : F1062

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vmpoolmempcent	ROR	percent	VMプールのメモリ使用率
vmpoolmem	ROR	GByte	VMプールのメモリ使用量
vmpoolmemtenant	ROR		VMプールが属しているテナント名

4.1.29 ROR(StoragePool)Monitor

収集間隔は5分です。

Record ID : SUM_STORAGEPOOL

Record No. : F1063

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
storagepoolpcent	ROR	percent	ストレージプールの使用率
storagepoolusage	ROR	GByte	ストレージプールの使用量
storagepooltenant	ROR		ストレージプールが属しているテナント名

4.1.30 ROR(NetworkPool)Monitor

収集間隔は5分です。

Record ID : SUM_NETWORKPOOL

Record No. : F1064

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
networkpoolpcent	ROR	percent	ネットワークプールの使用率
networkpoolusage	ROR	number	ネットワークプールのアドレス使用数
networkpooltenant	ROR		ネットワークプールが属しているテナント名

4.1.31 ROR(ServerPool)Monitor

収集間隔は5分です。

Record ID : SUM_SERVERPOOL

Record No. : F1065

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
serverpoolpcent	ROR	percent	サーバプールの使用率
serverpoolusage	ROR	number	サーバプールの使用数
serverpooltenant	ROR		サーバプールが属しているテナント名

4.1.32 ROR(AddressPool)Monitor

収集間隔は5分です。

Record ID : SUM_ADDRESSPOOL

Record No. : F1066

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
addresspoolpcent	ROR	percent	アドレスプールの使用率
addresspoolusage	ROR	number	アドレスプールの使用数
addresspooltenant	ROR		アドレスプールが属しているテナント名

4.1.33 VMware(Virtual)StackMonitor

収集間隔は5分です。

VMware ESXとVMware ESXiの性能情報です。



- データフォーマットはHTTPS接続とSSH接続で同じですが、収集される項目に違いがあります。
 - 「Description」欄に<SSH>とある情報は、SSH接続の場合のみ収集され、HTTPS接続では収集されません。
 - 「Description」欄に<HTTPS>とある情報は、HTTPS接続の場合のみ収集され、SSH接続では収集されません。
- Source欄の(注)は、以下を表します。
 - HTTPS接続の場合: SOAP API
 - SSH接続の場合: esxtop

Record ID : SUM_VMWVPROC

Record No. : 1209

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
usrproc	(注)	percent	仮想マシン単位の使用された物理CPU使用率
vsysproc	(注)	percent	仮想マシン単位のCPUがESX/ESXi Vmkernel内で消費された時間の割合
ready	(注)	percent	仮想マシン単位のCPU割当待ち時間の割合
run	(注)	percent	仮想マシン単位のCPUがスケジュールされた時間の割合
vcusemhz	(注)	MHz	仮想マシンのCPU使用量(MHz)<HTTPS>
vcnumcpu	(注)	number	CPU数<HTTPS>
vccpuallmax	(注)	MHz	仮想マシンに割り当てられたCPUの制限 制限なしの場合は-1
vmw_proc_name	(注)		仮想マシン名

Record ID : SUM_VMWVMEM

Record No. : 1207

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
activemem	(注)	Mbytes	仮想マシン単位の有効なメモリの使用量
pagcins	(注)	pages	仮想マシン単位のコミットページ<SSH>
swread	(注)	MBytes	仮想マシン単位のスワップインされたメモリサイズ
swritn	(注)	Mbytes	仮想マシン単位のスワップアウトされるメモリサイズ
vswapused	(注)	percent	仮想マシン単位のスワップされたメモリサイズ
vmemctlmb	(注)	Mbytes	仮想マシン単位のバルーンドライバによって回収されるゲスト物理メモリのサイズ
vmeconfigmemsz	(注)	Mbytes	仮想マシンに構成されている物理メモリサイズ(搭載メモリ量)
vmw_mem_name	(注)		仮想マシン名

Record ID : SUM_VMWVMEM2

Record No. : 1225

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vmememallmax	(注)	Mbytes	仮想マシンに割り当てられたメモリの制限 制限なしの場合は-1
vmw_mem2_name	(注)	name	仮想マシン名

Record ID : SUM_VMWVDISK

Record No. : 1208

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vdskreads	(注)	reads	仮想マシン単位のディスク読み込み回数 (注1)
vdskwrits	(注)	writes	仮想マシン単位のディスク書き込み回数 (注1)
mbread	(注)	Mbytes	仮想マシン単位のディスク読み込みサイズ (注1)
mbwritn	(注)	Mbytes	仮想マシン単位のディスク書き込みサイズ (注1)
vdsksrvtim	(注)	millisec	仮想マシン単位のESX Server VMkernel平均待ち時間 <SSH> (注1)
vdskwaittim	(注)	millisec	仮想マシン単位の仮想マシンOS平均待ち時間 <SSH> (注1)
vmw_dsk_name	(注)		仮想マシン名

注1) vSANデータストアに配備された仮想マシンの場合は収集されません。

Record ID : SUM_VMWVNET

Record No. : 1233

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vnetmbtrans	(注)	Mbits	仮想ネットワークデバイスポート単位の転送サイズ
vnetmbrecv	(注)	Mbits	仮想ネットワークデバイスポート単位の受信サイズ
vnetoutpcktdr	(注)	percent	仮想ネットワークデバイスポート単位の転送パケットのドロップ数の割合
vnetrecvpcktdr	(注)	percent	仮想ネットワークデバイスポート単位の受信パケットのドロップ数の割合
vmw_net_name	(注)	name	仮想マシン名

4.1.34 VMware(Physical)Monitor

収集間隔は5分です。

VMware ESXとVMware ESXiの性能情報です。



- データフォーマットはHTTPS接続とSSH接続で同じですが、収集される項目に違いがあります。
 - 「Description」欄に<SSH>とある情報は、SSH接続の場合のみ収集され、HTTPS接続では収集されません。
- Source欄の(注)は、以下を表します。
 - HTTPS接続の場合: SOAP API
 - SSH接続の場合: esxtop

Record ID : SUM_VMWPPROC

Record No. : 1220

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
pcuser	(注)	percent	サービス コンソールによって報告されたCPUのユーザー時間の割合 <SSH>
pcsystime	(注)	percent	サービス コンソールによって報告されたCPUのシステム時間の割合 <SSH>
pcconwait	(注)	percent	サービス コンソールによって報告されたCPUの待ち時間の割合 <SSH>
pctottime	(注)	percent	物理CPUの平均CPU使用率
pccoremhz	(注)	MHz	1コアあたりのCPU速度
pccorenum	(注)	Number	ホストのCPUコア数

Record ID : SUM_VMWPMEM

Record No. : 1221

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
pmfree	(注)	Mbytes	物理サーバの空きメモリサイズ
pmused	(注)	Mbytes	物理サーバの物理メモリサイズ
pmswused	(注)	MBytes	物理サーバのスワップサイズ
pmswact	(注)	Mbytes	物理サーバのスワップイン+スワップアウトのメモリサイズ
pmmemcompsize	(注)	Mbytes	ホスト単位の圧縮されたメモリサイズ
pmtotmemsize	(注)	Mbytes	ホストのメモリ搭載量

Record ID : SUM_VMWPDISK

Record No. : 1222

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
pdskreads	(注)	reads	ディスク読み込み回数
pdskwrits	(注)	writes	ディスク書き込み回数
pmbread	(注)	Mbytes	ディスク読み込みサイズ
pmbwritn	(注)	Mbytes	ディスク書き込みサイズ
pdsksrvcitm	(注)	millisec	Read/WriteのESX/ESXi Server VMkernel平均待ち時間
pdskwaittim	(注)	millisec	Read/Writeの仮想マシンOS平均待ち時間
pname_disk	(注)		デバイス名 (収集していないフィールドのため、データは表示されず、空欄となります。)

Record ID : SUM_VMWPDISK2

Record No. : 1224

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
pdskavgdcmd	(注)	millisec	物理ディスク単位のデバイス平均待ち時間
pdskavgkrncmd	(注)	millisec	物理ディスク単位のESX/ESXi Server VMkernel平均待ち時間

Record ID : SUM_VMWPNET

Record No. : 1234

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
pnetmbtrans	(注)	Mbits	物理ネットワークデバイスポート単位の転送サイズ
pnetmbrecv	(注)	Mbits	物理ネットワークデバイスポート単位の受信サイズ
pnetoutpcktdr	(注)	percent	物理ネットワークデバイスポート単位の転送パケットのドロップ数の割合
pnetrecvpcktdr	(注)	percent	物理ネットワークデバイスポート単位の受信パケットのドロップ数の割合

4.1.35 VMware(Cluster)Monitor

収集間隔は5分です。

VMware vCenterの性能情報です。

Record ID : SUM_VMWCLUSTERCPU (注)

Record No. : 1236

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
clcpuusage	SOAP API	MHz	クラスタ内の全VMでアクティブに使われたCPUの使用量(MHz)
clusecupcent	SOAP API	percent	クラスタ内の全VMでアクティブに使われたCPUの使用率(%)
cltotalcpu	SOAP API	MHz	クラスタ内のCPU割り当て量

注) 収集される最新のデータは、現在時刻より1時間前のデータとなります。

Record ID : SUM_VMWCLUSTERMEM (注)

Record No. : 1237

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
clconsumedmem	SOAP API	MBytes	クラスタ内の電源ONのホストのメモリ使用量
cloverheadmem	SOAP API	MBytes	クラスタ内のメモリのオーバーヘッドの量
clusemempcent	SOAP API	percent	クラスタ内のメモリの使用率(%)
cltotalmemory	SOAP API	MBytes	クラスタ内のメモリ割り当て量

注) 収集される最新のデータは、現在時刻より1時間前のデータとなります。

4.1.36 VMware(ResourcePool)Monitor

収集間隔は5分です。

VMware vCenterの性能情報です。

Record ID : SUM_VMWRRPOOLCPU (注)

Record No. : 1238

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
rscpuusage	SOAP API	MHz	リソースプールのCPU使用量
rscpulimit	SOAP API	MHz	リソースプールのCPU制限量 制限なしの場合は-1
rscpuresv	SOAP API	MHz	リソースプールのCPU予約量
rscpualloc	SOAP API	MHz	リソースプールに割り当てられたCPU量 (MHz) リソースプールに含まれる仮想マシンがすべて停止している場合、値は0になります。

注) 収集される最新のデータは、現在時刻より1時間前のデータとなります。

Record ID : SUM_VMWRRPOOLMEM (注)

Record No. : 1239

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
rsmemusage	SOAP API	MBytes	リソースプールのメモリ使用量
rsmemswapped	SOAP API	MBytes	リソースプールのスワップされたメモリ量 (VMware vCenter 5.0以降の場合、収集されません。)
rsmemlimit	SOAP API	MBytes	リソースプールのメモリ制限量 制限なしの場合は-1
rsmemresv	SOAP API	MBytes	リソースプールのメモリ予約量
rsmemalloc	SOAP API	MBytes	リソースプールに割り当てられたメモリ量 (MB) リソースプールに含まれる仮想マシンがすべて停止している場合、値は0になります。

注) 収集される最新のデータは、現在時刻より1時間前のデータとなります。

4.1.37 HyperV(Virtual)StackMonitor

収集間隔はインストール型Agentの場合は1分です。インストールレス型Agentの場合は5分です。

Record ID : SUM_HVVPROC

Record No. : 1219

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
pgrts	reg typeperf	percent	仮想マシンのペアレントOSおよび仮想マシンのゲストコードが消費した総プロセッサ時間の使用率
phrts	reg typeperf	percent	仮想マシンのペアレントOSおよび仮想マシンのハイパーバイザーコードが消費した総プロセッサ時間の使用率
ptrts	reg typeperf	percent	仮想マシンのペアレントOSおよび仮想マシンのゲストコードとハイパーバイザーコードが消費した総プロセッサ時間の使用率

Record ID : SUM_HVVMEM

Record No. : 1252

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ppmdmvms	reg typeperf	Mbytes	仮想マシンの現在のメモリ容量 <Windows Server 2008 R2 SP1以降>
pgvpmdmvms	reg typeperf	Mbytes	仮想マシンで表示されるメモリ容量 <Windows Server 2008 R2 SP1以降>

4.1.38 HyperV(Physical)Monitor

収集間隔はインストール型Agentの場合は1分です。インストールレス型Agentの場合は5分です。

Record ID : SUM_HVPPROC

Record No. : 1223

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
pgrtsp	typeperf	percent	物理コンピューターのゲストコードが消費した総プロセッサ時間の使用率
phrtsp	typeperf	percent	物理コンピューターのハイパーバイザーコードが消費した総プロセッサ時間の使用率
ptrtsp	typeperf	percent	物理コンピューターのゲストコードとハイパーバイザーコードが消費した総プロセッサ時間の使用率

4.1.39 KVM(Virtual)StackMonitor

収集間隔はインストール型Agentの場合は1分です。インストールレス型Agentの場合は5分です。

Record ID : SUM_KVMVPROC

Record No. : 1267

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
kvmcpupcent	virt-top	percent	ドメインのCPU使用率
kvmcpudomainname	virt-top		ドメイン名

Record ID : SUM_KVMVMEM

Record No. : 1268

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
kvmmemused	virt-top	MBytes	ドメインのメモリ使用量
kvmmemmax	virt-top	MBytes	ドメインのメモリ割当量
kvmmempcent	virt-top	percent	ドメインのメモリ使用率
kvmmemdomainname	virt-top		ドメイン名

Record ID : SUM_KVMVDISK

Record No. : 1269

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
kvmdiskblockrdb	virt-top	bytes	ドメインの仮想ブロックデバイスのread量
kvmdiskblockwrby	virt-top	bytes	ドメインの仮想ブロックデバイスのwrite量
kvmdiskdomainname	virt-top		ドメイン名

4.1.40 Xen(Virtual)StackMonitor

収集間隔はインストール型Agentの場合は1分です。インストールレス型Agentの場合は5分です。

Record ID : SUM_XENVPROC

Record No. : 1226

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
cpubusy	xentop	percent	ドメインのCPU使用率
xen_proc_name	xentop		ドメイン名

Record ID : SUM_XENVMEM

Record No. : 1227

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
memav	xentop	Mbytes	ドメインのメモリ使用量
memavp	xentop	percent	ドメインのメモリ使用率
xen_mem_name	xentop		ドメイン名

Record ID : SUM_XENVDISK

Record No. : 1228

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ooc	xentop	number	ドメインの仮想ブロックデバイスに対するread/write以外の要求の回数
vdrds	xentop	number	ドメインの仮想ブロックデバイスのread回数
vdwrts	xentop	number	ドメインの仮想ブロックデバイスのwrite回数
xen_dsk_name	xentop		ドメイン名

4.1.41 cgroupMonitor

収集間隔は5分です。

Record ID : SUM_CGROUP_CPU

Record No. : CGR1012

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
cgroupsumcpuacctstatuser	cpuacct.stat	nsec	ユーザーモードにおけるCPU使用時間
cgroupsumcpuacctstatsystem	cpuacct.stat	nsec	システムモードにおけるCPU使用時間
cgroupsumcpuacctusagepercent	cpu.usage	percent	合計CPU使用率
cgroupsumcpuacctusage		nsec	合計CPU使用時間

Record ID : SUM_CGROUP_MEM

Record No. : CGR1013

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
cgroupsummemoryfreeinbytes	memory.limit_in_bytes memory.usage_in_bytes	bytes	cgroup内のプロセスによる現在のメモリ空き容量  注意 memory.limit_in_bytes (ユーザーメモリの最大値 (ファイルキャッシュ含む) に非常に大きい値 (例: 9223372036854775807) が定義されている場合収集されません。
cgroupsummemorymemswfreeinbytes	memory.memsw.limit_in_bytes memory.memsw.usage_in_bytes	bytes	cgroup内のプロセスによる現在のメモリ空き容量(スワップ領域含む)  注意 memory.memsw.limit_in_bytes (メモリとスワップ使用量の合計の最大値) に非常に大きい値 (例: 9223372036854775807) が定義されている場合収集されません。
cgroupsummemorystatcache	memory.stat	bytes	tmpfs (shmem) を含むページキャッシュ
cgroupsummemorystatrss	memory.stat	bytes	tmpfs (shmem) を含まない匿名のスワップキャッシュ
cgroupsummemorystatswap	memory.stat	bytes	スワップの使用量
cgroupsummemorystatpgpgin	memory.stat	number	メモリにページインされたページ数
cgroupsummemorystatpgpgout	memory.stat	number	メモリからページアウトされたページ数

Record ID : SUM_CGROUP_BLKIO (注)

Record No. : CGR1014

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
cgroupsumblkioioservicedread	blkio.io_serviced	number	全デバイス上で実行されたI/O操作の回数 (Read)
cgroupsumblkioioservicedwrite	blkio.io_serviced	number	全デバイス上で実行されたI/O操作の回数 (Write)
cgroupsumblkioioservicebytesread	blkio.io_service_bytes	bytes	デバイスとの間で転送されたバイト数 (Read)
cgroupsumblkioioservicebyteswrite	blkio.io_service_bytes	bytes	デバイスとの間で転送されたバイト数 (Write)

注) 本レコードのデータは、blkioサブシステムのデバイスが設定されていない場合、または、デバイスに対する性能情報が全て収集されない場合、収集されません。

4.1.42 ZoneMonitor

収集間隔はインストール型Agentの場合は1分です。インストールレス型Agentの場合は5分です。

Record ID : SUM_ZONEPROC

Record No. : 1230

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
zonecpuused	zonestat	second	SolarisゾーンのCPU使用時間 <Solaris 11>
zonecpupct	zonestat	percent	SolarisゾーンのCPU使用率 <Solaris 11>
zonecpuzonename	zonestat		ゾーン名 <Solaris 11>

Record ID : SUM_ZONEMEM

Record No. : 1231

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
zonepmemused	zonestat	Kbytes	Solarisゾーンの物理メモリ使用量 <Solaris 11>
zonepmempct	zonestat	percent	Solarisゾーンの物理メモリ使用率 <Solaris 11>
zonememzonename	zonestat		ゾーン名 <Solaris 11>

4.1.43 OVMSPARCMonitor

収集間隔は5分です。

Record ID : SUM_OVMSPARCVPROC

Record No. : 1272

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ovmcpupcent	ldm ls-dom	percent	ドメインのCPU使用率
ovmcpus	ldm ls-dom	number	ドメインに割り当てられたCPUスレッド(VCPU)数
ovmcpudomainname	ldm ls-dom		ドメイン名

Record ID : SUM_OVMSPARCVMEM

Record No. : 1273

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ovmmemused	ldm ls-dom	MB	ドメインのメモリ割当量
ovmmempcent	ldm ls-dom	percent	ドメインのメモリ割当率
ovmmemdomainname	ldm ls-dom		ドメイン名

Record ID : SUM_OVMSPARCVCPU

Record No. : 1276

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ovmvpus	ldm ls-permits ldm ls-devices	number	物理サーバのアクティベーション済のCPUスレッド (VCPU)数(合計)
ovmvpuclock	psrinfo	MHz	物理サーバのCPUコアクロック周波数
ovmvpuclocks	ldm ls-permits ldm ls-devices	MHz	物理サーバのアクティベーション済のCPUスレッド (VCPU)の総クロック周波数

Record ID : SUM_OVMSPARCVMEMTOT

Record No. : 1277

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ovmmemtot	ldm ls-devices	MB	物理サーバの使用可能な総メモリ量

4.1.44 OpenStack(Compute)Monitor

収集間隔は10分です。

Record ID : SUM_OSTACK_COMPUTE_INSTANCE

Record No. : ostsum0001

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ostsumcompcpuutil	Telemetry	percent	CPU使用率
ostsumcompmemusage	Telemetry	Mbytes	メモリ使用量 OpenStackが利用するハイパーバイザーがmemory.usageをサポートしている場合のみ収集されます。
ostsumcompdisk	Telemetry	number	ディスクI/O回数
ostsumcompdiskbyte	Telemetry	Mbytes	ディスクスループット
ostsumcompnetbyte	Telemetry	Mbytes	ネットワークスループット
ostsumcompvmname			インスタンス名

4.1.45 OpenStackCompute(Resource)Monitor

収集間隔は5分です。

Record ID : SUM_OSTACK_RESOURCE_COMPUTE

Record No. : ostsum0011

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ostsumrescompused	Compute	メモリ以外: number メモリ: Mbytes	リソース使用量 (インスタンス数、仮想CPU数、メモリ)
ostsumrescomplimit	Compute	メモリ以外: number メモリ: Mbytes	リソース制限量 (インスタンス数、仮想CPU数、メモリ)
ostsumrescompusage	Compute	percent	リソース使用率 (インスタンス数、仮想CPU数、メモリ)
ostsumrescomptenant			テナント名

4.1.46 PrimesoftMonitor



注意

Primesoftクライアントの「PrimesoftMonitor」を表示した場合、[メモリテーブル]、[アプリケーション]の情報が存在しないため、「指定された条件を満たすデータはありませんでした。」と表示されます。

収集間隔は1分です。

Record ID : SUM_PSOFTMEMTBL (注)

Record No. : F1053

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
Qnumofsty	Primesoft API	number	メッセージキュー滞留数(全Primesoftキュー合計)
MemtblAreaUsageRate	Primesoft API	number	メモリテーブルエリア使用率
AlarmNum	Primesoft API	number	メモリテーブルエリアアラーム/メモリテーブルレコード件数アラーム/キュー滞留メッセージ数アラームの発生回数

注) 本レコードのデータは、Activeインスタンスのみ収集、表示されます。

Record ID : SUM_PSOFTAPI (注)

Record No. : F1054

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
TranNum	Primesoft API	number	トランザクション実行回数
DeadlockNum	Primesoft API	number	デッドロック発生回数
AlertWaitNum	Primesoft API	number	排他待ち時間アラーム超え回数の合計

注) 本レコードのデータは、Activeインスタンスのみ収集、表示されます。

Record ID : SUM_PSOFTPKT

Record No. : F1055

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
PacketNum	Primesoft API	number	送受信パケット数
RetryNum	Primesoft API	number	パケット再送発生回数
pnumofsty	Primesoft API	number	受信パケット滞留数

4.1.47 UserDataMonitor

収集間隔は5分です。

設定手順については、使用手引書「ユーザーデータ管理」を参照してください。

定義できるユーザーデータは、20種類です。

Record IDは、SUM_UDATA_1～SUM_UDATA_20まで存在します。

以下の表では、Record IDを「SUM_UDATA_**n**」と表記します (**n**=1、2、3・・・20)。

Record ID : SUM_UDATA_**n**

Record No. : (注意)

Table name : summary_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
smud n data1	sqcPDBcl oad	number	sqcPDBclloadのデータ変換定義ファイル内で col_data_num1に指定したデータ
smud n data2	sqcPDBcl oad	number	sqcPDBclloadのデータ変換定義ファイル内で col_data_num2に指定したデータ
smud n data3	sqcPDBcl oad	number	sqcPDBclloadのデータ変換定義ファイル内で col_data_num3に指定したデータ
smud n data4	sqcPDBcl oad	number	sqcPDBclloadのデータ変換定義ファイル内で col_data_num4に指定したデータ
smud n data5	sqcPDBcl oad	number	sqcPDBclloadのデータ変換定義ファイル内で col_data_num5に指定したデータ
smud n data6	sqcPDBcl oad	number	sqcPDBclloadのデータ変換定義ファイル内で col_data_num6に指定したデータ
smud n data7	sqcPDBcl oad	number	sqcPDBclloadのデータ変換定義ファイル内で col_data_num7に指定したデータ
smud n txt1	sqcPDBcl oad		sqcPDBclloadのデータ変換定義ファイル内で col_data_txt1に指定したデータ



注意

しきい値監視を設定するときにはRecord No.の定義が必要です。Record IDと対応するRecord No.は下記のとおりです。

Record ID	Record No.
SUM_UDATA_1	F1024
SUM_UDATA_2	F1025
SUM_UDATA_3	F1026
SUM_UDATA_4	F1027
SUM_UDATA_5	F1028
SUM_UDATA_6	F1038
SUM_UDATA_7	F1039
SUM_UDATA_8	F1040
SUM_UDATA_9	F1041
SUM_UDATA_10	F1042

Record ID	Record No.
SUM_UDATA_11	F1043
SUM_UDATA_12	F1044
SUM_UDATA_13	F1045
SUM_UDATA_14	F1046
SUM_UDATA_15	F1047
SUM_UDATA_16	F1048
SUM_UDATA_17	F1049
SUM_UDATA_18	F1050
SUM_UDATA_19	F1051
SUM_UDATA_20	F1052

4.2 詳細/レポート情報

本情報は、詳細およびレポート機能で使用するリソースデータの情報です。

ポイント

- ・ しきい値監視で使用する、レコード番号とフィールド名は、それぞれRecord No.とField Nameに対応します。
- ・ ただし、「4.2.22 詳細なし/Centric Managerへレポート」で示すSystemwalker Centric Managerの性能情報(トラフィック情報)、「4.2.24 詳細なし/Network Managerへレポート」で示すSystemwalker Network Manager情報は、しきい値監視には使用できません。
- ・ 本情報は、10分間隔の情報を詳細機能およびレポート画面で、1時間/1日間隔の情報をレポート画面で表示します。
- ・ コンソールの詳細表示では、テキスト情報には、表示されないものがあります。
- ・ 以降の説明で、Description欄に<Windows>,<Solaris>等とある説明は、それぞれ<>内に示すOS、CPU等の固有情報です。

本バージョンレベルのサポート対象外のOSについての記載は、旧版のAgentが接続する場合のための説明です。

詳細表示のツリーのフォルダ、およびレポート種別ごとに説明します。以下の表題は、「詳細表示のツリーのフォルダ名/レポート種別名」の形式です。

4.2.1 ResponseConditionフォルダ配下/エンドユーザーレスポンスレポート

Record ID : WEBSLM_WWW

Record No. : FJ1024

Table name : resource_data_twide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
wPageRef	BrowserAgent		WebPageレコードの識別子
wElapsedTime	BrowserAgent	seconds	Webページの表示にかかった時間

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
wInterruptFlag	BrowserAgent		表示中断フラグ。以下のうち、いずれか ・ 0→中断なし ・ 1→中断あり。エンドユーザーが停止ボタンをクリックした、他のハイパーリンクをクリックした、またはブラウザを閉じた。 ・ 2→中断あり。Proxyまたはネットワークによりセッションが中断された。
ThinkTime	BrowserAgent	seconds	閲覧時間(ダウンロード完了から次ページへ移動するまで、またはブラウザを閉じるまで)
wAgent	BrowserAgent		Agent名
wEndUserID	BrowserAgent		エンドユーザー識別子
wBrowser	BrowserAgent		ブラウザ種別 ・ “iexplore”→Internet ExplorerまたはMicrosoft Edge (IEモード)
wBrowserID	BrowserAgent		ブラウザのインスタンス識別子
wPageURL	BrowserAgent	URL	WebページのURL
wReferringURL	BrowserAgent	URL	ハイパーリンクのクリックにより表示された場合の、ハイパーリンク設定ページのURLです。アドレスバーから指定された場合は値はありません。
Protocol	BrowserAgent		ダウンロードに使用したプロトコル。以下のいずれか ・ “HTTP” ・ “HTTPS”
wStartTime	BrowserAgent		Webページの表示をリクエストした時刻

Record ID : WEBSLM_URL (注)

Record No. : FJ1025

Table name : resource_data_ttwide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
uPageRef	Browser Agent		WebPageレコード識別子
uElapsedTime	Browser Agent	seconds	URLのダウンロードにかかった時間。DNS解決の時間は含まれない。
uSocket	Browser Agent		TCP接続のローカルソケット
uInterruptFlag	Browser Agent		ダウンロード中断フラグ。以下のいずれか ・ “0”→中断なし

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
			“1”→中断あり。エンドユーザーが停止ボタンをクリックした、他のハイパーリンクをクリックした、またはブラウザを閉じた。 “2”→中断あり。Proxyまたはネットワークによりセッションが中断された。
ResponseCode	Browser Agent		HTTPレスポンスのステータスコード
RequestSize	Browser Agent	bytes	HTTPリクエストのバイト数
RespHeaderSize	Browser Agent	bytes	HTTPレスポンスヘッダのバイト数
URLsize	Browser Agent	bytes	URLのバイト数
uAgent	Browser Agent		Agent名
uEndUserID	Browser Agent		エンドユーザー識別子
uBrowser	Browser Agent		ブラウザ種別 “iexplore”→Internet Explorer
uBrowserID	Browser Agent		ブラウザのインスタンス識別子
uPageURL	Browser Agent	URL	WebページのURL
uReferringURL	Browser Agent	URL	リンク元のURL
uStartTime	Browser Agent		URLのダウンロードをリクエストした時刻

注) 本レコードのデータは、測定対象のブラウザがInternet Explorer 10以前の場合に収集されます。

Record ID : WEBSLM_TCP (注)

Record No. : FJ1026

Table name : resource_data_twide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
tPageRef	BrowserAgent		WebPageレコード識別子
tElapsedTime	BrowserAgent	seconds	接続にかかった時間
tStatus	BrowserAgent		接続の成否。以下のいずれか “0”→成功 “1”→失敗
tSocket	BrowserAgent		TCP接続のローカルソケット番号

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
tAgent	BrowserAgent		Agent名
tEndUserID	BrowserAgent		エンドユーザー識別子
tBrowser	BrowserAgent		ブラウザ種別 ・ “iexplore”→Internet Explorer
tBrowserID	BrowserAgent		ブラウザのインスタンス識別子
IP	BrowserAgent		接続先のIPアドレス
tStartTime	BrowserAgent		TCP接続をリクエストした時刻

注) 本レコードのデータは、測定対象のブラウザがInternet Explorer 10以前の場合に収集されます。

Record ID : WEBSLM_DNS (注)

Record No. : FJ1027

Table name : resource_data_twide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
dPageRef	BrowserAgent		WebPageレコード識別子
dElapsedTime	BrowserAgent	seconds	DNS解決にかかった時間
dStatus	BrowserAgent		接続の成否。以下のいずれか ・ “0”→成功 ・ “1”→失敗
dAgent	BrowserAgent		Agent名
dEndUserID	BrowserAgent		エンドユーザー識別子
dBrowser	BrowserAgent		ブラウザ種別 ・ “iexplore”→Internet Explorer
dBrowserID	BrowserAgent		ブラウザのインスタンス識別子
dURL	BrowserAgent		リクエストされたURL
dStartTime	BrowserAgent		DNS解決をリクエストした時刻

注) 本レコードのデータは、測定対象のブラウザがInternet Explorer 10以前の場合に収集されます。

4.2.2 ServiceConditionフォルダ配下/(HTTP/DNS/SMTP/PORT)サービスレポート

Record ID : PROPING_HTTP

Record No. : FJ1029

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
HTTPResponse	swmprot oping	milliseco nds	HTTPサービスの応答時間 ・ 0以上:応答時間 ・ -1:停止中
HTTPMax	swmprot oping	milliseco nds	HTTPサービスの応答時間最大値。 データの統合間隔(10分/1時間/1日)内での最大値
HTTPMin	swmprot oping	milliseco nds	HTTPサービスの応答時間最小値。 データの統合間隔(10分/1時間/1日)内での最小値
HTTPAvailability	swmprot oping	number	HTTPサービスの可用性 データの統合間隔(10分/1時間/1日)内での可用性 を0～1で表す。 例) 0:0%稼働 0.5:50%稼働 1:100%稼働

Record ID : PROPING_DNS

Record No. : FJ1030

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
DNSResponse	swmprot oping	milliseco nds	DNSサービスの応答時間 ・ 0以上:応答時間 ・ -1:停止中
DNSMax	swmprot oping	milliseco nds	DNSサービスの応答時間最大値。 データの統合間隔(10分/1時間/1日)内での最大値
DNSMin	swmprot oping	milliseco nds	DNSサービスの応答時間最小値。 データの統合間隔(10分/1時間/1日)内での最小値
DNSAvailability	swmprot oping	number	DNSサービスの可用性 データの統合間隔(10分/1時間/1日)内での可用性 を0～1で表す。 例) 0:0%稼働 0.5:50%稼働 1:100%稼働

Record ID : PROPING_SMTTP

Record No. : FJ1031

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
SMTTPResponse	swmproto ping	milliseco nds	SMTPサービスの応答時間 ・ 0以上:応答時間 ・ -1:停止中
SMTTPMax	swmproto ping	milliseco nds	SMTPサービスの応答時間最大値。 データの統合間隔(10分/1時間/1日)内での最大値
SMTTPMin	swmproto ping	milliseco nds	SMTPサービスの応答時間最小値。 データの統合間隔(10分/1時間/1日)内での最小値
SMTTPAvailability	swmproto ping	number	SMTPサービスの可用性 データの統合間隔(10分/1時間/1日)内での可用性を 0～1で表す。 例) 0:0%稼働 0.5:50%稼働 1:100%稼働

Record ID : PROPING_PORT

Record No. : FJ1032

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
PORTAvailability	swmprot oping	number	ポートの稼働状態 ・ 0:稼働中 ・ -1:停止中  ポイント 詳細情報は10分間の平均をとって処理されているため、上記以外の情報(小数点の情報)で表示されることがあります。
PORTAvailability2	swmprot oping	number	ポートの可用性 データの統合間隔(10分/1時間/1日)内での可用性を0～1で表す。 例) 0:0%稼働 0.5:50%稼働 1:100%稼働

4.2.3 WebTrnフォルダ配下/Webトランザクションレポート

Record ID : TLA_REQ

Record No. : FJ1051

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
rrequest	tlawatch	times	リクエスト数(総量)
relapse	tlawatch	seconds	所要時間(最大値) (注1)
rtraffic	tlawatch	Kbytes	トラフィック量(総量) (注2)
rerror	tlawatch	times	エラー数(総量)
rhitsserver	tlawatch	times	サーバヒット数(総量)
rhitchient	tlawatch	times	クライアントヒット数(総量)
rhitemote	tlawatch	time	リモートヒット数(総量)

注1) トランザクションログ定義ファイルのFormat文でs-elapseが設定されていない場合は、データは収集されません。

注2) トランザクションログ定義ファイルのFormat文でs-bytesが設定されていない場合は、データは収集されません。

4.2.4 Windowsフォルダ配下/Windows～レポート

Record ID : WIN_DISKSPACE

Record No. : 1018

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
free	GetDiskFreeSpace()	bytes	ディスクの空き容量
total	GetDiskFreeSpace()	bytes	ディスク総容量
freepc	GetDiskFreeSpace()	percent	ディスクの空き率

Record ID : WIN_PROCESS (注)

Record No. : 1019

Table name : conres_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
psyscpu	reg	seconds	プロセスの特権モード時の動作時間
ptotcpu	reg	seconds	プロセスのプロセッサ経過時間
pusrcpu	reg	seconds	プロセスのユーザーモード動作時の経過時間

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
pthrdcnt	reg	threads	プロセスのスレッド数
pnpool	reg	bytes	プロセスのプールノンページド数
ppool	reg	bytes	プロセスのプールページド数
pvirtual	reg	bytes	プロセスでを使用した仮想メモリサイズ
ppagflt	reg	faults	プロセスでのページフォルト発生回数
ppagsiz	reg	bytes	プロセスのページファイル
ppagsiz	reg	bytes	プロセスの最大ページファイル数
pprivate	reg	bytes	プロセスのプライベートバイト数
pvrtpk	reg	bytes	プロセスの最大仮想メモリサイズ
pwork	reg	bytes	プロセスのワーキングセット
pwrkpk	reg	bytes	プロセスワーキングセットのピーク

注) 以下の注意事項があります。

- ・ 本レコードのデータは、フィールド「ptotcpu」の値が0の場合は収集されません。
- ・ Systemwalker Service Quality Coordinator Windows(32bit)版の場合、Windowsの仕様により、OSの性能情報について "4294967295"を超える値を取得しても、性能データベースには"4294967295"が格納されます。

Record ID : WIN_LOGDISKBUSY (注)

Record No. : 1020

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
lreadsec	reg	reads	論理ディスク読み取り操作回数
lwritsec	reg	writes	論理ディスク書き込み操作回数
lqueue	reg	requests	論理ディスクの待ち行列長
lreadbyt	reg	bytes	論理ディスク読み取りバイト数
lwritbyt	reg	bytes	論理ディスク書き込みバイト数
lreadtim	reg	seconds	論理ディスク読み取りビジーだった時間
lwrittim	reg	seconds	論理ディスク書き込みビジーだった時間
ldisktim	reg	seconds	論理ディスクがビジー状態だった時間
lidletim	reg	seconds	論理ディスクがアイドル状態だった時間

注) Systemwalker Service Quality Coordinator Windows(32bit)版の場合、Windowsの仕様により、OSの性能情報について "4294967295"を超える値を取得しても、性能データベースには"4294967295"が格納されます。

Record ID : WIN_PHYDISKBUSY (注)

Record No. : 1021

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
preadsec	reg	reads	物理ディスク読み取り操作回数
pwritesec	reg	writes	物理ディスク書き込み操作回数
pqueue	reg	requests	物理ディスクの待ち行列長(平均)
preadbyt	reg	bytes	物理ディスク読み取りバイト数
pwritebyt	reg	bytes	物理ディスク書き込みバイト数
preadtim	reg	seconds	物理ディスク読み取りビジーだった時間
pwrittim	reg	seconds	物理ディスク書き込みビジーだった時間
psecread	reg	seconds	物理ディスク読み取り時間
psecwrit	reg	seconds	物理ディスク書き込み時間
psectran	reg	seconds	物理ディスク転送時間
psplitio	reg	I/Os	物理ディスクI/O要求が分割された回数
pdisktim	reg	seconds	物理ディスクがビジー状態だった時間
pidletim	reg	seconds	物理ディスクがアイドル状態だった時間
pcqueue	reg	requests	物理ディスクの待ち行列長

注) Systemwalker Service Quality Coordinator Windows(32bit)版の場合、Windowsの仕様により、OSの性能情報について"4294967295"を超える値を取得しても、性能データベースには"4294967295"が格納されます。

Record ID : WIN_MEMORY (注)

Record No. : 1022

Table name : resource_data_vwide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
freemem	reg	bytes	利用可能メモリサイズ(Free、ZeroedおよびStandby)
cachtotl	reg	bytes	システムキャッシュ使用量
cachpeak	reg	bytes	システムキャッシュ使用最大値
cachflts	reg	faults	キャッシュフォルト数
comlim	reg	bytes	コミット限界数
comtot	reg	bytes	コミットサイズ
pagflts	reg	faults	ページフォルト数
pagins	reg	ins	ページイン数
sycchres	reg	bytes	システムキャッシュ常駐バイト数
sycodres	reg	bytes	システムコード常駐バイト数
sycodtot	reg	bytes	システムコードの総和
sydrvres	reg	bytes	システムドライバ常駐バイト数
sydrvtot	reg	bytes	システムドライバの総和
tranflt	reg	faults	遷移ページフォルト数
writcopy	reg	copies	書き込みページフォルト解決回数
nopagalc	reg	allocs	プールノンページド割り当て数

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
nopagtot	reg	bytes	プールノンページドバイト数
pagalloc	reg	allocs	プールページ割り当て呼び出し数
pagtot	reg	bytes	プールページドバイト数
pgrestot	reg	bytes	プールページド常駐バイト数
pagouts	reg	outs	ページアウト数

注) Systemwalker Service Quality Coordinator Windows(32bit)版の場合、Windowsの仕様により、OSの性能情報について"4294967295"を超える値を取得しても、性能データベースには"4294967295"が格納されます。

Record ID : WIN_PAGEFILE (注)

Record No. : 1045

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
pfusage	reg	percent	ページングファイルの使用率
pfusagepk	reg	percent	ページングファイルの使用率のピーク

注) Systemwalker Service Quality Coordinator Windows(32bit)版の場合、Windowsの仕様により、OSの性能情報について"4294967295"を超える値を取得しても、性能データベースには"4294967295"が格納されます。

Record ID : WIN_CPUBUSY (注)

Record No. : 1023

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
cpudcp	reg	seconds	プロセッサの遅延プロシジャ呼び出し時間
cpuint	reg	seconds	プロセッサのハードウェア割り込み処理時間
syscpu	reg	seconds	プロセッサのシステムモード動作時の経過時間
usrcpu	reg	seconds	プロセッサのユーザーモード動作時間
totcpu	reg	seconds	プロセッサの合計ビジー時間
cpupcent	reg	percent	プロセッサの使用率
interrupts	reg	interrupts	プロセッサのハードウェア割り込み処理回数

注) Systemwalker Service Quality Coordinator Windows(32bit)版の場合、Windowsの仕様により、OSの性能情報について"4294967295"を超える値を取得しても、性能データベースには"4294967295"が格納されます。

Record ID : WIN_NET_INTERFACE (注)

Record No. : 1024

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ifbytin	reg	bytes	受信されたバイト数
ifbytot	reg	bytes	送信されたバイト数
ifqulen	reg	packets	待ち行列長
ifpktin	reg	packets	パケット受信回数
ifpktot	reg	packets	パケット送信回数
ifbytestotsec	reg	bytes	送受信されたバイト数
ifcbw	reg	bps	ネットワークインターフェースの帯域幅

注) Systemwalker Service Quality Coordinator Windows(32bit)版の場合、Windowsの仕様により、OSの性能情報について"4294967295"を超える値を取得しても、性能データベースには"4294967295"が格納されます。

Record ID : WIN_NET_SYSTEM

Record No. : 1050

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
tcpconns	netstat	connections	TCPコネクション数

Record ID : WIN_SYSTEM (注)

Record No. : 1025

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
tpprocs	reg	processes	システムの全プロセス数
tthrds	reg	threads	システムの全スレッド数
fctlbyte	reg	bytes	ファイル制御バイト数
fctlops	reg	operations	ファイル制御操作数
freadbyt	reg	bytes	ファイル読み取りバイト数
freadops	reg	operations	ファイル読み取り操作数
fwritbyt	reg	bytes	ファイル書き込みバイト数
fwritops	reg	operations	ファイル書き込み操作数
thrswhchs	reg	switches	スレッド切り替え数
flems	reg	emulations	浮動小数点エミュレーション数
cpuqueue	reg	threads	プロセッサ待ち行列長
syscalls	reg	calls	システムコール数

注) Systemwalker Service Quality Coordinator Windows(32bit)版の場合、Windowsの仕様により、OSの性能情報について"4294967295"を超える値を取得しても、性能データベースには"4294967295"が格納されます。

Record ID : WIN_SYSTEMINFO

Record No. : FJ1385

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
tsysmem	WMI	Mbytes	物理メモリの合計サイズ(実際に利用可能なメモリ容量)
corenum	WMI	number	コア数
cpunum	WMI	number	論理CPU数
processor	WMI	MHz	CPU性能(現在のクロック数)

Record ID : WIN_MEMORY2 (注)

Record No. : 2065

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
page_reads	reg	reads	ハードページフォールトを解決するためのディスク読み取り操作数
pages	reg	pages	ハードページフォールトを解決するためのディスク読み取りまたは書き込みページ数
memcmtbyteinuse	reg	percent	Memory¥¥Committed Bytes の Memory¥¥Commit Limit に対する割合
memfreesyspgtblentry	reg	number	システムが現在使用していないページテーブルエントリの数

注) Systemwalker Service Quality Coordinator Windows(32bit)版の場合、Windowsの仕様により、OSの性能情報について"4294967295"を超える値を取得しても、性能データベースには"4294967295"が格納されます。

Record ID : WIN_PHYDISKBUSY2 (注)

Record No. : 2066

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
dskbyteread	reg	bytes	物理ディスク読み取り操作中にディスクから転送されたバイト数
dskbytetrans	reg	bytes	物理ディスク書き込みまたは読み取り操作中にディスク間で転送されたバイト数
dskreadqlen	reg	reads	物理ディスクのキューに入った読み取り要求数
dskwriteqlen	reg	writes	物理ディスクのキューに入った書き込み要求数

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
dskbytes	reg	bytes	物理ディスク書き込みまたは読み取り操作中にディスク間で転送されたバイト数
dsktransfer	reg	number	物理ディスク上の読み取りおよび書き込み操作回数

注) Systemwalker Service Quality Coordinator Windows(32bit)版の場合、Windowsの仕様により、OSの性能情報について"4294967295"を超える値を取得しても、性能データベースには"4294967295"が格納されます。

Record ID : WIN_SERVER (注)

Record No. : 2057

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
bytestotsec	reg	bytes	サーバがネットワーク間で送受信したバイト数
poolnpagefail	reg	number	非ページプールからの割り当てが失敗した回数
poolnpagepeak	reg	number	非ページプールの最大バイト数
poolpagefail	reg	number	ページプールからの割り当てが失敗した回数

注) Systemwalker Service Quality Coordinator Windows(32bit)版の場合、Windowsの仕様により、OSの性能情報について"4294967295"を超える値を取得しても、性能データベースには"4294967295"が格納されます。

Record ID : WIN_CACHE (注)

Record No. : 2067

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
mdlreadhits	reg	percent	キャッシュをヒットした、ファイルシステムキャッシュへのメモリ記述子リスト(MDL)読み取り要求の割合

注) Systemwalker Service Quality Coordinator Windows(32bit)版の場合、Windowsの仕様により、OSの性能情報について"4294967295"を超える値を取得しても、性能データベースには"4294967295"が格納されます。

Record ID : WIN_TCP (注)

Record No. : 2068

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
connsestab	reg	connections	ESTABLISHEDまたはCLOSE-WAITのいずれかであるTCP接続の数

注) Systemwalker Service Quality Coordinator Windows(32bit)版の場合、Windowsの仕様により、OSの性能情報について"4294967295"を超える値を取得しても、性能データベースには"4294967295"が格納されます。

Record ID : WIN_SERVER_WORK_QUEUES (注)

Record No. : 1108

Table name : resource_data_vwide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
svwqactivethread	reg	threads	サーバクライアントからの要求に対して現在作業しているスレッドの数
svwqavailthread	reg	threads	クライアントからの要求に対して現在作業していないサーバスレッドの数
svwqavailworkitem	reg	items	CPUで使用可能な作業アイテムの数
svwqborrowworkitem	reg	items	別のCPUから借りた作業アイテムの数
svwqbyterecv	reg	bytes	サーバがこのCPUでネットワーククライアントから受信しているバイト数
svwqbytesent	reg	bytes	サーバがこのCPUでネットワーククライアントに送信しているバイト数
svwqbytetrans	reg	bytes	サーバがこのCPUでネットワーククライアントと送受信しているバイト数
svwqcontextblockque	reg	blocks	作業コンテキストブロックがサーバでの処理待ちのためにサーバのFSPキューに入れられた数
svwqcurclient	reg	clients	このCPUが処理しているクライアントの数
svwqquelength	reg	number	このCPUのサーバ作業キューの長さ
svwqreadbyte	reg	bytes	サーバがこのCPUでクライアント用にデータをファイルから読み取っているサイズ
svwqreadope	reg	operations	サーバがこのCPUでクライアント用にファイル読み取り操作を実行している数
svwqtobyte	reg	bytes	サーバがこのCPUでクライアント用にデータをファイルへ書き込んでいる、およびファイルから読み取っているサイズ
svwqtotope	reg	operations	サーバがこのCPUでクライアント用にファイル読み取り/書き込み操作を実行している数
svwqworkitemshort	reg	items	CPUで不足している作業アイテムの数
svwqwritebyte	reg	bytes	サーバがこのCPUでクライアント用にデータをファイルに書き込んでいるサイズ
svwqwriteque	reg	operations	サーバがこのCPUでクライアント用にファイル書き込み操作を実行している数

注) Systemwalker Service Quality Coordinator Windows(32bit)版の場合、Windowsの仕様により、OSの性能情報について"4294967295"を超える値を取得しても、性能データベースには"4294967295"が格納されます。

Record ID : WIN_CPUBUSYINFO (注)

Record No. : 1198

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
cpufreq	reg	MHz	プロセッサ周波数 <Windows Server 2008 R2以降>

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
cpumaxfreq	reg	percent	プロセッサ周波数の最大周波数に対する割合 <Windows Server 2008 R2以降>

注) Systemwalker Service Quality Coordinator Windows(32bit)版の場合、Windowsの仕様により、OSの性能情報について"4294967295"を超える値を取得しても、性能データベースには"4294967295"が格納されます。

Record ID : WIN_PROCESS2 (注)

Record No. : 1199

Table name : conres_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
hcount	reg	number	プロセスが現在オープンしているハンドルの総数
iodataope	reg	number	プロセスの読み取りおよび書き込みのI/O操作回数
iodatabytes	reg	bytes	プロセスの読み取りおよび書き込みバイト数

注) Systemwalker Service Quality Coordinator Windows(32bit)版の場合、Windowsの仕様により、OSの性能情報について"4294967295"を超える値を取得しても、性能データベースには"4294967295"が格納されます。

4.2.5 Webフォルダ配下レポートなし

Record ID : WEB_SVC

Record No. : 2051

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
wsbytesrec	reg	bytes	Webサービスによって受信されるデータのバイト数
wsbytesessent	reg	bytes	Webサービスによって送信されるデータのバイト数
wsbytestot	reg	bytes	Webサービスによって転送されたバイト数
wscuranon	reg	number	Webサービスを使用して匿名接続をしているユーザー数
wscurconn	reg	number	Webサービスで確立されている接続数
wscurnanon	reg	number	Webサービスを使用して非匿名接続をしているユーザー数

Record ID : ASP

Record No. : 2054

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
aspperrors	reg	number	エラー数
aspreqextime	reg	number	要求を実行するためにかかったミリ秒数

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
aspreqwtime	reg	number	要求がキューに入っていたミリ秒数
aspreqex	reg	number	実行している要求の数
aspreqq	reg	number	キューからのサービスを待っている要求の数
asptout	reg	number	タイムアウトした要求の数
aspreqsec	reg	number	実行された要求の数
aspsescurr	reg	number	サービスされているセッションの数

Record ID : DTC

Record No. : 2056

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
dtcabtrans	reg	number	中断されたトランザクション数
dtccomtrans	reg	number	コミットされたトランザクション数
dtcresptime	reg	number	トランザクション開始とコミットの平均時間差
dtctans	reg	number	実行されたトランザクション数

4.2.6 MSMQフォルダ配下レポートなし

Record ID : MSMQ_SVC

Record No. : 2058

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
_mqtmmsg	reg	number	アクティブなキューにあるメッセージキューメッセージの合計
_mqimsg	reg	number	メッセージキューサービスによって選択したコンピュータのキューに格納されるメッセージキューの着信メッセージの数
_mqomsg	reg	number	メッセージキューサービスによって選択したコンピュータから送信されるメッセージキューの発信メッセージの数
_mqtbytes	reg	bytes	アクティブなキューにあるすべてのメッセージキューメッセージのバイト数

Record ID : MSMQ_QUEUE

Record No. : 1197

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
_mqbinq	reg	bytes	キューにあるすべてのメッセージキューメッセージのバイト数
_mqbinjq	reg	bytes	ジャーナルにあるすべてのメッセージキューメッセージのバイト数
_mqminq	reg	number	キューにあるすべてのメッセージキューメッセージの合計

4.2.7 Solaris & Linuxフォルダ配下/UNIX～レポート



- Source欄に(注S)とある場合、上段がSolaris、下段がLinuxです。

【Solaris版】

- 各CPUの性能値は"mpstat"コマンド、リソースIDが"_Total"の性能値は"sar -u"コマンドで収集しています。そのため、各CPUの性能値の平均値とTotalの性能値とは一致しない場合があります。

Record ID : UX_DISKSPACE (注)

Record No. : 1002

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
dtotfils	statvfs() statfs() (注S)	files	マウント時のファイルシステム内のファイル数 <インストール型Agent> 注意 ZFSを監視する場合は収集していないフィールドのため、データは表示されず、空欄となります。
duseblks	statvfs() statfs() (注S)	blocks	マウント時のファイルシステム内の使用ブロック数 <インストール型Agent> 注意 ZFSを使用している場合、ZFSの特性によりこの値が正しくない場合があります。
dfrefils	statvfs() statfs() (注S)	files	マウント時のファイルシステム内の作成可能ファイル数 <インストール型Agent> 注意 ZFSを監視する場合は収集していないフィールドのため、データは表示されず、空欄となります。

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
davlblks	statvfs() statfs() (注S)	blocks	マウント時のファイルシステム内の作成可能ブロック数 <インストール型Agent>
dblsiz	statvfs() statfs() (注S)	number	マウント時のファイルシステムのブロックサイズ <インストール型Agent>
dtotblk	statvfs() statfs() (注S)	blocks	マウント時のファイルシステム内の総ブロック数 <インストール型Agent>
dusebyts	statvfs() statfs() (注S)	bytes	マウント時のファイルシステム内の使用バイト数
dusembs	statvfs() statfs() (注S)	MB	マウント時のファイルシステム内の使用メガバイト数
davlbyts	statvfs() statfs() (注S)	bytes	マウント時のファイルシステム内の空バイト数
davlmb	statvfs() statfs() (注S)	MB	マウント時のファイルシステム内の空メガバイト数
dtotbyts	statvfs() statfs() (注S)	bytes	マウント時のファイルシステムの総バイト数
dtotmb	statvfs() statfs() (注S)	MB	マウント時のファイルシステムの総メガバイト数
dfreepc	statvfs() statfs() (注S)	percent	マウント時のファイルシステム内の空き率
fsname	statvfs() statfs() (注S)		ファイルシステム名

注) 以下の注意事項があります。

- ・ 監視対象サーバのファイルシステムに、同一のマウントポイントが複数存在する場合は、当該のファイルシステムのcoverageフィールドの値が1より大きくなります。
- ・ ZFSを監視する場合の対象はストレージプールとなります。
- ・ ハードディスクを使用しない仮想ファイルシステムなども含めたすべてのファイルシステムについて収集されます。インストール型Agentにおいてハードディスクを使用しないファイルシステムを収集対象外とする場合は除外設定を実施してください。設定の詳細は「[1.13 sqcSetUXDISKSPACE\(ディスクスペース情報の除外設定コマンド\)](#)」を参照してください。

Record ID : UX_SYSCALLS (注)

Record No. : 1003

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
syscalls	sar	number	システムサービスルーチン呼び出し数 <AIX, HP-UX, Solaris>
sysreads	sar	number	Readシステムコール発行回数 <AIX, HP-UX, Solaris>
syswrits	sar	number	Writeシステムコール発行回数 <AIX, HP-UX, Solaris>
forks	sar	number	Forkシステムコール発行回数 <Solaris> 生成したプロセスの合計 <Linux>
execs	sar	number	Execシステムコール発行回数 <AIX, HP-UX, Solaris>
chrsread	sar	number	Readシステムコールが転送した文字数 <AIX, HP-UX, Solaris>
chrswrit	sar	number	Writeシステムコールが転送した文字数 <AIX, HP-UX, Solaris>

注) Oracle Solaris ゾーンのglobal zoneおよびnon-global zoneより性能情報を収集する場合、各項目の値については以下のとおりです。

- ・ゾーンにCPUの割り当てを行っている場合、割り当てたリソースプール単位の情報が合算で出力されます。
- ・ゾーンにCPUの割り当てを行っていない場合、システム全体の情報が収集されます。

Record ID : UX_FILEIO (注)

Record No. : 1004

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
iget	sar	inodes	iノード獲得ルーチンを呼び出した回数 <AIX, HP-UX, Solaris>
namei	sar	number	ファイルパス検索回数 <AIX, HP-UX, Solaris>
dirbk	sar	number	UFSディレクトリ・ブロック読み込み回数 <AIX, HP-UX, Solaris>

注) Oracle Solaris ゾーンのglobal zoneおよびnon-global zoneより性能情報を収集する場合、ゾーンごとではなく、システム全体の値となります。

Record ID : UX_MQSEMA (注)

Record No. : 1005

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
messages	sar	number	メッセージ関連のシステムコール発行回数 <AIX, HP-UX, Solaris>
semaphrs	sar	number	セマフォ関連のシステムコール発行回数 <AIX, HP-UX, Solaris>

注) Oracle Solaris ゾーンのglobal zoneおよびnon-global zoneより性能情報を収集する場合、各項目の値については以下のとおりです。

- ・ゾーンにCPUの割り当てを行っている場合、割り当てたリソースプール単位の情報が合算で出力されます。
- ・ゾーンにCPUの割り当てを行っていない場合、システム全体の情報が収集されます。

Record ID : UX_PAGING (注)

Record No. : 1006

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
attachs	sar	number	メモリ内のページを再生する事によって解消されたページフォルト数 <AIX, HP-UX, Solaris>
pginreqs	sar	number	ページイン要求数 <Solaris>
pginpags	sar	pages	ページインされたページ数 <Solaris>
		Kbytes	ページインされたページサイズ <Linux>
protfmts	sar	number	保護エラーによるページフォルト数 <Solaris>
addrflts	sar	number	アドレス変換によるページフォルト数 < HP-UX, Solaris>
pgotpags	sar	pages	ページアウトされたページ数 <Solaris>
		Kbytes	ページアウトされたページサイズ <Linux>
pagfrees	sar	pages	フリーリストに入れられた物理ページ数 <AIX, HP-UX, Solaris>
pagscans	sar	pages	ページデーモンにより検索されたページ数 <AIX, HP-UX, Solaris>
pgotreqs	sar	number	ページアウト要求回数 <Solaris>
slock	sar	number	物理I/Oを要求するソフトウェアによってロックされたフォルト数 <Solaris>
lpgscank	sar	pages	kswadpdデーモンによってスキャンされたページ数 <Linux(Red Hat Enterprise Linux 6以降)>
lpgscand	sar	pages	直接スキャンされたページ数 <Linux(Red Hat Enterprise Linux 6以降)>
lpgsteal	sar	pages	矯正されたページ数 <Linux(Red Hat Enterprise Linux 6以降)>
llvmeff	sar	percent	矯正されたページの割合 <Linux(Red Hat Enterprise Linux 6以降)>

注) Oracle Solaris ゾーンのglobal zoneおよびnon-global zoneより性能情報を収集する場合、各項目の値については以下のとおりです。

- ・ゾーンにCPUの割り当てを行っている場合、割り当てたリソースプール単位の情報が合算で出力されます。
- ・ゾーンにCPUの割り当てを行っていない場合、システム全体の情報が収集されます。

Record ID : UX_CPUQUEUE (注)

Record No. : 1007

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
dspqwait	sar	seconds	実行キュー待ち時間
dspqexst	sar	seconds	実行キューが占有されていた時間 <AIX, HP-UX, Solaris>
dspqrunqsz	sar	number	CPUを実行するためにメモリ内で待機中のカーネルスレッド数 <Solaris>

注) Oracle Solaris ゾーンのglobal zoneおよびnon-global zoneより性能情報を収集する場合、各項目の値については以下のとおりです。

- ・ゾーンにCPUの割り当てを行っている場合、割り当てたリソースプール単位の情報が合算で出力されます。
- ・ゾーンにCPUの割り当てを行っていない場合、システム全体の情報が収集されます。

Record ID : UX_MEMFREE (注)

Record No. : 1008

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
freememp	vmstat -p /proc/ meminfo (注S)	bytes	ユーザープロセスに利用できるメモリサイズ  注意 Solarisの場合、本フィールドにはZFSファイルキャッシュの使用分は含まれていません。 ZFSファイルキャッシュを加味した利用可能なメモリ量の値は、下記のレコード・フィールドにおいて確認が可能です。 ・ UX_MEMSTATレコードのavailablememフィールド
freeswap	vmstat -p sar (注S)	bytes	空きスワップメモリ容量 <Linux, Solaris>
memuse	vmstat -p /proc/ meminfo (注S)	percent	メモリ使用率  注意 Solarisの場合、本フィールドにはZFSファイルキャッシュの使用分が含まれています。
kbcommit	sar	Kbytes	カレントワークロードに必要なメモリ容量 <Linux(Red Hat Enterprise Linux 6以降)>
commit	sar	percent	カレントワークロードに必要なメモリ使用率 <Linux(Red Hat Enterprise Linux 6以降)>
swapcad	sar	percent	使用中のスワップスペースに関連した、キャッシュされたスワップメモリの使用率 <Linux(Red Hat Enterprise Linux 6以降)>

注) Oracle Solaris ゾーンでの global zone および non-global zone より性能情報を収集する場合、ゾーンごとではなく、システム全体の値となります。

Record ID : UX_SYSTBLS (注)

Record No. : 1009

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
prtblent	sar	number	プロセステーブルの使用数 <AIX, HP-UX, Solaris>
prtblsiz	sar	number	プロセステーブルの割当数 <AIX, HP-UX, Solaris>
prtblovf	sar	number	プロセステーブルのオーバフロー発生回数 <HP-UX, Solaris>
intblent	sar	number	iノードテーブルの使用数
intblsiz	sar	number	iノードテーブルの割当数 <AIX, HP-UX, Solaris>
intblovf	sar	number	iノードテーブルのオーバフロー発生回数 <HP-UX, Solaris>
fltblent	sar	number	ファイルテーブルの使用数
fltblsiz	sar	number	ファイルテーブルの割当数 <AIX, HP-UX, Linux systat-4, Solaris>
fltblovf	sar	number	ファイルテーブルのオーバフロー発生回数 <HP-UX, Solaris>
lktblent	sar	number	ロック用テーブルの使用数 <Solaris>
lktblsiz	sar	number	ロック用テーブルの割当数 <Solaris>
thtblent	sar	number	スレッドテーブルエントリー数 <AIX>
thtblsiz	sar	number	スレッドテーブルサイズ <AIX>
ptynr	sar	number	疑似端末の数 <Linux(Red Hat Enterprise Linux 6以降)>

注) Oracle Solaris ゾーンでの global zone および non-global zone より性能情報を収集する場合、ゾーンごとではなく、システム全体の値となります。

Record ID : UX_SWAPIO (注)

Record No. : 1010

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
swpins	sar	number	スワップイン回数 <HP-UX, Solaris>
bkswpins	sar	block	スワップインによって転送された512バイトブロック数 <HP-UX, Solaris>
		page	スワップインによって転送されたページ数 <Linux>
swpouts	sar	number	スワップアウト回数 <HP-UX, Solaris>
bkswpots	sar	block	スワップアウトによって転送された512バイトブロック数 <HP-UX, Solaris>

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
		page	スワップアウトによって転送されたページ数 <Linux>
prswchs	sar	number	プロセススイッチング回数

注) Oracle Solaris ゾーンのglobal zoneおよびnon-global zoneより性能情報を収集する場合、ゾーンごとではなく、システム全体の値となります。

Record ID : UX_PROCESS (注)

Record No. : 1011

Table name : conres_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
rcnetime	ps -o	seconds	経過時間
rcputim	ps -o	seconds	CPU時間
rcnvsz	ps -o	Kbytes	仮想メモリサイズ
rcnnwlp	ps -o	number	LWP数 <Solaris> 平均スレッド数 <AIX>
rcnpgmem	ps -o	percent	物理メモリに対する、常駐セットサイズの割合 <AIX, Linux, Solaris>
rcnrss	ps -o	Kbytes	常駐セットサイズ <Linux, Solaris>
state	ps -o		プロセスの状態。psコマンドの出力フォーマットでヘッダ:"S"の欄に表示されるプロセスの状態コードです。詳細はOSのマニュアル等でpsコマンドの項目を参照してください。 <HP-UX, Linux, Solaris>

注) 以下の注意事項があります。

- ・ 本レコードのデータは、フィールド「rcputim」の値が0の場合は収集されません。
- ・ sqcPDBcout(CSV出力コマンド)で出力した場合、data_num1のフィールドは予約域になり、データは表示されません。Field Nameのrcnetimeからrcnrssは、data_num2からdata_num7のフィールドとなります。

Record ID : UX_NET_INTERFACE

Record No. : 1012

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ipkts	netstat	packets	TCP/IPインターフェースに入力されたパケット数
ierrs	netstat	packets	TCP/IPインターフェースで発生した入力エラーパケット数
opkts	netstat	packets	TCP/IPインターフェースに出力されたパケット数
oerrs	netstat	packets	TCP/IPインターフェースで発生した出力エラーパケット数
collis	netstat	packets	コリジョン数

Record ID : UX_NET_INTERFACE2 (注)

Record No. : 1118

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
inbytes	Linux: / proc/net/d ev Solaris: netstat -k/ dladm show-dev	Bytes	受信バイト数
outbytes	Linux: / proc/net/d ev Solaris: netstat -k/ dladm show-dev	Bytes	送信バイト数
indroppkt	Linux: / proc/net/d ev Solaris: (None)	number	受信ドロップ数 (Solarisの場合収集されません。)
outdroppkt	Linux: / proc/net/d ev Solaris: (None)	number	送信ドロップ数 (Solarisの場合収集されません。)
infifo	Linux: / proc/net/d ev Solaris: (None)	number	受信パケット中のFIFOオーバーラン発生回数 (Solarisの場合収集されません。)
outfifo	Linux: / proc/net/d ev Solaris: (None)	number	送信パケット中のFIFOオーバーラン発生回数 (Solarisの場合収集されません。)
collpkt	Linux: / proc/net/d ev Solaris: (None)	number	通信パケットのコリジョン発生回数 (Solarisの場合収集されません。)
pkt	Linux: / proc/net/d ev	number	通信パケット数 (Solarisの場合収集されません。)

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
	Solaris: (None)		
netpcent	Linux: / proc/net/d ev Solaris: (None)	percent	ネットワーク使用率 (Solarisの場合収集されません。)  注意 仮想マシン上のOSの場合、値は無効です。
collpcent	Linux: / proc/net/d ev Solaris: (None)	percent	コリジョン発生率 (Solarisの場合収集されません。)
linkspeed	Linux: ethtool Solaris: (None)	Mbits/sec	ネットワーク帯域幅 (Solarisの場合収集されません。)  注意 仮想マシン上のOSの場合、値は無効です。
ifname	Linux: / proc/net/d ev Solaris: (None)		インターフェースの名前 (Solarisの場合収集されません。)

注) 本レコードのデータは、Oracle Solaris プレーンのnon-global zoneの場合収集されません。

Record ID : UX_NET_SYSTEM

Record No. : 1049

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
tcpconns	netstat	connections	TCPコネクション数

Record ID : UX_DISKBUSY (注)

Record No. : 1013

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ioreads	iostat	number	read回数 <Linux, Solaris> read + write回数 <AIX, HP-UX>

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
iowrite	iostat	number	write回数 <Linux, Solaris>
iokreads	iostat	Kbyte	ディスクから読み込んだデータ量 <AIX, Linux sysstat-4, sysstat-5以降, Solaris>
		number	ディスクのキロバイト単位のread + write回数 <HP-UX>
iokwrite	iostat	Kbyte	ディスクに書き込んだデータ量 <AIX, Linux sysstat-4, sysstat-5以降, Solaris>
iotrwct	iostat	number	実行待ちのサービス数 <HP-UX, Linux, Solaris>
iotrctv	iostat	number	実行されたサービス数
iotrwait	iostat	seconds	実行待ちサービス時間
iotrserv	iostat	seconds	実行サービス時間
iowait	iostat	seconds	ディスク実行待ちサービス時間
iotrbusy	iostat	seconds	ディスクビジー時間
iotrmsserv	iostat	milliseconds	実行サービス時間

注) 以下の注意事項があります。

- ・ 本レコードのデータは、フィールド「iotrserv」の値が0の場合は収集されません。
- ・ Oracle Solaris ゾーンのglobal zoneおよびnon-global zoneより性能情報を収集する場合、ゾーンごとではなく、システム全体の値となります。
- ・ Linuxの場合、nfsの情報は収集されません。

Record ID : UX_CPUBUSY (注)

Record No. : 1014

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
mpucpu	Linux: sar Solaris: mpstat/sar	seconds	各CPUのユーザーモードで動作したCPU時間
mpscpu	Linux: sar Solaris: mpstat/sar	seconds	各CPUのシステムモードで動作したCPU時間
mpwcpu	Linux: sar Solaris: mpstat/sar	seconds	各CPUのI/O要求時間 <AIX, HP-UX, Linux sysstat-5以降, Solaris>

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
			 注意 Solaris 11.2以降では、機能非互換のため、リソースIDが「_Total」の場合のみ収集されます。
mptcpu	Linux: sar Solaris: mpstat/sar	seconds	各CPU時間の合計
mpminf	mpstat	faults	マイナーフォルトが発生した回数 <Solaris>  注意 リソースIDが「_Total」の場合は収集されません。
mpmjf	mpstat	faults	メジャーフォルトが発生した回数 <Solaris>  注意 リソースIDが「_Total」の場合は収集されません。
cpupcent	Linux: sar Solaris: mpstat/sar	percent	CPU使用率

注) Oracle Solaris ゾーンのglobal zoneおよびnon-global zoneより性能情報を収集する場合、各項目の値については以下のとおりです。

- ・ゾーンにCPUの割り当てを行っている場合、割り当てたリソースプール単位の情報が合算で出力されます。
- ・ゾーンにCPUの割り当てを行っていない場合、システム全体の情報が収集されます。

Record ID : UX_SWAPSTATUS (注)

Record No. : 1015

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
swalloc	swap -s	Kbytes	スワップ領域の使用中の部分のサイズ
swresrv	swap -s	Kbytes	スワップ領域に退避される可能性のある使用中の部分と、スワップ領域でスワップ用に予約された部分のサイズ <Solaris>
swused	swap -s	Kbytes	スワップ領域を使用中である、または使用する可能性のあるサイズ
swavail	swap -s	Kbytes	現在利用可能なスワップ領域のサイズ

注) Oracle Solaris ゾーンのglobal zoneおよびnon-global zoneより性能情報を収集する場合、各項目の値については以下のとおりです。

- ゾーンにcapped-memoryのswapの設定を行っている場合、ゾーンごとの情報が表示されます。
- ゾーンにcapped-memoryのswapの設定を行っていない場合、システム全体の情報が収集されます。

Record ID : UX_SWAPUSAGE (注)

Record No. : 1097

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
swapsize	swap -l	Kbytes	スワップ領域長 <AIX, HP-UX, Solaris>
swaplused	swap -l	Kbytes	スワップ使用量 <AIX, HP-UX, Solaris>
swapplused	swap -l	percent	スワップ使用率 <AIX, HP-UX, Solaris>

注) Oracle Solaris ゾーンのglobal zoneおよびnon-global zoneより性能情報を収集する場合、各項目の値については以下のとおりです。

- ゾーンにcapped-memoryのswapの設定を行っている場合、ゾーンごとの情報が表示されます。
- ゾーンにcapped-memoryのswapの設定を行っていない場合、システム全体の情報が収集されます。

Record ID : UX_SYS_PAGINGDETAIL (注)

Record No. : 1016

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vmsre	vmstat -p	number	再獲得されたページ数 <Solaris>
vmsmf	vmstat -p	number	ページフォルト数 <Solaris>
vmsfr	vmstat -p	Kbytes	解放されたメモリ量 <Solaris>
vmsde	vmstat -p	Kbytes	短期的なスワップインを防ぐための人工的なメモリ不足量 <Solaris>
vmssr	vmstat -p	number	クロック・アルゴリズムにより走査されたページ数 <Solaris>
vmsepi	vmstat -p	Kbytes	実行可能なページイン量 <Solaris>
vmsepo	vmstat -p	Kbytes	実行可能なページアウト量 <Solaris>
vmsepf	vmstat -p	Kbytes	実行可能なページフリー量 <Solaris>
vmsemi	vmstat -p	Kbytes	データに関するページイン量 <Solaris>
vmsepo	vmstat -p	Kbytes	データに関するページアウト量 <Solaris>
vmsepf	vmstat -p	Kbytes	データに関するページフリー量 <Solaris>
vmsfpi	vmstat -p	Kbytes	ファイルシステムに関するページイン量 <Solaris>
vmsfpo	vmstat -p	Kbytes	ファイルシステムに関するページアウト量 <Solaris>
vmsfpf	vmstat -p	Kbytes	ファイルシステムに関するページフリー量 <Solaris>

注) Oracle Solaris ゾーンのglobal zoneおよびnon-global zoneより性能情報を収集する場合、各項目の値については以下のとおりです。

- ・ゾーンにCPUの割り当てを行っている場合、割り当てたリソースプール単位の情報が合算で出力されます。
- ・ゾーンにCPUの割り当てを行っていない場合、システム全体の情報が収集されます。

Record ID : UX_KMA (注)

Record No. : 1046

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
smemrqs	sar	bytes	スモールメモリ領域プールの中の利用可能なメモリ量 <Solaris>
smemals	sar	bytea	スモールメモリ領域プールから割り当てられたメモリ量 <Solaris>
smemflr	sar	requests	スモールメモリ領域の割り当てに失敗した数 <Solaris>
lmemrqs	sar	bytes	ラージメモリ領域プールの中の利用可能なメモリ量 <Solaris>
lmemals	sar	bytes	ラージメモリ領域プールから割り当てられたメモリ量 <Solaris>
lmemflr	sar	requests	ラージメモリ領域の割り当てに失敗した数 <Solaris>
omemals	sar	bytes	特大サイズのメモリ要求に割り当てられたメモリ量 <Solaris>
omemflr	sar	requests	特大サイズのメモリ要求に答えられなかった数 <Solaris>

注) Oracle Solaris ゾーンのglobal zoneおよびnon-global zoneより性能情報を収集する場合、ゾーンごとではなく、システム全体の値となります。

Record ID : UX_IPCSMQ

Record No. : 1094

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
mqbytes	ipcs	bytes	キューメッセージのバイト数(CBYTE)
mqqnum	ipcs	number	キュー長(QNUM) <AIX, HP-UX, Solaris>
mqmaxbytes	ipcs	bytes	キュー上のメッセージ最大バイト数(QBYTE) <AIX, HP-UX, Solaris>
mqdpercent	ipcs	percent	最大キュー長に対する使用率 <HP-UX, Solaris(Solaris 10以降は除く)>
mqkey	ipcs		キー
mqstime	ipcs	time	送信メッセージの最新時間 <AIX, HP-UX, Solaris>
mqrttime	ipcs	time	受信メッセージの最新時間 <AIX, HP-UX, Solaris>

Record ID : UX_IPCSMQSUM

Record No. : 1103

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
mqused	ipcs	count	キューIDの数
mqippercent	ipcs	percent	最大キューID数に対する使用率 <HP-UX, Linux, Solaris(Solaris 10以降は除く)>

Record ID : UX_IPCSSM

Record No. : 1095

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
smbytes	ipcs	bytes	共有メモリサイズ(SEGSZの最大)
smpercent	ipcs	percent	最大セグメントサイズに対する使用率 <HP-UX, Linux, Solaris(Solaris 10以降は除く)>
smnattch	ipcs	number	割り当てプロセス数(NATTCH)
smuse	ipcs	KBytes	共有メモリの状態のうちIPC共有メモリで使用中のメモリ量 <Linux>
smkey	ipcs		キー

Record ID : UX_IPCSSMSUM

Record No. : 1104

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
smsegsused	ipcs	count	共有メモリIDの数
smsegpercent	ipcs	percent	最大共有メモリID数に対する使用率 <HP-UX, Linux, Solaris(Solaris 10以降は除く)>

Record ID : UX_IPCSSEM

Record No. : 1096

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
semnsem	ipcs	number	セマフォ数(NSEM)
semppercent	ipcs	percent	セマフォ集合ごとのセマフォ数の最大値に対する使用率 <HP-UX, Linux, Solaris(Solaris 10以降は除く)>
semkey	ipcs		キー
semotime	ipcs	time	最新時刻(OTIME) <AIX, HP-UX, Solaris>

Record ID : UX_IPCSSEMSUM

Record No. : 1105

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
semsused	ipcs	count	セマフォIDの数
semipercnt	ipcs	percent	最大セマフォID数に対する使用率 <HP-UX, Linux, Solaris(Solaris 10以降は除く)>

Record ID : UX_IPCSMQLIST

Record No. : 1333

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
mqmessage	ipcs	number	メッセージの数 <Linux>
lmqkey	ipcs		キー <Linux>

Record ID : UX_ZONE

Record No. : 1087

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
zonenproc	prstat -Z	number	Solarisゾーンのプロセス数 <Solaris 10>
zonesize	prstat -Z	Kbytes	Solarisゾーンのプロセスの仮想メモリサイズ <Solaris 10>
zonerss	prstat -Z	Kbytes	Solarisゾーンのプロセスが使用中の実メモリサイズ <Solaris 10>
zonemem	prstat -Z	percent	Solarisゾーンのプロセスのメモリ使用率 <Solaris 10>
zonetime	prstat -Z	second	SolarisゾーンのプロセスのCPU使用時間 <Solaris 10> Solarisゾーンで動作しているプロセスの累積CPU時間の合計。
zonecpu	prstat -Z	percent	SolarisゾーンのプロセスのCPU使用率 <Solaris 10> intervalの間に終了したプロセスの情報は含まれない。したがって実際のCPU使用率より低い値となることがある。 Solarisゾーンをプロセッサセットにバインドして使用している場合、CPU使用率はプロセッサセット単位に100%となる。

Record ID : UX_CPUSTAT_CORE (注)

Record No. : 1113

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
coreusrsec	cpustat	seconds	コアのCPU時間(usr) <Solaris UltraSPARC T1/T2/T2 Plus> ※UltraSPARC T2/T2 Plusは各コアの演算ユニットごとのCPU時間
coresyssec	cpustat	seconds	コアのCPU時間(sys) <Solaris UltraSPARC T1/T2/T2 Plus> ※UltraSPARC T2/T2 Plusは各コアの演算ユニットごとのCPU時間
coretotsec	cpustat	seconds	コアのCPU時間(total) <Solaris UltraSPARC T1/T2/T2 Plus, SPARC64 VI/VII/VII+> ※UltraSPARC T2/T2 Plusは各コアの演算ユニットごとのCPU時間
coreusrprc	cpustat pgstat	percent	コアのCPU使用率(usr) <Solaris UltraSPARC T1/T2/T2 Plus, SPARC T3/T4/T5/T7/M7/S7, SPARC64 X/X+/XII> ※UltraSPARC T2/T2 Plus, SPARC T3/T4/T5/T7/M7/S7, SPARC64 X/X+/XIIは各コアの演算ユニットごとのCPU使用率
coresysprc	cpustat pgstat	percent	コアのCPU使用率(sys) <Solaris UltraSPARC T1/T2/T2 Plus, SPARC T3/T4/T5/T7/M7/S7, SPARC64 X/X+/XII > ※UltraSPARC T2/T2 Plus, SPARC T3/T4/T5/T7/M7/S7, SPARC64 X/X+/XIIは各コアの演算ユニットごとのCPU使用率
coretotprc	cpustat pgstat	percent	コアのCPU使用率(Total) <Solaris UltraSPARC T1/T2/T2 Plus, SPARC T3/T4/T5/T7/M7/S7, SPARC64 X/X+/XII > ※UltraSPARC T2/T2 Plus, SPARC T3/T4/T5/T7/M7/S7, SPARC64 X/X+/XIIは各コアの演算ユニットごとのCPU使用率

注) 以下の注意事項があります。

- Oracle Solaris ゾーンのnon-global zoneの場合、UX_CPUSTAT_COREの情報は収集されません。
- Oracle Solaris ゾーンのglobal zoneより性能情報を収集する場合、各項目の値については以下のとおりです。
 - ー ゾーンにCPUの割り当てを行っている場合、割り当てたリソースプール単位の情報が合算で出力されます。
 - ー ゾーンにCPUの割り当てを行っていない場合、システム全体の情報が収集されます。

Record ID : UX_SYSTEMINFO

Record No. : FJ1386

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
tsysmem	prtconf/ free	Mbytes	物理メモリの合計サイズ(実際に利用可能なメモリ容量)
corenum	-	-	コア数 (Solaris, Linuxの場合収集されません)
cpunum	psrinfo/ cpuinfo	number	論理CPU数
processor	uname/ cpuinfo	MHz	CPU性能(現在のクロック数)

Record ID : UX_CPUBUSYINFO

Record No. : 1335

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
mpcpuclocks	sar	MHz	CPU周波数数 <Linux(Red Hat Enterprise Linux 6以降)>

Record ID : UX_KSTAT

Record No. : 1337

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
kssyspgslotsfree	kstat	pages	lotsfreeの値 <Solaris>
kspgsize	pagesize	bytes	ページサイズ <Solaris>
ksarcsz	kstat	bytes	ZFSファイルキャッシュ(ARC)サイズ <Solaris 10以降>
ksarccmin	kstat	bytes	ZFSファイルキャッシュ(ARC)最小値 <Solaris 10以降>

Record ID : UX_NETSTAT

Record No. : 1336

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
tcpolistendrop	netstat	number	TCPの接続完了後の破棄数 <Solaris 10以降>
tcpolistendropq0	netstat	number	TCPの接続中破棄数 <Solaris 10以降>
tcpretransegs	netstat	number	TCPの再送セグメント数 <Solaris 10以降>

Record ID : UX_MEMSTAT (注)

Record No. : 1119

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
zfsfilecache	memstat	bytes	ZFSファイルキャッシュ(ARC)サイズ <Solaris 10以降> 以下を含みます。 • ZFSファイルキャッシュとして使用中 • ZFSファイルキャッシュとして未使用
freecachelist	memstat	bytes	空きメモリ量に計上されるファイルキャッシュサイズ <Solaris 10以降> 以下を含みます。 • ページの中身は有効で、再利用要求(minor fault)で利用可能なページ • キャッシュがクローズ等により、Page cacheから外れた領域
freelist	memstat	bytes	完全な空き(未使用)領域 <Solaris 10以降> 空きメモリ量に計上されます。
availablemem	memstat	bytes	利用可能なメモリ量 <Solaris 10以降> 空きメモリ量+ZFSファイルキャッシュサイズです。
kernelusemem	memstat	bytes	カーネルが使用しているメモリ <Solaris 10以降> ARCファイルデータのメタデータを含みます。
anonmem	memstat	bytes	プロセスが使用するanonymousメモリ <Solaris 10以降> データ部分の領域です。
exclibsmem	memstat	bytes	プロセスが使用する実行部分(プログラム本体)のメモリ <Solaris 10以降> テキスト部分やライブラリ部分の領域です。
pagecache	memstat	bytes	空きメモリ量に計上されないファイルキャッシュサイズ <Solaris 10以降> 以下を含みます。 • Diskへの書き込み未完了のページ • 実メモリが展開されているtmpfs上のファイル • Sticky BitがONになっているファイル • mmap(2)で書き込んだデータ

注) 以下の注意事項があります。

- 本レコードのデータは、Oracle Solaris ゾーンのnon-global zoneの場合収集されません。
- インストールレス型Agentで、接続アカウントとして一般利用者を指定した場合、UX_MEMSTATの情報は収集されません。システム管理者(スーパーユーザー)を指定してください。

Record ID : UX_SWAPQUEUE

Record No. : 1368

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
swpocc	sar	percent	スワップ待ち行列が占有されている時間の割合 <Solaris>
swpqsz	sar	number	スワップアウトされたプロセス数 <Solaris>

Record ID : LX_DISKBUSY (注)

Record No. : 1055

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
lrrmrg	iostat	number	読み込み要求数 <Linux>
lwrnrg	iostat	number	書き込み要求数 <Linux>
liorscts	iostat	number	読み込まれたセクタ数 <Linux>
liowscts	iostat	number	書き込まれたセクタ数 <Linux>
lavrqs	iostat	number	平均リクエストサイズ <Linux>
lutilcpu	iostat	seconds	処理待ちI/Oリクエスト時間 <Linux>

注) nfsの情報は収集されません。

Record ID : LX_MEMFREE

Record No. : 1056

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
lusemem	sar -r	Kbytes	使用メモリ容量 <Linux>
lshrmem	sar -r	Kbytes	共有メモリ容量 <Linux, sysstat-4>
lbuffer	sar -r	Kbytes	バッファメモリ容量 <Linux>
lcchmem	sar -r	Kbytes	キャッシュメモリ容量 <Linux>
lswpuse	sar -r	Kbytes	使用スワップメモリ容量 <Linux(Red Hat Enterprise Linux 5)>
	sar -S	Kbytes	使用スワップメモリ容量 <Linux(Red Hat Enterprise Linux 6以降)>
lswpcad	sar -r	Kbytes	キャッシュされたスワップメモリ容量 <Linux(Red Hat Enterprise Linux 5), sysstat-5>
	sar -S	Kbytes	キャッシュされたスワップメモリ容量 <Linux(Red Hat Enterprise Linux 6以降)>
lmemuse	/proc/ meminfo	percent	メモリ使用率 <Linux>

Record ID : LX_SYSTBLS

Record No. : 1057

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ldirfre	sar	number	未使用キャッシュエントリー数 <Linux>
lusesbh	sar	number	スーパーストックハンドルの数 <Linux>  注意 Red Hat Enterprise Linux 6以降では、機能非互換のため本情報は収集されません。
lpercsbh	sar	percent	最大スーパーストックハンドルの割り当て率 <Linux>  注意 Red Hat Enterprise Linux 6以降では、機能非互換のため本情報は収集されません。
lusedqe	sar	number	ディスククォータエントリー数 <Linux>  注意 Red Hat Enterprise Linux 6以降では、機能非互換のため本情報は収集されません。
lpercdqe	sar	percent	最大ディスククォータエントリーの割り当て率 <Linux>  注意 Red Hat Enterprise Linux 6以降では、機能非互換のため本情報は収集されません。
lquerts	sar	number	RTシグナル待ち数 <Linux>  注意 Red Hat Enterprise Linux 6以降では、機能非互換のため本情報は収集されません。
lpercrt	sar	percent	最大RTシグナル待ち率 <Linux>  注意 Red Hat Enterprise Linux 6以降では、機能非互換のため本情報は収集されません。

Record ID : LX_PAGING

Record No. : 1058

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
lactpg	sar	pages	メモリのアクティブなページ数 <Linux sysstat-4>
lindtpg	sar	pages	メモリの不活発なダーティページ数 <Linux sysstat-4>
linclpg	sar	pages	メモリの不活発なクリーンページ数 <Linux sysstat-4>
lintpgg	sar	number	不活発なページの確保目標数(1分間の平均) <Linux sysstat-4>
lfault	sar	number	ページフォルト(major + minor) <Linux sysstat-5以降>
lmajflt	sar	number	メジャーページフォルト <Linux sysstat-5以降>

Record ID : LX_CPUQUEUE

Record No. : 1059

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
lplist	sar	number	プロセスリスト中のプロセス数 <Linux>
lldavg	sar	number	1分間のシステム負荷平均 <Linux>

Record ID : LX_MEMORY (注)

Record No. : 1060

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
lfrmpgs	sar	pages	1秒あたりにシステムが解放したメモリページ数 <Linux>
lshmpgs	sar	pages	1秒あたりにシステムが共有メモリとして使用したメモリページ増加数 <Linux sysstat-4>
lbufpgs	sar	pages	1秒あたりにシステムがバッファとして使用したメモリページの増加数 <Linux>
lcampgs	sar	pages	1秒あたりにシステムがキャッシュしたメモリページの増加数 <Linux>

注) 本レコードのデータは、Red Hat Enterprise Linux 8以降は収集されません。

Record ID : LX_CPUBUSY

Record No. : 1365

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
lirq	sar	seconds	各CPUのサービスを中断してCPUを使用した時間 <Linux(Red Hat Enterprise Linux 6以降)>
lsoft	sar	seconds	各CPUのソフトウェア割り込みによりCPUを使用した時間 <Linux(Red Hat Enterprise Linux 6以降)>
lnice	sar	seconds	各CPUの変更した優先度で動作したCPU時間 <Linux>
lguest	sar	seconds	各CPUの仮想CPUとして動作したCPU時間 <Linux(Red Hat Enterprise Linux 6以降)>
lcpupcent	sar	percent	仮想CPUを含む各CPUのCPU使用率 <Linux(Red Hat Enterprise Linux 6以降)>
lcpuviratio	sar	number	仮想CPU/インフラ使用比率 <Linux(Red Hat Enterprise Linux 6以降)>

Record ID : LX_MEMSPACE

Record No. : 1332

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
lxmemtotal	/proc/ meminfo	bytes	すべてのメモリ量 <Linux>
lxmemfree	/proc/ meminfo	bytes	利用済メモリ量 <Linux>
lxactivefile	/proc/ meminfo	bytes	利用中でアクティブなメモリ量 <Linux(Red Hat Enterprise Linux 6以降)>
lxinactivefile	/proc/ meminfo	bytes	利用中で非アクティブなメモリ量 <Linux(Red Hat Enterprise Linux 6以降)>
lxutilizabmem	/proc/ meminfo	bytes	プロセスで使用可能なメモリ量 <Linux>
lxusedmem	/proc/ meminfo	bytes	プロセスで使用中のメモリ量 <Linux>

Record ID : AX_DISKBUSY

Record No. : 1064

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
aiotrbusy	sar	seconds	トランザクションビジー時間 <AIX>
aiotrwct	sar	number	サービス待ちトランザクション数 <AIX>
areadwrite	sar	number	ディスク読み込み回数+書き込み回数 <AIX>
ablocks	sar	number	転送ブロック数 <AIX>

Record ID : AX_KERNELPROC

Record No. : 1065

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
aksched	sar	number	タスクに割り当てられたカーネル・プロセスの回数 <AIX>
akprocov	sar	number	プロセスのしきい値制限の強制によりカーネル・プロセスを作成できなかった回数 <AIX>
akexits	sar	number	カーネル・プロセスの終了回数 <AIX>

Record ID : AX_PAGING

Record No. : 1066

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ausedmem	vmstat	Kbytes	仮想メモリ使用量 <AIX>
apgcy	vmstat	number	ページ置換アルゴリズムによるクロック・サイクル数 <AIX>

Record ID : HP_PAGING

Record No. : 1067

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
husedmem	vmstat	Kbytes	仮想メモリ使用量 <HP-UX>
hshortfall	vmstat	number	予想される短期メモリ不足 <HP-UX>

4.2.8 Enterprise Application Platformフォルダ配下/Enterprise Application Platform～レポート

Record ID : EAP_JMX_JAVAEE_JVM

Record No. : FJ1430

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
eapjmxjvmhptim	eapjmx		予約域
eapjmxjvmhplwbnd	eapjmx		予約域
eapjmxjvmhpupbnd	eapjmx		予約域
eapjmxjvmhpqrt	eapjmx	byte	メモリ割り当てプールサイズ

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
eapjmxjvmhplwwtmk	eapjmx		予約域
eapjmxjvmhphiwmtk	eapjmx	byte	メモリ割り当てプールの最大値
eapjmxjvmprmmx	eapjmx		予約域
eapjmxjvmprmlwwtmk	eapjmx		予約域
eapjmxjvmprmiwmtk	eapjmx	byte	メタスペースの最大値
eapjmxjvmprmm	eapjmx	byte	メタスペースサイズ
eapjmxjvmgcnt	eapjmx	number	ガーベジコレクション(Full GC+GC)の発生回数
eapjmxjvmgctim	eapjmx	milliseco nds	ガーベジコレクション(Full GC+GC)の処理トータル時間
eapjmxjvmgc2cnt	eapjmx	number	GCの発生回数
eapjmxjvmgc2tim	eapjmx	milliseco nds	GCの処理トータル時間

Record ID : EAP_JMX_JAVAAE_JDBC_POOL

Record No. : FJ1431

Table name : resource_data_uwide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
eapjmxjdbcwtavg	eapjmx	milliseco nds	接続要求の平均待機時間
eapjmxjdbcwtmin	eapjmx	milliseco nds	接続要求の最短待機時間
eapjmxjdbcwtmax	eapjmx	milliseco nds	接続要求の最長待機時間
eapjmxjdbcwttm	eapjmx	milliseco nds	最近受け付けた接続要求の待機時間
eapjmxjdbcgetcnum	eapjmx	number	プールから獲得した論理接続数
eapjmxjdbcmkcnum	eapjmx	number	作成された物理接続数
eapjmxjdbcdstcnum	eapjmx	number	破棄された物理接続数
eapjmxjdbcfailcnum	eapjmx	number	検証に失敗した物理接続数
eapjmxjdbcfrcnummin	eapjmx	number	使用されていない物理接続の最小数
eapjmxjdbcfrcnummax	eapjmx	number	使用されていない物理接続の最大数
eapjmxjdbccnum	eapjmx	number	使用されていない物理接続の数
eapjmxjdbcdnycnum	eapjmx	number	認証情報のマッチングに失敗した物理接続数
eapjmxjdbcbkcnum	eapjmx	number	プールに戻された論理接続数
eapjmxjdbcagrcnum	eapjmx	number	認証情報のマッチングに成功した物理接続数
eapjmxjdbctmotcnum	eapjmx	number	最大待ち時間の接続タイムアウトになった回数
eapjmxjdbcusdcmin	eapjmx	number	使用中の物理接続の最小数
eapjmxjdbcusdcmax	eapjmx	number	使用中の物理接続の最大数
eapjmxjdbcnusecnum	eapjmx	number	使用中の物理接続の数

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
eapjmxjdbcrqwtcnnum	eapjmx	number	待機しているキュー内の接続要求の数
eapjmxjdbcclkcnnum	eapjmx	number	リークが発生した接続の数
eapjmxjdbcplnm	eapjmx		JDBC接続プール名

Record ID : EAP_JMX_JAVAAE_MSGDRIVEN_BEAN

Record No. : FJ1432

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
eapjmxmbnmsgnum	eapjmx	number	Message-driven Beanに対して受信されたメッセージ数
eapjmxmbncrtmtcnt	eapjmx	number	Message-driven Beanのインスタンスが生成された回数
eapjmxmbnrmvmtcnt	eapjmx	number	Message-driven Beanのインスタンスが破棄された回数
eapjmxmbnapnm	eapjmx		Application名
eapjmxmbnnm	eapjmx		MessageDrivenBean名
eapjmxmbnejbnm	eapjmx		EJBモジュール名

Record ID : EAP_JMX_JAVAAE_THREAD_POOL

Record No. : FJ1433

Table name : resource_data_vwide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
eapjmxtdwtmmin	eapjmx	milliseconds	キュー内の要求が処理されるまで待っていた最小待ち時間
eapjmxtdwtmmax	eapjmx	milliseconds	キュー内の要求が処理されるまで待っていた最大待ち時間
eapjmxtdwtmavg	eapjmx	milliseconds	キュー内の要求が処理されるまでの平均待ち時間
eapjmxtdactmmin	eapjmx	milliseconds	1つの作業の平均完了時間の最短時間
eapjmxtdactmmax	eapjmx	milliseconds	1つの作業の平均完了時間の最長時間
eapjmxtdactmavg	eapjmx	milliseconds	1つの作業の平均完了時間
eapjmxtdrqnmllwmt	eapjmx	number	要求処理スレッドの下限数
eapjmxtdrqnmuplmt	eapjmx	number	要求処理スレッドの上限数
eapjmxtdrqnmmin	eapjmx	number	要求処理スレッドの最小数
eapjmxtdrqnmmax	eapjmx	number	要求処理スレッドの最大数

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
eapjmxtdrqnm	eapjmx	number	要求処理スレッドの数
eapjmxtdusenm	eapjmx	number	利用可能なスレッドの数
eapjmxtdactnm	eapjmx	number	作業中状態のスレッドの数
eapjmxtdqueadd	eapjmx	number	作業キューに追加された作業項目の合計数
eapjmxtdquelwlm	eapjmx	number	キュー内の作業項目の下限数
eapjmxtdqueuplmt	eapjmx	number	キュー内の作業項目の上限数
eapjmxtdquemini	eapjmx	number	キュー内の作業項目の最小数
eapjmxtdquemax	eapjmx	number	キュー内の作業項目の最大数
eapjmxtdquenm	eapjmx	number	キュー内の作業項目の数
eapjmxtdplnm	eapjmx		スレッドプール名

Record ID : EAP_JMX_JAVAEE_ORB_CONNECTION

Record No. : FJ1434

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
eapjmxorbidlnum	eapjmx	number	ORBへの接続のうち、アイドル状態の接続の合計数
eapjmxorbusenum	eapjmx	number	ORBへの接続のうち、使用中の接続の合計数
eapjmxorbcnlwlm	eapjmx		予約域
eapjmxorbcnuplmt	eapjmx		予約域
eapjmxorbcnmini	eapjmx		予約域
eapjmxorbcnmax	eapjmx		予約域
eapjmxorbcnnum	eapjmx	number	ORBへの接続の合計数
eapjmxorbmgnm	eapjmx		予約域

Record ID : EAP_JMX_JAVAEE_CONNECTION_QUEUE

Record No. : FJ1435

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
eapjmxhtpucncnt	eapjmx	number	キューがいっぱいになったためにHTTPリクエストを格納できなかった回数
eapjmxhtpexcnm	eapjmx	number	キュー内に存在しているHTTPリクエストの数
eapjmxhtp15minavcnt	eapjmx	number	キュー内HTTPリクエスト数の15分間における合計値
eapjmxhtp1minavcnt	eapjmx	number	キュー内HTTPリクエスト数の1分間における合計値
eapjmxhtp5minavcnt	eapjmx	number	キュー内HTTPリクエスト数の5分間における合計値
eapjmxhtpacnmm	eapjmx	number	受け付けられたHTTPリクエストの合計数
eapjmxhtptcnmm	eapjmx	number	キューに格納されたHTTPリクエストの合計数

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
eapjmxhttpquemaxsz	eapjmx	number	キューの最大サイズ
eapjmxhttpmaxcnm	eapjmx	number	キュー内に同時に存在していたHTTPリクエストの最大数
eapjmxhttpquenm	eapjmx		接続キュー名

Record ID : EAP_JMX_JAVAAE_CONNECTOR_POOL

Record No. : FJ1436

Table name : resource_data_vwide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
eapjmxcpplwtmavg	eapjmx	milliseconds	接続要求の平均待ち時間
eapjmxcpplwtmmin	eapjmx	milliseconds	接続要求の最短待ち時間
eapjmxcpplwtmmax	eapjmx	milliseconds	接続要求の最長待ち時間
eapjmxcpplwtmnew	eapjmx	milliseconds	最近受け付けた接続要求の待ち時間
eapjmxcpplgcnum	eapjmx	number	プールから獲得した論理接続数
eapjmxcpplphcnum	eapjmx	number	作成された物理接続数
eapjmxcpplphcnum	eapjmx	number	破棄された物理接続数
eapjmxcpplcnflnum	eapjmx	number	検証に失敗した物理接続数
eapjmxcpplfrcnummin	eapjmx	number	使用されていない物理接続の最小数
eapjmxcpplfrcnummax	eapjmx	number	使用されていない物理接続の最大数
eapjmxcpplfrcnum	eapjmx	number	使用されていない物理接続の数
eapjmxcpplfailcnum	eapjmx	number	認証情報のマッチングに失敗した物理接続数
eapjmxcpplfrcnum	eapjmx	number	プールに戻された論理接続数
eapjmxcpplsuccnum	eapjmx	number	認証情報のマッチングに成功した物理接続数
eapjmxcpplmotcnum	eapjmx	number	最大待ち時間の接続タイムアウトになった回数
eapjmxcpplusecmin	eapjmx	number	使用中の物理接続の最小数
eapjmxcpplusecmax	eapjmx	number	使用中の物理接続の最大数
eapjmxcpplusecnow	eapjmx	number	使用中の物理接続の数
eapjmxcpplrqwtcnum	eapjmx	number	待機しているキュー内の接続要求の数
eapjmxcpplplnm	eapjmx		コネクタ接続プール名

Record ID : EAP_JMX_JAVAAE_HTTP_LISTENER

Record No. : FJ1437

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
eapjmxhlsnrcvttl	eapjmx	byte	各HTTPリスナーが受信したバイト数の合計値  ポイント 仮想サーバ単位の性能値です。 そのため、同一仮想サーバ(server)のHTTPリスナー(http-listener-1、http-listener-2)の性能値は同じ値となります。
eapjmxhlsnsndttl	eapjmx	byte	各HTTPリスナーが送信したバイト数の合計値  ポイント 仮想サーバ単位の性能値です。 そのため、同一仮想サーバ(server)のHTTPリスナー(http-listener-1、http-listener-2)の性能値は同じ値となります。
eapjmxhlsncnum	eapjmx	number	HTTPリスナーに接続されているリクエストの数  ポイント 仮想サーバ単位の性能値です。 そのため、同一仮想サーバ(server)のHTTPリスナー(http-listener-1、http-listener-2)の性能値は同じ値となります。
eapjmxhlsnrepnum	eapjmx	number	その他のHTTPステータスコードを含むレスポンスの合計数  ポイント 仮想サーバ単位の性能値です。 そのため、同一仮想サーバ(server)のHTTPリスナー(http-listener-1、http-listener-2)の性能値は同じ値となります。
eapjmxhlsnextthnum	eapjmx		予約域
eapjmxhlsnusetnum	eapjmx		予約域
eapjmxhlsnerrcnt	eapjmx	number	エラー回数の合計数  ポイント 仮想サーバ単位の性能値です。 そのため、同一仮想サーバ(server)のHTTPリスナー(http-listener-1、http-listener-2)の性能値は同じ値となります。
eapjmxhlsnsmcmax	eapjmx	number	HTTPリスナーに同時に接続されたリクエスト数の最大値

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
			 ポイント 仮想サーバ単位の性能値です。 そのため、同一仮想サーバ(server)のHTTPリスナー(http-listener-1、http-listener-2)の性能値は同じ値となります。
eapjmxhlsnurnrpthmax	eapjmx		予約域
eapjmxhlsnmkrqthmax	eapjmx		予約域
eapjmxhlsnrprctmmax	eapjmx	milliseconds	HTTPリクエストの処理時間の最大値  ポイント 仮想サーバ単位の性能値です。 そのため、同一仮想サーバ(server)のHTTPリスナー(http-listener-1、http-listener-2)の性能値は同じ値となります。
eapjmxhlsnurnrpthmin	eapjmx		予約域
eapjmxhlsnrqtmttl	eapjmx		予約域
eapjmxhlsnrqnum	eapjmx	number	処理されたHTTPリクエストの合計数  ポイント 仮想サーバ単位の性能値です。 そのため、同一仮想サーバ(server)のHTTPリスナー(http-listener-1、http-listener-2)の性能値は同じ値となります。
eapjmxhlsnnm	eapjmx		予約域
eapjmxhlsnsvnm	eapjmx		バーチャルサーバ名

Record ID : EAP_JMX_JAVAEE_STATEFUL_SESSION

Record No. : FJ1439

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
eapjmxsfsbpsvmin	eapjmx	number	Passivate状態となっているインスタンス数の最小値
eapjmxsfsbpsvmax	eapjmx	number	Passivate状態となっているインスタンス数の最大値
eapjmxsfsbpsvnow	eapjmx	number	Passivate状態となっているインスタンス数
eapjmxsfsbidlmin	eapjmx	number	キャッシュ内のアイドル状態となっているBeanインスタンスの最小数
eapjmxsfsbidlmax	eapjmx	number	キャッシュ内のアイドル状態となっているBeanインスタンスの最大数

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
eapjmxsfsbidlnow	eapjmx	number	キャッシュ内のアイドル状態となっているBeanインスタンスの数
eapjmxsfsbcrmtcnt	eapjmx	number	Stateful Session Beanのインスタンスが生成された回数
eapjmxsfsbrmvmtcnt	eapjmx	number	EJBのremoveメソッドが呼び出された回数
eapjmxsfsbapnm	eapjmx		Application名
eapjmxsfsbnm	eapjmx		StatefulSessionBean名
eapjmxsfsbejbnm	eapjmx		EJBモジュール名

Record ID : EAP_JMX_JAVAAE_STATELESS_SESSION

Record No. : FJ1440

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
eapjmxslsbistmin	eapjmx	number	プール内のインスタンスの最小数
eapjmxslsbistmax	eapjmx	number	プール内のインスタンスの最大数
eapjmxslsbistnow	eapjmx	number	プール内のインスタンスの数
eapjmxslsbcrmtcnt	eapjmx	number	Stateless Session Beanのインスタンスが生成された回数
eapjmxslsbrmvmtcnt	eapjmx	number	EJBのremoveメソッドが呼び出された回数
eapjmxslsbapnm	eapjmx		Application名
eapjmxslsbnm	eapjmx		StatelessSessionBean名
eapjmxslsbejbnm	eapjmx		EJBモジュール名

Record ID : EAP_JMX_JAVAAE_TRANSACTION

Record No. : FJ1441

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
eapjmxtrnrbknum	eapjmx	number	ロールバックされたトランザクションの数
eapjmxtrncmtnum	eapjmx	number	コミットされたトランザクションの数
eapjmxtrnactnum	eapjmx	number	アクティブなトランザクションの数

4.2.9 Interstageフォルダ配下/Interstage～レポート

Record ID : ISPREPORT_TDOBJ

Record No. : FJ1006

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
tProcessID	ispreport - k TDOBJ		性能情報が測定されている業務アプリケーションのプロセスID
tMaxReqTime	ispreport - k TDOBJ	milliseconds	収集間隔内に当該プロセスで処理されたオペレーションの最大処理時間
tMinReqTime	ispreport - k TDOBJ	milliseconds	収集間隔内に当該プロセスで処理されたオペレーションの最小処理時間
tAvgReqTime	ispreport - k TDOBJ	milliseconds	収集間隔内に当該プロセスで処理されたオペレーションの平均処理時間
tMaxWaitTime	ispreport - k TDOBJ	milliseconds	クライアントアプリケーションからの要求を受け付けてからサーバアプリケーションの処理を開始するまでの時間で収集間隔内の最大処理待ち時間
tMinWaitTime	ispreport - k TDOBJ	milliseconds	クライアントアプリケーションからの要求を受け付けてからサーバアプリケーションの処理を開始するまでの時間で収集間隔内の最小処理待ち時間
tAvgWaitTime	ispreport - k TDOBJ	milliseconds	クライアントアプリケーションからの要求を受け付けてからサーバアプリケーションの処理を開始するまでの時間で収集間隔内の平均処理待ち時間
tProcNum	ispreport - k TDOBJ	number	収集間隔内に当該オペレーションが、当該プロセスで実行された回数
tReqNum	ispreport - k TDOBJ	number	性能監視開始時からの当該オブジェクトの累積処理数
tWaitNum	ispreport - k TDOBJ	number	収集間隔内に当該オブジェクトに対して処理待ちとなった要求の最大数
tOPName	ispreport - k TDOBJ		性能情報が測定されている業務アプリケーションのオペレーション名

Record ID : ISPREPORT_EJBAPL

Record No. : FJ1007

Table name : resource_data_vwide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
eProcessID	ispreport - k EJBAPL		性能情報が測定されているEJBアプリケーションのプロセスID
eThreadID	ispreport - k EJBAPL		監視対象メソッドが動作するスレッドID
eMaxReqTime	ispreport - k EJBAPL	milliseconds	収集間隔内の、当該スレッドにおける監視対象メソッドの最大処理時間
eMinReqTime	ispreport - k EJBAPL	milliseconds	収集間隔内の、当該スレッドにおける監視対象メソッドの最小処理時間

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
	EJBAP L		
eAvgReqTime	isprepor t -k EJBAP L	milliseco nds	収集間隔内の、当該スレッドにおける監視対象メソッドの平均処理時間
eMaxWaitTime	isprepor t -k EJBAP L	milliseco nds	収集間隔内の、クライアントアプリケーションからの要求を受け付けてからメソッドの処理開始までの最大処理待ち時間
eMinWaitTime	isprepor t -k EJBAP L	milliseco nds	収集間隔内の、クライアントアプリケーションからの要求を受け付けてからメソッドの処理開始までの最小処理待ち時間
eAvgWaitTime	isprepor t -k EJBAP L	milliseco nds	収集間隔内の、クライアントアプリケーションからの要求を受け付けてからメソッドの処理開始までの平均処理待ち時間
eProcNum	isprepor t -k EJBAP L		収集間隔内の、当該スレッドにおける監視対象メソッドの処理回数
eReqNum	isprepor t -k EJBAP L		収集間隔内に、当該EJBアプリケーションの累積処理回数
eWaitNum	isprepor t -k EJBAP L		収集間隔内の、当該EJBアプリケーションに対して処理待ちとなった要求の最大数。EJBアプリケーションが Message-driven Bean の場合には、必ず”0”が出力される。
ObjNum	isprepor t -k EJBAP L		現在のEJBオブジェクト数(createメソッド実行数とremoveメソッド実行数の差分)
MaxPassivate	isprepor t -k EJBAP L		収集間隔内の、EJBアプリケーション(プロセス)のインスタンスのプーリング最大回数
MaxVMMem	isprepor t -k EJBAP L	Kbytes	EJBアプリケーションに対応するVMの最大メモリ使用量。収集間隔内にメソッドが処理されなければ、0となる。
AvgVMMem	isprepor t -k EJBAP L	Kbytes	EJBアプリケーションに対応するVMの平均メモリ使用量。収集間隔内にメソッドが処理されなければ、0となる。
MethodName	isprepor t -k EJBAP L		監視対象メソッド名とシングネチャ(メソッドの引数と戻り値の型)

Record ID : ISPREPORT_IMPLID

Record No. : FJ1008

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
iProcessID	ispreport -k IMPLID		監視対象のCORBAアプリケーションのプロセスID
iThreadID	ispreport -k IMPLID		監視対象のCORBAアプリケーションのスレッドID
iMaxReqTime	ispreport -k IMPLID	milliseco nds	収集間隔内の、当該スレッドにおける当該オペレーションの最大処理時間
iMinReqTime	ispreport -k IMPLID	milliseco nds	収集間隔内の、当該スレッドにおける当該オペレーションの最小処理時間
iAvgReqTime	ispreport -k IMPLID	milliseco nds	収集間隔内の、当該スレッドにおける当該オペレーションの平均処理時間
iMaxWaitTime	ispreport -k IMPLID	milliseco nds	収集間隔内の、クライアントアプリケーションからの要求を受け付けてからオブジェクトの処理開始までの最大処理時間
iMinWaitTime	ispreport -k IMPLID	milliseco nds	収集間隔内の、クライアントアプリケーションからの要求を受け付けてからオブジェクトの処理開始までの最小処理時間
iAvgWaitTime	ispreport -k IMPLID	milliseco nds	収集間隔内の、クライアントアプリケーションからの要求を受け付けてからオブジェクトの処理開始までの平均処理時間
MaxDataLen	ispreport -k IMPLID	bytes	クライアントアプリケーションから送信された最大データ長
MinDataLen	ispreport -k IMPLID	bytes	クライアントアプリケーションから送信された最小データ長
AvgDataLen	ispreport -k IMPLID	bytes	クライアントアプリケーションから送信された平均データ長
iProcNum	ispreport -k IMPLID		収集間隔内の、当該スレッドにおける当該オペレーションの処理回数
iReqNum	ispreport -k IMPLID		収集間隔内の、当該オブジェクトの累積処理回数
iWaitNum	ispreport -k IMPLID		収集間隔内の、当該オブジェクトに対して処理待ちとなった要求の最大数

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ObjectName	ispreport -k IMPLID		インプリメンテーションリポジトリに含まれるオブジェクトの名前
iOPName	ispreport -k IMPLID		インプリメンテーションリポジトリに含まれるオブジェクト内のオペレーション名

Record ID : IS_JMX_JVM

Record No. : FJ1088

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ijjvhpcur	jmxif	bytes	ヒープ量現在
ijjvhpmin	jmxif	bytes	ヒープ量最小
ijjvhpmax	jmxif	bytes	ヒープ量最大
ijjvhpulim	jmxif	bytes	ヒープ量上限
ijpermcu	jmxif	bytes	Perm現在
ijpermmin	jmxif	bytes	Perm最小
ijpermmax	jmxif	bytes	Perm最大
ijpermulim	jmxif	bytes	Perm上限 値が-1の場合は、メタスペースの上限値が設定されていないことを表します。
ijgcocnum	jmxif	number	ガーベジコレクションの発生回数
ijgcoctim	jmxif	milliseconds	ガーベジコレクションの処理トータル時間
ijgcocavg	jmxif	milliseconds	ガーベジコレクションの平均発生間隔

Record ID : IS_JMX_SERVLET

Record No. : FJ1089

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ijsvltmcal	jmxif	number	Method呼出し回数
ijsvltptavg	jmxif	microsec	処理時間平均
ijsvltptmax	jmxif	microsec	処理時間最大
ijsvltptmin	jmxif	microseconds	処理時間最小

Record ID : IS_JMX_ENTITYBEAN_METHOD

Record No. : FJ1090

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ijentmcal	jmxif	number	Method呼出し回数
ijentptavg	jmxif	microsec	処理時間平均
ijentptmax	jmxif	microsec	処理時間最大
ijentptmin	jmxif	microsec	処理時間最小

Record ID : IS_JMX_ENTBEAN_POOL_AND_PASSIVATE

Record No. : FJ1091

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ijenticur	jmxif	number	準備完了インスタンス現在数
ijentimax	jmxif	number	準備完了インスタンス最大数
ijentimin	jmxif	number	準備完了インスタンス最小数
ijentpicur	jmxif	number	プール中のインスタンス現在数
ijentpimax	jmxif	number	プール中のインスタンス最大数
ijentpimin	jmxif	number	プール中のインスタンス最小数
ijentricur	jmxif	number	1トランザクション当たりの使用インスタンス平均数
ijentrimax	jmxif	number	1トランザクション当たりの使用インスタンス最大数
ijentrimin	jmxif	number	1トランザクション当たりの使用インスタンス最小数
ijentpvcur	jmxif	number	passivateをしたインスタンスの平均数
ijentpvmax	jmxif	number	passivateをしたインスタンスの最大数
ijentpvmin	jmxif	number	passivateをしたインスタンスの最小数
ijentpvnum	jmxif	number	passivateが発生したトランザクション数
ijenttrnum	jmxif	number	Beanアクセストランザクション総数

Record ID : IS_JMX_STFBEAN_METHOD

Record No. : FJ1092

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ijstfmcals	jmxif	number	Method呼出し回数
ijstfmptavg	jmxif	microsec	処理時間平均
ijstfmptmax	jmxif	microsec	処理時間最大
ijstfmptmin	jmxif	microsec	処理時間最小

Record ID : IS_JMX_STFBEAN_INS_AND_IDLE

Record No. : FJ1093

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ijstfiicur	jmxif	number	メソッド呼び出し可能インスタンス現在
ijstfiimax	jmxif	number	メソッド呼び出し可能インスタンス最大
ijstfiimin	jmxif	number	メソッド呼び出し可能インスタンス最小
ijstfitime	jmxif	seconds	タイムアウト時間
ijstfinum	jmxif	number	タイムアウト回数

Record ID : IS_JMX_STLSBEAN_METHOD

Record No. : FJ1094

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ijstlmcal	jmxif	number	Method呼び出し回数
ijstlmpavg	jmxif	microsec	処理時間平均
ijstlmpmax	jmxif	microsec	処理時間最大
ijstlmpmin	jmxif	microsec	処理時間最小

Record ID : IS_JMX_MESSBEAN_METHOD

Record No. : FJ1095

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ijmesmcal	jmxif	number	Method呼び出し回数
ijmesptmax	jmxif	microsec	処理時間最大
ijmesptmin	jmxif	microsec	処理時間最小

Record ID : IS_JMX_MESSBEAN_INFO

Record No. : FJ1096

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ijmesprnum	jmxif	number	処理メッセージ件数
ijmesvnum	jmxif	number	退避メッセージ件数

Record ID : IS_JMX_JTARESOURCE

Record No. : FJ1097

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ijtaexnum	jmxif	number	実行トランザクション総数
ijtactnum	jmxif	number	コミットされたトランザクション数
ijtarbnum	jmxif	number	ロールバックされたトランザクション数
ijtatavg	jmxif	microsec	トランザクション処理平均時間
ijtatmax	jmxif	microsec	トランザクション処理最大時間
ijtatmin	jmxif	microsec	トランザクション処理最小時間
ijtatpavg	jmxif	number	実行中のトランザクション現在数
ijtatpmax	jmxif	number	実行中のトランザクション最大数
ijtatpmin	jmxif	number	実行中のトランザクション最小数

Record ID : IS_JMX_JDBCRESOURCE

Record No. : FJ1098

Table name : resource_data_uwide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ijdbcpcur	jmxif	number	物理コネクション数－現在値 (注1)
ijdbcpulim	jmxif	number	物理コネクション数－上限値 (注1)
ijdbcfree	jmxif	number	空きコネクション数 (注1)
ijdbcused	jmxif	number	使用中コネクション数 (注1)
ijdbcwtnum	jmxif	number	コネクション待ち回数 (注2)
ijdbcwtavg	jmxif	microsec	コネクション待ち時間 平均 (注2)
ijdbcwtmax	jmxif	microsec	コネクション待ち時間 最大 (注2)
ijdbcwtmin	jmxif	microsec	コネクション待ち時間 最小 (注2)
ijdbcthcur	jmxif	number	コネクション待ちスレッド数 現在値 (注2)
ijdbcthmax	jmxif	number	コネクション待ちスレッド数 最大値 (注2)
ijdbcthout	jmxif	number	コネクション待ちタイムアウト数 (注2)
ijdbpcnum	jmxif	number	物理コネクション確立回数 (注2)
ijdbpcavg	jmxif	microsec	物理コネクション確立時間-平均 (注2)
ijdbpcmax	jmxif	microsec	物理コネクション確立時間-最大 (注2)
ijdbpcmin	jmxif	microsec	物理コネクション確立時間-最小 (注2)
ijdbcidlcl	jmxif	number	アイドルタイムアウトによるクローズ回数 (注2)
ijdbcxcl	jmxif	number	例外発生によるクローズ回数 (注2)
ijdbcget	jmxif	number	コネクション獲得回数
ijdbccls	jmxif	number	コネクションクローズ回数
ijdbccavg	jmxif	microsec	コネクション時間－平均
ijdbccmax	jmxif	microsec	コネクション時間－最大

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ijdbccmin	jmxif	microsec	コネクション時間ー最小

注1) InterstageでJDBCコネクションをプーリングしている、または、データベースがOracle Database ServerでかつJDBCドライバでJDBCコネクションをプーリングしている場合に収集します。その他の場合は、収集されません。

注2) InterstageでJDBCコネクションをプーリングしている場合のみ収集します。JDBCドライバでJDBCコネクションをプーリングしている場合、収集されません。

Record ID : IS_JMX_EVENTSERVICE

Record No. : FJ1306

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ijevntnum	jmxif	number	接続コンシューマ数
ijevntcntsum	jmxif	number	蓄積イベントデータ数
ijevntsprnum	jmxif	number	接続サブライヤ数

Record ID : IS_JMX_SERVLETCONTAINER

Record No. : FJ1305

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ijsvcnttotal	jmxif	number	スレッド数の合計
ijsvcntnum	jmxif	number	現在処理中のスレッド数

Record ID : IS_JMX_WEBAPPSSESSION

Record No. : FJ1304

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ijwebapnum	jmxif	number	セッション数

Record ID : IS_JMX_JAVAEE_JVM

Record No. : FJ1367

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
isjmxjvmhptim	isjmx	milliseconds	Java VM起動時間 <Java EE 5>
isjmxjvmhplwbnd	isjmx	byte	Java VMヒープサイズの下限值 <Java EE 5>

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
isjmxjvmhpubnd	isjmx	byte	Java VMヒープサイズの上限值 <Java EE 5>
isjmxjvmhpcrt	isjmx	byte	メモリ割り当てプールの現在値
isjmxjvmhplwwtmk	isjmx	byte	Java VMヒープサイズの最小値 <Java EE 5>
isjmxjvmhphiwtmk	isjmx	byte	メモリ割り当てプールの最大値
isjmxjvmprmmx	isjmx	byte	Perm領域の上限值 <Java EE 5>
isjmxjvmprmlwwtmk	isjmx	byte	Perm領域の最小使用量 <Java EE 5>
isjmxjvmprmhwtmk	isjmx	byte	Perm領域の最大使用量<Java EE 5> Perm領域の最大値<Java EE 6> メタスペースの最大値<Java EE 7, Jakarta EE>
isjmxjvmprm	isjmx	byte	Perm領域の現在使用量<Java EE 5> Perm領域の現在値<Java EE 6> メタスペースの現在値<Java EE 7, Jakarta EE>
isjmxjvmgcct	isjmx	number	ガーベジコレクション発生回数<Java EE 5, Java EE 6> ガーベジコレクション(Full GC+GC)の発生回数<Java EE 7, Jakarta EE>
isjmxjvmgctim	isjmx	milliseconds	ガーベジコレクション処理時間<Java EE 5, Java EE 6> ガーベジコレクション(Full GC+GC)の処理トータル時間<Java EE 7, Jakarta EE>
isjmxjvmgc2cnt	isjmx	number	GCの発生回数<Java EE 7, Jakarta EE>
isjmxjvmgc2tim	isjmx	milliseconds	GCの処理トータル時間<Java EE 7, Jakarta EE>

Record ID : IS_JMX_JAVAEE_JDBC_POOL

Record No. : FJ1368

Table name : resource_data_vwide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
isjmxjdbcwtavg	isjmx	milliseconds	接続要求の平均待機時間
isjmxjdbcwtmin	isjmx	milliseconds	接続要求の最短待機時間
isjmxjdbcwtmax	isjmx	milliseconds	接続要求の最長待機時間
isjmxjdbcwtm	isjmx	milliseconds	最近受け付けた接続要求の待機時間
isjmxjdbcgetcnum	isjmx	number	プールから獲得した論理接続数
isjmxjdbcmkcnum	isjmx	number	作成された物理接続数
isjmxjdbcdstcnum	isjmx	number	破棄された物理接続数
isjmxjdbcfailcnum	isjmx	number	検証に失敗した物理接続数

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
isjmxjdbcfrnummin	isjmx	number	使用されていない物理接続の最小数<Java EE 5、Java EE 7、Jakarta EE>
isjmxjdbcfrnummax	isjmx	number	使用されていない物理接続の最大数<Java EE 5、Java EE 7、Jakarta EE>
isjmxjdbcnum	isjmx	number	使用されていない物理接続の現在数<Java EE 5、Java EE 7、Jakarta EE>
isjmxjdbcdnycnum	isjmx	number	認証情報のマッチングに失敗した物理接続数
isjmxjdbcbknum	isjmx	number	プールに戻された論理接続数
isjmxjdbccagnum	isjmx	number	認証情報のマッチングに成功した物理接続数
isjmxjdbctmotnum	isjmx	number	タイムアウトになった物理接続数<Java EE 5、Java EE 6> 最大待ち時間の接続タイムアウトになった回数<Java EE 7、Jakarta EE>
isjmxjdbcusdmin	isjmx	number	使用中の物理接続の最小数
isjmxjdbcusdmax	isjmx	number	使用中の物理接続の最大数
isjmxjdbcnusecnum	isjmx	number	使用中の物理接続の現在数
isjmxjdbcrqwtcnnum	isjmx	number	待機しているキュー内の接続要求の数
isjmxjdbclknnum	isjmx	number	リークが発生した接続の数
isjmxjdbcpnm	isjmx		JDBC接続プール名

Record ID : IS_JMX_JAVAAE_MSGDRIVEN_BEAN

Record No. : FJ1369

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
isjmxmbnmsgnum	isjmx	number	Message-driven Beanに対して受信されたメッセージ数
isjmxmbnrcrtmtcnt	isjmx	number	Message-driven Beanのインスタンスが生成された回数
isjmxmbnrmvmtcnt	isjmx	number	アイドルタイムアウトによりMessage-driven Beanのインスタンスが破棄された回数<Java EE 5、Java EE 6> Message-driven Beanのインスタンスが破棄された回数<Java EE 7、Jakarta EE>
isjmxmbnapnm	isjmx		Application名
isjmxmbnnum	isjmx		MessageDrivenBean名
isjmxmbnejbnm	isjmx		EJBモジュール名

Record ID : IS_JMX_JAVAAE_THREAD_POOL

Record No. : FJ1370

Table name : resource_data_vwide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
isjmxtdwtmmin	isjmx	milliseconds	キュー内の要求が処理されるまで待っていた最小待ち時間
isjmxtdwtmmax	isjmx	milliseconds	キュー内の要求が処理されるまで待っていた最大待ち時間
isjmxtdwtmavg	isjmx	milliseconds	キュー内の要求が処理されるまでの平均待ち時間
isjmxtdactmmin	isjmx	milliseconds	1つの作業の平均完了時間の最短時間
isjmxtdactmmax	isjmx	milliseconds	1つの作業の平均完了時間の最長時間
isjmxtdactmavg	isjmx	milliseconds	1つの作業の平均完了時間
isjmxtdrqnmwlmnt	isjmx	number	要求処理スレッドの下限数
isjmxtdrqnmuplmt	isjmx	number	要求処理スレッドの上限数
isjmxtdrqnmmin	isjmx	number	要求処理スレッドの最小数
isjmxtdrqnmmax	isjmx	number	要求処理スレッドの最大数
isjmxtdrqnm	isjmx	number	要求処理スレッドの現在数
isjmxtdusenm	isjmx	number	利用可能なスレッドの数
isjmxtdactnm	isjmx	number	作業中状態のスレッドの数
isjmxtdqueadd	isjmx	number	作業キューに追加された作業項目の合計数
isjmxtdquelwlmnt	isjmx	number	キュー内の作業項目の下限数
isjmxtdquemmin	isjmx	number	キュー内の作業項目の最小数 (sqcPDBcout(CSV出力コマンド)で出力した場合、data_num17のフィールドに出力されます。)
isjmxtdquemmax	isjmx	number	キュー内の作業項目の最大数 (sqcPDBcout(CSV出力コマンド)で出力した場合、data_num18のフィールドに出力されます。)
isjmxtdquenm	isjmx	number	キュー内の作業項目の数 (sqcPDBcout(CSV出力コマンド)で出力した場合、data_num19のフィールドに出力されます。)
isjmxtdplnm	isjmx		スレッドプール名

Record ID : IS_JMX_JAVAAEE_ORB_CONNECTION

Record No. : FJ1371

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
isjmxorbidlnum	isjmx	number	ORBへの接続のうち、アイドル状態の接続の合計数
isjmxorbusenum	isjmx	number	ORBへの接続のうち、使用中の接続の合計数
isjmxorbcnlwlmnt	isjmx	number	ORBへの接続の下限数 <Java EE 5>
isjmxorbcnuplmt	isjmx	number	ORBへの接続の上限数 <Java EE 5>

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
isjmxorbcnmin	isjmx	number	ORBへの接続の最小数 <Java EE 5>
isjmxorbcnmax	isjmx	number	ORBへの接続の最大数 <Java EE 5>
isjmxorbcnnum	isjmx	number	ORBへの接続の合計数
isjmxorbmgnm	isjmx		コネクションマネージャ名 <Java EE 5、Java EE 6>

Record ID : IS_JMX_JAVAAEE_CONNECTION_QUEUE

Record No. : FJ1372

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
isjmxhtpucncnt	isjmx	number	キューがいっぱいになったためにHTTPリクエストを格納できなかった回数
isjmxhtpexcnm	isjmx	number	キュー内に現在存在しているHTTPリクエストの数
isjmxhtp15minavcnt	isjmx	number	キュー内接続数の過去15分間における平均値<Java EE 5> キュー内HTTPリクエスト数の過去15分間における合計値<Java EE 7、Jakarta EE>
isjmxhtp1minavcnt	isjmx	number	キュー内接続数の過去1分間における平均値<Java EE 5> キュー内HTTPリクエスト数の過去1分間における合計値<Java EE 7、Jakarta EE>
isjmxhtp5minavcnt	isjmx	number	キュー内接続数の過去5分間における平均値<Java EE 5> キュー内HTTPリクエスト数の過去5分間における合計値<Java EE 7、Jakarta EE>
isjmxhtpaccnmm	isjmx	number	受け付けられたHTTPリクエストの合計数
isjmxhtpptcnmm	isjmx	number	キューに格納されたHTTPリクエストの合計数
isjmxhtpquemaxsz	isjmx	number	キューの最大サイズ
isjmxhtpmaxcnmm	isjmx	number	キュー内に同時に存在していたHTTPリクエストの最大数
isjmxhtpquenm	isjmx		接続キュー名<Java EE 7、Jakarta EE>

Record ID : IS_JMX_JAVAAEE_CONNECTOR_POOL

Record No. : FJ1373

Table name : resource_data_vwide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
isjmxcpplwtmavg	isjmx	milliseconds	接続要求の平均待ち時間

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
isjmxcpplwtmmin	isjmx	milliseconds	接続要求の最短待ち時間
isjmxcpplwtmmax	isjmx	milliseconds	接続要求の最長待ち時間
isjmxcpplwtmnew	isjmx	milliseconds	最も最近受け付けた接続要求の待ち時間
isjmxcpplgcnum	isjmx	number	プールから獲得した論理接続数
isjmxcpplphcnum	isjmx	number	作成された物理接続数
isjmxcpplphcnum	isjmx	number	破棄された物理接続数
isjmxcpplfrcnum	isjmx	number	検証に失敗した物理接続数
isjmxcpplfrcnummin	isjmx	number	使用されていない物理接続の最小数
isjmxcpplfrcnummax	isjmx	number	使用されていない物理接続の最大数
isjmxcpplfrcnum	isjmx	number	使用されていない物理接続の現在数
isjmxcpplfailnum	isjmx	number	認証情報のマッチングに失敗した物理接続数
isjmxcpplfrcnum	isjmx	number	プールに戻された論理接続数
isjmxcpplsuccnum	isjmx	number	認証情報のマッチングに成功した物理接続数
isjmxcpplmtotnum	isjmx	number	タイムアウトになった物理接続数<Java EE 5、Java EE 6> 最大待ち時間の接続タイムアウトになった回数<Java EE 7、Jakarta EE>
isjmxcpplusecmin	isjmx	number	使用中の物理接続の最小数
isjmxcpplusecmax	isjmx	number	使用中の物理接続の最大数
isjmxcpplusecnow	isjmx	number	使用中の物理接続の現在数
isjmxcpplrqwtcnum	isjmx	number	待機しているキュー内の接続要求の数
isjmxcpplplnm	isjmx		コネクタ接続プール名

Record ID : IS_JMX_JAVAAE_HTTP_LISTENER

Record No. : FJ1374

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
isjmxhlsnrcvttl	isjmx	byte	各要求プロセッサが受信したバイトの値<Java EE 5、Java EE 6> 各HTTPリスナーが受信したバイト数の合計値<Java EE 7、Jakarta EE>  ポイント 仮想サーバ単位の性能値です。

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
			そのため、同一仮想サーバ(server)のHTTPリスナー(http-listener-1、http-listener-2)の性能値は同じ値となります。
isjmxhlsnsndttl	isjmx	byte	各要求プロセッサが送信したバイトの値<Java EE 5、Java EE 6> 各HTTPリスナーが送信したバイト数の合計値<Java EE 7、Jakarta EE>  ポイント 仮想サーバ単位の性能値です。 そのため、同一仮想サーバ(server)のHTTPリスナー(http-listener-1、http-listener-2)の性能値は同じ値となります。
isjmxhlsnscnum	isjmx	number	現在HTTPリスナーが受け付けているHTTPリクエストの数<Java EE 5、Java EE 6> 現在HTTPリスナーに接続されているリクエストの数<Java EE 7、Jakarta EE>  ポイント 仮想サーバ単位の性能値です。 そのため、同一仮想サーバ(server)のHTTPリスナー(http-listener-1、http-listener-2)の性能値は同じ値となります。
isjmxhlsnrepnum	isjmx	number	その他の応答コードを含む応答の合計数<Java EE 5、Java EE 6> その他のHTTPステータスコードを含むレスポンスの合計数<Java EE 7、Jakarta EE>  ポイント 仮想サーバ単位の性能値です。 そのため、同一仮想サーバ(server)のHTTPリスナー(http-listener-1、http-listener-2)の性能値は同じ値となります。
isjmxhlsnextthnum	isjmx	number	HTTPリスナー内に現在存在している要求処理スレッドの数<Java EE 5、Java EE 6>
isjmxhlsnusethnum	isjmx	number	現在使用されている要求処理スレッドの数<Java EE 5、Java EE 6>
isjmxhlsnerrcnt	isjmx	number	エラー回数の合計数  ポイント 仮想サーバ単位の性能値です。

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
			そのため、同一仮想サーバ(server)のHTTPリスナー(http-listener-1、http-listener-2)の性能値は同じ値となります。
isjmxhlsnsmcmax	isjmx	number	HTTPリスナーが同時に受け付けることのできるHTTPリクエストの最大数<Java EE 5、Java EE 6> HTTPリスナーに同時に接続されたリクエスト数の最大値<Java EE 7、Jakarta EE>  ポイント 仮想サーバ単位の性能値です。 そのため、同一仮想サーバ(server)のHTTPリスナー(http-listener-1、http-listener-2)の性能値は同じ値となります。
isjmxhlsnunrpthmax	isjmx	number	存在可能な未使用要求処理スレッドの最大数<Java EE 5>
isjmxhlsnmkrqthmax	isjmx	number	リスナーが作成する要求処理スレッドの最大数<Java EE 5、Java EE 6>
isjmxhlsnprctmmax	isjmx	milliseconds	スレッド処理時間の最大値<Java EE 5、Java EE 6> HTTPリクエストの処理時間の最大値<Java EE 7、Jakarta EE>  ポイント 仮想サーバ単位の性能値です。 そのため、同一仮想サーバ(server)のHTTPリスナー(http-listener-1、http-listener-2)の性能値は同じ値となります。
isjmxhlsnunrpthmin	isjmx	number	存在可能な未使用要求処理スレッドの最小数 <Java EE 5>
isjmxhlsnrqtmttl	isjmx	milliseconds	各要求の処理に要した時間 <Java EE 5>
isjmxhlsnrqnum	isjmx	number	処理された要求の合計数<Java EE 5、Java EE 6> 処理されたHTTPリクエストの合計数<Java EE 7、Jakarta EE>  ポイント 仮想サーバ単位の性能値です。 そのため、同一仮想サーバ(server)のHTTPリスナー(http-listener-1、http-listener-2)の性能値は同じ値となります。
isjmxhlsnnm	isjmx		HTTPリスナー名<Java EE 5、Java EE 6>
isjmxhlsnsvnm	isjmx		バーチャルサーバ名

Record ID : IS_JMX_JAVAAE_ENTITY_BEAN

Record No. : FJ1375

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
isjmxetbnistmin	isjmx	number	プール内のインスタンスの最小数<Java EE 5、Java EE 6>
isjmxetbnistmax	isjmx	number	プール内のインスタンスの最大数<Java EE 5、Java EE 6>
isjmxetbnistnow	isjmx	number	プール内のインスタンスの現在数<Java EE 5、Java EE 6>
isjmxetbnidlmin	isjmx	number	キャッシュ内のアイドル状態となっているBeanインスタンスの最小数<Java EE 5、Java EE 6>
isjmxetbnidlmax	isjmx	number	キャッシュ内のアイドル状態となっているBeanインスタンスの最大数<Java EE 5、Java EE 6>
isjmxetbnidlnow	isjmx	number	キャッシュ内のアイドル状態となっているBeanインスタンスの現在数<Java EE 5、Java EE 6>
isjmxetbnappnm	isjmx		Application名<Java EE 5、Java EE 6>
isjmxetbnnm	isjmx		EntityBean名<Java EE 5、Java EE 6>
isjmxetbnejbnm	isjmx		EJBモジュール名<Java EE 5、Java EE 6>

Record ID : IS_JMX_JAVAAE_STATEFUL_SESSION

Record No. : FJ1376

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
isjmxsfsbpsvmin	isjmx	number	Passivateされたインスタンス数の最小値
isjmxsfsbpsvmax	isjmx	number	Passivateされたインスタンス数の最大値
isjmxsfsbpsvnow	isjmx	number	Passivateされたインスタンス数
isjmxsfsbidlmin	isjmx	number	キャッシュ内のアイドル状態となっているBeanインスタンスの最小数
isjmxsfsbidlmax	isjmx	number	キャッシュ内のアイドル状態となっているBeanインスタンスの最大数
isjmxsfsbidlnow	isjmx	number	キャッシュ内のアイドル状態となっているBeanインスタンスの現在数
isjmxsfsbcrmtcnt	isjmx	number	EJBのcreateメソッドが呼び出された回数<Java EE 5、Java EE 6> Stateful Session Beanのインスタンスが生成された回数<Java EE 7、Jakarta EE>
isjmxsfsbrmvmcnt	isjmx	number	EJBのremoveメソッドが呼び出された回数
isjmxsfsbappnm	isjmx		Application名
isjmxsfsbnm	isjmx		StatefulSessionBean名

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
isjmxsfsbejbnm	isjmx		EJBモジュール名

Record ID : IS_JMX_JAVAAE_STATELESS_SESSION

Record No. : FJ1377

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
isjmxslsbistmin	isjmx	number	プール内のインスタンスの最小数
isjmxslsbistmax	isjmx	number	プール内のインスタンスの最大数
isjmxslsbistnow	isjmx	number	プール内のインスタンスの現在数
isjmxslsbctmtcnt	isjmx	number	EJBのcreateメソッドが呼び出された回数<Java EE 5、Java EE 6> Stateless Session Beanのインスタンスが生成された回数<Java EE 7、Jakarta EE>
isjmxslsbrmvmcnt	isjmx	number	EJBのremoveメソッドが呼び出された回数
isjmxslsbaplnm	isjmx		Application名
isjmxslsbnm	isjmx		StatelessSessionBean名
isjmxslsbejbnm	isjmx		EJBモジュール名

Record ID : IS_JMX_JAVAAE_TRANSACTION

Record No. : FJ1378

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
isjmxtrnrknum	isjmx	number	ロールバックされたトランザクションの数
isjmxtrncmtnum	isjmx	number	コミットされたトランザクションの数
isjmxtrnactnum	isjmx	number	アクティブなトランザクションの数

4.2.10 Interstage(TxnAnalysis)JavaEE &Interstage(TxnAnalysis)フォルダ配下/レポートなし

Record ID : IS_TXN_RESP

Record No. : FJ1103

Table name : resource_data_twide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
resptime	Interstage ARM API	msec	IJServerクラスタ上で動作するJava EEアプリケーションまたはIJServer上で動作するJ2EEアプリケーションの

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
			コンポーネントが開始されてから終了するまでのレスポンス時間
blocktim	Interstage ARM API	msec	コンポーネントが、他のコンポーネントを呼び出し、制御が戻ってくるまでの時間(ブロック時間)
txnstatus	Interstage ARM API		コンポーネントごとの処理終了時のステータス ・ 0: 成功 作業が正常に期待どおりに完了しました。 ・ 1: 中止 システム内での基本的な不具合がありました。 ・ 2: 失敗 アプリケーションにおいて、処理には問題ありませんが、期待する結果が得られませんでした。
armwname	Interstage ARM API		サーバーインスタンス名 (Java EE環境の場合) ワークユニット名 (J2EE環境の場合)
armtxnid	Interstage ARM API		トランザクションID
armcomptype	Interstage ARM API		コンポーネントタイプ
armapname	Interstage ARM API		アプリケーション名
armkname	Interstage ARM API		動作種別 コンポーネントタイプにより異なる。 ・ ServletContainerの場合: クライアントIPアドレス ・ Servlet または JSPの場合: サーブレット名 ・ その他の場合: メソッド名
armuri	Interstage ARM API		URI
armpid	Interstage ARM API		プロセスID
armportno	Interstage ARM API		ポート番号

4.2.11 TxnAnalysis(Sync)フォルダ配下レポートなし

Record ID : TDASYNC

Record No. : FJ1301

Table name : resource_data_twide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
exetimsync	Log	seconds	トランザクション実行時間
effectimsync	Log	seconds	トランザクション実効時間

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
contid	Log		コンテキストID
trxnamsync	Log		トランザクション名
starttimsync	Log	time	トランザクション開始時刻
endtimsync	Log	time	トランザクション終了時刻

4.2.12 TxnAnalysis(Async)フォルダ配下/レポートなし

Record ID : TDAASYNC

Record No. : FJ1302

Table name : resource_data_twide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
actstotal	Log	number	アクティビティ総数
exetimasync	Log	seconds	トランザクション実行時間
comtim	Log	seconds	通信時間 (sqcPDBcout(CSV出力コマンド)で出力した場合、data_num4のフィールドに出力されます。)
corid	Log		コリレーションID
trxnasync	Log		トランザクション名
starttiasync	Log	time	トランザクション開始時刻
endtiasync	Log	time	トランザクション終了時刻

Record ID : TDAACTIVITY

Record No. : FJ1303

Table name : resource_data_twide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
exetimact	Log	seconds	アクティビティ実行時間
coridact	Log		コリレーションID
trxnact	Log		トランザクション名
actnam	Log		アクティビティ名
starttimact	Log	time	アクティビティ開始時刻
endtimact	Log	time	アクティビティ終了時刻

4.2.13 TxnAnalysis(OssJava)フォルダ配下/レポートなし

Record ID : TDAOSSJAVA

Record No. : FJ1365

Table name : resource_data_twide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
actstotalossjava	Log	number	アクティビティ総数
exetimossjava	Log	seconds	トランザクション実行時間
effectimossjava	Log	seconds	トランザクション実効時間
contidossjava	Log		コンテキストID
trxnamosjava	Log		トランザクション名
starttimossjava	Log	time	トランザクション開始時刻
endtimossjava	Log	time	トランザクション終了時刻

Record ID : TDAOSSJAVAACCT

Record No. : FJ1366

Table name : resource_data_twide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
effectimojact	Log	seconds	アクティビティ実効時間
contidojact	Log		コンテキストID
trxnamojact	Log		トランザクション名
acttypeojact	Log		アクティビティ種別
actnamojact	Log		アクティビティ名
starttimojact	Log	time	アクティビティ開始時刻
endtimojact	Log	time	アクティビティ終了時刻

4.2.14 ISIフォルダ配下/ISI～レポート

Record ID : IS_ISI_SEQ (注)

Record No. : FJ1307

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
sseqnum	ISI	Number	シーケンスごとの処理件数
sio	ISI		エンドポイントの送受信種別 ("ISI送信", "ISI受信")
sprotocol	ISI		エンドポイントのプロトコル
ssynctype	ISI		同期通信または非同期通信を設定
sendpointexp	ISI		エンドポイント説明文

注) 本レコードのデータは、フィールド「sseqnum」の値が0の場合は収集されません。

Record ID : IS_ISI_QUE

Record No. : FJ1308

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
qnumofstyavg	ISI	Number	キューごとの滞留数平均
qnumofstymax	ISI	Number	キューごとの滞留数最大
qnumofstymin	ISI	Number	キューごとの滞留数最小
qstyexist	ISI	Number	滞留の有無
qincflag	ISI	Number	キューごとの平均で算出した増加値
qmrthan1	ISI	Number	10秒ごとの滞留数を分布分けて何回観測されたかを表す(1以上)
qmrthan5	ISI	Number	10秒ごとの滞留数を分布分けて何回観測されたかを表す(5以上)
qmrthan10	ISI	Number	10秒ごとの滞留数を分布分けて何回観測されたかを表す(10以上)
qmrthan20	ISI	Number	10秒ごとの滞留数を分布分けて何回観測されたかを表す(20以上)
qmrthan50	ISI	Number	10秒ごとの滞留数を分布分けて何回観測されたかを表す(50以上)
qmrthan100	ISI	Number	10秒ごとの滞留数を分布分けて何回観測されたかを表す(100以上)
qmrthan500	ISI	Number	10秒ごとの滞留数を分布分けて何回観測されたかを表す(500以上)
qprotocol	ISI		プロトコル
qio	ISI		対象キューのエンドポイントの送受信種別
qqueexp	ISI		キュー説明文

4.2.15 WebLogicServerフォルダ配下/WebLogic Serverレポート

Record ID : WL_JMX_JAVAEE_JVM

Record No. : FJ1390

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
wljmxjvmhptim	wljmx	milliseconds	Java VMの運用時間
wljmxjvmhpupbnd	wljmx	byte	Java VMヒープサイズの上限值
wljmxjvmhpcrt	wljmx	byte	Java VMヒープの現在のサイズ
wljmxjvmhpsize	wljmx	byte	Java VMヒープの現在使用量
wljmxjvmhpfree	wljmx	byte	Java VMヒープの空き容量
wljmxjvmhpuse	wljmx	percent	Java VMヒープの使用率
wljmxjvmjgcct	wljmx	number	ガーベジコレクションの発生回数

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
			(Solarisの場合収集されません。)
wljmxjvmjgctim	wljmx	milliseconds	ガーベジコレクションの処理時間 (Solarisの場合収集されません。)

Record ID : WL_JMX_JAVAAE_JDBC_POOL

Record No. : FJ1391

Table name : resource_data_vwide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
wljmxjdplacnav	wljmx	number	アクティブな接続の平均数
wljmxjdplcnuse	wljmx	number	現在アクティブな接続の数
wljmxjdplacnm	wljmx	number	アクティブな接続の最大数
wljmxjdplpcntm	wljmx	milliseconds	接続遅延時間
wljmxjdplcntl	wljmx	number	接続数
wljmxjdplcnct	wljmx	number	現在の容量
wljmxjdplcnsmx	wljmx	number	現在の最大容量
wljmxjdplurqcnt	wljmx	number	予約に失敗した要求の数
wljmxjdplrfllcnt	wljmx	number	再接続の失敗数
wljmxjdplactcnmx	wljmx	number	最大使用可能数
wljmxjdplrkcnt	wljmx	number	リークした接続数
wljmxjdfrcncnt	wljmx	number	使用可能数
wljmxjdplnucncnt	wljmx	number	使用不可数
wljmxjdplstacnt	wljmx	number	プリペアド ステートメント キャッシュのアクセス数
wljmxjdplstadcnt	wljmx	number	プリペアド ステートメント キャッシュの追加数
wljmxjdplstalcnt	wljmx	number	プリペアド ステートメント キャッシュの現在サイズ
wljmxjdplstdtcnt	wljmx	number	プリペアド ステートメント キャッシュの削除数
wljmxjdplstuscnt	wljmx	number	プリペアド ステートメント キャッシュのヒット数
wljmxjdplstnrqcnt	wljmx	number	プリペアド ステートメント キャッシュの失敗数
wljmxjdplrqcnt	wljmx	number	予約された要求の数
wljmxjdplwtrqcnt	wljmx	number	接続待機の現在数
wljmxjdplngrqcnt	wljmx	number	接続待機の失敗数
wljmxjdplwtrqmx	wljmx	number	接続待機の最大数
wljmxjdplgrqcnt	wljmx	number	接続待機の成功数
wljmxjdplwtrqtl	wljmx	number	接続待機の数
wljmxjdplmxwttm	wljmx	second	最大待機時間(秒)
wljmxjdplnm	wljmx		JDBCデータソース名

Record ID : WL_JMX_JAVAEE_THREAD_POOL

Record No. : FJ1393

Table name : resource_data_vwide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
wljmxtpacthdcnt	wljmx	number	アクティブな実行スレッド数
wljmxtpexethdcnt	wljmx	number	実行スレッド総数
wljmxtpidlthdcnt	wljmx	number	アイドル中の実行スレッド数
wljmxtpquelngth	wljmx	number	キューの長さ
wljmxtpwtreqcnt	wljmx	number	保留中のユーザーリクエストの数
wljmxtpwkmgcmsh	wljmx	number	ワークマネージャーの共有容量
wljmxtpcmprqcnt	wljmx	number	完了済みリクエスト数
wljmxtpcothdcnt	wljmx	number	占有スレッド数
wljmxtpstbthdcnt	wljmx	number	スタンバイ中のスレッド数
wljmxtpscmprqcnt	wljmx	number	スループット
wljmxtpsvminlim	wljmx	number	保留中の最小スレッド数制約
wljmxtpfinminlim	wljmx	number	完了済みの最小スレッド数制約
wljmxtpnm	wljmx		スレッドプール名

Record ID : WL_JMX_JAVAEE_TRANSACTION

Record No. : FJ1398

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
wljmxtxexecnt	wljmx	number	トランザクション数
wljmxtxscmtcnt	wljmx	number	コミット済みトランザクション数
wljmxtxrbcnt	wljmx	number	ロールバック済みトランザクション数
wljmxtxsturbcnt	wljmx	number	ロールバック済みタイムアウトトランザクション数
wljmxtxsrrrbcnt	wljmx	number	ロールバック済みリソースエラートランザクション数
wljmxtxsapprbcnt	wljmx	number	ロールバック済みアプリケーションエラートランザクション数
wljmxtxssrrrbcnt	wljmx	number	ロールバック済みシステムエラートランザクション数
wljmxtxshrcmpcnt	wljmx	number	ヒューリスティックな終了数
wljmxtxsdscnt	wljmx	number	中止トランザクション数
wljmxtxsnorscnt	wljmx	number	リソースのないコミット済みトランザクション数
wljmxtxsonephscnt	wljmx	number	1リソース1フェーズ・コミット済みトランザクション数
wljmxtxsrdolycnt	wljmx	number	読取り専用1フェーズ・コミット済みトランザクション数
wljmxtxstwophscnt	wljmx	number	2フェーズ・コミット済みトランザクション数
wljmxtxsllrcnt	wljmx	number	LLRコミット済みトランザクション数
wljmxtxsactcnt	wljmx	number	アクティブトランザクション総数

4.2.16 MS-.NETフォルダ配下/MS-.NET～レポート

Record ID : ASP_NET

Record No. : 1100

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
preqqd	MS.NET	requests	処理待ち要求数
preqrej	MS.NET	requests	キューがいっぱいになったため拒否された要求数
papprs	MS.NET	requests	アプリケーションが再起動された回数
preqextm	MS.NET	milliseconds	最新の要求を実行するのに費やした時間
preqwtm	MS.NET	milliseconds	最新の要求がキュー上で待っている時間
preqdis	MS.NET	requests	通信エラーまたはユーザー操作によって切断された要求の数
pwprestrt	MS.NET	restarts	ワーカプロセスが再起動された回数
pwprun	MS.NET	applications	実行中のワーカプロセスの数
reqcurrent	MS.NET	requests	現在の要求数
reqrejected	MS.NET	requests	要求がいっぱいになったために拒否された要求の数

Record ID : ASP_NET_APP

Record No. : 1101

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
perrtot	MS.NET	errors	発生したエラーの総数
perrdp	MS.NET	errors	解析と構成中に発生したエラーの数
perrdc	MS.NET	errors	コンパイル中に発生したエラーの数
perrde	MS.NET	errors	要求の処理中に発生したエラーの数
preqsec	MS.NET	requests	収集期間中に実行した要求の数
preqbit	MS.NET	bytes	すべての要求の総サイズ
preqbot	MS.NET	bytes	クライアントに送信された応答の総サイズ
preqex	MS.NET	requests	現在実行している要求の数
preqfail	MS.NET	requests	失敗した要求の総数
preqto	MS.NET	requests	タイムアウトした要求の数
psesact	MS.NET	sessions	現在アクティブなセッションの数

Record ID : NET_CLR

Record No. : 1102

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ptotrc	MS.NET	RPCs	リモートプロシジャコールの総数

Record ID : NET_CLR_MEM

Record No. : 2069

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ncmbyteheap	MS.NET	bytes	ガーベジコレクションヒープに割り当てられたバイト数
ncmgencol_0	MS.NET	number	生成 0 オブジェクトがガーベジコレクションされた回数
ncmgencol_1	MS.NET	number	生成 1 オブジェクトが、ガーベジコレクションされた回数
ncmgencol_2	MS.NET	number	生成 2 オブジェクトが、ガーベジコレクションされた回数
ncmpinobj	MS.NET	objects	最後のガーベジコレクションで見つかったピン止めオブジェクトの数
ncmgctime	MS.NET	percent	最後のガーベジコレクションサイクル以来、ガーベジコレクションを行うために経過した時間
ncmlobjheapsize	MS.NET	bytes	Large Object Heapのサイズ

Record ID : NET_CLR_EXC

Record No. : 2060

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
netclrexcept	MS.NET	number	例外がスローされた数

Record ID : NET_CLR_LKTH

Record No. : 2064

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
lkthcurphythread	MS.NET	number	CLRによって作成され所有されて.NETスレッドオブジェクトの基になるスレッドとして動作するネイティブのOSスレッドの数
lkthcontention	MS.NET	number	ランタイムのスレッドがマネージロックを取得しようとして失敗した数

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
lkthcurqlen	MS.NET	number	アプリケーションでマネージロックを取得しようと待っているスレッドの合計数
lkthqlen	MS.NET	number	アプリケーションでロックの取得を待っているスレッド数

Record ID : NET_DPV_SQLS

Record No. : 2070

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
numactiveconpools	MS.NET	number	アクティブな接続プールの数
numpooledcons	MS.NET	number	接続プーラーによって管理されている接続の数

Record ID : NET_CLR_INT

Record No. : 2061

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
nciccw	MS.NET	number	Com呼び出し可能ラッパー(CCWs)の数
ncimarshal	MS.NET	number	アプリケーションが開始されて以来、引数と戻り値がマネージからアンマネージコードに、またアンマネージからマネージコードにマーシャリングされた合計回数
ncistubs	MS.NET	number	CLRで作成されたスタブ数

Record ID : NET_CLR_DATA

Record No. : 2059

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
curpoolcons	MS.NET	number	プロセスに関連付けられているすべてのプールに現在含まれる接続数
curconspool	MS.NET	number	プロセスに関連付けられているプール数
peakpoolcons	MS.NET	number	全プールをとおりプロセスの開始以降の接続数
totfailcons	MS.NET	number	接続を試みようとしたものの、何らかの理由で失敗した接続の合計数

Record ID : NET_CLR_LOAD

Record No. : 2063

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
loadheapbytes	MS.NET	number	すべてのAppDomainsでクラスローダによってコミットされているメモリのバイト数
curappdoms	MS.NET	number	アプリケーションに読み込まれたAppDomains数
curassemblies	MS.NET	number	アプリケーションのすべてのAppDomainsで読み込まれたアセンブリの数

Record ID : ASP_NET_APP2

Record No. : 2062

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
anahitratio	MS.NET	ratio	ユーザーコードから呼び出されるヒットの割合
anacachemiss	MS.NET	misses	ユーザーコードからのキャッシュミス数
anaturnover	MS.NET	pages	追加/削除されたAPIキャッシュ数
anatotentries	MS.NET	pages	キャッシュ内のエントリの総数
anatotitratio	MS.NET	ratio	すべてのキャッシュの呼び出しからのヒットの割合
anaerrortotsec	MS.NET	errors	発生したエラー数
anaexecerr	MS.NET	errors	ハンドルされていないエラー数
anaoutcachent	MS.NET	pages	出力キャッシュの現在のエントリ数
anaouthitratio	MS.NET	ratio	出力のキャッシュ可能要求に対する要求のヒット率
anaoutturnover	MS.NET	pages	追加/削除された出力キャッシュ数
anareqqueue	MS.NET	requests	アプリケーション要求キューにある要求数
anareqtot	MS.NET	requests	アプリケーション開始後の要求数の合計

Record ID : ASP_NET_V2_0_50727

Record No. : 1310

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
v2_0_50727_preqqd	MS.NET	requests	処理待ち要求数
v2_0_50727_preqrej	MS.NET	requests	キューがいっぱいになったため拒否された要求数
v2_0_50727_pappr	MS.NET	restarts	アプリケーションが再起動された回数
v2_0_50727_preqextm	MS.NET	milliseconds	最新の要求を実行するのに費やした時間
v2_0_50727_preqwtm	MS.NET	milliseconds	最新の要求がキュー上で待っている時間
v2_0_50727_preqdis	MS.NET	requests	通信エラーまたはユーザ操作によって切断された要求の数
v2_0_50727_pwprestrt	MS.NET	restarts	ワーカプロセスが再起動された回数

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
v2_0_50727_pwprun	MS.NET	applications	実行中のワーカプロセスの数
v2_0_50727_reqcurrent	MS.NET	requests	現在の要求数
v2_0_50727_reqrejected	MS.NET	requests	要求がいっぱいになったために拒否された要求の数

Record ID : ASP.NET_V4_0_30319 (注)

Record No. : 1311

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
v4_0_30319_preqqd	MS.NET	requests	処理待ち要求数
v4_0_30319_preqrej	MS.NET	requests	キューがいっぱいになったため拒否された要求数
v4_0_30319_papprsr	MS.NET	restarts	アプリケーションが再起動された回数
v4_0_30319_preqextm	MS.NET	milliseconds	最新の要求を実行するのに費やした時間
v4_0_30319_preqwtm	MS.NET	milliseconds	最新の要求がキュー上で待っている時間
v4_0_30319_preqdis	MS.NET	requests	通信エラーまたはユーザ操作によって切断された要求の数
v4_0_30319_pwprestrtr	MS.NET	restarts	ワーカプロセスが再起動された回数
v4_0_30319_pwprun	MS.NET	applications	実行中のワーカプロセスの数
v4_0_30319_reqcurrent	MS.NET	requests	現在の要求数
v4_0_30319_reqrejected	MS.NET	requests	要求がいっぱいになったために拒否された要求の数

注) 本レコードのデータは、ASP.NET 2.0以前の環境では収集されません。

Record ID : ASP.NET_APP_V2_0_50727

Record No. : 1312

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
v2_0_50727_perrtot	MS.NET	errors	発生したエラーの総数
v2_0_50727_perrdp	MS.NET	errors	解析と構成中に発生したエラーの数
v2_0_50727_perrdc	MS.NET	errors	コンパイル中に発生したエラーの数
v2_0_50727_perrde	MS.NET	errors	要求の処理中に発生したエラーの数
v2_0_50727_preqsec	MS.NET	requests	1秒ごとに実行した要求の数
v2_0_50727_preqbit	MS.NET	bytes	すべての要求の総サイズ
v2_0_50727_preqbot	MS.NET	bytes	クライアントに送信された応答の総サイズ
v2_0_50727_preqex	MS.NET	requests	現在実行している要求の数

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
v2_0_50727_preqfail	MS.NET	requests	失敗した要求の総数
v2_0_50727_preqto	MS.NET	requests	タイムアウトした要求の数
v2_0_50727_psesact	MS.NET	sessions	現在アクティブなセッションの数

Record ID : ASP_NET_APP_V4_0_30319

Record No. : 1313

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
v4_0_30319_perrtot	MS.NET	errors	発生したエラーの総数
v4_0_30319_perrdp	MS.NET	errors	解析と構成中に発生したエラーの数
v4_0_30319_perrdc	MS.NET	errors	コンパイル中に発生したエラーの数
v4_0_30319_perrde	MS.NET	errors	要求の処理中に発生したエラーの数
v4_0_30319_preqsec	MS.NET	requests	1 秒ごとに実行した要求の数
v4_0_30319_preqbit	MS.NET	bytes	すべての要求の総サイズ
v4_0_30319_preqbot	MS.NET	bytes	クライアントに送信された応答の総サイズ
v4_0_30319_preqex	MS.NET	requests	現在実行している要求の数
v4_0_30319_preqfail	MS.NET	requests	失敗した要求の総数
v4_0_30319_preqto	MS.NET	requests	タイムアウトした要求の数
v4_0_30319_psesact	MS.NET	sessions	現在アクティブなセッションの数

Record ID : ASP_NET_APP2_V2_0_50727

Record No. : 1314

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
v2_0_50727_anahitratio	MS.NET	ratio	ユーザー コードから呼び出されるヒットの割合
v2_0_50727_anacachemiss	MS.NET	misses	ユーザー コードからのキャッシュ ミスの数
v2_0_50727_anaturnover	MS.NET	pages	追加/削除された API キャッシュ数
v2_0_50727_anatotentries	MS.NET	pages	キャッシュ内のエントリの総数
v2_0_50727_anatothitratio	MS.NET	ratio	すべてのキャッシュの呼び出しからのヒットの割合
v2_0_50727_anaerrortotsec	MS.NET	errors	発生したエラー数
v2_0_50727_anaexecerr	MS.NET	errors	ハンドルされていないエラー数
v2_0_50727_anaoutcachent	MS.NET	pages	出力キャッシュの現在のエントリの数
v2_0_50727_anaouthitratio	MS.NET	ratio	出力のキャッシュ可能要求に対する要求のヒット率
v2_0_50727_anaoutturnover	MS.NET	pages	追加/削除された出力キャッシュ数
v2_0_50727_anarequeue	MS.NET	requests	アプリケーション要求キューにある要求数
v2_0_50727_anareqtot	MS.NET	requests	アプリケーション開始後の要求数の合計

Record ID : ASP_NET_APP2_V4_0_30319 (注)

Record No. : 1315

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
v4_0_30319_anahitratio	MS.NET	ratio	ユーザーコードから呼び出されるヒットの割合
v4_0_30319_anacachemiss	MS.NET	misses	ユーザーコードからのキャッシュ ミスの数
v4_0_30319_anaturnover	MS.NET	pages	追加/削除された API キャッシュ数
v4_0_30319_anatotentries	MS.NET	pages	キャッシュ内のエントリの総数
v4_0_30319_anatothitratio	MS.NET	ratio	すべてのキャッシュの呼び出しからのヒットの割合
v4_0_30319_anaerrortotsec	MS.NET	errors	発生したエラー数
v4_0_30319_anaexecerr	MS.NET	errors	ハンドルされていないエラー数
v4_0_30319_anaoutcachent	MS.NET	pages	出力キャッシュの現在のエントリの数
v4_0_30319_anaouthitratio	MS.NET	ratio	出力のキャッシュ可能要求に対する要求のヒット率
v4_0_30319_anaoutturnover	MS.NET	pages	追加/削除された出力キャッシュ数
v4_0_30319_anarequeue	MS.NET	requests	アプリケーション要求キューにある要求数
v4_0_30319_anareqtot	MS.NET	requests	アプリケーション開始後の要求数の合計

注) 本レコードのデータは、ASP.NET 2.0以前の環境では収集されません。

4.2.17 Symfowareフォルダ配下/Symfoware～レポート

Symfoware Server (Openインターフェース) およびSymfoware Server (Postgres) の場合は、「[4.2.21 PostgreSQL配下/PostgreSQL～レポート](#)」を参照してください。

ポイント

レコード名RDBPS_Sのフィールド名sCLInfo、レコード名RDBPS_Rのフィールド名sCLInfoは、Interstage Application Server とSymfoware Server間で、セキュリティ監査証跡機能が有効になっている時に収集される情報です。無効の場合は、「---:---」が表示されます。

Record ID : RDBSAR_EM

Record No. : FJ1010

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
Used	rdbsar -e -m	Kbytes	使用しているメモリ量
Free	rdbsar -e -m	Kbytes	未使用のメモリ量

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
Total	rdbsar -e -m	Kbytes	獲得しているメモリ量
emType	rdbsar -e -m		メモリの種類

Record ID : RDBSAR_EL

Record No. : FJ1011

Table name : resource_data_uwide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
BiBlock	rdbsar -e -l (-g)		BIログ域へ書き出したブロック数
AiBlock	rdbsar -e -l (-g)		AIログ域へ書き出したブロック数
BiWrite	rdbsar -e -l (-g)		BIログ域へ書き出した回数
AiWrite	rdbsar -e -l (-g)		AIログ領域へ書き出しを行った回数
IxWrite	rdbsar -e -l (-g)		インデックス部への書き出しを行った回数
RcpOver	rdbsar -e -l (-g)		リカバリログ量をオーバーした回数
TrnOver	rdbsar -e -l (-g)		トランザクションエントリの枯渇の危険を検出した回数
BiOver	rdbsar -e -l (-g)		BIログ域の枯渇の危険を検出した回数
LongTrn	rdbsar -e -l (-g)		長トランザクションを検出した回数
BufReq	rdbsar -e -l (-g)		バッファ制御に依頼を行った回数
ArcReq	rdbsar -e -l (-g)		アーカイブ制御に依頼を行った回数
DirReq	rdbsar -e -l (-g)		有効AIログ量を減らすためのRDBディレクトリ実更新依頼数
IxReq	rdbsar -e -l (-g)		有効AIログ量を減らすためのログインデックス部書き出し回数
StqReq	rdbsar -e -l (-g)		バッファ制御からのBIログ書き出し依頼回数
EmpBI	rdbsar -e -l (-g)	Kbytes	現在の空きBIログ量
EmpAI	rdbsar -e -l (-g)	Kbytes	現在の空きAIログ量
EmpEntry	rdbsar -e -l (-g)		現在の空きトランザクションエントリ数

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
PostBI	rdbsar -e -l (-g)		トランザクションからのBIログ書き出し完了同期依頼回数
PostAI	rdbsar -e -l (-g)		トランザクションからのAIログ書き出し完了同期依頼回数
DryBI	rdbsar -e -l (-g)		循環使用しているBIログバッファの全領域が未書き出し状態で循環した回数
DryAI	rdbsar -e -l (-g)		循環使用しているAIログバッファの全領域が未書き出し状態で循環した回数
DryAIArc	rdbsar -e -l (-g)		循環使用しているAIログバッファの全領域がアーカイブログ未書き出し状態で循環した回数
elLogGroupName	rdbsar -e -l (-g)		性能情報を取得したテンポラリログファイルまたはアーカイブログファイルが属するロググループ名

Record ID : RDBSAR_EB

Record No. : FJ1012

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ebPgSize	rdbsar -e -b	bytes	ページサイズ
ebBufNum	rdbsar -e -b	Page	総バッファ枚数
ebUseNum	rdbsar -e -b	Page	使用バッファ枚数
ebWpPage	rdbsar -e -b	Page	データベースへ書き込んだページ枚数
ebTbPage	rdbsar -e -b	Page	バッファから追い出したページ枚数
Alarm	rdbsar -e -b		バッファ使用利用がバッファプールの危険率に到達した回数
ebHitRate	rdbsar -e -b	%	アクセス対象のページがバッファ上に存在した割合
DryUp	rdbsar -e -b		バッファプール内に未使用状態のバッファが全くなかった回数
MinFree	rdbsar -e -b	Page	未使用バッファ枚数の最近の最小値
ebBpName	rdbsar -e -b		バッファプール名

Record ID : RDBSAR_ED

Record No. : FJ1014

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
RTimes	rdbsar -e -d		ページの読み込みを行った回数
WTimes	rdbsar -e -d		ページへ書き出しを行った回数
Rpage	rdbsar -e -d	Page	ページの読み込みを行った枚数
Wpage	rdbsar -e -d	Page	ページへ書き込みを行った枚数
SystemRead	rdbsar -e -d	millisec nds	リーダに読み込み処理が依頼されてから完了するまでの時間
ServiceRead	rdbsar -e -d	millisec nds	リーダにより読み込み処理の実行が開始されてから完了するまでの時間
SystemWrite	rdbsar -e -d	millisec nds	ライタに書き込み処理が依頼されてから完了するまでの時間
ServiceWrite	rdbsar -e -d	millisec nds	ライタにより書き込み処理の実行が開始されてから完了するまでの時間
edDBName	rdbsar -e -d		データベース名
edDBSpaceName	rdbsar -e -d		データベーススペース名
DeviceName	rdbsar -e -d		デバイス名

Record ID : RDBSAR_AGE

Record No. : FJ1015

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
Write	rdbsar -a		アーカイブログバッファからアーカイブログファイルへ書き出したブロック数
IONUM	rdbsar -a		アーカイブログバッファからアーカイブログファイルへ書き出したI/O数
ageLogGroupName	rdbsar -a		ロググループ名

Record ID : RDBPS_S

Record No. : FJ1017

Table name : resource_data_uuwide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
sPid	rdbps -s/sp		プロセスID

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
sElapse	rdbps - s/sp	seconds	RDBに接続してからの経過時間
T_BIND	rdbps - s/sp	time	翻訳にかかった時間
EXEETIME	rdbps - s/sp	time	実行にかかった時間
COMTIME	rdbps - s/sp	time	通信にかかった時間
ACCTBL	rdbps - s/sp		アクセスしたテーブル数
REQCOM	rdbps - s/sp		通信要求回数
REALCOM	rdbps - s/sp		実通信回数
REQFET	rdbps - s/sp		データ返却要求回数
REALFET	rdbps - s/sp		実データ返却通信回数
CUROPL	rdbps - s/sp		OPL保持数
MAXOPL	rdbps - s/sp		OPL保持数の最大値
TOTALEXEC	rdbps - s/sp		SQL文実行回数
INSEXEC	rdbps - s/sp		INSERT文実行回数
UPDEXEC	rdbps - s/sp		UPDATE文実行回数
DELEXEC	rdbps - s/sp		DELETE文実行回数
SELEXEC	rdbps - s/sp		SELECT文実行回数
OPNEXEC	rdbps - s/sp		OPEN文実行回数
CALEXEC	rdbps - s/sp		CALL文実行回数
TOTALBIND	rdbps - s/sp		SQL文翻訳回数
INSBIND	rdbps - s/sp		INSERT文翻訳回数
UPDBIND	rdbps - s/sp		UPDATE文翻訳回数
DELBIND	rdbps - s/sp		DELETE文翻訳回数
SELBIND	rdbps - s/sp		SELECT文翻訳回数

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
OPNBIND	rdbps - s/sp		OPEN文翻訳回数
CALBIND	rdbps - s/sp		CALL文翻訳回数
FILESORT	rdbps - s/sp		外部ファイルによるソート使用回数
TOTALSORT	rdbps - s/sp		ソート総使用回数
MAXSORT	rdbps - s/sp	Kbytes	最大ソート域サイズ
FILEWORK	rdbps - s/sp		外部ファイルによる作業テーブル使用回数
TOTALWORK	rdbps - s/sp		作業テーブル総使用回数
MAXWORK	rdbps - s/sp	Kbytes	最大作業テーブルサイズ
MEM	rdbps - s/sp	Kbytes	使用メモリ量
PARASQL	rdbps - s/sp		並列指定のSQL文実行回数。
CURPARACNT	rdbps - s/sp		現在の1セッションあたりの並列多重度
MAXPARACNT	rdbps - s/sp		最大の1セッションあたりの並列多重度
sModuleName	rdbps - s/sp		モジュール名
sUid	rdbps - s/sp		ログイン名
sStatus	rdbps - s/sp		動作状況
sType	rdbps - s/sp		クライアントプロセス種別
sCLInfo	rdbps - s/sp		クライアント情報:アクション情報

Record ID : RDBPS_R

Record No. : FJ1018

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
rPid	rdbps -r		プロセスID
rElapse	rdbps -r	seconds	RDBに接続してからの経過時間
rDeadLock	rdbps -r		デッドロック回数

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
rLockWait	rdbps -r		占有待ち回数
rWaitTime	rdbps -r	seconds	総占有待ち時間
rReadIndex	rdbps -r		インデックスを検索した回数
rWriteIndex	rdbps -r		インデックスを更新した回数
rReadPage	rdbps -r		ページの読み込みを依頼した回数
rWritePage	rdbps -r		ページの書き込みを依頼した回数
rReadRecord	rdbps -r		レコードを検索した回数
rWriteRecord	rdbps -r		レコードを更新した回数
rModuleName	rdbps -r		モジュール名
rUid	rdbps -r		ログイン名
rStatus	rdbps -r		動作状況
rType	rdbps -r		クライアントプロセス種別
rCLInfo	rdbps -r		クライアント情報:アクション情報

Record ID : RDBSPCINF_PD

Record No. : FJ1020

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
Static	rdbspcinf -p/-d	Kbytes	データベーススペースの静的割り当て量
Dynamic	rdbspcinf -p/-d	Kbytes	データベーススペースの動的割り当て量
FreeSize	rdbspcinf -p/-d	Kbytes	データベーススペースの空き容量
pdDBName	rdbspcinf -p/-d		データベース名
pdDBSpaceName	rdbspcinf -p/-d		データベーススペース名

Record ID : RDBINF_AP

Record No. : FJ1021

Table name : resource_data_twide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
apUsed	rdbinf -a -p	%	データベーススペースの使用率
apFree	rdbinf -a -p	%	データベーススペースの未使用率
apSize	rdbinf -a -p		データベーススペースの大きさ
apDBName	rdbinf -a -p		データベース名

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
apDBSpaceName	rdbinf -a -p		データベーススペース名
apCondition	rdbinf -a -p		データベースの使用状況およびDSIの使用状況
apStateK	rdbinf -a -p		データベーススペースに設定されている運用情報の種類
apStateT	rdbinf -a -p		データベーススペースに設定されている運用情報の設定対象
apCause	rdbinf -a -p		運用情報の設定原因

Record ID : RDBSAR_ER

Record No. : FJ1013

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
erPgSize	rdbsar -e -r	bytes	ページサイズ
erBufNum	rdbsar -e -r		総バッファ枚数
erUseNum	rdbsar -e -r		DSI単位の使用中バッファ枚数
Rate	rdbsar -e -r	%	DSI単位の総バッファ枚数における使用中バッファ枚数の割合
erWpPage	rdbsar -e -r		データベースへ書き込んだDSI内のページ枚数
erTbPage	rdbsar -e -r		バッファから追い出したDSI内のページ枚数
erHitRate	rdbsar -e -r	%	DSI単位のアクセス対象のDSI内のページがバッファ上に存在した割合
BpName	rdbsar -e -r		バッファプール名
erDBName	rdbsar -e -r		データベース名
erDSIName	rdbsar -e -r		DSI名
TypeName	rdbsar -e -r		DSIの種別

Record ID : RDBSAR_EC

Record No. : FJ1016

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
SendCnt	rdbsar-e-c		他ノードのRDBシステムへデータ送信した回数
RevCnt	rdbsar-e-c		他ノードのRDBシステムから受信した回数
SendQty	rdbsar-e-c	Bytes	他ノードのRDBシステムへ送信したデータ量
RecvQty	rdbsar-e-c	Bytes	他ノードのRDBシステムから受信したデータ量
System	rdbsar-e-c		通信相手のRDBシステム名

Record ID : RDBPS_IA

Record No. : FJ1019

Table name : resource_data_ttwide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
iaPid	rdbps-ia		プロセスID
iaElapse	rdbps-ia		RDBに接続してからの経過時間
iaDeadLock	rdbps-ia		デッドロック回数
iaLockWait	rdbps-ia		占有待ち回数
iaWaitTime	rdbps-ia		総占有待ち時間
iaReadIndex	rdbps-ia		インデックスを検索した回数
iaWriteIndex	rdbps-ia		インデックスを更新した回数
iaReadPage	rdbps-ia		ページの読み込みを依頼した回数
iaWritePage	rdbps-ia		ページの書き込みを依頼した回数
iaReadRecord	rdbps-ia		レコードを検索した回数
iaWriteRecord	rdbps-ia		レコードを更新した回数
iaModuleName	rdbps-ia		モジュール名
iaUid	rdbps-ia		ログイン名
iaStatus	rdbps-ia		動作状況
iaType	rdbps-ia		クライアントプロセス種別
iaDBName	rdbps-ia		データベース名
iaDSIName	rdbps-ia		DSI名
iaCLInfo	rdbps-ia		クライアント情報

Record ID : RDBINF_AI

Record No. : FJ1022

Table name : resource_data_twide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
aiUsed	rdbinf -a -i	%	割り付け対象ごとのDSI使用率
aiFree	rdbinf -a -i	%	割り付け対象ごとのDSI未使用率
aiSize	rdbinf -a -i	bytes	割り付け対象ごとのDSIの大きさおよびデータベーススペースからDSIに割り付けられた割付け対象ごとの大きさ
aiDBName	rdbinf -a -i		データベース名
aiDSIName	rdbinf -a -i		DSI名
aiTypeName	rdbinf -a -i		DSIの種別
aiCondition	rdbinf -a -i		DSIの使用状況およびデータベーススペースの使用状況
aiStateK	rdbinf -a -i		データベーススペースに設定されている運用情報の種類
aiStateT	rdbinf -a -i		データベーススペースに設定されている運用情報の設定対象
aiCause	rdbinf -a -i		運用情報の設定原因

4.2.18 SymfowareAnalyticsServerフォルダ配下/ SymfowareAnalyticsServerレポート

Record ID : SYMFOAS_PGXA_DBSPACE

Record No. : FJ1501

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
pgxa_dbpace_usagepercent	pgxa_dbpace_usage	percent	カラムナテーブルのデータベーススペースの使用率
pgxa_dbpace_total	pgxa_dbpace_usage	GB	カラムナテーブルのデータベーススペースの容量
pgxa_dbpace_usage	pgxa_dbpace_usage	GB	カラムナテーブルのデータベーススペースの使用量

Record ID : SYMFOAS_STAT_CONNECT

Record No. : FJ1502

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
statact_active_connect	pg_stat_activity	number	実行中(active)のコネクション数

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
			本製品の性能情報収集のためのアクセスによる値(1～インスタンス内のデータベース総数)が含まれます。
statact_active_long_connect	pg_stat_activity	number	長時間待ち状態のクライアントのコネクション数  ポイント - 本製品の性能情報収集のためのアクセスによる値(0～インスタンス内のデータベース総数)が含まれる場合があります。 - 待ち状態とは、トランザクション中でかつ待ち状態(idle in transaction)のクライアントのコネクションを示します。 - 長時間待ちと判断する時間は、デフォルトでは60分以上です。長時間待ちの設定についての詳細は、使用手引書"Symfowaser Analytics Serverとの連携"を参照してください。

4.2.19 Oracleフォルダ配下/Oracle～レポート

注意

PDBの場合、以下のレコードは収集されません。

- ORA_RC
- ORA_LC
- ORA_LT
- ORA_FMEM

Record ID : ORA_IO (注)

Record No. : 1028

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
phywrt	ora	writes	物理書き込み数
blkchg	ora	changes	DBブロック変更数
blkget	ora	gets	獲得DBブロック数
phyread	ora	reads	物理読み込み数
wrtreq	ora	writes	書き込み要求数
congets	ora	gets	一貫性のある読み込み

注) CDBから収集したデータは、マルチテナント・コンテナ・データベース全体を表す値になります。

Record ID : ORA_QUEUE (注)

Record No. : 1029

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
enqtmout	ora	timeouts	エンキュー操作タイムアウト数
enqwt	ora	waits	エンキュー操作待ち数
enqddlks	ora	deadlocks	エンキュー操作デッドロック数
enqrqt	ora	requests	エンキュー操作要求数
enqrls	ora	releases	エンキュー操作解放数

注) CDBから収集したデータは、マルチテナント・コンテナ・データベース全体を表す値になります。

Record ID : ORA_RETR (注)

Record No. : 1031

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
shtblscn	ora	scans	テーブルスキャン数-shorttables
lgtblscn	ora	scans	テーブルスキャン数-longtables
ctrscngt	ora	gets	クラスタキースキャンブロック獲得回数
cltrscn	ora	scans	クラスタキースキャン数
memsrt	ora	sorts	ソート回数－メモリ
dksrt	ora	sorts	ソート回数－ディスク
rowsrt	ora	sorts	ソート回数－行

注) CDBから収集したデータは、マルチテナント・コンテナ・データベース全体を表す値になります。

Record ID : ORA_TSS

Record No. : 1032

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
tsall	ora	Mbytes	テーブルスペースの総割り当てスペース量
tsused	ora	Mbytes	テーブルスペースの総使用スペース量  注意 収集できない場合は、データは表示されず、空欄となります。
tsfree	ora	Mbytes	テーブルスペースの使用可能スペース量

Record ID : ORA_RC (注)

Record No. : 1038

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
rcgets	ora	gets	キャッシュからの読み込み数
rcmisses	ora	misses	キャッシュからの読み込み失敗数

注) CDBから収集したデータは、マルチテナント・コンテナ・データベース全体を表す値になります。

Record ID : ORA_LC (注)

Record No. : 1039

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
lcexec	ora	execs	キャッシュExec数
lcreload	ora	reloads	キャッシュReload数

注) CDBから収集したデータは、マルチテナント・コンテナ・データベース全体を表す値になります。

Record ID : ORA_LT (注)

Record No. : 1040

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ltget	ora	gets	ラッチ読み込み数
ltmiss	ora	misses	ラッチ読み込みミス数

注) CDBから収集したデータは、マルチテナント・コンテナ・データベース全体を表す値になります。

Record ID : ORA_RBS

Record No. : 1043

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
rbsexts	ora	extents	ロールバックセグメントエクステンツ使用数
rbsgets	ora	gets	ロールバックセグメントgets数
rbswaits	ora	waits	ロールバックセグメントwaits数

Record ID : ORA_USR (注)

Record No. : 1027

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
curlog	ora	logons	現在ログオン数
cumlog	ora	logons	ログオン数の総和
curcscor	ora	cursors	現在のオープンカーソル数
cumcscor	ora	cursors	オープンカーソル数の総和
usrcmts	ora	commits	ユーザーコミット数
usrrlbc	ora	rollbacks	ユーザーロールバック数
usrcalls	ora	calls	ユーザーコール数

注) CDBから収集したデータは、マルチテナント・コンテナ・データベース全体を表す値になります。

Record ID : ORA_MEMORY (注)

Record No. : 1030

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ugamem	ora	bytes	セッションUGAメモリ
ugamemax	ora	bytes	セッションUGAメモリの最大値
pgamem	ora	bytes	セッションPGAメモリ
pgamemax	ora	bytes	セッションPGAメモリの最大値

注) CDBから収集したデータは、マルチテナント・コンテナ・データベース全体を表す値になります。

Record ID : ORA_TSF

Record No. : 1033

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
blkall	ora	blocks	テーブルスペースごとの総空きスペース量 <ディクショナリ管理表領域の場合>
blkavl	ora	blocks	テーブルスペースの総使用可能スペース量 <ディクショナリ管理表領域の場合>
tsext	ora	pieces	テーブルスペースの離散数 <ディクショナリ管理表領域の場合>
tsmax	ora	blocks	最大離散領域サイズ <ディクショナリ管理表領域の場合>
tsmin	ora	blocks	最小離散領域サイズ <ディクショナリ管理表領域の場合>
tsavg	ora	blocks	平均離散領域サイズ <ディクショナリ管理表領域の場合>

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
tsdead	ora	blocks	使用不可スペースの合計<ディクショナリ管理表領域の場合>

Record ID : ORA_OSE

Record No. : 1034

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
iniext	ora	Kbytes	オブジェクトに対する初期割り当てスペースの総和
nxtext	ora	Kbytes	オブジェクトサイズの次回拡張に必要なスペースの総和
totsz	ora	Kbytes	オブジェクトの現在サイズ
totext	ora	extents	作成された拡張域の総和

Record ID : ORA_DFS

Record No. : 1035

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
dfbytes	ora	Mbytes	オラクルデータファイルによる使用スペース
dfblocks	ora	blocks	オラクルデータファイルによる使用ブロック数
dffile	ora		ファイルIDとデータファイル名

Record ID : ORA_FS

Record No. : 1036

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
fsbytes	ora	Mbytes	テーブルスペース空き容量の総和
fsmbytes	ora	bytes	テーブルスペース最大空きスペース容量および一時表領域の空き容量
fsblocks	ora	blocks	テーブルスペース空きブロック数

Record ID : ORA_SEGS

Record No. : 1037

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ssbytes	ora	bytes	DBAセグメントの使用量
ssblocks	ora	blocks	DBAセグメントのブロック数
ssexts	ora	extents	DBAセグメントのエクステント数
ssnext	ora	bytes	次のセグメントのサイズ
ssname	ora		オーナー名:セグメント名:DBAセグメントのセグメントタイプ

Record ID : ORA_REDO (注)

Record No. : 1041

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
redoal	ora	redos	REDO要求数または待ち数

注) CDBから収集したデータは、マルチテナント・コンテナ・データベース全体を表す値になります。

Record ID : ORA_WAIT

Record No. : 1042

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
waitval	ora	headers	待ちヘッダー数

Record ID : ORA_FMEM (注)

Record No. : 1044

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
fmemfree	ora	bytes	空きメモリ

注) CDBから収集したデータは、マルチテナント・コンテナ・データベース全体を表す値になります。

4.2.20 MS-SQLフォルダ配下/MS-SQL～レポート

Record ID : SQLS_ACCMD

Record No. : 1068

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
paccis	MSSQL	searches	インデックスを検索した秒あたりの回数
paccfs	MSSQL	scans	テーブルまたはインデックスの秒あたりのフルスキャン数
paccfss	MSSQL	scans	新しいレコードフラグメントを挿入するために空き領域の検索を行ったスキャンの数
paccpagesplit	MSSQL	splits	インデックスページがオーバーフローしたために生じたページ分割の数
sqls_accmd_objname	MSSQL		性能カウンタ名
sqls_accmd_appname	MSSQL		インスタンス名

Record ID : SQLS_BFMGR

Record No. : 1069

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
pbmbch	MSSQL	hits	バッファキャッシュヒット数
pbmbchb	MSSQL	Accesses	アクセス数(バッファキャッシュヒット率のベース)
pbmchw	MSSQL	pages	チェックポイントまたは変更されたページをフラッシュする必要のある操作によりフラッシュされたページ数
pbmprd	MSSQL	reads	物理データベースページの読み取り回数
pbmpwr	MSSQL	writes	収集したクエリの保存に使用するページ数
pbmspg	MSSQL	pages	バッファプール内の理想的なページ数
pbmtpg	MSSQL	pages	バッファプール内のページ数(database、free、および stolenを含む) (Microsoft SQL Server 2012以降の場合、収集されません。)
pbmple	MSSQL	seconds	バッファプール内でページが参照されていない場合に保持される秒数
sqls_bfmgr_objname	MSSQL		性能カウンタ名
sqls_bfmgr_appname	MSSQL		インスタンス名

Record ID : SQLS_CMGR

Record No. : 1070

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
pcmchr	MSSQL	hits	キャッシュヒット数
pcmchrb	MSSQL	hits	ヒット数(キャッシュヒット率のベース)
sqls_cmgr_objname	MSSQL		性能カウンタ名
sqls_cmgr_appname	MSSQL		インスタンス名

Record ID : SQLS_DB

Record No. : 1071

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
pdbat	MSSQL	transactions	データベースのアクティブなトランザクション数
pdblft	MSSQL	milliseconds	合計待機時間
pdblfw	MSSQL	waits	ログフラッシュを待機しているコミット数
pdbplu	MSSQL	percent	ログ内の使用中の領域の比率
pdbtra	MSSQL	transactions	データベースで開始されたトランザクションの数
sqls_db_objname	MSSQL		性能カウンタ名
sqls_gs_appname	MSSQL		インスタンス名

Record ID : SQLS_GS

Record No. : 1072

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
pgsuc	MSSQL	connections	システムに接続されたユーザー数
pgslogins	MSSQL	logins	開始されるログインの総数
pgslogouts	MSSQL	logouts	開始されるログアウトの総数
sqls_gs_objname	MSSQL		性能カウンタ名
sqls_lo_appnam	MSSQL		インスタンス名

Record ID : SQLS_LO

Record No. : 1074

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
plolwt	MSSQL	milliseconds	各ロックが待機した平均待機時間
plolws	MSSQL	waits	呼び出し側がロック権限を与えられるまで待機しなければならないロック要求の数
plodlk	MSSQL	Deadlocks	デッドロックを生じたロック要求の数
ploawt	MSSQL	milliseconds	ロックが待機する必要がある平均待機時間

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
plolkreq	MSSQL	requests	ロックマネージャーから要求された新規ロックおよびロック変換の数
plolktimeouts	MSSQL	timeouts	タイムアウトしたロック要求の数
sqli_lo_objname	MSSQL		性能カウンタ名
sqli_lo_appname	MSSQL		インスタンス名

Record ID : Sqli_MMGR

Record No. : 1075

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
pmmmtm	MSSQL	KBs	総メモリ量
pmmcmem	MSSQL	KBs	サーバがSQLの動的キャッシュに使用している動的メモリの総容量
sqli_mmgr_objname	MSSQL		性能カウンタ名
sqli_mmgr_appname	MSSQL		インスタンス名

Record ID : Sqli_STATS

Record No. : 1098

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
pstatrc	MSSQL	re-compilations	Query re-compilation クエリの再コンパイル処理の数
pstatbr	MSSQL	requests	サーバが受け取った SQL バッチ要求の数
sqli_stats_objname	MSSQL		性能カウンタ名
sqli_stats_appname	MSSQL		インスタンス名

Record ID : Sqli_LA

Record No. : 2053

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
sqli_la_alwt	MSSQL	milliseconds	待機する必要があったラッチ要求のラッチの平均待機時間
sqli_la_objname	MSSQL		性能カウンタ名
sqli_la_appname	MSSQL		インスタンス名

Record ID : SQLS_BFNODE

Record No. : 1155

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
pbfnddbpage	MSSQL	pages	ノード上のデータベースページ数
pbfnndple	MSSQL	seconds	バッファプール内でページが参照されなくても保持される秒数
pbfnndlocndpage	MSSQL	number	このノードに見つかった、このノードからの参照要求の数
pbfnndremndpage	MSSQL	number	他のノードに見つかった、このノードからの参照要求の数
sqls_bfnd_objname	MSSQL		性能カウンタ名
sqls_bfnd_appname	MSSQL		インスタンス名

Record ID : SQLS_MNODE (注)

Record No. : 1159

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
pmnddbnodemem	MSSQL	KB	サーバがこのノードでデータベースページに使用しているメモリの量
pmndfreenodemem	MSSQL	KB	このノードの未使用のメモリの量
pmndforeignnodemem	MSSQL	KB	このノードのNUMAローカルメモリ以外のメモリの量
pmndstolennodemem	MSSQL	KB	サーバがこのノードでデータベースページ以外の目的に使用しているメモリの量
pmndtgtnodemem	MSSQL	KB	このノードの理想的なメモリの量
pmndtotalnodemem	MSSQL	KB	サーバがこのノードでコミットしているメモリの総容量
sqls_mnd_objname	MSSQL		性能カウンタ名
sqls_mnd_appname	MSSQL		インスタンス名

注) 本レコードのデータは、Microsoft SQL Server 2012以降が導入された環境の場合に収集されます。

Record ID : SQLS_BATCH_RESP_STATISTICS (注)

Record No. : 1154

Table name : resource_data_vwide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
pbrs_ge_0msbatch	MSSQL	number	応答時間が 0 ミリ秒以上 1 ミリ秒未満のSQLバッチ数
pbrs_ge_1msbatch	MSSQL	number	応答時間が 1 ミリ秒以上 2 ミリ秒未満のSQLバッチ数
pbrs_ge_2msbatch	MSSQL	number	応答時間が 2 ミリ秒以上 5 ミリ秒未満のSQLバッチ数

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
pbrs_ge_5msbatch	MSSQL	number	応答時間が5ミリ秒以上 10 ミリ秒未満のSQLバッチ数
pbrs_ge_10msbatch	MSSQL	number	応答時間が 10 ミリ秒以上 20 ミリ秒未満のSQLバッチ数
pbrs_ge_20msbatch	MSSQL	number	応答時間が 20 ミリ秒以上 50 ミリ秒未満のSQLバッチ数
pbrs_ge_50msbatch	MSSQL	number	応答時間が50ミリ秒以上 100 ミリ秒未満のSQLバッチ数
pbrs_ge_100msbatch	MSSQL	number	応答時間が 100 ミリ秒以上 200 ミリ秒未満のSQLバッチ数
pbrs_ge_200msbatch	MSSQL	number	応答時間が 200 ミリ秒以上 500 ミリ秒未満のSQLバッチ数
pbrs_ge_500msbatch	MSSQL	number	応答時間が 500 ミリ秒以上 1,000 ミリ秒未満のSQLバッチ数
pbrs_ge_1000msbatch	MSSQL	number	応答時間が 1,000 ミリ秒以上 2,000 ミリ秒未満のSQLバッチ数
pbrs_ge_2000msbatch	MSSQL	number	応答時間が 2,000 ミリ秒以上 5,000 ミリ秒未満のSQLバッチ数
pbrs_ge_5000msbatch	MSSQL	number	応答時間が5,000ミリ秒以上 10,000 ミリ秒未満の SQLバッチ数
pbrs_ge_10000msbatch	MSSQL	number	応答時間が 10,000 ミリ秒以上 20,000 ミリ秒未満の SQLバッチ数
pbrs_ge_20000msbatch	MSSQL	number	応答時間が 20,000 ミリ秒以上 50,000 ミリ秒未満の SQLバッチ数
pbrs_ge_50000msbatch	MSSQL	number	応答時間が 50,000 ミリ秒以上 100,000 ミリ秒未満の SQLバッチ数
pbrs_ge_100000msbatch	MSSQL	number	応答時間が 100,000 ミリ秒以上のSQLバッチ数
sqls_brs_objname	MSSQL		性能カウンタ名
sqls_brs_colltime	MSSQL		インスタンス名

注) 本レコードのデータは、Microsoft SQL Server 2012以降が導入された環境の場合に収集されます。

Record ID : SQLS_CLR

Record No. : 1156

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
pclrexecution	MSSQL	microseconds	CLR での総実行時間
sqls_clr_objname	MSSQL		性能カウンタ名

Record ID : SQLS_CURSOR_MGR_BY_TYPE

Record No. : 1157

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
pmtyactivecur	MSSQL	number	アクティブなカーソルの数
pmtycachehitratio	MSSQL	number	キャッシュのヒット数と参照回数の比率
pmtycachecurcnts	MSSQL	number	キャッシュ内の特定種類のカーソルの数
pmtycacheusecnts	MSSQL	number	キャッシュされている各種のカーソルが使用された時間
pmtycurmemusage	MSSQL	KB	カーソルによって消費されたメモリの量
pmtycurreqs	MSSQL	number	サーバーが受け取ったSQLカーソル要求の数
pmtycurwktblusage	MSSQL	number	カーソルによって使用された作業テーブルの数
pmtyactcurplans	MSSQL	number	カーソルプランの数
sqls_mty_objname	MSSQL		性能カウンタ名
sqls_mty_appname	MSSQL		インスタンス名

Record ID : SQLS_CURSOR_MGR_TOTAL

Record No. : 1158

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
mtotasyncpopcnts	MSSQL	number	非同期に生成されているカーソルの数
mtotcurconvrate	MSSQL	number	カーソル変換の回数
mtotcurflushes	MSSQL	number	カーソルによる、実行時ステートメント再作成の総数
sqls_mtot_objname	MSSQL		性能カウンタ名

Record ID : SQLS_RESOURCE_POOL_STATS

Record No. : 1163

Table name : resource_data_vwide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
prspcpuusage	MSSQL	percent	パフォーマンスオブジェクトの指定インスタンス内のすべての要求によるシステムのCPU使用率
prspcputarget	MSSQL	percent	構成設定およびシステム負荷に基づいたリソースプールに対する'CPU usage %'のターゲット値
prspcpueffect	MSSQL	percent	リソースプールに対するリソースガバナーの影響。この値は (CPU usage %) / (CPU usage % without RG) として計算されます。
prspcompmemtarget	MSSQL	KB	クエリコンパイルに対する現在のメモリターゲット
prspcachememtarget	MSSQL	KB	キャッシュメモリに対する現在のメモリターゲット
prspquerymemtarget	MSSQL	KB	クエリ実行のメモリ許可に対する現在のメモリターゲット
prspmemgrants	MSSQL	number	リソースプールで発生するクエリのメモリ許可の数

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
prspactmemgrants	MSSQL	counts	リソースプール内のクエリのメモリ許可の数
prspmemgrntout	MSSQL	number	リソースプールで発生するクエリのメモリ許可のタイムアウトの数
prspactmemgrnamt	MSSQL	KB	リソースプールで許可されているメモリ総容量
prspndmemgrn	MSSQL	number	リソースプールでメモリ許可を待機しているクエリ数
prspmaxmem	MSSQL	KB	設定とサーバーの状態に基づいてリソースプールで保持できる最大メモリ容量
prspusedmem	MSSQL	KB	リソースプールで使用されているメモリ容量
prsptargetmem	MSSQL	KB	設定とサーバーの状態に基づいてリソースプールで取得しようとしているターゲットメモリ容量
sqls_rsp_objname	MSSQL		性能カウンタ名
sqls_rsp_appname	MSSQL		インスタンス名

Record ID : SQLS_SQL_STATISTICS

Record No. : 1164

Table name : resource_data_vwide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
psqlsautoparams	MSSQL	number	自動パラメーター化が実行された数
psqlsbatchreqs	MSSQL	number	サーバーが受け取ったSQLバッチ要求の数
psqlsfailautoparams	MSSQL	number	自動パラメーター化に失敗した数
psqlsforcedparams	MSSQL	number	強制パラメーター化によってパラメーター化されたステートメントの数
psqlsguideplanexecs	MSSQL	number	プランガイドの使用によってクエリプランが生成されたプラン実行数
psqlsmisguideplanexecs	MSSQL	number	プラン生成時にプランガイドを使用できなかったプラン実行数
psqlsafeautoparams	MSSQL	number	安全な自動パラメーター化の数
psqlsattentionrate	MSSQL	number	発生したアテンションの数
psqlscompilations	MSSQL	number	SQLのコンパイル数
psqlsrecompilations	MSSQL	number	SQLのリコンパイル数
psqlsunsafeautoparams	MSSQL	number	安全ではない自動パラメーター化の数
sqls_sqls_objname	MSSQL		性能カウンタ名

Record ID : SQLS_TRANSACTIONS

Record No. : 1167

Table name : resource_data_vwide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ptranfreespacetmpdb	MSSQL	KB	tempdbの空き領域
ptranlongtrantime	MSSQL	seconds	トランザクションの連続実行時間
ptrannonsnaptran	MSSQL	number	バージョンレコードを生成するスナップショット以外のアクティブなトランザクションの総数
ptransnaptran	MSSQL	number	アクティブなスナップショットトランザクションの総数
ptranacttrannum	MSSQL	number	アクティブなトランザクションの総数
ptranupdconfratio	MSSQL	percent	更新スナップショットトランザクションの総数に対する、更新の競合が発生している更新スナップショットトランザクションの割合
ptranupdsnaptran	MSSQL	number	更新を行うアクティブなスナップショットトランザクションの総数
ptranvercleanuprate	MSSQL	KB	バージョンクリーンアップ量
ptranvergenrate	MSSQL	KB	バージョン生成量
ptranverstoresize	MSSQL	KB	バージョンストアのサイズ
ptranverstorecnts	MSSQL	number	バージョンストア内のユニット数
ptranverstorecreate	MSSQL	number	バージョンストアへの新しいユニットの作成
ptranverstoretrunc	MSSQL	number	バージョンストア内のユニットの切り捨て
sqls_tran_objname	MSSQL		性能カウンタ名

Record ID : SQLS_WAIT_STATISTICS

Record No. : 1168

Table name : resource_data_vwide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
pwtsockwaits	MSSQL	number	ロックを待機しているプロセスの統計
pwtlogbufwaits	MSSQL	number	ログバッファが使用可能になるのを待機しているプロセスの統計
pwtlogwritewaits	MSSQL	number	ログバッファの書き込みを待機しているプロセスの統計
pwtmemgrantquewaits	MSSQL	number	メモリ許可を待機しているプロセスの統計
pwtetniowaits	MSSQL	number	ネットワークI/Oの待機に関する統計
pwtstnonpagewaits	MSSQL	number	ページ以外のラッチに関する統計
pwtspageiowaits	MSSQL	number	ページI/Oラッチに関する統計
pwtspagewaits	MSSQL	number	ページラッチに関する統計 (IOラッチは含みません)
pwtstthreadsaftewaits	MSSQL	number	スレッドセーフなメモリ割り当てを待機しているプロセスの統計
pwtstranownershipwaits	MSSQL	number	トランザクションへのアクセスを同期化するプロセスに関する統計
pwtworkerwaits	MSSQL	number	ワーカーが使用可能になるのを待機しているプロセスに関する統計

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
pwtsyncwkspacewaits	MSSQL	number	ワークスペースへのアクセスを同期化するプロセスに関する統計
sqls_wts_objname	MSSQL		性能カウンタ名
sqls_wts_colltime	MSSQL		インスタンス名

Record ID : SQLS_WORKLOAD_GROUP_STATS

Record No. : 1169

Table name : resource_data_vwide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
pwgsqueuereqs	MSSQL	number	ワークロードグループ内のリソースガバナーの制限によりキューで待機している要求の数
pwgsactreqs	MSSQL	number	ワークロードグループ内で現在実行中の要求の数
pwgscompletereqs	MSSQL	number	ワークロードグループで完了した要求の数
pwgscpuusage	MSSQL	percent	パフォーマンスオブジェクトの指定インスタンス内のすべての要求による、システムのCPU使用率
pwgsmaxreqcputime	MSSQL	milliseconds	ワークロードグループ内の要求で使用される最大CPU時間
pwgsblockreqs	MSSQL	number	ワークロードグループ内でブロックされたタスクの数
pwgsreducememgrants	MSSQL	number	ワークロードグループ内で、取得するメモリ容量が理想より少ないクエリ数
pwgsmaxreqmemgrant	MSSQL	KB	ワークロードグループ内のクエリによって使用されるメモリ許可の最大値
pwgsqueryoptimizations	MSSQL	number	ワークロードグループ内で行われるクエリ最適化の数
pwgssuboptimalplans	MSSQL	number	ワークロードグループ内で生成される、十分最適化されていないクエリプランの数
pwgsactparallelthreads	MSSQL	counts	ワークロードグループ内の並列クエリで使用されるスレッドの数。直列クエリ、および並列クエリのメインスレッドはこの数に含まれません。
sqls_wgs_objname	MSSQL		性能カウンタ名
sqls_wgs_appname	MSSQL		インスタンス名

Record ID : SQLS_SIS_SERVICE11 (注)

Record No. : 1166

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ps11pkginstancenum	MSSQL	number	現在実行されているパッケージインスタンスの数
sqls_s11_objname	MSSQL		性能カウンタ名

注) 本レコードのデータは、Microsoft SQL Server Integration Services 11.0が導入された環境の場合に収集されます。

Record ID : SQLS_SSIS_PIPELINE11 (注)

Record No. : 1165

Table name : resource_data_vwide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
pp11blobbytesread	MSSQL	bytes	すべてのデータソースから読み取ったBLOBの合計バイト数
pp11blobbyteswritten	MSSQL	bytes	すべてのデータソースに書き込んだBLOBの合計バイト数
pp11blobfilesuse	MSSQL	number	パイプラインで使用中のBLOBスプールファイルの数
pp11bufmem	MSSQL	KB	パイプラインのバッファに割り当てられたメモリの容量
pp11bufuse	MSSQL	number	パイプラインで使用中のパイプラインバッファの数
pp11bufspooled	MSSQL	number	ディスクにスプールされるバッファの数
pp11flatbufmem	MSSQL	bytes	フラットなメモリバッファに割り当てられたメモリの容量
pp11flatbufuse	MSSQL	number	パイプラインで使用中のフラットなメモリバッファの数
pp11privbufmem	MSSQL	KB	プライベート変換バッファに割り当てられたメモリの容量
pp11privbufuse	MSSQL	number	パイプラインで使用中のプライベート変換バッファの数
pp11rowsread	MSSQL	lines	すべての読み込み元データから読み取った行の合計数
pp11rowswritten	MSSQL	lines	すべての書き込み先データに書き込まれた行の合計数
sqls_p11_objname	MSSQL		性能カウンタ名

注) 本レコードのデータは、Microsoft SQL Server Integration Services 11.0が導入された環境の場合に収集されます。

Record ID : SQLS_REPLICATION_DIST

Record No. : 1160

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
prepddeliverdcmds	MSSQL	number	サブスクライバーに配信されたコマンド数
prepddeliverdtrans	MSSQL	number	サブスクライバーに配信されたトランザクション数
prepddeliverylatency	MSSQL	milliseconds	トランザクションがディストリビューターに配信されてから、サブスクライバーで適用されるまでの経過時間
sqls_repd_objname	MSSQL		性能カウンタ名
sqls_repd_appname	MSSQL		インスタンス名

Record ID : SQLS_REPLICATION_SNAPSHOT

Record No. : 1162

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
prepsdeliverdcmds	MSSQL	number	ディストリビューターに配信されたコマンド数
prepsdeliverdtrans	MSSQL	number	ディストリビューターに配信されたトランザクション数
sqls_reps_objname	MSSQL		性能カウンタ名
sqls_reps_appname	MSSQL		インスタンス名

Record ID : SQLS_REPLICATION_LOGREADER

Record No. : 1161

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
prepldeliverdcmds	MSSQL	number	ディストリビューターに配信されたコマンド数
prepldeliverdtrans	MSSQL	number	ディストリビューターに配信されたトランザクション数
prepldeliverylatency	MSSQL	milliseconds	パブリッシャーでトランザクションが適用されてから、ディストリビューターに配信されるまでの経過時間
sqls_repl_objname	MSSQL		性能カウンタ名
sqls_repl_appname	MSSQL		インスタンス名

4.2.21 PostgreSQL配下/PostgreSQL～レポート

Symfoware Server (Openインターフェース) およびSymfoware Server (Postgres) の場合は本項を参照してください。

Record ID : POSTGRES_PG_STAT_DATABASE

Record No. : FJ1471

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
pgstatdb_numbackends	pg_stat_database	number	接続中のバックエンドプロセス数 本製品の性能情報収集のためのアクセスによる値(1～インスタンス内のデータベース総数)が含まれます。
pgstatdb_xact_commit	pg_stat_database	number	コミットされた回数 本製品の性能情報収集のためのアクセスによる値(32)が含まれます。
pgstatdb_xact_rollback	pg_stat_database	number	ロールバックされた回数

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
			本製品の性能情報収集のためのアクセスによる値(0～32程度)が含まれる場合があります。
pgstatdb_blks_read	pg_stat_database	number	ブロックリード数 本製品の性能情報収集のためのアクセスによる値(0～6036程度)が含まれる場合があります。
pgstatdb_blks_hit	pg_stat_database	number	ブロックのキャッシュヒット数 本製品の性能情報収集のためのアクセスによる値(0～6036程度)が含まれる場合があります。
pgstatdb_tup_returned	pg_stat_database	number	表スキャンでの読み取り行数 本製品の性能情報収集のためのアクセスによる値が含まれる場合があります。
pgstatdb_tup_fetched	pg_stat_database	number	インデックススキャンでの読み取り行数 本製品の性能情報収集のためのアクセスによる値が含まれる場合があります。
pgstatdb_tup_inserted	pg_stat_database	number	INSERTされた行数
pgstatdb_tup_updated	pg_stat_database	number	UPDATEされた行数
pgstatdb_tup_deleted	pg_stat_database	number	DELETEされた行数
pgstatdb_conflicts	pg_stat_database	number	リカバリ処理時の衝突を起因とする問い合わせキャンセル回数(副サーバのみ)
pgstatdb_stats_reset	pg_stat_database		統計情報がリセットされた時刻 本製品の性能情報収集のためのアクセスによる値が含まれる場合があります。

Record ID : POSTGRES_PG_STAT_USER_TABLES

Record No. : FJ1472

Table name : resource_data_vwide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
pgstatut_seq_scan	pg_stat_user_table	number	表スキャンの実行回数
pgstatut_seq_tup_read	pg_stat_user_table	number	表スキャンによって読み取られた行数
pgstatut_idx_scan	pg_stat_user_table	number	インデックススキャンの実行回数

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
pgstatut_idx_tup_fetch	pg_stat_user_table	number	インデックススキャンで読み取られた行数
pgstatut_n_tup_ins	pg_stat_user_table	number	INSERTされた行数
pgstatut_n_tup_upd	pg_stat_user_table	number	UPDATEされた行数(HOT更新含む)
pgstatut_n_tup_del	pg_stat_user_table	number	DELETEされた行数
pgstatut_n_tup_hot_upd	pg_stat_user_table	number	HOT更新された行数
pgstatut_n_live_tup	pg_stat_user_table	number	有効な行数
pgstatut_n_dead_tup	pg_stat_user_table	number	不要な(ガベージとなっている)行数
pgstatut_vacuum_count	pg_stat_user_table	number	VACUUMの実行回数
pgstatut_autovacuum_count	pg_stat_user_table	number	自動VACUUMの実行回数
pgstatut_analyze_count	pg_stat_user_table	number	ANALYZEの実行回数
pgstatut_autoanalyze_count	pg_stat_user_table	number	自動ANALYZEの実行回数
pgstatut_schemaname	pg_stat_user_table		スキーマ名
pgstatut_last_vacuum	pg_stat_user_table		このテーブルに対する最後のVACUUMの完了時刻 (VACUUMが発生していない場合、データは収集されず、空欄となります)
pgstatut_last_autovacuum	pg_stat_user_table		このテーブルに対する最後の自動VACUUMの完了時刻 (自動VACUUMが発生していない場合、データは収集されず、空欄となります)
pgstatut_last_analyze	pg_stat_user_table		このテーブルに対する最後のANALYZEの完了時刻 (ANALYZEが発生していない場合、データは収集されず、空欄となります)
pgstatut_last_autoanalyze	pg_stat_user_table		このテーブルに対する最後の自動ANALYZEの完了時刻 (自動ANALYZEが発生していない場合、データは収集されず、空欄となります)

Record ID : POSTGRES_PG_STATIO_USER_TABLES

Record No. : FJ1473

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
pgstatiout_heap_blks_read	pg_statio _user_tab les	number	テーブルブロックの読み込み数
pgstatiout_heap_blks_hit	pg_statio _user_tab les	number	キャッシュヒットしたテーブルブロック数
pgstatiout_idx_blks_read	pg_statio _user_tab les	number	インデックスブロックの読み込み数
pgstatiout_idx_blks_hit	pg_statio _user_tab les	number	キャッシュヒットしたインデックスブロック数
pgstatiout_toast_blks_read	pg_statio _user_tab les	number	TOASTテーブルのブロックの読み込み数
pgstatiout_toast_blks_hit	pg_statio _user_tab les	number	キャッシュヒットしたTOASTテーブルのブロック数
pgstatiout_tidx_blks_read	pg_statio _user_tab les	number	TOASTインデックスのブロックの読み込み数
pgstatiout_tidx_blks_hit	pg_statio _user_tab les	number	キャッシュヒットしたTOASTインデックスのブロック数
pgstatiout_schemaname	pg_statio _user_tab les		スキーマ名

Record ID : POSTGRES_PG_DATABASE_SIZE

Record No. : FJ1475

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
pgdbsize_database_size	pg_datab ase_size	GB	データベースで使用するディスク領域

Record ID : POSTGRES_PG_LOCKS

Record No. : FJ1476

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
pglocks_granted	pg_locks	number	獲得済みロック数

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
			本製品の性能情報収集のためのアクセスによる値(1～インスタンス内のデータベース総数)が含まれます。
pglocks_not_granted	pg_locks	number	待機中ロック数 本製品の性能情報収集のためのアクセスによる値(0～インスタンス内のデータベース総数)が含まれる場合があります。

Record ID : POSTGRES_PG_STAT_ACTIVITY

Record No. : FJ1477

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
pgstact_active_conn	pg_stat_activity	number	アクティブコネクションの数 本製品の性能情報収集のためのアクセスによる値(1～インスタンス内のデータベース総数)が含まれます。
pgstact_idle_conn	pg_stat_activity	number	アイドル中のコネクションの数 本製品の性能情報収集のためのアクセスによる値(0～インスタンス内のデータベース総数)が含まれる場合があります。
pgstact_waiting_conn	pg_stat_activity	number	待ち(ロック待機中)のコネクションの数 本製品の性能情報収集のためのアクセスによる値(0～インスタンス内のデータベース総数)が含まれる場合があります。

4.2.22 詳細なし/Centric Manager～レポート

Record ID : CEN_NO_INBND_OC

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
cibdocavg	F3crTrfBcsv	number	インバウンドオクテット数累積
cibdocmax	F3crTrfBcsv	number	インバウンドオクテット数最大
cibdocmin	F3crTrfBcsv	number	インバウンドオクテット数最小

Record ID : CEN_NO_INBND_PAC

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
cibdpacavg	F3crTrfBc sv	number	インバウンドパケット数累積
cibdpacmax	F3crTrfBc sv	number	インバウンドパケット数最大
cibdpacmin	F3crTrfBc sv	number	インバウンドパケット数最小

Record ID : CEN_NO_OUTBND_OC

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
cobdocavg	F3crTrfB csv	number	アウトバウンドオクテット数累積
cobdocmax	F3crTrfB csv	number	アウトバウンドオクテット数最大
cobdocmin	F3crTrfB csv	number	アウトバウンドオクテット数最小

Record ID : CEN_NO_OUTBND_PAC

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
cobdpacavg	F3crTrfB csv	number	アウトバウンドパケット数累積
cobdpacmax	F3crTrfB csv	number	アウトバウンドパケット数最大
cobdpacmin	F3crTrfB csv	number	アウトバウンドパケット数最小

Record ID : CEN_PRCNT_DSCRD_PAC

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
cpdscpacavg	F3crTrfB csv	percent	破棄パケット率平均
cpdscpacmax	F3crTrfB csv	percent	破棄パケット率最大

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
cpdscpacmin	F3crTrfB csv	percent	破棄パケット率最小

Record ID : CEN_PRCNT_ERR_PAC

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
cperrpacavg	F3crTrfBc sv	percent	エラーパケット率平均
cperrpacmax	F3crTrfBc sv	percent	エラーパケット率最大
cperrpacmin	F3crTrfBc sv	percent	エラーパケット率最小

Record ID : CEN_PRCNT_INTRFC_USAGE

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
cpintusgavg	F3crTrfBc sv	percent	インターフェース使用率平均
cpintusgmax	F3crTrfBc sv	percent	インターフェース使用率最大
cpintusgmin	F3crTrfBc sv	percent	インターフェース使用率最小

4.2.23 OperationMGRフォルダ配下/Operation Manager～レポート

Record ID : JLA_AGT

Record No. : FJ1057

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
maxjobagt	jla	jobs	エージェント別ジョブ多重度
maxothjobagt	jla	jobs	エージェント別ネットワーク・分散実行ジョブ多重度(受ける分)
maxwjobagt	jla	jobs	エージェント別実行待ちジョブ数 (sqcPDBcout(CSV出力コマンド)で出力した場合、data_num4のフィールドに出力されます。)
ovtmjobagt	jla	jobs	エージェント別予測時間超えジョブ数

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
			(sqcPDBcout(CSV出力コマンド)で出力した場合、data_num6のフィールドに出力されます。)

Record ID : JLA_AGT2

Record No. : FJ1361

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
jobnumagt	jla	jobs	エージェント別終了ジョブ数
errorjobnumagt	jla	jobs	エージェント別エラージョブ数

Record ID : JLA_PRJ

Record No. : FJ1056

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
maxjobprj	jla	jobs	プロジェクト別ジョブ多重度
maxjnetprj	jla	jobnets	プロジェクト別ジョブネット多重度
maxwjobprj	jla	jobs	プロジェクト別実行待ちジョブ数
maxwtmprj	jla	seconds	プロジェクト別ジョブ実行待ち時間
ovtmjobprj	jla	jobs	プロジェクト別予測時間超えジョブ数

Record ID : JLA_PRJ2

Record No. : FJ1360

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
jobnumprj	jla	jobs	プロジェクト別終了ジョブ数
errorjobnumprj	jla	jobs	プロジェクト別エラージョブ数

Record ID : JLA_QUE

Record No. : FJ1055

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
maxjobque	jla	jobs	キュー別ジョブ多重度

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
maxothjobque	jla	jobs	キュー別ネットワーク・分散実行ジョブ多重度(受ける分)
maxjnetque	jla	jobnets	キュー別ジョブネット多重度
maxwjobque	jla	jobs	キュー別実行待ちジョブ数
maxwtmque	jla	seconds	キュー別ジョブ実行待ち時間
ovtmjobque	jla	jobs	キュー別予測時間超えジョブ数

Record ID : JLA_SUB

Record No. : FJ1054

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
maxjobsub	jla	jobs	サブシステム別ジョブ多重度
maxothjobsub	jla	jobs	サブシステム別ネットワーク・分散実行ジョブ多重度(受ける分)
maxjnetsub	jla	jobnets	サブシステム別ジョブネット多重度
maxwjobsub	jla	jobs	サブシステム別実行待ちジョブ数
maxwtmsub	jla	seconds	サブシステム別ジョブ実行待ち時間
ovtmjobsub	jla	jobs	サブシステム別予測時間超えジョブ数

Record ID : JLA_SUB2

Record No. : FJ1359

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
jobnumsub	jla	jobs	サブシステム別終了ジョブ数
errorjobnumsub	jla	jobs	サブシステム別エラージョブ数

4.2.24 詳細なし/Network Manager～レポート

Record ID : SNM_IPOPERATION

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
noprnt	nmLogTo Sqc	percent	稼働率(%)
ndwntm	nmLogTo Sqc	seconds	ダウン時間(秒)

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ndwncnt	nmLogToSqc		ダウン回数

Record ID : SNM_RTT

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
nrttavg	nmLogToSqc	msec	平均RTT値(msec)
nrttmax	nmLogToSqc	msec	最大RTT値(msec)
npnglstrt	nmLogToSqc	percent	平均Pingロスト率(%)
npnglstrtmax	nmLogToSqc	percent	最大Pingロスト率(%)

Record ID : SNM_CPUBUSY

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ncpurate	nmLogToSqc	percent	CPU使用率平均値
ncpuratemax	nmLogToSqc	percent	CPU使用率最大値
ncpuratemin	nmLogToSqc	percent	CPU使用率最小値
ncpuratemaxtm	nmLogToSqc		CPU使用率最大値日時
ncpuratemintm	nmLogToSqc		CPU使用率最小値日時

Record ID : SNM_DROPPACKET

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
nidrpct	nmLogToSqc		入力ドロップパケット数平均値
nidrpctmax	nmLogToSqc		入力ドロップパケット数最大値
nidrpctmin	nmLogToSqc		入力ドロップパケット数最小値

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
nodrppct	nmLogToSqc		出力ドロップパケット数平均値
nodrppctmax	nmLogToSqc		出力ドロップパケット数最大値
nodrppctmin	nmLogToSqc		出力ドロップパケット数最小値
nidrppctmaxtm	nmLogToSqc		入力ドロップパケット数最大値日時
nidrppctmintm	nmLogToSqc		入力ドロップパケット数最小値日時
nodrppctmaxtm	nmLogToSqc		出力ドロップパケット数最大値日時
nodrppctmintm	nmLogToSqc		出力ドロップパケット数最小値日時

Record ID : SNM_CRCERROR

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ncrcerror	nmLogToSqc		CRCエラー数平均値
ncrcerrormax	nmLogToSqc		CRCエラー数最大値
ncrcerrormin	nmLogToSqc		CRCエラー数最小値
ncrcerrormaxtm	nmLogToSqc		CRCエラー数最大値日時
ncrcerrormintm	nmLogToSqc		CRCエラー数最小値日時

Record ID : SNM_COLLISION

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ncollision	nmLogToSqc		コリジョン発生数平均
ncollisionmax	nmLogToSqc		コリジョン発生数最大
ncollisionmin	nmLogToSqc		コリジョン発生数最小
ncollisionmaxtm	nmLogToSqc		コリジョン発生数最大日時

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ncollisionmintm	nmLogTo Sqc		コリジョン発生数最小日時

Record ID : SNM_NTWKTRAFFIC

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ninwtfc	nmLogTo Sqc		入力トラフィック割合平均値
ninwtfcmax	nmLogTo Sqc		入力トラフィック割合最大値
ninwtfcmin	nmLogTo Sqc		入力トラフィック割合最小値
nonwtfc	nmLogTo Sqc		出力トラフィック割合平均値
nonwtfcmax	nmLogTo Sqc		出力トラフィック割合最大値
nonwtfcmin	nmLogTo Sqc		出力トラフィック割合最小値
ninwtfcmaxtm	nmLogTo Sqc		入力トラフィック割合最大値日時
ninwtfcmintm	nmLogTo Sqc		入力トラフィック割合最小値日時
nonwtfcmaxtm	nmLogTo Sqc		出力トラフィック割合最大値日時
nonwtfcmintm	nmLogTo Sqc		出力トラフィック割合最小値日時

Record ID : SNM_NTWKPKT

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ninwpkt	nmLogTo Sqc	pps	入力パケット(pps)平均値
ninwpktmax	nmLogTo Sqc	pps	入力パケット(pps)最大値
ninwpktmin	nmLogTo Sqc	pps	入力パケット(pps)最小値
nonwpkt	nmLogTo Sqc	pps	出力パケット(pps)平均値
nonwpktmax	nmLogTo Sqc	pps	出力パケット(pps)最大値

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
nonwpktmin	nmLogToSqc	pps	出力パケット(pps)最小値
ninwpktmaxtm	nmLogToSqc		入力パケット(pps)最大値日時
ninwpktmintm	nmLogToSqc		入力パケット(pps)最小値日時
nonwpktmaxtm	nmLogToSqc		出力パケット(pps)最大値日時
nonwpktmintm	nmLogToSqc		出力パケット(pps)最小値日時

Record ID : SNM_NTWKDCDPKT

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ninwdcd	nmLogToSqc		入力破棄パケット数平均値
ninwdcdmax	nmLogToSqc		入力破棄パケット数最大値
ninwdcdmin	nmLogToSqc		入力破棄パケット数最小値
nonwdcd	nmLogToSqc		出力破棄パケット数平均値
nonwdcdmax	nmLogToSqc		出力破棄パケット数最大値
nonwdcdmin	nmLogToSqc		出力破棄パケット数最小値
ninwdcdmaxtm	nmLogToSqc		入力破棄パケット数最大値日時
ninwdcdmintm	nmLogToSqc		入力破棄パケット数最小値日時
nonwdcdmaxtm	nmLogToSqc		出力破棄パケット数最大値日時
nonwdcdmintm	nmLogToSqc		出力破棄パケット数最小値日時

Record ID : SNM_NTWKERRPKT

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ninwerr	nmLogToSqc		入力エラーパケット数平均値

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ninwerrmax	nmLogToSqc		入力エラーパケット数最大値
ninwerrmin	nmLogToSqc		入力エラーパケット数最小値
nonwerr	nmLogToSqc		出力エラーパケット数平均値
nonwerrmax	nmLogToSqc		出力エラーパケット数最大値
nonwerrmin	nmLogToSqc		出力エラーパケット数最小値
ninwerrmaxtm	nmLogToSqc		入力エラーパケット数最大値日時
ninwerrmintm	nmLogToSqc		入力エラーパケット数最小値日時
nonwerrmaxtm	nmLogToSqc		出力エラーパケット数最大値日時
nonwerrmintm	nmLogToSqc		出力エラーパケット数最小値日時

4.2.25 TcpNetworkフォルダ配下/TcpNetworkレポート

Record ID : GLS_TCPSTAT

Record No. : FJ1002

Table name : resource_data_uwide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
Opkts	tcpstat	number	送信パケット数
tcp_opkts	tcpstat	number	tcp送信パケット数
Osize	tcpstat	number	送信パケットサイズ
tcp_otype	tcpstat	number	tcp送信パケットサイズ
Ipkts	tcpstat	number	受信パケット数
tcp_ipkts	tcpstat	number	tcp受信パケット数
Isize	tcpstat	number	受信パケットサイズ
tcp_isize	tcpstat	number	tcp受信パケットサイズ
Bcast	tcpstat	number	受信ブロードキャストパケット数
Odup	tcpstat	%	再送率(全コネクション中のエラー検知コネクションの割合)
nOdup	tcpstat	number	再送回数
Idup	tcpstat	%	重複受信率(全コネクション中のエラー検知コネクションの割合)
nIdup	tcpstat	number	重複受信回数

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
llost	tcpstat	%	パケットロスト率(全コネクション中のエラー検知コネクションの割合)
nlllost	tcpstat	number	パケットロスト回数
MinOack	tcpstat	number	自側Ack応答状態の最小値
MaxOack	tcpstat	number	自側Ack応答状態の最大値
nOack	tcpstat	number	自側Ack応答状態の基準応答時間からの相対値
MinIack	tcpstat	number	相手側Ack応答状態の最小値
MaxIack	tcpstat	number	相手側Ack応答状態の最大値
nIack	tcpstat	number	相手側Ack応答状態の基準応答時間からの相対値
Town	tcpstat	number	自ノードに問題があると推定しsyslog通知を行った回数
Tnei	tcpstat	number	隣接ネットワークを含むネットワークに問題があると推定しsyslog通知を行った回数
Tnet	tcpstat	number	隣接以外のネットワークに問題があると推定しsyslog通知を行った回数
Trem	tcpstat	number	相手ノードおよびその近接ネットワークに問題があると推定しsyslog通知を行った回数

4.2.26 StorageResourceフォルダ配下/Storage～レポート

Record ID : SSC_CM

Record No. : FJ1059

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
cmcpurate	sc_perf_stat	percent	CMのCPU使用率

Record ID : SSC_OLU

Record No. : FJ1060

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
oluiopsrd	sc_perf_stat	IO/s	LogicalVolumeのIOPS(read)
oluiopswt	sc_perf_stat	IO/s	LogicalVolumeのIOPS(write)
oluthputrd	sc_perf_stat	MB/s	LogicalVolumeのreadスループット
oluthputwt	sc_perf_stat	MB/s	LogicalVolumeのwriteスループット

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
olurtimerd	sc_perf_stat	msec	LogicalVolumeのreadレスポンスタイム
olurtimewt	sc_perf_stat	msec	LogicalVolumeのwriteレスポンスタイム
oluhitraterd	sc_perf_stat	percent	LogicalVolumeのreadキャッシュヒット率
oluhitratewt	sc_perf_stat	percent	LogicalVolumeのwriteキャッシュヒット率
oluprihitraterd	sc_perf_stat	percent	LogicalVolumeのreadプリフェッチキャッシュヒット率

Record ID : SSC_RLU

Record No. : FJ1061

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
rluiopsrd	sc_perf_stat	IO/s	RAIDGroupのIOPS(read)
rluiopswt	sc_perf_stat	IO/s	RAIDGroupのIOPS(write)
rluthputrd	sc_perf_stat	MB/s	RAIDGroupのreadスループット
rluthputwt	sc_perf_stat	MB/s	RAIDGroupのwriteスループット
rlurtimerd	sc_perf_stat	msec	RAIDGroupのreadレスポンスタイム
rlurtimewt	sc_perf_stat	msec	RAIDGroupのwriteレスポンスタイム
rluhitraterd	sc_perf_stat	percent	RAIDGroupのreadキャッシュヒット率
rluhitratewt	sc_perf_stat	percent	RAIDGroupのwriteキャッシュヒット率

Record ID : SSC_PLU

Record No. : FJ1062

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
pluserate	sc_perf_stat	percent	Disk使用率

Record ID : SSC_SWITCH

Record No. : FJ1063

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
swdraterd	sc_perf_stat	Mbyte/s	ポートのreadデータ転送量 (注)
swdratewt	sc_perf_stat	Mbyte/s	ポートのwriteデータ転送量 (注)
swcecerr	sc_perf_stat	number	CRCエラー数

注) 転送量はポートのデータ転送量であり、カードの転送速度ではありません。

Record ID : SSC_NASINF (注)

Record No. : FJ1327

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
nascpubusy	sc_perf_stat	percent	装置全体のCPUビジー率
nasnfsopss	sc_perf_stat	OPS/s	装置全体のNFS処理性能
nascfiopss	sc_perf_stat	OPS/s	装置全体のCIFS処理性能
nashttpopss	sc_perf_stat	OPS/s	装置全体のHTTP処理性能
nasntwinkbs	sc_perf_stat	Kbyte/s	装置全体のネットワーク入力データ量
nasntwotkbs	sc_perf_stat	Kbyte/s	装置全体のネットワーク出力データ量
nasdskrdkbs	sc_perf_stat	Kbyte/s	装置全体のディスクからの読み込みデータ量
nasdskwtkbs	sc_perf_stat	Kbyte/s	装置全体のディスクへの書き込みデータ量
nasiperdkbs	sc_perf_stat	Kbyte/s	装置全体のテープからの読み込みデータ量
nasipewtkbs	sc_perf_stat	Kbyte/s	装置全体のテープへの書き込みデータ量
nasbfcherob	sc_perf_stat	Minute	装置全体のバッファキャッシュにおける、最も古い Read Only Blockが存在する期間

注) 本レコードのデータは、ETERNUS SF Storage Cruiserで監視するETERNUS NR1000F seriesの性能情報です。

Record ID : SSC_CM_ROE (注)

Record No. : FJ1338

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
roecpurate	sc_perf_stat	percent	CM(ROE)のCPU使用率

注) 本レコードのデータは、ROE(RAID Offload Engine)を搭載していないETERNUSの場合は収集されません。

4.2.27 Resource Orchestratorフォルダ配下/～プール(需要予測)レポート

Record ID : ROR_VMPPOOLCPU

Record No. : FJ1415

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vmppoolprocpcent	ROR	percent	VMPoolのCPU使用率
vmppoolprocused	ROR	GHz	VMPoolのCPU使用量
vmppoolprocfree	ROR	GHz	VMPoolのCPU空き量
vmppoolproctotal	ROR	GHz	VMPoolのCPU総量
vmppoolprocpriority	ROR	number	VMPoolのプライオリティ
vmppoolprocmaxnumassigned	ROR	GHz	指定可能最大CPU量
vmppoolproctenant	ROR		VMPoolのテナント名

Record ID : ROR_VMPPOOLMEM

Record No. : FJ1416

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vmppoolmempcent	ROR	percent	VMPoolのメモリ使用率
vmppoolmemused	ROR	GByte	VMPoolのメモリ使用量
vmppoolmemfree	ROR	GByte	VMPoolのメモリ空き量
vmppoolmemtotal	ROR	GByte	VMPoolのメモリ総量
vmppoolmempriority	ROR	number	VMPoolのプライオリティ
vmppoolmemmaxnumassigned	ROR	GByte	指定可能最大メモリ量
vmppoolmemtenant	ROR		VMPoolのテナント名

Record ID : ROR_STORAGEPOOL

Record No. : FJ1417

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vmpoolstoragepcent	ROR	percent	StoragePoolの使用率
vmpoolstorageused	ROR	GByte	StoragePoolの使用量
vmpoolstoragefree	ROR	GByte	StoragePoolの空き容量
vmpoolstoragetotal	ROR	GByte	StoragePoolの総容量
vmpoolstoragepriority	ROR	number	StoragePoolのプライオリティ
vmpoolstoragetenant	ROR		StoragePoolのテナント名

Record ID : ROR_NETWORKPOOL

Record No. : FJ1418

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vmpoolnetworkpcent	ROR	percent	NetworkPoolの使用率
vmpoolnetworkused	ROR	number	NetworkPoolの使用アドレス数
vmpoolnetworkfree	ROR	number	NetworkPoolの未使用アドレス数
vmpoolnetworktotal	ROR	number	NetworkPoolの総アドレス数
vmpoolnetworktenant	ROR		NetworkPoolのテナント名

Record ID : ROR_SERVERPOOL

Record No. : FJ1419

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vmpoolserverpcent	ROR	percent	ServerPoolの使用率
vmpoolserverused	ROR	number	ServerPoolの使用Server数
vmpoolserverfree	ROR	number	ServerPoolの空きServer数
vmpoolservertotal	ROR	number	ServerPoolの総Server数
vmpoolservertenant	ROR		ServerPoolのテナント名

Record ID : ROR_ADDRESSPOOL

Record No. : FJ1420

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vmpooladdresspcent	ROR	percent	AddressPoolの使用率
vmpooladdressused	ROR	number	AddressPoolの使用アドレス数
vmpooladdressfree	ROR	number	AddressPoolの未使用アドレス数

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vmppooladdresstotal	ROR	number	AddressPoolの総アドレス数
vmppooladdresstenant	ROR		AddressPoolのテナント名

4.2.28 SAPフォルダ配下/SAP～レポート

Record ID : R3_ENQREQ

Record No. : FJ1310

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
R3enqreq	SAP CCMS	/sec	エンキュー依頼の数(エンキュー操作)
R3enqreqrej	SAP CCMS	/sec	拒否されたエンキュー依頼の数
R3enqreqerr	SAP CCMS	/sec	エンキュー依頼時に発生したエラー件数
R3deqreq	SAP CCMS	/sec	デキュー依頼の数
R3deqreqerr	SAP CCMS	/sec	デキュー依頼時に発生したエラー件数
R3deqallreq	SAP CCMS	/sec	全操作のデキュー数(LUW終了時など)
R3cleanupreq	SAP CCMS	/sec	アプリケーションサーバでの全ロック解放数(シャット ダウン時や起動時など)
R3bkupreq	SAP CCMS	/sec	ロックを更新タスクに転送するために発行した更新呼 出の数
R3repreq	SAP CCMS	/sec	ロックテーブルの読込操作の数
R3updateque	SAP CCMS		ロックを伴う未処理の更新の現在の数
R3locktime	SAP CCMS	s	ロックテーブルで、ロック操作に使用された時間(1分 間あたりの秒数)
R3lockwtime	SAP CCMS	s	ロックテーブルで、ロックに入る前の並列プロセスの待 機時間(1分間あたりの秒数)
R3svrtime	SAP CCMS	s	ロックのサーバ側で消費された時間の合計(1分間あ たりの秒数)
R3runtimecdc	SAP CCMS	s	データコレクタ(プログラム:RSCOLL00)の実行時間

Record ID : R3_ENQLEN

Record No. : FJ1311

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
R3enqutilon	SAP CCMS	%	ロックテーブル内のロック所有者の使用率
R3enqutilga	SAP CCMS	%	ロックテーブル内のロック引数の使用率
R3enqutilge	SAP CCMS	%	ロックテーブル内の基本ロックの使用率
R3enqquelen	SAP CCMS	%	エンキューサーバ監視オブジェクト: キューの長さのパーセント
R3enqerr	SAP CCMS		エンキューワークプロセスでのエラー数
R3enqerrfreq	SAP CCMS	/min	エンキューワークプロセスでの分あたりのエラー数
R3enqended	SAP CCMS		完了したエンキューワークプロセスの数

Record ID : R3_DIALOG

Record No. : FJ1312

Table name : resource_data_vwide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
R3diorespt	SAP CCMS	msec	ダイアログサービスの平均応答時間
R3diafrespt	SAP CCMS	msec	フロントエンド待機時間
R3diaquet	SAP CCMS	msec	ダイアログステップあたりの平均ディスパッチャ待機時間
R3dialgt	SAP CCMS	msec	GUI オブジェクトの平均ロード/生成時間
R3diarollt	SAP CCMS	msec	ロール時間
R3diadbrespt	SAP CCMS	msec	論理データベース要求の平均処理時間
R3diautil	SAP CCMS	%	アプリケーションサーバのダイアログプロセスの平均使用率
R3diapmodutil	SAP CCMS	%	PRIV モードでのダイアログワークプロセスの割合
R3diawpnum	SAP CCMS		ダイアログワークプロセスの数
R3diawperr	SAP CCMS		ダイアログワークプロセスのエラー数
R3diawperrf	SAP CCMS	/min	ダイアログプロセスにおける分あたりのエラー数
R3diawpend	SAP CCMS		完了したダイアログワークプロセスの数

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
R3diaquelen	SAP CCMS	%	ダイアログワークプロセスのディスパッチャ待機キューの平均使用率
R3dialongrun	SAP CCMS	sec	長時間実行ダイアログワークプロセスの平均時間
R3diasteps	SAP CCMS	/min	毎分の平均ダイアログステップ数
R3diaguicbt	SAP CCMS	msec	ダイアログステップ中のラウンドトリップ平均時間
R3diafenett	SAP CCMS	msec	ネットワークで使用された平均時間 (ラウンドトリップを除外)
R3diamont	SAP CCMS	msec	ダイアログステップあたりの平均監視時間
R3diatxrespt	SAP CCMS	msec	CCMS 標準トランザクション: 標準応答時間
R3dialogin	SAP CCMS		アプリケーションサーバ: ログオンユーザー数

Record ID : R3_SPOOL

Record No. : FJ1313

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
R3splutil	SAP CCMS	%	スプールワークプロセスの負荷率
R3splwpnum	SAP CCMS		スプールワークプロセスの数
R3splwperr	SAP CCMS		スプールワークプロセスでのエラー数
R3splwperrf	SAP CCMS	/min	スプールワークプロセスでの分あたりのエラー数
R3splwpend	SAP CCMS		完了したスプールワークプロセスの数
R3splquelen	SAP CCMS	%	ディスパッチャキューの使用領域 (%)
R3splsvcque	SAP CCMS	%	スプールサービスキューの使用領域 (%)
R3splsvcqpriv	SAP CCMS	%	順番に処理するためのスプール依頼キューの使用領域 (%)
R3splsvcqpg	SAP CCMS	Pgs	スプール依頼キューの出力されるページ数
R3spldcacheu	SAP CCMS	%	デバイスキャッシュ全体の使用領域 (%)
R3spldcachef	SAP CCMS	%	固定デバイスキャッシュの使用領域 (%)

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
R3splhost	SAP CCMS	%	ホストプール依頼一覧の使用領域 (%)

Record ID : R3_BACKGROUND

Record No. : FJ1314

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
R3bgutil	SAP CCMS	%	サーバのバックグラウンドワークプロセスの平均使用率
R3bgwpnum	SAP CCMS		バックグラウンドワークプロセスの数
R3bgwperr	SAP CCMS		バックグラウンドワークプロセスでのエラー数
R3bgwperrf	SAP CCMS	/min	バックグラウンドワークプロセスでの分あたりのエラー数
R3bgwpend	SAP CCMS		完了したバックグラウンドワークプロセスの数
R3bgquelen	SAP CCMS	Jobs	実行を待っているリリース済ジョブの数

Record ID : R3_UPDATE

Record No. : FJ1315

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
R3updrespt	SAP CCMS	msec	SAP 更新タスク V1: ダイアログステップ当たりの平均応答時間
R3updquet	SAP CCMS	msec	SAP 更新タスク V1: ディスパッチャキュー内の平均待ち時間
R3updutil1	SAP CCMS	%	SAP 更新タスク V1: 更新タスクワークプロセスの負荷率
R3updwpmum1	SAP CCMS		更新 1 ワークプロセスの数
R3updwpmum1	SAP CCMS		更新 1 ワークプロセスでのエラー数
R3updwpmum1	SAP CCMS	/min	更新 1 ワークプロセスでの分あたりのエラー数
R3updwpmum1	SAP CCMS		完了した更新 1 ワークプロセスの数
R3updwpmum2	SAP CCMS	%	SAP 更新タスク V2: 更新 2 タスクワークプロセスの負荷率

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
R3updwpmum2	SAP CCMS		更新 2 ワークプロセスの数
R3updwpmerr2	SAP CCMS		更新 2 ワークプロセスでのエラー数
R3updwpmerrf2	SAP CCMS	/min	更新 2 ワークプロセスでの分あたりのエラー数
R3updwpmend2	SAP CCMS		完了した更新 2 ワークプロセスの数

Record ID : R3_ROLLPAGING

Record No. : FJ1316

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
R3rppgsz	SAP CCMS	KB	ページング領域の現サイズ [KB]
R3rppgu	SAP CCMS	%	現在使用中のページング領域 [%]
R3rppgukb	SAP CCMS	KB	現在使用中のページング領域 [KB]
R3rppgumax	SAP CCMS	KB	システム起動以降の最大ページング領域負荷 [KB]
R3rprollsz	SAP CCMS	KB	ロール領域の現サイズ [KB]
R3rprollu	SAP CCMS	%	現在使用中のロール領域 [%]
R3rprollukb	SAP CCMS	KB	現在使用中のロール領域 [KB]
R3rprollumax	SAP CCMS	KB	システム起動以降のロール領域の最大負荷 [KB]

Record ID : R3_MEMMGMT

Record No. : FJ1317

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
R3mmest	SAP CCMS	MB	拡張メモリの合計サイズ
R3mmespeak	SAP CCMS	%	拡張メモリ: 最終クエリ以降の最高値
R3mmesact	SAP CCMS	%	拡張メモリ: 書込ステータスのスナップショット

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
R3mmesatt	SAP CCMS	%	WS で現在有効なユーザーコンテキストにおける拡張メモリの量
R3mmhpt	SAP CCMS	MB	ヒープメモリの最大許容量 (abap/heap_area_total)
R3mmhppeak	SAP CCMS	%	ヒープメモリ: 最終クエリ以降の最高値
R3mmhpact	SAP CCMS	%	ヒープメモリに現在割当てられた容量
R3mmemst	SAP CCMS		拡張メモリ管理スロットの最大数
R3mmemspeak	SAP CCMS	%	最終クエリ以降の拡張メモリ管理スロットの最高値
R3mmemsact	SAP CCMS	%	EM 管理スロットに現在割当てられている容量
R3mmwpnum	SAP CCMS		PRIV モードの現在の WP 数
R3mmndiarest	SAP CCMS		開始以降の WP リスタート (abap/heaplimit 超過による) ダイアログ数
R3mmndiarest	SAP CCMS		開始以降の WP リスタート (abap/heaplimit 超過による) のバッチ数

Record ID : R3_BUFFERS

Record No. : FJ1318

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
R3bufdiru	SAP CCMS	%	バッファ: ディレクトリの使用率
R3bufspcu	SAP CCMS	%	バッファ: バッファメモリの使用率
R3bufhitratio	SAP CCMS	%	バッファ: ヒット率
R3bufswap	SAP CCMS	/min	バッファ満杯によって発生した毎分のスワップ回数

Record ID : R3_TRFCQRFC

Record No. : FJ1320

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
R3rfwcerr	SAP CCMS		通信障害によりエラーとなったtRFCの数

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
R3rfcweerr	SAP CCMS		対象システム上での障害によりエラーとなったtRFCの数
R3rfcwoerr	SAP CCMS		対象システム上のリソース不足によりエラーとなったtRFC/qRFCの数
R3rfctcall	SAP CCMS		自システム上で実行待ち状態である受信tRFC/qRFCコールの数

Record ID : R3_J2EEMEM

Record No. : FJ1321

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
R3j2malm	SAP CCMS	MB	J2EEサーバインスタンスの割り当てメモリ量
R3j2mavm	SAP CCMS	MB	J2EEサーバインスタンスの利用可能なメモリ量
R3j2musedm	SAP CCMS	MB	J2EEサーバインスタンスのメモリ使用量
R3j2malmr	SAP CCMS	%	J2EEサーバインスタンスの割り当てメモリ使用率
R3j2musedmr	SAP CCMS	%	J2EEサーバインスタンスのメモリ使用率

Record ID : R3_J2EETXN

Record No. : FJ1322

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
R3j2tacttxn	SAP CCMS		J2EEアプリケーション間のトランザクション数(Active)
R3j2tsustxn	SAP CCMS		J2EEアプリケーション間のトランザクション数(Suspended)
R3j2trbtxn	SAP CCMS		J2EEアプリケーション間のトランザクション数(Rolledback)
R3j2tcomtxn	SAP CCMS		J2EEアプリケーション間のトランザクション数(Committed)
R3j2touttxn	SAP CCMS		J2EEアプリケーション間のトランザクション数(Timeout)

Record ID : R3_J2EEPAREQP

Record No. : FJ1323

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
R3j2prreq	SAP CCMS	requests	J2EEアプリケーションのリクエスト数
R3j2prreqps	SAP CCMS	requests/ sec	J2EEアプリケーションのリクエスト数(毎秒)
R3j2prccalls	SAP CCMS		J2EEアプリケーションのコンポーネント発行回数
R3j2praespt	SAP CCMS	msec	J2EEアプリケーションのレスポンスタイム
R3j2pracput	SAP CCMS	msec	J2EEアプリケーションのCPUタイム
R3j2praodata	SAP CCMS		J2EEアプリケーションのトラフィック量

4.2.29 ECOフォルダ配下/レポートなし

Record ID : ECO_POWER

Record No. : FJ1356

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
power	snmp	number	瞬間電力
poweravg	snmp	number	平均電力
powermin	snmp	number	最小電力
powermax	snmp	number	最大電力
energy	snmp	number	電力量
pwhost	snmp		IPアドレス、または、ホスト名
pwresource	snmp		リソース名

Record ID : ECO_TEMPERATURE

Record No. : FJ1357

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
temperature	snmp	number	瞬間温度
temperatureavg	snmp	number	平均温度
temperaturemin	snmp	number	最低温度
temperaturemax	snmp	number	最高温度
tphost	snmp		IPアドレス、または、ホスト名

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
tpresource	snmp		リソース名
temperatureinfo	snmp		温度に関する補足情報

4.2.30 VMwareフォルダ配下/VMware～レポート

■VMware ESX/VMware ESXi

VMware ESXとVMware ESXiの性能情報です。



- データフォーマットはHTTPS接続とSSH接続で同じですが、収集される項目に違いがあります。
 - 「Description」欄に<SSH>とある情報は、SSH接続の場合のみ収集され、HTTPS接続では収集されません。
 - 「Description」欄に<HTTPS>とある情報は、HTTPS接続の場合のみ収集され、SSH接続では収集されません。
- Source欄の(注)は、以下を表します。
 - HTTPS接続の場合: SOAP API
 - SSH接続の場合: esxtop

Record ID : VMW_GCPU

Record No. : 2101

Table name : resource_data_uwide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vmgcmem	(注)	number	実行中のワールドのリソースプール内、または仮想マシン内のメンバーの数 <SSH>
vmgcused	(注)	percent	リソースプール、仮想マシン単位の使用された物理CPU使用率
vmgcrun	(注)	percent	リソースプール、仮想マシン単位のCPUがスケジュールされた時間の割合
vmgcsys	(注)	percent	リソースプール、仮想マシン単位のCPUがESX/ESXi Vmkernel内で消費された時間の割合
vmgcwait	(注)	percent	リソースプール、仮想マシン単位のCPUがブロックまたはビジー待機で消費された時間の割合
vmgcready	(注)	percent	リソースプール、仮想マシン単位のCPU割当待ち時間の割合
vmgcidle	(注)	percent	リソースプール、仮想マシン単位のCPUアイドル時間の割合 HTTPS接続では、VMware ESXi 5.0以降の場合に収集されます。
vmgcoverlap	(注)	percent	リソースプール、仮想マシン単位のCPUがスケジュールされているときに、別のリソースプール、仮想マシンによって消費された時間の割合 <SSH>

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vmgccostop	(注)	percent	リソース プール、仮想マシン単位のCPUが同時起動のために待機した時間の割合
vmgcmaxlim	(注)	percent	リソース プール、仮想マシン単位のCPUの制限の設定を超えるため実行できなかった時間の割合 <SSH>
vmgcswitches	(注)	number	リソース プール、仮想マシン単位のSwitches回数 <SSH>
vmgcmigr	(注)	number	リソース プール、仮想マシン単位のMigrates回数 <SSH>
vmgcpromigr	(注)	number	リソース プール、仮想マシン単位のProcessor Migrations回数 <SSH>
vmgcwkupm	(注)	number	リソース プール、仮想マシン単位のWakeup Migrate Idle回数 <SSH>
vmgccellmigr	(注)	number	リソース プール、仮想マシン単位のCell Migrations回数 <SSH> SSH接続で、VMware ESX 4.1の場合は収集されません。
vmgcquexp	(注)	number	リソース プール、仮想マシン単位のQuantum Expires 回数 <SSH>
vmgcwup	(注)	number	リソース プール、仮想マシン単位のWakeups回数 <SSH>
vmgcallmin	(注)	MHz	リソース プール、仮想マシン単位のリソース割当 (予約)
vmgcallmax	(注)	MHz	リソース プール、仮想マシン単位のリソース割当 (制限) 制限なしの場合、-1 の値が表示されます。
vmgcallshrs	(注)	MHz	リソース プール、仮想マシン単位のリソース割当(シェア)。 設定によって、以下の値が表示されます。 【SSH接続の場合】 ・ 低の場合 : -2 ・ 標準の場合 : -3 ・ 高の場合 : -4 ・ カスタムの場合 : 設定された値 【HTTPS接続の場合】 仮想マシンのシェアサイズについて、VMwareの設定値
vmgcallminlim	(注)	MHz	リソース プール、仮想マシン単位のリソース割当 (予約) または (制限) 制限なしの場合、-1 の値が表示されます。 <SSH>
vmgcnumcpu	(注)	number	CPU数 <HTTPS>
vmgcrevcpu	(注)	MHz	CPU性能 <HTTPS> VMware ESXi 5.0以降の場合に収集されます。
vmgcswapwait	(注)	percent	仮想マシン単位のスワップ待ちの発生率

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
			VMware ESX/ESXi 4.1以降の場合に収集されます。
vmgcusemhz	(注)	MHz	仮想マシンのCPU使用量(MHz) <HTTPS>
esxname	(注)		ESX/ESXi serverのホスト名 <HTTPS>
vmname	(注)		仮想マシン名
vmccpurespool	(注)		リソースプール名 <HTTPS>
physres	(注)		物理CPU情報、または、仮想CPU情報
vmhostname	(注)		仮想マシンのホスト名 (収集していないフィールドのため、データは表示されず、空欄となります。)

Record ID : VMW_CPU

Record No. : 2102

Table name : resource_data_uwide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vmvcused	(注)	seconds	リソースプール、仮想マシン内のワールド単位の使用された物理CPU使用時間
vmvcrun	(注)	seconds	リソースプール、仮想マシン内のワールド単位のCPUがスケジュールされた時間 <SSH>
vmvcsys	(注)	seconds	リソースプール、仮想マシン内のワールド単位のCPUがESX/ESXi Vmkernel内で消費された時間
vmvcwait	(注)	seconds	リソースプール、仮想マシン内のワールド単位のCPUがブロックまたはビジー待機で消費された時間
vmvcready	(注)	seconds	リソースプール、仮想マシン内のワールド単位のCPU割当待ち時間
vmvcidle	(注)	seconds	リソースプール、仮想マシン内のワールド単位のCPUアイドル時間 HTTPS接続では、VMware ESXi 5.0以降の場合に収集されます。
vmvcoverlap	(注)	seconds	リソースプール、仮想マシン内のワールド単位のCPUがスケジュールされているときに、別のリソースプール、仮想マシンによって消費された時間 <SSH>
vmvccostop	(注)	seconds	リソースプール、仮想マシン内のワールド単位のCPUが同時起動のために待機した時間
vmvcmaxlim	(注)	seconds	リソースプール、仮想マシン内のワールド単位のCPUの制限の設定を超えるため実行できなかった時間 <SSH>
vmvcswitches	(注)	number	リソースプール、仮想マシン内のワールド単位のSwitches回数 <SSH>
vmvcmigr	(注)	number	リソースプール、仮想マシン内のワールド単位のMigrates回数 <SSH>
vmvcpromigr	(注)	number	リソースプール、仮想マシン内のワールド単位のProcessor Migrations回数 <SSH>

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vmvcwupmigr	(注)	number	リソース プール、仮想マシン内のワールド単位の Wakeup Migrate Idle回数 <SSH>
vmvccelmigr	(注)	number	リソース プール、仮想マシン内のワールド単位の Cell Migrations回数 <SSH> SSH接続で、VMware ESX 4.1の場合は収集されません。
vmvcquaexp	(注)	number	リソース プール、仮想マシン内のワールド単位の Quantum Expires回数 <SSH>
vmvcwup	(注)	number	リソース プール、仮想マシン内のワールド単位の Wakeup Migrate Idle回数 <SSH>
vmvcallmin	(注)	MHz	リソースプール、仮想マシン内のワールド単位のリソース割当 (予約) <SSH>
vmvcallmax	(注)	MHz	リソースプール、仮想マシン内のワールド単位のリソース割当 (制限) 制限なしの場合、-1 の値が表示されます。 <SSH>
vmvcshrs	(注)	MHz	リソースプール、仮想マシン内のワールド単位のリソース割当(シェア) 設定が低の場合-2、標準の場合-3、高の場合-4の値が表示されます。 <SSH>
vmvcminlim	(注)	MHz	リソースプール、仮想マシン内のワールド単位のリソース割当 (予約)または(制限) 制限なしの場合、-1の値が表示されます。 <SSH>
vmvcpcpu	(注)	number	リソース プール、仮想マシン内のワールド単位の実行していた物理または論理CPU数 <SSH>
vmvcefmin	(注)	number	リソース プール、仮想マシン内のワールド単位の予約数 <SSH> SSH接続で、VMware ESX 4.1の場合は収集されません。
vmvchtq	(注)	number	リソース プール、仮想マシン内のワールド単位のHT構成(Yes:1, No:0) <SSH>
vmvctimers	(注)	number	リソース プール、仮想マシン内のワールド単位のタイマーレート <SSH> SSH接続で、VMware ESX 4.1の場合は収集されません。
vmcesxname-vcpu	(注)		ESX/ESXi serverのホスト名 <HTTPS>
vmname-vcpu	(注)		仮想マシン名
physres-vcpu	(注)		物理CPU情報、または、仮想CPU情報
vmhostname-vcpu	(注)		仮想マシンのホスト名 (収集していないフィールドのため、データは表示されず、空欄となります。)

Record ID : VMW_MEM

Record No. : 2103

Table name : resource_data_uuwide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vmgmmem	(注)	number	リソース プール、仮想マシン内のメンバーの数 <SSH>
vmgmallim	HTTPS 接続の場合 (注)	Mbytes	リソースプール、仮想マシン単位のメモリの予約サイズ
	SSH接続 の場合 (注)	Kbytes	
vmgmallmax	HTTPS 接続の場合 (注)	Mbytes	リソースプール、仮想マシン単位のメモリの制限サイズ 制限なしの場合、-1の値が表示されます。
	SSH接続 の場合 (注)	Kbytes	
vmgmallsh	HTTPS 接続の場合 (注)	Mbytes	リソースプール、仮想マシン単位のメモリのシェアサイズ。 設定によって、以下の値が表示されます。 【SSH接続の場合】 ・ 低の場合 : -2 ・ 標準の場合 : -3 ・ 高の場合 : -4 ・ カスタムの場合 : 設定された値 【HTTPS接続の場合】 仮想マシンのシェアサイズについて、VMwareの設定値
	SSH接続 の場合 (注)	Kbytes	
vmgmminl	(注)	Kbytes	リソースプール、仮想マシン単位のメモリ予約の制限サイズ 制限なしの場合、-1 の値が表示されます。 <SSH>
vmgmnumh	(注)	number	リソース プール、仮想マシン単位の現在のホームノード この情報は、NUMA システム上でのみ有効です。仮想マシンにホームノードがない場合、0が表示されます。 <SSH> SSH接続で、VMware ESX 4.1の場合は収集されません。
vmgmnumreb	(注)	number	リソース プール、仮想マシン単位のリバランスカウント数

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
			この情報は、NUMA システム上でのみ有効です。仮想マシンにホーム ノードがない場合、0が表示されます。 <SSH>
vmgmrem	(注)	Mbytes	リソース プール、仮想マシン単位に割り当てられているリモートのメモリサイズ この情報は、NUMA システム上でのみ有効です。仮想マシンにホーム ノードがない場合、0が表示されます。 <SSH>
vmgmloc	(注)	Mbytes	リソース プール、仮想マシン単位に割り当てられているローカルのメモリサイズ この情報は、NUMA システム上でのみ有効です。仮想マシンにホーム ノードがない場合、0が表示されます。 <SSH>
vmgmlocp	(注)	percent	リソース プール、仮想マシン単位に割り当てられているローカルのメモリサイズの割合 この情報は、NUMA システム上でのみ有効です。仮想マシンにホーム ノードがない場合、0が表示されます。 <SSH>
vmgmmems	(注)	Mbytes	リソース プール、仮想マシン単位に割り当てられている物理メモリサイズ
vmgmtrgs	(注)	Mbytes	リソース プール、仮想マシン単位にESX Server VMkerneが割り当てようとしているメモリサイズ <SSH>
vmgmtm	(注)	Mbytes	リソース プール、仮想マシン単位のワーキングセットサイズの概算値
vmgmacest	(注)	percent	リソース プール、仮想マシン単位の使用中の物理メモリの割合。(瞬時値)
vmgmacsl	(注)	percent	リソース プール、仮想マシン単位の使用中の物理メモリの割合。(移動平均[長期]) <SSH>
vmgmacf	(注)	percent	リソース プール、仮想マシン単位の使用中の物理メモリの割合。(移動平均[短期]) <SSH>
vmgmacnx	(注)	percent	リソース プール、仮想マシン単位の使用中の物理メモリの割合。(概算値) <SSH>
vmgmmemctl	(注)	number	メモリ バルーンドライバがインストールされているかどうか(Yes:1、No:0) <SSH>
vmgmmctlmb	(注)	Mbytes	リソース プール、仮想マシン単位のバルーンドライバによって回収されるゲスト物理メモリのサイズ
vmgmmtm	(注)	Mbytes	リソース プール、仮想マシン単位の適したバルーンメモリ量
vmgmmxm	(注)	Mbytes	リソース プール、仮想マシン単位のバルーンドライバによって回収されるゲスト物理メモリの最大サイズ

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vmgmsswm	(注)	Mbytes	リソース プール、仮想マシン単位のスワップされたメモリサイズ
vmgmsswtm	(注)	Mbytes	リソース プール、仮想マシン単位のスワップしようとしているメモリサイズ
vmgmsswr	(注)	Mbytes	リソース プール、仮想マシン単位のスワップインされたメモリサイズ HTTPS接続では、VMware ESX/ESXi 4.0以降の場合に収集されます。
vmgmsswwr	(注)	Mbytes	リソース プール、仮想マシン単位のスワップアウトされるメモリサイズ HTTPS接続では、VMware ESX/ESXi 4.0以降の場合に収集されます。
vmgmcpm	(注)	Mbytes	リソース プール、仮想マシン単位のチェックポイントファイルから読み取られたサイズ <SSH>
vmgmcpm	(注)	Mbytes	リソース プール、仮想マシン単位のチェックポイントファイルのサイズ <SSH>
vmgmzerom	(注)	Mbytes	リソース プール、仮想マシン単位のゼロメモリのサイズ
vmgmshm	(注)	Mbytes	リソース プール、仮想マシン単位の共有メモリのサイズ <SSH>
vmgmshs	(注)	Mbytes	リソース プール、仮想マシン単位の共有メモリのために保存されたページサイズ
vmgmcowm	(注)	Mbytes	リソース プール、仮想マシン単位の物理ヒントページサイズ <SSH>
vmgmouw	(注)	Mbytes	リソース プール、仮想マシン単位のユーザー ワールドに使われているメモリオーバーヘッド <SSH>
vmgmohm	(注)	Mbytes	リソース プール、仮想マシン単位のメモリオーバーヘッド
vmgmohmx	(注)	Mbytes	リソース プール、仮想マシン単位の最大メモリオーバーヘッド
vmgmminct	(注)	Mbytes	リソース プールのコミットターゲットの最小サイズ <SSH>
vmgmctm	(注)	Mbytes	リソース プールのコミットターゲット <SSH>
vmgmccm	(注)	Mbytes	リソース プールのコミットチャージド <SSH>
vmgmcpsh	(注)	pages	リソース プールのコミットページ <SSH>
vmgmclr	(注)	number	クライアントレスポンス(Yes:1、No:0) <SSH> SSH接続で、VMware ESX 4.1の場合は収集されません。
vmgmresvsize	(注)	Mbytes	仮想マシン(ゲスト)に予約されたメモリサイズ <HTTPS> VMware ESXi 5.0以降の場合に収集されます。
vmmesxname	(注)		ESX/ESXi serverのホスト名
vmvmname	(注)		仮想マシン名
vmgmrespool	(注)		リソースプール名 <HTTPS>

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
physresvmmem	(注)		物理メモリ、または、仮想メモリ情報
vmmemhostname	(注)		仮想マシンのホスト名 (収集していないフィールドのため、データは表示されず、空欄となります。)

Record ID : VMW_DISK

Record No. : 2104

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vmcommands	(注)	commands	仮想マシン、ストレージデバイス単位のコマンド発行数 (注1)
vmdreads	(注)	reads	仮想マシン、ストレージデバイス単位のディスク読み込み回数 (注1)
vmdwrites	(注)	writes	仮想マシン、ストレージデバイス単位のディスク書き込み回数 (注1)
vmdmbread	(注)	Mbytes	仮想マシン、ストレージデバイス単位のディスク読み込みサイズ (注1) デバイスごとの情報では表示されません。
vmdmbwrt	(注)	Mbytes	仮想マシン、ストレージデバイス単位のディスク書き込みサイズ (注1) デバイスごとの情報では表示されません。
vmavgdcmnd	(注)	millisec	仮想マシン、ストレージデバイス単位のデバイス平均待ち時間 <SSH> (注1)
vmavgkrncmd	(注)	millisec	仮想マシン、ストレージデバイス単位のESX Server VMkernel平均待ち時間 <SSH> (注1)
vmavgstcmd	(注)	millisec	仮想マシン、ストレージデバイス単位の仮想マシンOS平均待ち時間<SSH> (注1)
vmavgquecmd	(注)	millisec	仮想マシン、ストレージデバイス単位のキュー平均待ち時間 <SSH> (注1)
vmdaborts	(注)	aborts	仮想マシン、ストレージデバイス単位の中止されたコマンド数 (注1)
vmdresets	(注)	resets	仮想マシン、ストレージデバイス単位のリセットされたコマンド数 (注1)
vmavggrdtime	(注)	millisec	仮想マシン、ストレージデバイス単位のデバイス平均Read時間 VMware ESX/ESXi 4.1以降の場合に収集されます。 また、リソースIDが各デバイスの合計しているレコードのみ表示されます。
vmavgwtttime	(注)	millisec	仮想マシン、ストレージデバイス単位のデバイス平均Write時間 VMware ESX/ESXi 4.1以降の場合に収集されます。

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
			また、リソースIDが各デバイスの合計しているレコードのみ表示されます。
vmdesxname	(注)		ESX/ESXi serverのホスト名
vmvmname	(注)		仮想マシン名
vmddiskrespool	(注)		リソースプール名 <HTTPS>
physresvmmd	(注)		物理デバイス、または、仮想デバイス情報
vmvmhostname	(注)		仮想マシンのホスト名 (収集していないフィールドのため、データは表示されず、空欄となります。)

注1) vSANデータストアに配備された仮想マシンの場合は収集されません。

Record ID : VMW_NET

Record No. : 2105

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vmnplinkup	(注)		物理または仮想ネットワークデバイスポート単位のリンク稼働状態(Yes:1、No:0) <SSH>
vmnplinksp	(注)	Mbps	物理ネットワークデバイスポート単位のリンクスピード (仮想ネットワークポートの場合は、SSH接続では0、HTTPS接続では空欄になります。)
vmnpfulld	(注)	number	物理または仮想ネットワークデバイスポート単位のフルデュプレックス(Yes:1、No:0) <SSH>
vmnppcktr	(注)	packets	物理または仮想ネットワークデバイスポート単位の転送パケット数
vmnmpmvtr	(注)	Mbits	物理または仮想ネットワークデバイスポート単位の転送サイズ
vmnppcktrcv	(注)	packets	物理または仮想ネットワークデバイスポート単位の受信パケット数
vmnmpmbrecv	(注)	Mbits	物理または仮想ネットワークデバイスポート単位の受信サイズ
vmnpoutpcktdr	(注)	percent	物理または仮想ネットワークデバイスポート単位の転送パケットのドロップ数の割合 HTTPS接続では、VMware ESX/ESXi 4.1以降の場合に収集されます。 HTTPS接続のVMware ESX/ESXi 4.1の場合、仮想ネットワークデバイスポートの情報は収集されません。
vmnprecvpckdr	(注)	percent	物理または仮想ネットワークデバイスポート単位の受信パケットのドロップ数の割合 HTTPS接続では、VMware ESX/ESXi 4.1以降の場合に収集されます。 HTTPS接続のVMware ESX/ESXi 4.1の場合、仮想ネットワークデバイスポートの情報は収集されません。

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vmnpactpost	(注)	actions	物理または仮想ネットワークデバイスポート単位のアクション数 <SSH>
vmnpusage	(注)	Mbps	仮想または物理ネットワークポート単位の平均送受信速度
vmnesxname	(注)		ESX/ESXi serverのホスト名
vmnvmname	(注)		仮想マシン名
vmnnetrespool	(注)		リソースプール名 <HTTPS>
physresvmmnet	(注)		物理または仮想ネットワークデバイスポート情報
vmnethostname	(注)		仮想マシンのホスト名 (収集していないフィールドのため、データは表示されず、空欄となります。)

Record ID : VMW_PCPU

Record No. : 2110

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vmcpul	(注)	percent	物理CPUの平均CPU使用率
vmcpuu	(注)	percent	サービス コンソールによって報告されたCPUのユーザー時間の割合 <SSH>
vmcpus	(注)	percent	サービス コンソールによって報告されたCPUのシステム時間の割合 <SSH>
vmcpuit	(注)	percent	サービス コンソールによって報告されたCPUのアイドル時間の割合 <SSH>
vmcpuio	(注)	percent	サービスコンソールによって報告されたCPUの待ち時間の割合 <SSH>
vmcpucs	(注)	switches	サービスコンソールによって報告されたコンテキストスイッチ数 <SSH>

Record ID : VMW_PMEM

Record No. : 2111

Table name : resource_data_vwide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vmpmemo	(注)	number	メモリ オーバーコミット<SSH>
vmpmemm	(注)	Mbytes	物理メモリサイズ
vmpmemk	(注)	Mbytes	Vmkernelが使用している物理メモリサイズ
vmpmemnk	(注)	Mbytes	サービスコンソールやVMkernel以外が使用している物理メモリサイズ <SSH>
vmpmemfree	(注)	Mbytes	空きメモリサイズ

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vmpmmank	(注)	Mbytes	VMkernelによって管理されている物理メモリサイズ <SSH>
vmpmresk	(注)	Mbytes	VMkernelによって予約されている物理メモリサイズ <SSH>
vmpmcons	(注)	Mbytes	サービスコンソールが使用している物理メモリサイズ <SSH>
vmpmconssw	(注)	Mbytes	サービスコンソールによって報告されたスワップサイズ <SSH>
vmpmconswf	(注)	Mbytes	サービスコンソールによって報告された空きスワップサイズ <SSH>
vmpmpssh	(注)	Mbytes	共有メモリサイズ
vmpmpscom	(注)	Mbytes	スワップサイズ
vmpmctlcur	(注)	Mbytes	vmmemctlモジュールを使用して解放する物理メモリの合計サイズ
vmpmctltar	(注)	Mbytes	vmmemctlモジュールを使用して解放しようとする物理メモリの合計サイズ <SSH>
vmpmswrcon	(注)	Mbytes	サービスコンソールによって報告されたスワップインされたメモリサイズ <SSH>
vmpmsrdcon	(注)	Mbytes	サービスコンソールによって報告されたスワップアウトされるメモリサイズ <SSH>
vmpmswrd	(注)	Mbytes	スワップインされたメモリサイズ HTTPS接続では、VMware ESX/ESXi 4.1以降の場合に収集されます。
vmpmswrt	(注)	Mbytes	スワップアウトされるメモリサイズ HTTPS接続では、VMware ESX/ESXi 4.1以降の場合に収集されます。
vmpmmemcompsize	(注)	Mbytes	ホスト単位の圧縮されたメモリサイズ VMware ESX/ESXi 4.1以降の場合に収集されます。
vmpmresvmem	(注)	Mbytes	メモリのリザーブ量 <HTTPS>
vmpmusedmem	(注)	Mbytes	有効なメモリの使用量 <HTTPS>

Record ID : VSPH_PMEM

Record No. : 2131

Table name : resource_data_vwide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vspmemsize	(注)	Mbytes	物理メモリサイズ <HTTPS>
vspmemusage	(注)	percent	使用中の物理メモリの割合(瞬時値) <HTTPS>
vspmemactive	(注)	Mbytes	有効なメモリの使用量 <HTTPS>
vspmemoverhead	(注)	Mbytes	メモリオバーヘッド <HTTPS>
vspmemswapused	(注)	Mbytes	スワップサイズ <HTTPS>

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vspmемswapinrate	(注)	Mbytes/s	1秒あたりにスワップインされたメモリサイズ <HTTPS> VMware ESX/ESXi 4.1以降の場合に収集されます。
vspmемswapoutrate	(注)	Mbytes/s	1秒あたりにスワップアウトされるメモリサイズ <HTTPS> VMware ESX/ESXi 4.1以降の場合に収集されます。
vspmемshared	(注)	Mbytes	共有メモリサイズ <HTTPS>
vspmемsysusage	(注)	Mbytes	Vmkernelが使用している物理メモリサイズ <HTTPS>
vspmемvmmemctl	(注)	Mbytes	バルーンドライバによって回収される物理メモリのサイズ <HTTPS>
vspmемconsumed	(注)	Mbytes	消費されたメモリの使用量 <HTTPS>
vspmемcompsize	(注)	Mbytes	ホスト単位の圧縮されたメモリサイズ <HTTPS> VMware ESX/ESXi 4.1以降の場合に収集されます。
vspmемresvmem	(注)	Mbytes	メモリのリザーブ量 <HTTPS>
vspmемminfree	(注)	Mbytes	仮想ホストの最小空きメモリ量(minfree) <HTTPS>

Record ID : VMW_PDISK

Record No. : 2112

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vmpdcommands	(注)	commands	物理ディスク単位のコマンド発行数
vmpdreads	(注)	reads	物理ディスク単位のディスク読み込み回数
vmpdwrites	(注)	writes	物理ディスク単位のディスク書き込み回数
vmpdmbread	(注)	Mbytes	物理ディスク単位のディスク読み込みサイズ
vmpdmbwrt	(注)	Mbytes	物理ディスク単位のディスク書き込みサイズ
vmpdavgcdcmd	(注)	millisec	物理ディスク単位のデバイス平均待ち時間
vmpdavgkrncmd	(注)	millisec	物理ディスク単位のESX/ESXi Server VMkernel平均待ち時間
vmpdavgstcmd	(注)	millisec	物理ディスク単位の仮想マシンOS平均待ち時間
vmpdavgquecmd	(注)	millisec	物理ディスク単位のキュー平均待ち時間
vmpdaborts	(注)	aborts	物理ディスク単位の中止されたコマンド数
vmpdresets	(注)	resets	物理ディスク単位のリセットされたコマンド数

Record ID : VMW_MEM2

Record No. : 2151

Table name : resource_data_twide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vmgmmemcompsize	(注)	Mbytes	仮想マシン(ゲスト)単位の圧縮されたメモリのサイズ VMware ESX/ESXi 4.1以降の場合に収集されます。
vmgmmemdecompsize	(注)	Mbytes	仮想マシン(ゲスト)単位の伸長されたメモリのサイズ VMware ESX/ESXi 4.1以降の場合に収集されます。
vmgconsumedmem	(注)	Mbytes	消費されたメモリの使用量 <HTTPS>
vmm2esxname	(注)		VMware ESX/VMware ESXi serverのホスト名
vmm2vmname	(注)		仮想マシン名
vmgmmem2respool	(注)		リソースプール名 <HTTPS>
physresvmmem2	(注)		物理メモリ、または、仮想メモリ情報
vmmem2hostname	(注)		仮想マシンのホスト名 (収集していないフィールドのため、データは表示されず、空欄となります。)

Record ID : VMW_PCPU2

Record No. : 2152

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vmphostutil	(注)	percent	物理プロセッサごとのCPU使用率(Hyper-Threading OFFの場合) VMware ESX/ESXi 4.1以降の場合に収集されます。
vmphostcoreutil	(注)	percent	物理プロセッサごとのCPU使用率(Hyper-Threading ONの場合) VMware ESX/ESXi 4.1以降の場合に収集されます。
vmpcresvmhz	(注)	MHz	CPUのリザーブ量(MHz) <HTTPS>
vmpcusemhz	(注)	MHz	CPUの使用量(MHz) <HTTPS>
vmppcorenum	(注)	number	CPUコア数 <HTTPS>
vmppcoremhz	(注)	MHz	1コアあたりのCPU速度 <HTTPS>
vmphypthrd	(注)		HyperthreadingのON/OFFの状態 <HTTPS>

Record ID : VMW_PDISK2

Record No. : 2153

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vmpdavgdevrdtime	(注)	millisec	物理ディスク単位のデバイス平均Read時間 SSH接続では、VMware ESX 4.1の場合に収集されます。
vmpdavgdevwtime	(注)	millisec	物理ディスク単位のデバイス平均Write時間

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
			SSH接続では、VMware ESX 4.1の場合に収集されます。
vmpdavgkrrndtime	(注)	millisec	物理ディスク単位のESX/ESXi Server VMkernel平均Read時間 SSH接続では、VMware ESX 4.1の場合に収集されます。
vmpdavgkrrwtime	(注)	millisec	物理ディスク単位のESX/ESXi Server VMkernel平均Write時間 SSH接続では、VMware ESX 4.1の場合に収集されます。

Record ID : VMW_PDATASTORE

Record No. : 1601

Table name : resource_data_vwide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vmdshreads	vSphere API	number	収集間隔中にデータストアに発行された1秒あたりの平均読み取りコマンド数
vmdshwrites	vSphere API	number	収集間隔中にデータストアに発行された1秒あたりの平均書き込みコマンド数
vmdshmbread	vSphere API	Mbytes	データストアの読み込みサイズ
vmdshmbwrite	vSphere API	Mbytes	データストアの書き込みサイズ
vmpdshavgreadcmd	vSphere API	millisec	各データストア単位の読み込み待ち時間
vmpdshavgwritecmd	vSphere API	millisec	各データストア単位の書き込み待ち時間
vmdshsizenormlatency	vSphere API	millisec	ストレージI/Oコントロールのサイズ正規化I/O待ち時間
vmdshdatastoreiops	vSphere API	number	ストレージI/Oコントロールの全IOPS
vmdshaccessible	vSphere API	boolean	データストアの接続ステータス
vmdshgbcapacity	vSphere API	Gbytes	データストアのディスク容量
vmdshgbfreespace	vSphere API	Gbytes	データストアのディスク空き容量
vmdshgbuncommitted	vSphere API	Gbytes	データストアのすべての仮想コンピュータにより潜在的に使われた、総付加的ストレージ容量
vmdshhostnumber	vSphere API	number	データストアに接続しているホスト数
vmdshvmnumber	vSphere API	number	データストアに格納されたVM数

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vmpdshdcname	vSphere API		このデータストアが属するデータセンター名
vmpdshstype	vSphere API		データストアのファイルシステムボリュームのタイプ
vmpdshurl	vSphere API		データストアの場所
vmpdshdevice	vSphere API		デバイス名

Record ID : VMW_VDATASTORE (注)

Record No. : 1602

Table name : resource_data_ttwide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vmcsvreads	vSphere API	number	収集間隔中にデータストアに発行された1秒あたりの平均読み取りコマンド数
vmcsvwrites	vSphere API	number	収集間隔中にデータストアに発行された1秒あたりの平均書き込みコマンド数
vmcsvmbread	vSphere API	Mbytes	データストアの読み込みサイズ
vmcsvmbwrite	vSphere API	Mbytes	データストアの書き込みサイズ
vmcsvavgreadcmd	vSphere API	millisec	仮想マシンの各データストア単位の読み込み待ち時間
vmcsvavgwritcmd	vSphere API	millisec	仮想マシンの各データストア単位の書き込み待ち時間
vmcsvesxname			ESX/ESXi serverのホスト名
vmcsvmname	vSphere API		VM名
vmcsvrespool	vSphere API		リソースプール名
vmcsvtype	vSphere API		データストアのファイルシステムボリュームのタイプ
vmcsvurl	vSphere API		データストアの場所
vmcsvdcname	vSphere API		VMが所属するデータセンター名
vmcsvdevice	vSphere API		デバイス名

注) 本レコードのデータは、vSANデータストアに配備された仮想マシンの場合は収集されません。

■VMware vCenter

VMware vCenterの性能情報です。VMware vCenterの設定によって収集されないフィールドがあります。

Record ID : VMW_CLUSTER (注)

Record No. : 2170

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
failover	SOAP API	number	許容できるVMware HAのfailureの数
vmclnumeffectivehosts	SOAP API	number (int)	効果的なホストの合計数
vmclnumhosts	SOAP API	number (int)	ホストの合計数
vmclldcname	SOAP API		このクラスタが属するdatacenter名

注) 収集される最新のデータは、現在時刻より1時間前のデータとなります。

Record ID : VMW_CLUSTERCPU (注)

Record No. : 2171

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vmcltotalmhz	SOAP API	MHz	クラスタのすべてのホストのCPU資源の合計。コア数 × MHz
vmclusagemhz	SOAP API	MHz	クラスタ内のすべての仮想コンピュータでアクティブに使われたCPU使用量の合計(MHz)
vmcleffectivecpu	SOAP API	MHz	クラスタ内のすべてのホストで利用可能なCPUの合計 (MHz)
vmclusecpupcent	SOAP API	percent	クラスタ内のすべての仮想コンピュータでアクティブに使われたCPUの合計(%)
vmcltotalcpu	SOAP API	MHz (int)	すべてのホストのCPU資源の合計 (MHz)
vmclnumcpucore	SOAP API	number (short)	物理CPUコア数。物理CPUコアは、CPUパッケージに含まれているプロセッサです
vmclnumcputhreads	SOAP API	number (short)	CPUスレッドの合計数
vmclldcname_cpu	SOAP API		このクラスタが属するdatacenter名

注) 収集される最新のデータは、現在時刻より1時間前のデータとなります。

Record ID : VMW_CLUSTERMEM

Record No. : 2172

Table name : resource_data_wide (注)

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vmclconsumedmem	SOAP API	MB	クラスタ内の電源ONのホストのメモリ使用量(vSphere サービスの使用量を除く)
vmcltotalmb	SOAP API	MB	クラスタの全ホストで利用可能なメモリ量の合計
vmcloverheadmem	SOAP API	MB	メモリのオーバーヘッドの量
vmcleffectivemem	SOAP API	MB	クラスタ内のすべてのホストで利用可能なメモリ量の合計(MB)
vmclusemempcent	SOAP API	percent	メモリの使用率(%)
vmcltotalmemory	SOAP API	MB (long)	すべてのホストのメモリ資源の合計
vmclcname_mem	SOAP API		このクラスタが属するdatacenter名

注) 収集される最新のデータは、現在時刻より1時間前のデータとなります。

Record ID : VMW_RPOOLCPU (注)

Record No. : 2173

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vmrsusagemhz	SOAP API	MHz	リソースプールのCPU使用量
vmrsexp_reservation_cpu	SOAP API	int	リソースプールのCPU予約量設定 1:有/0:無
vmrslimit_cpu	SOAP API	MHz (long)	リソース プールのCPUリソース割当 (制限) 制限なしの場合、-1 の値が表示されます
vmrsreservation_cpu	SOAP API	MHz (long)	リソース プールのCPUリソース割当 (予約)
vmrsshareslevel_cpu	SOAP API	(int)	リソース プールのCPUリソース割当レベル(シェア)
vmrsshares_cpu	SOAP API	(int)	リソースプールに割り当てられたCPUシェア量
vmrsmaxusage_cpu	SOAP API	MHz (long)	リソースプールで使用可能なCPUの上限値
vmrsreservationused_cpu	SOAP API	MHz (long)	リソースプールの予約域のCPU使用量
vmrsreservationusedvm_cpu	SOAP API	MHz (long)	リソースプール内の仮想マシンによる予約域のCPU使用量
vmrsunreservedpool_cpu	SOAP API	MHz (long)	リソースプールの割り当て可能な予約域のCPU量
vmrsunreservedvm_cpu	SOAP API	MHz (long)	リソースプール内の仮想マシンに割り当て可能な予約域のCPU量
vmrsalloccpu	SOAP API	MHz (long)	リソースプールに割り当てられたCPU量 (MHz) リソースプールに含まれる仮想マシンがすべて停止している場合、値は0になります。

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vmrscname_cpu	SOAP API		このリソースプールが属するdatacenter名

注) 収集される最新のデータは、現在時刻より1時間前のデータとなります。

Record ID : VMW_RPOOLMEM (注)

Record No. : 2174

Table name : resource_data_uuwide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vmrsactivemem	SOAP API	MB	リソースプールのメモリ使用量 (VMware vCenter 5.0以降の場合、収集されません。)
vmrsconsumedmem	SOAP API	MB	リソースプール内の電源ONのホストのメモリ使用量 (vSphereサービスの使用量を除く)
vmrsgrantedmem	SOAP API	MB	リソースプール内の電源ONのホストのメモリ使用量 (vSphereサービスの使用量を含む) (VMware vCenter 5.0以降の場合、収集されません。)
vmrsvmmemctl	SOAP API	MB	vmmemctl(VMメモリコントロール)により割り当てられたメモリ量
vmrsoverheadmem	SOAP API	MB	メモリのオーバーヘッドの量
vmrsmemcompress	SOAP API	MB	圧縮されたメモリ量 (VMware vCenter 5.0以降の場合、収集されません。)
vmrsmemcomprate	SOAP API	MB/s	メモリの圧縮レート (VMware vCenter 5.0以降の場合、収集されません。)
vmrsmemdecomprate	SOAP API	MB/s	メモリの圧縮解凍レート (VMware vCenter 5.0以降の場合、収集されません。)
vmrsmemshared	SOAP API	MB	VMで共有されるメモリ量 (VMware vCenter 5.0以降の場合、収集されません。)
vmrsmemswapped	SOAP API	MB	スワップされたメモリ量 (VMware vCenter 5.0以降の場合、収集されません。)
vmrsexp_reservation_mem	SOAP API	int	リソースプールのメモリ予約量設定 1:有/0:無
vmrslimit_mem	SOAP API	MB (long)	リソース プールのメモリリソース割当 (制限) 制限なしの場合、-1 の値が表示されます

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vmrsreservation_mem	SOAP API	MB (long)	リソース プールのメモリリソース割当 (予約)
vmrssharelevel_mem	SOAP API	(int)	リソース プールのメモリリソース割当レベル(シェア)
vmrsshare_mem	SOAP API	(int)	リソースプールに割り当てられたメモリシェア量
vmrsmaxusage_mem	SOAP API	MB (long)	リソースプールで使用可能なメモリの上限值
vmrsreservationused_mem	SOAP API	MB (long)	リソースプールの予約域のメモリ使用量
vmrsreservationusedvm_mem	SOAP API	MB (long)	リソースプール内の仮想マシンによる予約域のメモリ使用量
vmrsunreservedpool_mem	SOAP API	MB (long)	リソースプールの割り当て可能な予約域のメモリ量
vmrsunreservedvm_mem	SOAP API	MB (long)	リソースプール内の仮想マシンに割り当て可能な予約域のメモリ量
vmrsallocmem	SOAP API	MB (long)	リソースプールに割り当てられたメモリ量 (MB) リソースプールに含まれる仮想マシンがすべて停止している場合、値は0になります。
vmrsdcname_mem	SOAP API		このリソースプールが属するdatacenter名

注) 収集される最新のデータは、現在時刻より1時間前のデータとなります。

Record ID : VMW_VSTORAGE (注)

Record No. : 2175

Table name : resource_data_vwide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vmvsprovisioned	SOAP API	GB	ストレージのプロビジョニングのスペース(潜在的に使用されるスペース)
vmvsunshared	SOAP API	GB	共有されないストレージのスペース
vmvsused	SOAP API	GB	実際に使用されるスペース
vmvsvmdiskused	SOAP API	GB	仮想ディスク領域の使用量
vmvssnapused	SOAP API	GB	スナップショット領域の使用量
vmvsswapused	SOAP API	GB	swapファイル領域の使用量
vmvsotherused	SOAP API	GB	その他のVMファイル領域の使用量
vmvsdcname	SOAP API		このdatastoreが属するdatacenter名
vmvsesxname	SOAP API		ESX/ESXi serverのホスト名
vmvsvmname	SOAP API		仮想マシン名

注) 収集される最新のデータは、現在時刻より1時間前のデータとなります。

Record ID : VMW_VSTORAGE2

Record No. : 2177

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vmvsavgrdtime	SOAP API	millisec	仮想マシンのディスクごとのread平均待ち時間 (注1)
vmvsavgwtttime	SOAP API	millisec	仮想マシンのディスクごとのwrite平均待ち時間 (注1)
vmvsreadnum	SOAP API	number	収集間隔中にデータストアに発行された1秒あたりの平均読み取りコマンド数 (注1)
vmvswritenum	SOAP API	number	収集間隔中にデータストアに発行された1秒あたりの平均書き込みコマンド数 (注1)
vmvsmbrd	SOAP API	MB	データストアの読み込みサイズ (注1)
vmvsmbwt	SOAP API	MB	データストアの書き込みサイズ (注1)
vmvsdcname2	SOAP API		このdatastoreが属するdatacenter名
vmvsesxname2	SOAP API		ESX/ESXi serverのホスト名
vmvsvmname2	SOAP API		仮想マシン名

注1) vSANデータストアに配備された仮想マシンの場合は収集されません。

Record ID : VMW_DATASTORE (注)

Record No. : 2176

Table name : resource_data_uwide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vmdsprovisioned	SOAP API	GB	ストレージのプロビジョニングのスペース(潜在的に使用されるスペース)
vmdsused	SOAP API	GB	実際に使用されるスペース
vmdsvmdiskused	SOAP API	GB	仮想ディスク領域の使用量
vmdssnapused	SOAP API	GB	スナップショット領域の使用量
vmdsswapused	SOAP API	GB	swapファイル領域の使用量
vmdsotherused	SOAP API	GB	その他のVMファイル領域の使用量
vmdsreadnum	SOAP API	number	収集間隔中にデータストアに発行された1秒あたりの平均読み取りコマンド数 (VMware vCenter 5.0以降の場合、収集されません。)
vmdswritenum	SOAP API	number	収集間隔中にデータストアに発行された1秒あたりの平均書き込みコマンド数 (VMware vCenter 5.0以降の場合、収集されません。)

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vmdsread	SOAP API	MB	データストアの読み込みサイズ (VMware vCenter 5.0以降の場合、収集されません。)
vmdswrite	SOAP API	MB	データストアの書き込みサイズ (VMware vCenter 5.0以降の場合、収集されません。)
vmdsthptcontent	SOAP API	millisec	データストアへのIO動作またはすべてのESX/ESXiホストがLUNにアクセスした時間の平均 (VMware vCenter 5.0以降の場合、収集されません。)
vmdsthptusage	SOAP API	MB	データストアまたはLUNのための現在の帯域使用量 (VMware vCenter 5.0以降の場合、収集されません。)
vmdssizenormlatency	SOAP API	microsecond	ストレージI/Oコントロールのサイズ正規化I/O待ち時間 (VMware vCenter 5.0以降の場合、収集されません。)
vmdsdatastoreiops	SOAP API	number	ストレージI/Oコントロールの全IOPS (VMware vCenter 5.0以降の場合、収集されません。)
vmdsaccessible	SOAP API	int	データストアの接続ステータス 1:接続可/0:接続不可
vmdscapacity	SOAP API	GB	データストアのディスク容量
vmdsfreespace	SOAP API	GB	データストアのディスク空き容量
vmdsuncommitted	SOAP API	GB	datastoreのすべての仮想コンピュータにより潜在的に使われた、総付加的ストレージ容量
vmdshostnumber	SOAP API	number	データストアに接続しているホスト数
vmdsvmnumber	SOAP API	number	データストアに格納されたVM数
vmdsdcname	SOAP API		このdatastoreが属するdatacenter名
vmdstype	SOAP API		データストアのファイルシステムボリュームのタイプ
physresvmmem	SOAP API		データストアの場所

注) 収集される最新のデータは、現在時刻より1時間前のデータとなります。

Record ID : VMW_VSAN_CLUSTER_VMC (注)

Record No. : 1606

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vsanclvmconsnumiopsread	SOAP API	number	仮想マシン、統計オブジェクトなど、クラスタ内のすべてのvSANクライアントによって使用されるReadの回数
vsanclvmconsnumiopswrite	SOAP API	number	仮想マシン、統計オブジェクトなど、クラスタ内のすべてのvSANクライアントによって使用されるWriteの回数
vsanclvmconsthroughputread	SOAP API	MB	仮想マシン、統計オブジェクトなど、クラスタ内のすべてのvSANクライアントによって使用されるReadのデータ量
vsanclvmconsthroughputwrite	SOAP API	MB	仮想マシン、統計オブジェクトなど、クラスタ内のすべてのvSANクライアントによって使用されるWriteのデータ量
vsanclvmconslatavgread	SOAP API	millisec	仮想マシン、統計オブジェクトなど、クラスタ内のすべてのvSANクライアントによって生成されたI/Oの平均Read遅延
vsanclvmconslatavgwrite	SOAP API	millisec	仮想マシン、統計オブジェクトなど、クラスタ内のすべてのvSANクライアントによって生成されたI/Oの平均Write遅延
vsanclvmconscongestions	SOAP API	number	仮想マシン、統計オブジェクトなど、クラスタ内のすべてのvSANクライアントによって生成されたI/Oの輻輳
vsanclvmconsoio	SOAP API	number	仮想マシン、統計オブジェクトなど、クラスタ内のすべてのvSANクライアントの未処理のI/O
vsandshostnumber	SOAP API	number	vSANデータストアに接続している仮想ホストの合計数
vsandsvmnumber	SOAP API	number	vSANデータストアに格納された仮想マシンの合計数
vsanclvmconsreadcount	SOAP API	number	vSANデータストアのRead回数の合計
vsanclvmconswritecount	SOAP API	number	vSANデータストアのWrite回数の合計
vsanclvmconsdcname	SOAP API		このvSAN datastoreが属するdatacenter名
vsanclvmconsdatastorename	SOAP API		vSAN datastore名
vsanclvmconslustname	SOAP API		クラスタ名

注) vSANを使用している環境で収集されます。

Record ID : VMW_VSAN_HOST_VMC (注)

Record No. : 1607

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vsanhsvmconsnumiopsread	SOAP API	number	仮想マシン、統計オブジェクトなど、仮想ホスト内のすべてのvSANクライアントによって使用されるReadの回数
vsanhsvmconsnumiopswrite	SOAP API	number	仮想マシン、統計オブジェクトなど、仮想ホスト内のすべてのvSANクライアントによって使用されるWriteの回数
vsanhsvmconsthroughputread	SOAP API	MB	仮想マシン、統計オブジェクトなど、仮想ホスト内のすべてのvSANクライアントによって使用されるReadのデータ量

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vsanhsvmconsthroughputwrite	SOAP API	MB	仮想マシン、統計オブジェクトなど、仮想ホスト内のすべてのvSANクライアントによって使用されるWriteのデータ量
vsanhsvmconslatavgread	SOAP API	millisec	仮想マシン、統計オブジェクトなど、仮想ホスト内のすべてのvSANクライアントによって生成されたI/Oの平均Read遅延
vsanhsvmconslatavgwrite	SOAP API	millisec	仮想マシン、統計オブジェクトなど、仮想ホスト内のすべてのvSANクライアントによって生成されたI/Oの平均Write遅延
vsanhsvmconscongestions	SOAP API	number	仮想マシン、統計オブジェクトなど、仮想ホスト内のすべてのvSANクライアントによって生成されたI/Oの輻輳
vsanhsvmconsoio	SOAP API	number	仮想マシン、統計オブジェクトなど、仮想ホスト内のすべてのvSANクライアントの未処理のI/O
vsanhsvmconsclicachehitops	SOAP API	number	平均ローカルクライアントキャッシュReadの回数
vsanhsvmconsclicachehitrate	SOAP API	percent	ローカルクライアントキャッシュによって満たすことができるRead I/Oの割合
vsanhsvmconsreadcount	SOAP API	number	仮想ホストごとのvSANデータストアのRead回数の合計
vsanhsvmconswritecount	SOAP API	number	仮想ホストごとのvSANデータストアのWrite回数の合計
vsanhsvmconsdcname	SOAP API		このvSAN datastoreが属するdatacenter名
vsanhsvmconsdatastorename	SOAP API		vSAN datastore名
vsanhsvmconsclname	SOAP API		クラスタ名
vsanhsvmconshostname	SOAP API		ESXi serverのホスト名

注) vSANを使用している環境で収集されます。

Record ID : VMW_VSAN_VM_VMC (注)

Record No. : 1608

Table name : resource_data_ttwide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vsanvmvmconsnumiopsread	SOAP API	number	仮想マシンによるReadの回数
vsanvmvmconsnumiopswrite	SOAP API	number	仮想マシンによるWriteの回数
vsanvmvmconsthroughputread	SOAP API	MB	仮想マシンによるReadのデータ量
vsanvmvmconsthroughputwrite	SOAP API	MB	仮想マシンによるWriteのデータ量
vsanvmvmconslatavgread	SOAP API	millisec	仮想マシンによるI/Oの平均Read遅延
vsanvmvmconslatavgwrite	SOAP API	millisec	仮想マシンによるI/Oの平均Write遅延
vsanvmvmconsreadcount	SOAP API	number	仮想マシンごとのvSANデータストアのRead回数の合計
vsanvmvmconswritecount	SOAP API	number	仮想マシンごとのvSANデータストアのWrite回数の合計

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vsanvmvmconsdcname	SOAP API		このvSAN datastoreが属するdatacenter名
vsanvmvmconsdatastorename	SOAP API		vSAN datastore名
vsanvmvmconsclname	SOAP API		クラスタ名
vsanvmvmconshostname	SOAP API		ESXi serverのホスト名
vsanvmvmconsvmname	SOAP API		仮想マシン名

注) vSANを使用している環境で収集されます。

Record ID : VMW_VSAN_SPACEUSAGE (注)

Record No. : 2223

Table name : resource_data_vwide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vsancapaphysicalusedb	SOAP API	GB	vSANデータストアの物理的に使用されている容量
vsancapaoverreservedb	SOAP API	GB	vSANデータストアのオーバー予約容量
vsancapausedb	SOAP API	GB	vSANデータストアの使用済み容量
vsancapaoverheadb	SOAP API	GB	vSANデータストアのオーバーヘッド容量 オーバーヘッドには、レプリカ・データ、監視メタデータ、RAID 5/6パリティ・データ、データ保護オーバーヘッドなどの領域が含まれます。
vsancapafreecapacityb	SOAP API	GB	vSANデータストアの空き容量
vsancapatotalcapacityb	SOAP API	GB	vSANデータストアの総容量
vsancapprimarycapacityb	SOAP API	GB	vSANデータストアのプライマリデータ容量 プライマリデータは、物理ディスクに書き込まれる実際のユーザデータです。
vsancapaprovisioncapacityb	SOAP API	GB	vSANデータストアのプロビジョニング済み容量
vsancapareservedcapacityb	SOAP API	GB	vSANデータストアの予約済み容量
vsancapatemporaryoverheadb	SOAP API	GB	vSANデータストアの一時的なオーバーヘッド容量 一時的なオーバーヘッドには、データ移動に使用されるようなスペースが含まれ、最終的に解放されます。
vsancapadcname	SOAP API		このvSAN datastoreが属するdatacenter名
vsancapadatastorename	SOAP API		vSAN datastore名

注) vSANを使用している環境で収集されます。

Record ID : VMW_DATASTORE_VMUSAGE (注)

Record No. : 2225

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vmidsusedpervm	SOAP API	GB	仮想マシンごとのデータストアの容量

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vmDSPROVISIONEDPERVM	SOAP API	GB	仮想マシンごとのデータストアのプロビジョニングされた容量
vmDSUNSHAREDPERVM	SOAP API	GB	仮想マシンごとの共有されないデータストアの容量
vmDSdatacenter	SOAP API		このdatastoreが属するdatacenter名
vmDSdatastore	SOAP API		datastore名
vmDSVMSNAME	SOAP API		仮想マシン名

注) 収集される最新のデータは、現在時刻より1時間前のデータとなります。

4.2.31 Hyper-Vフォルダ配下/Hyper-V～レポート

Record ID : HV_CPU

Record No. : 1210

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
pgrt	reg typeperf	percent	ゲストOSが消費した総プロセッサ時間の使用率
phrt	reg typeperf	percent	ハイパーバイザー コードが消費した総プロセッサ時間の使用率
ptrt	reg typeperf	percent	ペアレントOSとすべてのゲストOSの実行に消費されたプロセッサ時間の使用率
pcss	reg typeperf	count	プロセッサ上での、仮想プロセッサ コンテキスト スイッチ回数
phis	reg typeperf	count	プロセッサ上での、ハイパーバイザー 割り込み以外のハードウェア割り込み回数
pipiss	reg typeperf	count	プロセッサから送られた、ハイパーバイザー プロセッサ間割り込み回数
pipis	reg typeperf	count	プロセッサに送られた、ハイパーバイザー プロセッサ間割り込み回数
pmtc	reg typeperf	number	ハイパーバイザーに遷移するためのハードウェアコスト
psis	reg typeperf	count	プロセッサ上での、ハイパーバイザー スケジューラ割り込み回数
ptis	reg typeperf	count	プロセッサ上での、ハイパーバイザー タイマー割り込み回数
ptint	reg typeperf	count	ハードウェア割り込みとハイパーバイザー割り込み回数

Record ID : HV_RVCPU

Record No. : 1211

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
pgrvtim	reg typeperf	percent	ゲストOSが消費したペアレントOSが利用する仮想プロセッサの使用率
phrvtim	reg typeperf	percent	ハイパーバイザー コードが消費したペアレントOSが利用する仮想プロセッサの使用率
ptrvtim	reg typeperf	percent	ペアレントOSとすべてのゲストOSの実行に消費されたペアレントOSが利用する仮想プロセッサの使用率

Record ID : HV_VCPU

Record No. : 1212

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
pgrtim	reg typeperf	percent	ゲストOSが消費した仮想マシンに割り当てた仮想プロセッサの使用率
phrtim	reg typeperf	percent	ハイパーバイザー コードが消費した仮想マシンに割り当てた仮想プロセッサの使用率
ptrtim	reg typeperf	percent	ペアレントOSとすべてのゲストOSの実行に消費された仮想マシンに割り当てた仮想プロセッサの使用率

Record ID : HV_LNET (注)

Record No. : 1213

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
pbd	reg typeperf	bytes	ネットワーク アダプターで破棄されたバイトの数
pbrs	reg typeperf	bytes	ネットワーク アダプターで受信されるバイトの数
pbss	reg typeperf	bytes	ネットワーク アダプターで送信されるバイトの数
pfd	reg typeperf	frames	ネットワーク アダプターで破棄されたフレームの数
pfrs	reg	frames	ネットワーク アダプターで受信されるフレームの数

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
	typeperf		
pfss	reg typeperf	frames	ネットワーク アダプターで送信されるフレームの数

注) 本レコードのデータは、Legacyのネットワーク用の性能情報です。Legacyのネットワークを使用している場合に収集されます。

Record ID : HV_IDE

Record No. : 1214

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
prbsside	reg typeperf	bytes	仮想マシンの IDE コントローラーで読み取られたバイト数
prsside	reg typeperf	sectors	仮想マシンの IDE コントローラーで読み取られたセクター数
pwbside	reg typeperf	bytes	仮想マシンの IDE コントローラーで書き込まれたバイト数
pwsside	reg typeperf	sectors	仮想マシンの IDE コントローラーで書き込まれたセクター数

Record ID : HV_VNET

Record No. : 1215

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
pbrsvn	reg typeperf	bytes	ネットワーク アダプターが受信した合計バイト数
pbssvn	reg typeperf	bytes	ネットワーク アダプターから送信された合計バイト数
pbsvn	reg typeperf	bytes	ネットワーク アダプターをスキャンした合計バイト数
pprsvn	reg typeperf	packets	ネットワーク アダプターが受信した合計パケット数
ppssvn	reg typeperf	packets	ネットワーク アダプターから送信された合計パケット数
ppsvn	reg typeperf	packets	ネットワーク アダプターをスキャンした合計パケット数

Record ID : HV_VDISK

Record No. : 1216

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
pecvd	reg typeperf	count	仮想デバイス上で発生したエラーの合計数
pfcvd	reg typeperf	count	仮想デバイス上で発生したフラッシュ操作の合計回数
prbsvd	reg typeperf	bytes	仮想デバイス上の合計読み取りバイト数
prcvd	reg typeperf	count	仮想デバイス上で発生した読み取り操作の合計回数
pwbsvd	reg typeperf	bytes	仮想デバイス上の合計書き込みバイト数
pwcvd	reg typeperf	count	仮想デバイス上で発生した書き込み操作の合計回数

Record ID : HV_VSWITCH

Record No. : 1217

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
pbrssw	reg typeperf	bytes	仮想ネットワーク(スイッチ)で受信されたバイト数
pbsssw	reg typeperf	bytes	仮想ネットワーク(スイッチ)で送信されたバイト数
pbssw	reg typeperf	bytes	仮想ネットワーク(スイッチ)で送受信されたバイト数
ppfsw	reg typeperf	packets	仮想ネットワーク(スイッチ)でオーバーフローしたパケット数
ppfssw	reg typeperf	packets	仮想ネットワーク(スイッチ)でオーバーフローしたパケット数(瞬間値を累積した値)
pprssw	reg typeperf	packets	仮想ネットワーク(スイッチ)で受信されたパケット数
ppsssw	reg typeperf	packets	仮想ネットワーク(スイッチ)で送信されたパケット数
ppssw	reg	packets	仮想ネットワーク(スイッチ)で送受信されたパケット数

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
	typeperf		

Record ID : HV_VSPORT

Record No. : 1218

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
pbrsvs	reg typeperf	Bytes	仮想ネットワーク(スイッチ)のポートごとに受信されたバイト数
pbssvs	reg typeperf	Bytes	仮想ネットワーク(スイッチ)のポートごとに送信されたバイト数
pbsvs	reg typeperf	Bytes	仮想ネットワーク(スイッチ)のポートごとに送受信されたバイト数
pprsvs	reg typeperf	Packets	仮想ネットワーク(スイッチ)のポートごとに受信されたパケット数
ppssvs	reg typeperf	Packets	仮想ネットワーク(スイッチ)のポートごとに送信されたパケット数
ppsvs	reg typeperf	Packets	仮想ネットワーク(スイッチ)のポートごとに送受信されたパケット数

Record ID : HV_DMEN_BALANCER

Record No. : 1250

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
padmdmb	reg typeperf	Mbytes	仮想マシンに追加された累積メモリ容量 <Windows Server 2008 R2 SP1>
pavmdmb	reg typeperf	Mbytes	ノード上に残っているメモリ容量 <Windows Server 2008 R2 SP1以降>
papdmb	reg typeperf	percent	バランサー ノードの平均負荷 <Windows Server 2008 R2 SP1以降>
pmaodmb	reg typeperf	count	追加操作の総数 <Windows Server 2008 R2 SP1>
pmrodmdb	reg typeperf	count	削除操作の総数 <Windows Server 2008 R2 SP1>
prmdmb	reg typeperf	Mbytes	仮想マシンから削除された累積メモリ容量 <Windows Server 2008 R2 SP1>

Record ID : HV_DMED_VM

Record No. : 1251

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
padmdmvm	reg typeperf	Mbytes	仮想マシンに追加された累積メモリ容量 <Windows Server 2008 R2 SP1以降>
papdmvm	reg typeperf	percent	仮想マシンの平均負荷 <Windows Server 2008 R2 SP1以降>
pcpdmvm	reg typeperf	percent	仮想マシンの現在の負荷 <Windows Server 2008 R2 SP1以降>
pgvpmdmvm	reg typeperf	Mbytes	仮想マシンで表示されるメモリ容量 <Windows Server 2008 R2 SP1以降>
pmaxpdmvm	reg typeperf	percent	仮想マシンの最大負荷帯域 <Windows Server 2008 R2 SP1以降>
pmadodmvm	reg typeperf	count	仮想マシンに対する追加操作の総数 <Windows Server 2008 R2 SP1以降>
pmrodvmvm	reg typeperf	count	仮想マシンに対する削除操作の総数 <Windows Server 2008 R2 SP1以降>
pminpdmvm	reg typeperf	percent	仮想マシンの最小負荷帯域 <Windows Server 2008 R2 SP1以降>
ppmdmvm	reg typeperf	Mbytes	仮想マシンの現在のメモリ容量 <Windows Server 2008 R2 SP1以降>
prmdmvm	reg typeperf	Mbytes	仮想マシンから削除された累積メモリ容量 <Windows Server 2008 R2 SP1以降>

4.2.32 KVMフォルダ配下/KVM～レポート

Record ID : KVM_CPU

Record No. : 1260

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
kvmcputime	virt-top	nseconds	使用したCPU時間
kvmcpupcent	virt-top	percent	CPU使用率(ドメインに設定された仮想CPUのCPU使用率の合計)
kvmcpus	virt-top	number	ドメインの仮想CPU数
kvmcpumhz	virt-top	MHz	ドメインのCPU性能
kvmcpus	virsh	number	物理ホストのCPU数

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
kvmcpupcentperdomain	-	percent	ドメインの割り当てられた仮想CPUの利用状況
kvmcpuhostname	virt-top		仮想マシンのホスト名
kvmcpudomainname	virt-top		ドメイン名

Record ID : KVM_MEM

Record No. : 1261

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
kvmmemused	virt-top	MBytes	ドメインに割り当てられているメモリサイズ
kvmmemmax	virt-top	MBytes	ドメインに割り当て可能な最大メモリサイズ
kvmmempcent	virt-top	percent	ドメインに割り当てられている物理メモリの占有率
kvmmpmemamount	virsh	MBytes	物理ホストのメモリサイズ
kvmmemhostname	virt-top		仮想マシンのホスト名
kvmmemdomainname	virt-top		ドメイン名

Record ID : KVM_DISK

Record No. : 1262

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
kvmdiskblockrdb	virt-top	bytes	仮想ブロックデバイスのread量
kvmdiskblockwrb	virt-top	bytes	仮想ブロックデバイスのwrite量
kvmdiskrdrq	virt-top	number	仮想ブロックデバイスのread要求回数
kvmdiskwrrq	virt-top	number	仮想ブロックデバイスのwrite要求回数
kvmdiskhostname	virt-top		仮想マシンのホスト名
kvmdiskdomainname	virt-top		ドメイン名

Record ID : KVM_NET

Record No. : 1263

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
kvmnetrxby	virt-top	bytes	仮想ネットワークインターフェースのデータ受信量
kvmnettxby	virt-top	bytes	仮想ネットワークインターフェースのデータ送信量
kvmnetrxpk	virt-top	packets	仮想ネットワークインターフェースのデータ受信パケット数

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
kvmnettxpk	virt-top	packets	仮想ネットワークインターフェースのデータ送信パケット数
kvmnethostname	virsh		仮想マシンのホスト名
kvmnetdomainname	virt-top		ドメイン名

Record ID : KVM_POOL_STORAGE

Record No. : 1265

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
kvmpoolstoragecapacity	virt-top	Gbytes	ストレージプールの容量
kvmpoolstorageallocation	virt-top	Gbytes	ストレージプールの割当量
kvmpoolstorageavailable	virt-top	Gbytes	ストレージプールの利用可能量
kvmpoolstoragepercent	virt-top	percent	ストレージプールの使用率
kvmpoolstoragehostname	virt-top		仮想マシンのホスト名
kvmpoolstoragepoolname	virt-top		ドメイン名

Record ID : KVM_CPU_PINNING

Record No. : 1258

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
kvmpinputime	virsh	second	CPU時間(注)
kvmpincpu	virsh		CPU番号(注)
kvmpinpuhostname	virsh		仮想マシンのホスト名
kvmpinpudomainname	virsh		ドメイン名
kvmpinpustate	virsh		仮想CPUの状態(注)
kvmpinpuaffinity	virsh		プロセッサ親和性のセッティング 各仮想CPUが、どの物理CPUに割り当てられているかを表します。 例) 0-7: 物理CPU0～7が割り当てられている 0-1;7-7: 物理CPU0, 1, 7が割り当てられている

注)対象ドメインが停止している間は、収集されません。

Record ID : KVM_CPU_CAPPING

Record No. : 1259

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
kvmcapcpushares	virsh	number	ドメインのcpu_share値(注)
kvmcapcpuvperiod	virsh	number	ドメインのvcpu_period値(注)  注意 KVMのコマンド(virsh schedinfo)で"vcpu_period"が出力されない場合、収集されません。
kvmcapcpuvquota	virsh	number	ドメインのvcpu_quota値(注)  注意 KVMのコマンド(virsh schedinfo)で"vcpu_quota"が出力されない場合、収集されません。
kvmcapcpueperiod	virsh	number	ドメインのemulator_period値(注)  注意 KVM の コ マ ン ド (virsh schedinfo)で"emulator_period"が出力されない場合、収集されません。
kvmcapcpuequota	virsh	number	ドメインのemulator_quota値(注)  注意 KVM の コ マ ン ド (virsh schedinfo)で"emulator_quota"が出力されない場合、収集されません。
kvmcapcpuhostname	virsh		仮想マシンのホスト名
kvmcapcpudomainname	virsh		ドメイン名
kvmcapcpuscheduler	virsh		スケジューラ名

注)対象ドメインが停止している間は、"0"が格納されます。

4.2.33 Xenフォルダ配下/Xen～レポート

Record ID : XEN_CPU

Record No. : 2106

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
xencused	xentop	seconds	使用したCPU時間
xenpcused	xentop	percent	CPU使用率(ドメインに設定された仮想CPUのCPU使用率の合計)

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
xencpun	xentop /proc/ cpuinfo (Domain-0の場合)	number	ドメインの仮想CPU数
xenpcpun	xentop	number	物理CPU数
xendname-cpu	xentop		ドメイン名
dhostname-cpu	xentop		仮想マシンのホスト名 (収集していないフィールドのため、データは表示されず、空欄となります。)
xensc	xentop		ドメインの状態

Record ID : XEN_MEM

Record No. : 2107

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
xenavm	xentop	MBytes	ドメインに割り当てられているメモリサイズ
xenavmp	xentop	percent	ドメインに割り当てられている物理メモリの占有率
xenmax	xentop	MBytes	ドメインに割り当て可能な最大メモリサイズ
xenmaxp	xentop	percent	物理メモリサイズに対しドメインに割り当て可能な最大メモリサイズの占有率
xendname-mem	xentop		ドメイン名
dhostname-mem	xentop		仮想マシンのホスト名 (収集していないフィールドのため、データは表示されず、空欄となります。)
xensm	xentop		ドメインの状態

Record ID : XEN_DISK

Record No. : 2108

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
vbdo	xentop	number	仮想ブロックデバイスに対するread/write以外の要求の回数
vbdrd	xentop	number	仮想ブロックデバイスのread回数
vbdwr	xentop	number	仮想ブロックデバイスのwrite回数
vbd	xentop	number	ドメインの仮想ブロックデバイス数
xendname-disk	xentop		ドメイン名
dhostname-disk	xentop		仮想マシンのホスト名

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
			(収集していないフィールドのため、データは表示されず、空欄となります。)
xensd	xentop		ドメインの状態

Record ID : XEN_NET

Record No. : 2109

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
xenkbtx	xentop	kBytes	仮想ネットワークインターフェースのデータ送信量
xenkbrx	xentop	kBytes	仮想ネットワークインターフェースのデータ受信量
xenn	xentop	number	ネットワークインターフェース数
xendname-net	xentop		ドメイン名 (収集していないフィールドのため、データは表示されず、空欄となります。)
dhostname-net	xentop		仮想マシンのホスト名
xenvn	xentop		ドメインの状態

4.2.34 cgroupフォルダ配下/cgroupレポート

Record ID : CGROUP_CPU

Record No. : CGR1001

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
cgroupcpustatnrperiods	cpu.stat	number	cpu.cfs_period_usで指定されている期間間隔経過済みの数
cgroupcpustatnrthrottled	cpu.stat	number	cgroup内のタスクがスロットリングされた回数(クォータによって指定された利用可能な時間をすべて使い果たしたため、実行することができない)
cgroupcpustatthrottledtime	cpu.stat	nsec	cgroup内のタスクがスロットリングされた合計時間
cgroupcpucfsperiodus	cpu.cfs_period_us	microsec	cgroupによるCPUリソースへのアクセスを再割り当てする間隔(cpu.cfs_period_usで定義された値が表示されます。)
cgroupcpucfsquous	cpu.cfs_quota_us	microsec	cgroup内の全タスクが一定の期間に実行される合計時間(cpu.cfs_quota_usで定義された値が表示されます。)
cgroupcpushares	cpu.shares	number	cgroup内のタスクで利用できるCPU時間の相対的配分を指定する整数値(cpu.sharesで定義された値が表示されます。)
cgroupcpuname	lscgroup		cgroup名

Record ID : CGROUP_CPUACCT

Record No. : CGR1002

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
cgroupcpuacctstatuser	cpuacct.stat	nsec	cgroup内の全タスク(下位階層のタスクを含む)によりユーザーモード内のタスクによって消費されているCPU時間
cgroupcpuacctstatsystem	cpuacct.stat	nsec	cgroup内の全タスク(下位階層のタスクを含む)によりシステムモードのタスクによって消費されているCPU時間
cgroupcpuacctusage	cpuacct.usage	nsec	cgroup内の全タスク(下位階層のタスクを含む)により消費される総CPU時間
cgroupcpuacctusagepct	cpuacct.usage	percent	cgroup内の全タスクのCPU使用率
cgroupcpuacctname	lscgroup		cgroup名

Record ID : CGROUP_MEM

Record No. : CGR1003

Table name : resource_data_uwide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
cgroupmemorystatcache	memory.stat	byte	tmpfs (shmem)を含むページキャッシュ
cgroupmemorystatrss	memory.stat	byte	tmpfs (shmem)を含まない匿名のスワップキャッシュ
cgroupmemorystatmappedfile	memory.stat	byte	tmpfs (shmem)を含むメモリマップドファイルのサイズ
cgroupmemorystatpgpgin	memory.stat	number	メモリにページインされたページ数
cgroupmemorystatpgpgout	memory.stat	number	メモリからページアウトされたページ数
cgroupmemorystatswap	memory.stat	byte	スワップの使用量
cgroupmemorystatactiveanon	memory.stat	byte	tmpfs (shmem)を含む、アクティブな最長時間未使用(LRU)一覧上の匿名のスワップキャッシュ
cgroupmemorystatinactiveanon	memory.stat	byte	tmpfs (shmem)を含む、非アクティブLRU一覧上の匿名のスワップキャッシュ
cgroupmemorystatactivefile	memory.stat	byte	アクティブLRU一覧にある、ファイルと関連付けされたメモリ
cgroupmemorystatinactivefile	memory.stat	byte	非アクティブLRU一覧にある、ファイルに関連付けされたメモリ
cgroupmemorystatunevictable	memory.stat	byte	ページングされないメモリ領域

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
cgroupmemorystathierarchicalmemorylimit	memory.stat	byte	memory cgroupが含まれる階層のメモリ制限
cgroupmemorystathierarchicalmemswlimit	memory.stat	byte	memory cgroupが含まれる階層のメモリとスワップの制限
cgroupmemoryusageinbytes	memory.usage_in_bytes	byte	cgroup内のプロセスによる現在のメモリ総使用量
cgroupmemorymemswusageinbytes	memory.memsw.usage_in_bytes	byte	cgroup内のプロセスによる現在のメモリ使用量と使用済みスワップ領域の和
cgroupmemoryfreeinbytes	memory.limit_in_bytes memory.usage_in_bytes	byte	cgroup内のプロセスによる現在のメモリ空き容量  注意 memory.limit_in_bytes (ユーザーメモリの最大値 (ファイルキャッシュ含む) に非常に大きい値(例: 9223372036854775807)が定義されている場合収集されません。
cgroupmemorymemswfreeinbytes	memory.memsw.limit_in_bytes memory.memsw.usage_in_bytes	byte	cgroup 内のプロセスによる現在のメモリ空き容量(スワップ領域を含む)  注意 memory.memsw.limit_in_bytes (メモリとスワップ使用量の合計の最大値) に非常に大きい値(例: 9223372036854775807)が定義されている場合収集されません。
cgroupmemorymaxusageinbytes	memory.max_usage_in_bytes	byte	cgroup内のプロセスによるメモリ最大使用量
cgroupmemorymemswmaxusageinbytes	memory.memsw.max_usage_in_bytes	byte	cgroup内のプロセスによるスワップメモリ最大使用量と使用済みスワップ領域
cgroupmemorylimitinbytes	memory.limit_in_bytes	byte	ユーザーメモリの最大値(ファイルキャッシュを含む) (memory.limit_in_bytesで定義された値が表示されます。)  注意 memory.limit_in_bytesにはデフォルトで非常に大きい値(例: 9223372036854775807)が定義されている場合があります。
cgroupmemorymemswlimitinbytes	memory.memsw.limit_in_bytes	byte	メモリとスワップ使用量の合計の最大値 (memory.memsw.limit_in_bytesで定義された値が表示されます。)

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
			 注意 memory.memsw.limit_in_bytesにはデフォルトで非常に大きい値(例:9223372036854775807)が定義されている場合があります。
cgroupmemoryfailcnt	memory.failcnt	number	memory.limit_in_bytesに設定されているメモリの上限值に達した回数
cgroupmemorymemswfailcnt	memory.memsw.failcnt	number	memory.memsw.limit_in_bytesに設定されているメモリとスワップ領域の合計が上限に達した回数
cgroupmemoryname	lscgroup		cgroup名

Record ID : CGROUP_BLKIO (注1)

Record No. : CGR1004

Table name : resource_data_vwide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
cgroupblkioweight	blkio.weight	number	cgroupに提供されるブロックI/Oアクセスの相対的比率(ウェイト)(100から1000の範囲内で指定されます。)
cgroupblkioweightdevice	blkio.weight_device	number	cgroupに提供される特定のデバイス上のI/Oアクセスの相対的比率(ウェイト)(100から1000の範囲内で指定されます。)(注2)
cgroupblkiosectors	blkio.sectors	number	特定のデバイスとの間で転送されたセクタの数(注2)
cgroupblkioioservicedread	blkio.throttle.io_service_dread	number	特定のデバイス上で実行されたI/O操作の回数(Read)(注2)
cgroupblkioioservicedwrite	blkio.throttle.io_service_dwrite	number	特定のデバイス上で実行されたI/O操作の回数(Write)(注2)
cgroupblkioioservicedsync	blkio.throttle.io_service_dsync	number	特定のデバイス上で実行されたI/O操作の回数(Sync)(注2)
cgroupblkioioservicedasync	blkio.throttle.io_service_dasync	number	特定のデバイス上で実行されたI/O操作の回数(Async)(注2)
cgroupblkioioservicebytesread	blkio.throttle.io_service_bytesread	bytes	特定のデバイスとの間で転送されたバイト数(Read)(注2)
cgroupblkioioservicebyteswrite	blkio.throttle.io_service_byteswrite	bytes	特定のデバイスとの間で転送されたバイト数(Write)(注2)
cgroupblkioioservicebytessync	blkio.throttle.io_service_bytesync	bytes	特定のデバイスとの間で転送されたバイト数(Sync)(注2)

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
cgroupblkioioservicebytesasync	blkio.throttled.io_service_bytes	bytes	特定のデバイスとの間で転送されたバイト数 (Async) (注2)
cgroupblkioioqueuedread	blkio.io_queued	number	I/O操作のキューに入れられた要求数 (Read) (注2)
cgroupblkioioqueuedwrite	blkio.io_queued	number	I/O操作のキューに入れられた要求数 (Write) (注2)
cgroupblkioioqueuedsync	blkio.io_queued	number	I/O操作のキューに入れられた要求数 (Sync) (注2)
cgroupblkioioqueuedasync	blkio.io_queued	number	I/O操作のキューに入れられた要求数 (Async) (注2)
cgroupblkiothrottlereadiopsdevice	blkio.throttled.read_iops_device	bytes	デバイスが実行できる読み込み操作回数の上限(注2)
cgroupblkiothrottlerewriteiopsdevice	blkio.throttled.write_iops_device	bytes	デバイスが実行できる書き込み操作回数の上限(注2)
cgroupblkioname	lscgroup		cgroup名
cgroupblkiodevicenumber	blkio.sectors		デバイス

注1) 本レコードのデータは、blkioサブシステムのデバイスが設定されていない場合、または、デバイスに対する性能情報が全て収集されない場合は、収集されません。

注2) 本フィールドのデータは、blkioサブシステムのパラメーターにデバイスに対する定義が設定されていない場合、または性能情報が収集されない場合、収集されません。

4.2.35 SolarisZoneフォルダ配下/Solaris Zone～レポート

Record ID : ZONE_CPU

Record No. : 2160

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
zonecpuused	zonestat	second	SolarisゾーンのCPU使用時間 <Solaris 11>
zonecpupct	zonestat	percent	SolarisゾーンのCPU使用率 <Solaris 11>
zonecpucap	zonestat	second	SolarisゾーンのCPUの上限値 <Solaris 11> (上限値が設定されている場合に表示されます)
zonecpucappct	zonestat	percent	SolarisゾーンのCPUの上限値に対する使用率 <Solaris 11> (上限値が設定されている場合に表示されます)
zonecpushrs	zonestat	number	SolarisゾーンのCPUの共有の数 <Solaris 11> (共有が設定されている場合に表示されます。)

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
zonecpushrpct	zonestat	percent	SolarisゾーンのCPUの合計共有の割合 <Solaris 11> (共有が設定されている場合に表示されます。)
zonecpushrupct	zonestat	percent	SolarisゾーンのCPUの使用されている共有の割合 <Solaris 11> (共有が設定されている場合に表示されます。)
zonecpugzhostname	zonestat		Global zoneのホスト名 <Solaris 11>
zonecpuzonename	zonestat		ゾーン名 <Solaris 11>

Record ID : ZONE_MEM

Record No. : 2161

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
zonepmemused	zonestat	Kbytes	Solarisゾーンの物理メモリ使用量 <Solaris 11>
zonepmempct	zonestat	percent	Solarisゾーンの物理メモリ使用率 <Solaris 11>
zonepmemcap	zonestat	Kbytes	Solarisゾーンの物理メモリの上限値 <Solaris 11> (上限値が設定されている場合に表示されます。)
zonepmemcappct	zonestat	percent	Solarisゾーンの物理メモリの上限値に対する使用率 <Solaris 11> (上限値が設定されている場合に表示されます。)
zonevmemused	zonestat	Kbytes	Solarisゾーンの仮想メモリ使用量 <Solaris 11>
zonevmempct	zonestat	percent	Solarisゾーンの仮想メモリ使用率 <Solaris 11>
zonevmemcap	zonestat	Kbytes	Solarisゾーンの仮想メモリの上限値 <Solaris 11> (上限値が設定されている場合に表示されます。)
zonevmemcappct	zonestat	percent	Solarisゾーンの仮想メモリの上限値に対する使用率 <Solaris 11> (上限値が設定されている場合に表示されます。)
zonelmemused	zonestat	Kbytes	Solarisゾーンのロックされたメモリ使用量 <Solaris 11>
zonelmempct	zonestat	percent	Solarisゾーンのロックされたメモリ使用率 <Solaris 11>
zonelmemcap	zonestat	Kbytes	Solarisゾーンのロックされたメモリの上限値 <Solaris 11> (上限値が設定されている場合に表示されます。)
zonelmemcappct	zonestat	percent	Solarisゾーンのロックされたメモリの上限値に対する使用率 <Solaris 11> (上限値が設定されている場合に表示されます。)
zonememgzhostname	zonestat		Global zoneのホスト名 <Solaris 11>
zonememzonename	zonestat		ゾーン名 <Solaris 11>

Record ID : ZONE_PROCESS

Record No. : 2162

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
zonepsused	zonestat	number	Solarisゾーンのプロセス数 <Solaris 11>
zonepspct	zonestat	percent	Solarisゾーンのプロセス数の使用率 <Solaris 11>
zonepscap	zonestat	number	Solarisゾーンのプロセス数の上限値 <Solaris 11> (上限値が設定されている場合に表示されます)
zonepscappct	zonestat	percent	Solarisゾーンのプロセス数の上限値に対する使用率 <Solaris 11> (上限値が設定されている場合に表示されます)
zonepsgzhostname	zonestat		Global zoneのホスト名 <Solaris 11>
zonepszonename	zonestat		ゾーン名 <Solaris 11>

4.2.36 OVMSPARCフォルダ配下/OVM for SPARCへレポート

Record ID : OVMSPARC_CPU

Record No. : 1270

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ovmcpupcent	ldm ls-dom	percent	ドメインのCPU使用率
ovmcpus	ldm ls-dom	number	ドメインに割り当てられたCPUスレッド(VCPU)数
ovmcores	ldm ls-dom	number	ドメインに割り当てられたCPUコア数
ovmcpuuseclocks	ldm ls-dom	MHz	ドメインのCPU使用量
ovmcpualloclocks	ldm ls-dom	MHz	ドメインのCPU割り当て量
ovmcpudname	ldm ls-dom		ドメイン名
ovmcpuhostname	tis_arg		ドメインのホスト名 (収集していないフィールドのため、データは表示されず、空欄となります。)
ovmcpudstate	ldm ls-dom		ドメインの状態。ldm ls-domコマンドで、ヘッダ:「STATE」および「FLAGS」の欄に表示される状態が、「#」で接続されて出力されます。「FLAGS」については長形式および解析可能オプション(-l-p)を使用しており、省略されない形式で出力されます。詳細はOracle VM Server for SPARCのオンラインマニュアルを参照してください。

Record ID : OVMSPARC_MEM

Record No. : 1271

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ovmmem	ldm ls-dom	MB	ドメインのメモリ割当量
ovmmemp	ldm ls-dom	percent	ドメインのメモリ割当率
ovmmemdname	ldm ls-dom		ドメイン名
ovmmemhostname	tis_arg		ドメインのホスト名 (収集していないフィールドのため、データは表示されず、空欄となります。)
ovmmemdsta	ldm ls-dom		ドメインの状態。ldm ls-domコマンドで、ヘッダ:「STATE」および「FLAGS」の欄に表示される状態が、「#」で接続されて出力されます。「FLAGS」については長形式および解析可能オプション(-l -p)を使用しており、省略されない形式で出力されます。詳細はOracle VM Server for SPARCのオンラインマニュアルを参照してください。

Record ID : OVMSPARC_VCPU

Record No. : 1274

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ovmvpus	ldm ls-permits ldm ls-devices	number	物理サーバのアクティベーション済のCPUスレッド(VCPU)数(合計)
ovmvpuclock	psrinfo	MHz	物理サーバのCPUコアクロック周波数
ovmvpuclocks	ldm ls-permits ldm ls-devices	MHz	物理サーバのアクティベーション済のCPUスレッド(VCPU)の総クロック周波数(合計)
ovmvcores	ldm ls-permits	number	物理サーバのアクティベーション済のCPUコア数(合計)
ovmvcpatot	ldm ls-devices	number	物理サーバに搭載されている総CPUスレッド(VCPU)数(合計)
ovmvpualloc	ldm ls-dom	number	物理サーバのドメインに割り当て済のCPUスレッド(VCPU)数(合計)

Record ID : OVMSPARC_VMEMTOT

Record No. : 1275

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ovmmemtot	ldm ls-devices	MB	物理サーバの使用可能な総メモリ量(合計)
ovmmemalloc	ldm ls-dom	MB	物理サーバのドメインに割り当て済のメモリ量(合計)

4.2.37 OpenStackフォルダ配下/OpenStackカテゴリー配下のレポート



注意

- OpenStack Telemetry APIで収集できないデータは格納されません。
- 説明に<notification>が記載されているフィールドは、構成(インスタンス、ネットワークなど)が作成・変更・削除されたタイミングでのみ格納されます。

Record ID : OSTACK_COMPUTE_INSTANCE

Record No. : ost0001

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ostcompvcpus	Telemetry	number	VCPU数 <notification>
ostcompcpu	Telemetry	sec	CPU利用時間
ostcompcpuutil	Telemetry	percent	平均CPU使用率
ostcompmem	Telemetry	Mbytes	割当てられたメモリ量 <notification>
ostcompmemusage	Telemetry	Mbytes	使用メモリ量 OpenStackが利用するハイパーバイザーがmemory.usageをサポートしている場合のみ収集されます。
ostcompdiskread	Telemetry	number	ディスク読み取り回数
ostcompdiskwrite	Telemetry	number	ディスク書き込み回数
ostcompdiskreadbyte	Telemetry	Mbytes	ディスク読み取り量
ostcompdiskwritebyte	Telemetry	Mbytes	ディスク書き込み量
ostcompdiskrootsize	Telemetry	Gbytes	ルートディスクのサイズ <notification>
ostcomptenant			テナント名
ostcompvmname			インスタンス名

Record ID : OSTACK_COMPUTE_NET

Record No. : ost0004

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ostcompnetinbyte	Telemetry	Mbytes	VMネットワークインターフェースの受信バイト数
ostcompnetoutbyte	Telemetry	Mbytes	VMネットワークインターフェースの送信バイト数  注意 ostcompnetoutbyteの値が、0.001MB未満の場合、0MBと表示される場合があります。
ostcompnetinpacket	Telemetry	number	VMネットワークインターフェースの受信パケット数
ostcompnetoutpacket	Telemetry	number	VMネットワークインターフェースの送信パケット数
ostcompnettenant			テナント名
ostcompnetvmname			インスタンス名
ostcompnetiname			VMネットワークインターフェース名
ostcompnetvmid			インスタンスID

Record ID : OSTACK_NETWORK

Record No. : ost0005

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ostnetexist	Telemetry	number	ネットワーク構成要素の存在(ネットワーク、サブネット、ポート、ルータ、フローティングIP) <notification>
ostnetcreation	Telemetry	number	ネットワーク構成要素の作成リクエスト数(ネットワーク、サブネット、ポート、ルータ、フローティングIP) <notification>
ostnetupdate	Telemetry	number	ネットワーク構成要素の更新リクエスト数(ネットワーク、サブネット、ポート、ルータ、フローティングIP) <notification>
ostnettenant			テナント名
ostnetobjtype			ネットワーク構成要素 以下の文字列が格納されます。 network, subnet, port, router, ip.floating

Record ID : OSTACK_IMAGE

Record No. : ost0006

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ostingsize	Telemetry	Mbytes	アップロードされたイメージサイズ
ostingdownload	Telemetry	Mbytes	ダウンロードされたイメージサイズ <notification>
ostingserve	Telemetry	Mbytes	配付されたイメージサイズ <notification>

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ostingtenant			テナント名
ostingname			イメージ名

Record ID : OSTACK_VOLUME_VOLUME

Record No. : ost0007

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ostvolexist	Telemetry	number	ボリュームの存在 <notification>
ostvolsize	Telemetry	Gbytes	ボリュームサイズ <notification>
ostvoltenant			テナント名
ostvolname			ボリューム名

Record ID : OSTACK_OBJSTORAGE

Record No. : ost0009

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ostobjstgnumber	Telemetry	number	オブジェクト数
ostobjstgsize	Telemetry	Mbytes	オブジェクトの全容量
ostobjstgcontnum	Telemetry	number	コンテナ数
ostobjstginbytes	Telemetry	Mbytes	受信バイト数 <notification>
ostobjstgoubytes	Telemetry	Mbytes	送信バイト数 <notification>
ostobjstgrequests	Telemetry	number	Swiftに対するAPIリクエスト数 <notification>
ostobjstgtenant			テナント名

4.2.38 OpenStackCompute(Resource)フォルダ配下/OpenStack Computeリソースカテゴリー配下のレポート

Record ID : OSTACK_RESOURCE_COMPUTE

Record No. : ost0011

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
ostrescompused	Compute	メモリ以外: number	リソース使用量 (インスタンス数、仮想CPU数、メモリ)

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
		メモリ: Mbytes	
ostrescomplimit	Compute	メモリ以外: number メモリ: Mbytes	リソース制限量 (インスタンス数、仮想CPU数、メモリ)
ostrescomptenant	Identity		テナント名

4.2.39 Primesoftフォルダ配下/Primesoft～レポート

注意

テーブル情報は、レコードが1件も登録されていない場合は、表示されません。

それにより、レコード「PSOFTTABLE」のデータは、以下のフィールドの値がすべて0の場合は収集されません。

- MemtblRecordNum
- MemtblLockWaitTime
- MemtblLockWaitNum
- MemtblDeadlockNum
- MemtblAlertWaitNum
- MemtblReadNum
- MemtblWriteNum
- MemtblRewriteNum
- MemtblDeleteNum
- Alarm1Num
- AlarmReset1Num
- Alarm2Num
- AlarmReset2Num

注意

キュー情報は、読み出せるメッセージが0であり、かつ収集間隔内に1度もメッセージの送受信が行われなかった場合、表示されません。

それにより、レコード「PSOFTQUEUE」のデータは、以下のフィールドの値がすべて0の場合は収集されません。

- QRollbackNum
- Qnumofsty
- Qmaxnumofsty
- Qtimeofsty
- Qmaxtimeofsty

- Qmintageofsty
- QAlarm1Num
- QAlarmReset1Num
- QAlarm2Num
- QAlarmReset2Num



注意

Primesoftクライアントの場合、Primesoftのパケットに関するレポートの中の同期LANの項目の性能値は0として表示されます。

Record ID : PSOFTMEMTBL (注)

Record No. : FJ1331

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
MemtblAreaSize	Primesoft API	byte	メモリーテーブルエリアサイズ
MemtblAreaUsage	Primesoft API	byte	メモリーテーブルエリア使用量
AlarmNum	Primesoft API	number	メモリーテーブルエリアアラーム発生回数
AlarmResetNum	Primesoft API	number	メモリーテーブルエリアアラームリセット回数(常に0が通知されます。)
MirrorWkExtUsage	Primesoft API	number	ミラーワークエリア拡張領域使用数
MirrorWkExtNum	Primesoft API	number	ミラーワークエリア拡張領域数
MirrorWkExtNumTotal	Primesoft API	number	ミラーワークエリア拡張回数
TranNum	Primesoft API	number	トランザクション実行中数
TranNumTotal	Primesoft API	number	トランザクション完了数
DeadlockNumTotal	Primesoft API	number	デッドロック発生回数
AlertWaitNumTotal	Primesoft API	number	排他待ち時間アラーム超え回数 (収集していないフィールドのため、データは表示されず、空欄となります。)

注) 本レコードのデータは、Activeインスタンスのみ収集、表示されます。

Record ID : PSOFTTABLE (注)

Record No. : FJ1332

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
MemtblRecordNum	Primesoft API	number	登録レコード数
MemtblLockWaitTime	Primesoft API	microseconds	排他待ち時間合計
MemtblLockWaitNum	Primesoft API	number	排他待ち回数
MemtblDeadlockNum	Primesoft API	number	デッドロックエラー検出回数
MemtblAlertWaitNum	Primesoft API	number	排他待ち時間アラーム回数
MemtblReadNum	Primesoft API	number	参照アクセス回数
MemtblWriteNum	Primesoft API	number	追加アクセス回数
MemtblRewriteNum	Primesoft API	number	更新アクセス回数
MemtblDeleteNum	Primesoft API	number	削除アクセス回数
Alarm1Num	Primesoft API	number	レコード件数アラーム1発生回数
AlarmReset1Num	Primesoft API	number	レコード件数アラーム1リセット回数
Alarm2Num	Primesoft API	number	レコード件数アラーム2発生回数
AlarmReset2Num	Primesoft API	number	レコード件数アラーム2リセット回数
sftMemtblName	Primesoft API		Primesoftテーブル名/Primesoftキュー名
sftMemtblKind	Primesoft API		メモリテーブル種別(TABLE or QUEUE)
sftMemtblKey	Primesoft API		データドメイン名

注) 本レコードのデータは、Activeインスタンスのみ収集、表示されます。

Record ID : PSOFTQUEUE (注)

Record No. : FJ1334

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
QCurNumber	Primesoft API	number	現在のメッセージ通番(メッセージ通番の最大値を超えると1に戻ります。)

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
QLastNumber	Primesoft API	number	最後のメッセージ通番(メッセージ通番の最大値を超えると1に戻ります。)
QStage	Primesoft API	number	現在のステージ識別子
QRollbackNum	Primesoft API	number	ロールバック回数
Qnumofsty	Primesoft API	number	メッセージ滞留数
Qmaxnumofsty	Primesoft API	number	メッセージ滞留最大数
Qtimeofsty	Primesoft API	microseconds	メッセージ滞留時間
Qmaxtimeofsty	Primesoft API	microseconds	メッセージ滞留時間最大
Qmintimeofsty	Primesoft API	microseconds	メッセージ滞留時間最小
QAlarm1Num	Primesoft API	number	メッセージ滞留数アラーム1発生回数
QAlarmReset1Num	Primesoft API	number	メッセージ滞留数アラーム1リセット回数
QAlarm2Num	Primesoft API	number	メッセージ滞留数アラーム2発生回数
QAlarmReset2Num	Primesoft API	number	メッセージ滞留数アラーム2リセット回数
QmembName	Primesoft API		Primesoftテーブル名/Primesoftキュー名
QmembKind	Primesoft API		メモリテーブル種別(TABLE or QUEUE)
QmembKey	Primesoft API		データドメイン名
QCurrencySet	Primesoft API		カレンシセット名

注) 本レコードのデータは、Activeインスタンスのみ収集、表示されます。

Record ID : PSOFTPKT

Record No. : FJ1337

Table name : resource_data_uwide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
RmtRcvPktNum	Primesoft API	number	業務LAN1系と業務LAN2系の受信パケット数の合計(業務LAN/データ)
RmtRcvPktData	Primesoft API	number	業務LAN1系と業務LAN2系の受信パケットデータ量の合計(業務LAN/データ)

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
RmtSndPktNum	Primesoft API	number	業務LAN1系と業務LAN2系の送信パケット数の合計 (業務LAN/データ)
RmtSndPktData	Primesoft API	number	業務LAN1系と業務LAN2系の送信パケットデータ量の合計(業務LAN/データ)
RmtRcvMonPktNum	Primesoft API	number	業務LAN1系と業務LAN2系の受信パケット数の合計 (業務LAN/監視)
RmtSndMonPktNum	Primesoft API	number	業務LAN1系と業務LAN2系の送信パケット数の合計 (業務LAN/監視)
MrrRcvPktNum	Primesoft API	number	同期LAN1系と同期LAN2系の受信パケット数の合計 (同期LAN/データ)
MrrRcvPktData	Primesoft API	number	同期LAN1系と同期LAN2系の受信パケットデータ量の合計(同期LAN/データ)
MrrSndPktNum	Primesoft API	number	同期LAN1系と同期LAN2系の送信パケット数の合計 (同期LAN/データ)
MrrSndPktData	Primesoft API	number	同期LAN1系と同期LAN2系の送信パケットデータ量の合計(同期LAN/データ)
MrrRcvMonPktNum	Primesoft API	number	同期LAN1系と同期LAN2系の受信パケット数の合計 (同期LAN/監視)
MrrSndMonPktNum	Primesoft API	number	同期LAN1系と同期LAN2系の送信パケット数の合計 (同期LAN/監視)
LocalRcvPktNum	Primesoft API	number	受信パケット数 (ノード内通信)
LocalRcvPktData	Primesoft API	number	受信パケットデータ量(ノード内通信)
LocalSndPktNum	Primesoft API	number	送信パケット数 (ノード内通信)
LocalSndPktData	Primesoft API	number	送信パケットデータ量(ノード内通信)
RmtRetryNum	Primesoft API	number	パケット再送発生回数 (業務LAN)
MrrRetryNum	Primesoft API	number	パケット再送発生回数 (同期LAN)
RmtPnumofsty	Primesoft API	number	受信パケット滞留数(業務LAN)
RmtPmaxtimeofsty	Primesoft API	microseconds	受信パケット滞留時間(業務LAN) (最大)
RmtPmintimeofsty	Primesoft API	microseconds	受信パケット滞留時間(業務LAN) (最小)
RmtPavetimeofsty	Primesoft API	microseconds	受信パケット滞留時間(業務LAN) (平均)
MrrPnumofsty	Primesoft API	number	受信パケット滞留数(同期LAN)
MrrPmaxtimeofsty	Primesoft API	microseconds	受信パケット滞留時間(同期LAN) (最大)

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
MrrPmintimeofsty	Primesoft API	microseconds	受信パケット滞留時間(同期LAN) (最小)
MrrPavetimeofsty	Primesoft API	microseconds	受信パケット滞留時間(同期LAN) (平均)

4.2.40 UserDataフォルダ配下/レポートなし

定義できるユーザーデータは、20種類です。

Record IDは、UDATA_1～UDATA_20まで存在します。

以下の表では、Record IDを「UDATA_n」と表記します (n=1、2、3・・・20)。

Record IDがUDATA_1～3, UDATA_6～8, UDATA_11～13, UDATA_16～18の場合

Record ID : UDATA_n

Record No. : (注意)

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
udndata1	sqcPDBcl oad	number	sqcPDBclloadのデータ変換定義ファイル内で col_data_num1に指定したデータ
udndata2	sqcPDBcl oad	number	sqcPDBclloadのデータ変換定義ファイル内で col_data_num2に指定したデータ
udndata3	sqcPDBcl oad	number	sqcPDBclloadのデータ変換定義ファイル内で col_data_num3に指定したデータ
udndata4	sqcPDBcl oad	number	sqcPDBclloadのデータ変換定義ファイル内で col_data_num4に指定したデータ
udndata5	sqcPDBcl oad	number	sqcPDBclloadのデータ変換定義ファイル内で col_data_num5に指定したデータ
udndata6	sqcPDBcl oad	number	sqcPDBclloadのデータ変換定義ファイル内で col_data_num6に指定したデータ
udndata7	sqcPDBcl oad	number	sqcPDBclloadのデータ変換定義ファイル内で col_data_num7に指定したデータ
udntxt1	sqcPDBcl oad		sqcPDBclloadのデータ変換定義ファイル内で col_data_txt1に指定したデータ
udntxt2	sqcPDBcl oad		sqcPDBclloadのデータ変換定義ファイル内で col_data_txt2に指定したデータ
udntxt3	sqcPDBcl oad		sqcPDBclloadのデータ変換定義ファイル内で col_data_txt3に指定したデータ
udntxt4	sqcPDBcl oad		sqcPDBclloadのデータ変換定義ファイル内で col_data_txt4に指定したデータ
udntxt5	sqcPDBcl oad		sqcPDBclloadのデータ変換定義ファイル内で col_data_txt5に指定したデータ

Record IDがUDATA_4～5, UDATA_9～10, UDATA_14～15, UDATA_19～20の場合

Record ID : UDATA_n

Record No. : (注意)

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
udndata1	sqcPDBcl oad	number	sqcPDBclloadのデータ変換定義ファイル内で col_data_num1に指定したデータ
udndata2	sqcPDBcl oad	number	sqcPDBclloadのデータ変換定義ファイル内で col_data_num2に指定したデータ
udndata3	sqcPDBcl oad	number	sqcPDBclloadのデータ変換定義ファイル内で col_data_num3に指定したデータ
udndata4	sqcPDBcl oad	number	sqcPDBclloadのデータ変換定義ファイル内で col_data_num4に指定したデータ
udndata5	sqcPDBcl oad	number	sqcPDBclloadのデータ変換定義ファイル内で col_data_num5に指定したデータ
udndata6	sqcPDBcl oad	number	sqcPDBclloadのデータ変換定義ファイル内で col_data_txt6に指定したデータ
udndata7	sqcPDBcl oad	number	sqcPDBclloadのデータ変換定義ファイル内で col_data_txt7に指定したデータ
udndata8	sqcPDBcl oad	number	sqcPDBclloadのデータ変換定義ファイル内で col_data_txt8に指定したデータ
udndata9	sqcPDBcl oad	number	sqcPDBclloadのデータ変換定義ファイル内で col_data_txt9に指定したデータ
udndata10	sqcPDBcl oad	number	sqcPDBclloadのデータ変換定義ファイル内で col_data_txt10に指定したデータ
udndata11	sqcPDBcl oad	number	sqcPDBclloadのデータ変換定義ファイル内で col_data_txt11に指定したデータ
udndata12	sqcPDBcl oad	number	sqcPDBclloadのデータ変換定義ファイル内で col_data_txt12に指定したデータ
udndata13	sqcPDBcl oad	number	sqcPDBclloadのデータ変換定義ファイル内で col_data_txt13に指定したデータ
udndata14	sqcPDBcl oad	number	sqcPDBclloadのデータ変換定義ファイル内で col_data_txt14に指定したデータ
udntxt1	sqcPDBcl oad		sqcPDBclloadのデータ変換定義ファイル内で col_data_txt1に指定したデータ
udntxt2	sqcPDBcl oad		sqcPDBclloadのデータ変換定義ファイル内で col_data_txt2に指定したデータ
udntxt3	sqcPDBcl oad		sqcPDBclloadのデータ変換定義ファイル内で col_data_txt3に指定したデータ
udntxt4	sqcPDBcl oad		sqcPDBclloadのデータ変換定義ファイル内で col_data_txt4に指定したデータ
udntxt5	sqcPDBcl oad		sqcPDBclloadのデータ変換定義ファイル内で col_data_txt5に指定したデータ



注意

しきい値監視を設定するときにはRecord No.の定義が必要です。Record IDと対応するRecord No.は下記のとおりです。

Record ID	Record No.
UDATA_1	FJ1066
UDATA_2	FJ1067
UDATA_3	FJ1068
UDATA_4	FJ1069
UDATA_5	FJ1070
UDATA_6	FJ1341
UDATA_7	FJ1342
UDATA_8	FJ1343
UDATA_9	FJ1344
UDATA_10	FJ1345
UDATA_11	FJ1346
UDATA_12	FJ1347
UDATA_13	FJ1348
UDATA_14	FJ1349
UDATA_15	FJ1350
UDATA_16	FJ1351
UDATA_17	FJ1352
UDATA_18	FJ1353
UDATA_19	FJ1354
UDATA_20	FJ1355

4.2.41 詳細なし/P2Vシミュレーション

Record ID : OSRESOURCE_PROCESSOR (注)

Record No. : 1351

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
osrcputime	Windows: Perfmon Linux:sar - u -P ALL Solaris:mp stat, sar - ackmpgqv wu	seconds	CPU使用時間

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
osrcpupcent	Windows: Perfmon Linux:sar - u -P ALL Solaris:mp stat, sar - ackmpgqv wu	percent	CPU使用率
osrcpuostypef		number	OS種別 1 : Windows 2 : UNIX (sqcPDBcout(CSV出力コマンド)で出力した場合、 data_num14のフィールドに出力されます。)
osrcpuostype			OS種別 ("Windows"または"UNIX")

注) Oracle Solaris ゾーンのglobal zoneおよびnon-global zoneより性能情報を収集する場合、各項目の値については以下のとおりです。

- ・ゾーンにCPUの割り当てを行っている場合、割り当てたリソースプール単位の情報が合算で出力されます。
- ・ゾーンにCPUの割り当てを行っていない場合、システム全体の情報が収集されます。

Record ID : OSRESOURCE_MEMORY (注)

Record No. : 1354

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
osrfreemem	Windows :Perfmon Linux:sar - qrSvwW BR Solaris:v mstat -p	bytes	空きメモリ量  注意 Solarisの場合、本フィールドにはZFSファイルキャッシュの使用分は含まれていません。 ZFSファイルキャッシュを加味した利用可能なメモリ量の値は、下記のレコード・フィールドにおいて確認が可能です。 ・ UX_MEMSTATレコードのavailablememフィールド
osrmemused	Windows :(None) Linux:sar - qrSvwW BR	bytes	メモリ使用量  注意 ・ Windowsの場合収集されません。 ・ Solarisの場合、本フィールドにはZFSファイルキャッシュの使用分が含まれています。

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
	Solaris:v mstat -p		
osrmemupcent	Windows :(None) Linux:sar - qrSvwW BR Solaris:v mstat -p	percent	メモリ使用率  注意 - Windowsの場合収集されません。 - Solarisの場合、本フィールドにはZFSファイルキャッシュの使用分が含まれています。
osrmemostypef		number	OS種別 1 : Windows 2 : UNIX (sqcPDBcout(CSV出力コマンド)で出力した場合、data_num14のフィールドに出力されます。)
osrmemostype			OS種別 ("Windows"または"UNIX")

注) Oracle Solaris ゾーンのglobal zoneおよびnon-global zoneより性能情報を収集する場合、ゾーンごとではなく、システム全体の値となります。

Record ID : OSRESOURCE_PHYDISK

Record No. : 1357

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
osrpread	Windows: Perfmon Linux:iost at -x -d Solaris:ios tat -xen	reads	Diskのread回数 (注1) (注2)
osrpwrit	Windows: Perfmon Linux:iost at -x -d Solaris:ios tat -xen	writes	Diskのwrite回数 (注1) (注2)
osrptran	Windows: Perfmon Linux:iost at -x -d Solaris:ios tat -xen	transfers	DiskのIO回数 (注1) (注2)

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
osrpreadbyt	Windows: Perfmon Linux:iost at -x -d Solaris:ios tat -xen	bytes	Diskのreadスループット (注1) (注2)
osrpwritbyt	Windows: Perfmon Linux:iost at -x -d Solaris:ios tat -xen	bytes	Diskのwriteスループット (注1) (注2)
osrptranbyt	Windows: Perfmon Linux:iost at -x -d Solaris:ios tat -xen	bytes	DiskのIOスループット (注1) (注2)
osrpostypef		number	OS種別 1 : Windows 2 : UNIX (sqcPDBcout(CSV出力コマンド)で出力した場合、 data_num14のフィールドに出力されます。)
osrpostype			OS種別 ("Windows"または"UNIX")

注1) Oracle Solaris ゾーンのglobal zoneおよびnon-global zoneより性能情報を収集する場合、ゾーンごとではなく、システム全体の値となります。

注2) Linuxの場合、nfsの情報は収集されません。

Record ID : OSRESOURCE_NET_INTERFACE

Record No. : 1360

Table name : resource_data_wide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
osrrecvpkt	Windows: :Perfmon Linux:sar -n DEV - n EDEV Solaris 9:netstat - k Solaris 10/11:dla	packets	ネットワークのバケット受信回数

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
	dm show-dev -s -p		
osrsendpkt	Windows :Perfmon Linux:sar -n DEV - n EDEV Solaris 9:netstat - k Solaris 10/11:dla dm show-dev -s -p	packets	ネットワークのパケット送信回数
osrtotpkt	Windows :Perfmon Linux:sar -n DEV - n EDEV Solaris 9:netstat - k Solaris 10/11:dla dm show-dev -s -p	packets	ネットワークのパケット回数
osrrecvbyt	Windows :Perfmon Linux:sar -n DEV - n EDEV Solaris 9:netstat - k Solaris 10/11:dla dm show-dev -s -p	bytes	ネットワークの受信スループット
osrsendbyt	Windows :Perfmon Linux:sar -n DEV - n EDEV Solaris 9:netstat - k Solaris 10/11:dla	bytes	ネットワークの送信スループット

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
	dm show-dev -s -p		
osrtotbyt	Windows :Perfmon Linux:sar -n DEV -n EDEV Solaris 9:netstat -k Solaris 10/11:dladm show-dev -s -p	bytes	ネットワークの転送スループット
osrnostypef		number	OS種別 1 : Windows 2 : UNIX (sqcPDBcout(CSV出力コマンド)で出力した場合、data_num14のフィールドに出力されます。)
osrnostype			OS種別 ("Windows"または"UNIX")

Record ID : OSRESOURCE_SYSTEMINFO

Record No. : FJ1387

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
tsysmem	Windows :WMI UNIX:prtconf/free	MB	物理メモリの合計サイズ(実際に利用可能なメモリ容量) (注1)
corenum	Windows :WMI UNIX: (None)	number	コア数 (Solaris、Linuxの場合収集されません。)
cpunum	Windows :WMI UNIX:uname(/proc/cpuinfo)	number	論理CPU数
processor	Windows :WMI UNIX:psrinfo(/	MHz	CPU性能(現在のクロック数) (注2)

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
	proc/ cpuinfo)		

注1) Oracle Solaris ゾーンのglobal zoneおよびnon-global zoneより性能情報を収集する場合、ゾーンごとではなく、システム全体の値となります。

注2) Oracle Solaris ゾーンのglobal zoneおよびnon-global zoneより性能情報を収集する場合、各項目の値については以下のとおりです。

- ・ゾーンにCPUの割り当てを行っている場合、割り当てたリソースプール単位の情報が合算で出力されます。
- ・ゾーンにCPUの割り当てを行っていない場合、システム全体の情報が収集されます。

Record ID : OSRESOURCE_DISKSPACE (注)

Record No. : 1364

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
osrdiskbused	Windows :GetDisk FreeSpace() Solaris:statvfs() Linux:statfs()	Bytes	ディスク使用量
osrdiskbsize	Windows :GetDisk FreeSpace() Solaris:statvfs() Linux:statfs()	Bytes	ディスク最大サイズ
osrdiskostypef		number	OS種別 1 : Windows 2 : UNIX (sqcPDBcout(CSV出力コマンド)で出力した場合、data_num14のフィールドに出力されます。)
osrdiskostype			OS種別 ("Windows"または"UNIX")

注) 監視対象サーバのファイルシステムに、同一のマウントポイントが複数存在する場合は、当該のファイルシステムのcoverageフィールドの値が1より大きくなります。

4.2.42 詳細なしスペック〜レポート

Record ID : INVENTORY_HARDWARE_SERVER

Record No. : 1240

Table name : resource_data_twide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
invhardsvtotalmem	OS	GB	搭載メモリ量
invhardsvhost	OS		マシン名(ホスト名)
invhardsvvender	OS		製造会社
invhardsvmodel	OS		モデル

Record ID : INVENTORY_HARDWARE_PROCESSOR

Record No. : 1241

Table name : resource_data_twide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
invhardprocprocessors	OS	number	物理CPU数  注意 仮想マシンでは、正しい値が取得できない場合があります。
invhardprocspeed	OS	MHz	性能(クロックスピード)
invhardproccores	OS	number	コア数(1CPUあたり)
invhardproclogical	OS	number	論理CPU数  注意 VMware ESX、VMware ESXiの場合、収集されません。
invhardprocvender	OS		製造会社  注意 Solarisの場合、収集されません。
invhardprocmodel	OS		モデル  注意 Solaris 9の場合、収集されません。
invhardprochtavailable	OS		ハイパースレッディング機能の有無 ・ TRUE: ハイパースレッディング機能あり ・ FALSE: ハイパースレッディング機能なし
invhardprochtenabled	OS		ハイパースレッディングの使用状態 ・ TRUE: ハイパースレッディング機能が有効 ・ FALSE: ハイパースレッディング機能が無効

Record ID : INVENTORY_HARDWARE_STORAGE

Record No. : 1248

Table name : resource_data_twide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
invhardstoragesize	OS	GB	サイズ
invhardstoragevender	OS		製造会社  注意 UNIXでは、収集されない場合があります。
invhardstoragemodel	OS		モデル  注意 • Solarisの場合、収集されません。 • Linuxでは、収集されない場合があります。

Record ID : INVENTORY_HARDWARE_DISK

Record No. : 1242

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
invharddisktotalsize	OS	GB	容量(総量)
invharddiskusedsize	OS	GB	使用量
invharddiskfilesystem	OS		ファイルシステム
invharddiskpartition	OS		パーティション名
invharddiskdevice	OS		デバイス名  注意 SolarisではファイルシステムがUFSの場合に収集されます。

Record ID : INVENTORY_HARDWARE_NETWORK

Record No. : 1243

Table name : resource_data_twide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
invhardnetspeed	OS	Mbps	ネットワーク速度

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
			 注意 • Solarisおよび仮想マシンでは、正しい値が取得できない場合があります。 • VMware ESX、VMware ESXiでは、収集されない場合があります。
invhardnetmodel	OS		モデル  注意 • Solarisの場合、収集されません。 • Linux、VMware ESX、VMware ESXiでは、収集されない場合があります。
invhardnetvender	OS		製造会社  注意 • Solarisの場合、収集されません。 • Linux、VMware ESX、VMware ESXiでは、収集されない場合があります。
invhardnetmacaddress	OS		MACアドレス  注意 Solarisの場合、接続アカウントとしてシステム管理者(スーパーユーザー)以外を指定すると、収集されません。
invhardnetip	OS		IPアドレス
invhardnetsubnetmask	OS		サブネットマスク

Record ID : INVENTORY_SOFTWARE_OS

Record No. : 1244

Table name : resource_data_twide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
invsoftostype	OS		種類(OS名称)
invsoftossp	OS		サービスパック <Windows> • 1以上: サービスパックのバージョン • 0: サービスパックが適用されていない
invsoftosversion	OS		バージョン

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
invsoftosarch	OS		アーキテクチャ  注意 VMware ESX、VMware ESXiの場合、収集されません。

Record ID : INVENTORY_SOFTWARE_APPLICATION

Record No. : 1245

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
invsoftappversion	OS		バージョン  注意 VMware ESX、VMware ESXiの場合、収集されません。

Record ID : INVENTORY_SOFTWARE_SERVICE

Record No. : 1246

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
invsoftservicestartmode	OS		スタートモード <Windows>  注意 Windows Server 2012以降の場合、接続アカウントとしてAdministrator以外を指定すると、収集されません。
invsoftservicestate	OS		状態 <Windows>  注意 Windows Server 2012以降の場合、接続アカウントとしてAdministrator以外を指定すると、収集されません。

Record ID : INVENTORY_SOFTWARE_DAEMON

Record No. : 1247

Table name : resource_data

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
invsoftdeamonrunlevel	OS		デーモンのRun Level <UNIX> Red Hat Enterprise Linux 7以降の場合、サービスのSTATE。  注意 VMware ESX、VMware ESXiの場合、収集されません。

Record ID : INVENTORY_VIRTUALMACHINE_SERVER

Record No. : 1249

Table name : resource_data_twide

Field Name	Source	Unit of Measure	Description
invvmnumcpu	OS	number	CPU数 <VMware ESX, VMware ESXi>
invvmmemorysize	OS	GB	メモリサイズ <VMware ESX, VMware ESXi>
invvmnumnetworkcard	OS	number	ネットワークカード数 <VMware ESX, VMware ESXi>
invvmnumvirtualdisk	OS	number	仮想ディスク数 <VMware ESX, VMware ESXi>
invvmos	OS		ゲストOS <VMware ESX, VMware ESXi>
invvmip	OS		IPアドレス <VMware ESX, VMware ESXi>
invvmtoolsstatus	OS		VMware Toolsの状態 <VMware ESX, VMware ESXi>
invvmuuid	OS		UUID <VMware ESX, VMware ESXi>
invvmvmpathname	OS		仮想マシンの構成ファイルのパス <VMware ESX, VMware ESXi>
invvmvmhostname	OS		マシン名 (VMホスト名) <VMware ESX, VMware ESXi>

4.3 ログデータ(Troubleshoot)情報

本情報は、AgentのTroubleshootディレクトリに格納されている情報です。

ポイント

- Agentが収集したサーバ性能情報を、CSVファイル形式に加工されたデータが格納されています。
- Managerのデータベースに格納されている情報より、さらに詳細な情報が記録されています。
- Troubleshootには、デフォルトで収集するOSの情報のみ格納されます。ただし、レコードIDが「UX_IPC～」のIPC資源の情報は格納されません。
- データ形式は、以降の節で示すヘッダーのカラムから始まり、それ以降のカラムは、「4.2 詳細/レポート情報」のFieldで示す情報と同様です。

4.3.1 WIN_PROCESSおよびUX_PROCESS以外のヘッダー形式

WIN_PROCESSおよびUX_PROCESS以外のすべてのデータに関してのヘッダー形式です。

カラム位置	説明	備考
1	8200:Record No.	‘8200:’ 部分固定、Record No.には対応するRecord No.が入る。
2	NULL	固定
3	システム名	
4	レコードID	
5	リソースID	
6	start_date_time	GMT(グリニッジ標準時)
7	end_date_time	GMT(グリニッジ標準時)
8	TimeFlag	0:UTC 1:ローカル時間
9	TimeZone	UTCとローカル時間の差(分)
10	DaySave	サマータイム用の時間(分)
11	consol_flag	0 固定
12	console_interval	収集間隔(秒)
13	coverage	0～1
14～	性能情報	「 4.2 詳細/レポート情報 」のFieldで示す情報と同様です。

4.3.2 WIN_PROCESSのヘッダー形式

WIN_PROCESSのデータに関してのヘッダー形式です。

カラム位置	説明	備考
1	8200:Record No.	‘8200:’ 部分固定、Record No.には対応するRecord No.が入る。
2	NULL	固定
3	システム名	
4	レコードID	‘WIN_PROCESS’
5	リソースID	
6	start_date_time	GMT(グリニッジ標準時)
7	end_date_time	GMT(グリニッジ標準時)
8	TimeFlag	0:UTC 1:ローカル時間
9	TimeZone	UTCとローカル時間の差(分)
10	DaySave	サマータイム用の時間(分)
11	consol_flag	0 固定
12	console_interval	収集間隔(秒)
13	coverage	0～1
14	NULL	固定
15	NULL	固定
16	プロセス名	

カラム位置	説明	備考
17	NULL	固定
18～	性能情報	「 4.2 詳細/レポート情報 」のFieldで示す情報と同様です。

4.3.3 UX_PROCESSのヘッダー形式

UX_PROCESSのデータに関するヘッダー形式です。

カラム位置	説明	備考
1	8200:Record No.	‘8200:’ 部分固定、Record No.には対応するRecord No.が入る。
2	NULL	固定
3	システム名	
4	レコードID	‘UX_PROCESS’
5	リソースID	
6	Start_date_time	GMT(グリニッジ標準時)
7	end_date_time	GMT(グリニッジ標準時)
8	TimeFlag	0:UTC 1:ローカル時間
9	TimeZone	UTCとローカル時間の差(分)
10	DaySave	サマータイム用の時間(分)
11	consol_flag	0 固定
12	console_interval	収集間隔(秒)
13	coverage	0～1
14	ユーザー名	
15	グループ名	
16	プロセス名	
17	NULL	
18	無効	
19～	性能情報	「 4.2 詳細/レポート情報 」のFieldで示す情報と同様です。

4.4 管理コンソールの操作ログ情報

操作ログ情報は、運用管理クライアントの下記ディレクトリ配下に格納される情報です。

<インストールディレクトリ>%log%OperationLog_Setting

4.4.1 操作ログファイル名

操作ログは、管理コンソールおよび定義画面を操作した時に収集されます。それぞれ、以下のファイル名で記録されます。

管理コンソール	AdminConsole.YYYYMMDDhhmmsssss.log
定義画面	コンソール定義名.YYYYMMDDhhmmsssss.log

ポイント

- YYYYMMDDhhmmは、年月日時分を表します。
- sssssは、内部で管理するセッションごとのIDです。
- 操作ログファイルは、30日間保持されます。

4.4.2 操作ログフォーマット

操作ログのフォーマットは、以下のCSV形式です。

カラム位置	項目	備考(出力例)
1	時間	西暦/月/日 時間:分:秒,ミリ秒 UTC
2	操作したマシンのホスト名またはIPアドレス	192.0.2.20
3	運用管理クライアントのIPアドレス	192.0.2.20
4	リザーブ	
5	操作種別	ConsoleDefineAdd
6	操作対象	192.0.2.20
7	操作内容	Manager(192.0.2.20)からコンソール定義 DefaultConsole をロードしました。
8	実行結果	S
9	コンポーネント	SSQC定義画面
10	リザーブ	
11	リザーブ	

ポイント

- カラム1の時間は、世界標準時(UTC)で出力されます。
- カラム2のIPアドレスは、Proxy経由の通信の場合、ProxyサーバのIPアドレスが出力されます。
- カラム8の実行結果は、成功の場合S、失敗の場合Fが出力されます。
- カラム9のコンポーネントは、「SSQC管理コンソール」または「SSQC定義画面」が設定されます。

第5章 メッセージ

本章では、本製品が出力するメッセージについて説明します。

メッセージは、Windowsはイベントログ(種別:アプリケーション)に、Solaris/Linuxはsyslogに出力されます。

メッセージは、以下の種類があります。

種類	参照箇所
Windows/UNIX共通メッセージ	「5.1 共通メッセージ」
Windows固有メッセージ	「5.2 Windows 固有メッセージ」
UNIX固有メッセージ	「5.3 UNIX固有メッセージ」
FJSVcirが出力するエラーメッセージ	「5.4 FJSVcirが出力するエラーメッセージ」
「アンインストールと管理(ミドルウェア)」機能が出力するエラーメッセージ	「5.5「アンインストールと管理(ミドルウェア)」機能が出力するエラーメッセージ」

ご使用のプラットフォームのメッセージを参照してください。

【Windows版】

Windows版のイベントで使用されるソース名の一覧を以下に示します。

No.	ソース名
1	DSA_Cmd
2	DSA_Event
3	DSA_Execute
4	DSA_File
5	DSA_Forwarder
6	DSA_Listener
7	DSA_Logfile
8	DSA_Manager
9	DSA_Spacemon
10	DSA_TIS
11	SSQC
12	SSQC DSA_MF
13	SSQC DSA_Openreg
14	SSQC DSA_ORA
15	SSQC DSA_REG
16	SSQC License_tool
17	SSQC PDB_Reader
18	SSQC PDB_Writer

5.1 共通メッセージ

本節では、Windows/UNIX共通のメッセージについて説明します。

イベントIDカラムの上段にはWindowsのイベントIDを、下段にはUNIXのイベントIDを記載しています。

イベントIDカラムに上段下段の区別がない場合は、Windows/UNIX共通のイベントIDを記載しています。

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
0602	エラー	不当なパラメタ '%1'	Invalid argument '%1'.	[意味] 内部処理で不当なパラメーターが検出されました。 %1:パラメーター [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA0602E				
1000	情報	%1 が起動しました。	%1 started.	[意味] プロセスが起動しました。 %1:プロセス名 [対処方法] 対処する必要はありません。
DSA1000I				
1001	情報	%1 が停止しました。	%1 stopped.	[意味] プロセスが停止しました。 %1:プロセス名 [対処方法] 対処する必要はありません。
DSA1001I				
1200	情報	DSAが起動しました。 '%1' (%2)	Started DSA '%1' (%2)	[意味] DSAが起動しました。 %1:DSA名 %2:モジュールパス [対処方法] 対処する必要はありません。
DSA1200I				
1202	情報	停止シグナルが送信されました。: DSA '%1'	Sending stop signal to DSA '%1'	[意味] DSAに停止シグナルが送信されました。 %1:DSA名 [対処方法] 対処する必要はありません。
DSA1202I				
1302	エラー	DCM が停止しました。 - critical space notification	Stopping DCM due to the critical space notification.	[意味] ディスクの使用量が異常しきい値に達したため Systemwalker SQC DCM サービス/dcmdプロセスを停止しました。 [対処方法] ディスクの空き容量を確保して、Systemwalker SQC DCM サービス/dcmdプロセスを再起動してください。
DSA1302E				

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				Solaris版またはLinux版の場合、ディスクの使用量に関する情報を取得できなかった可能性があります。その場合は、dcmcmdプロセスを再起動した後にメッセージが出力されなければ問題ありません。メッセージが出力された場合は、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
1304	エラー	起動するプロセスが多すぎます。DCMは、再起動できません。: %1	Too many attempts to start process. DCM cannot restart %1.	[意味] プロセス %1 を再起動できないために停止しています。 連携製品で問題が発生している場合があります。 [対処方法] Systemwalker SQC DCM サービス/dcmdプロセスを再起動してください。 連携製品で問題が発生している場合はその問題を取り除いた後でSystemwalker SQC DCM サービス/dcmdプロセスを再起動してください。 <Interstage Application Server連携(JavaEE環境)またはWebLogicServer連携(注)の場合> template.datの JAVA_HOMEキーに設定したパスに誤りがないか確認してください。 誤りがある場合、修正、セットアップを行った後で、Systemwalker SQC DCM サービス/dcmdプロセスを再起動してください。 注) プロセス %1 に「java」が含まれる場合
DSA1304E				
1310	エラー	DCM が起動できません。一つ以上の DSA が既に起動している可能性があります。	DCM cannot start because at least one DSA is already running.	[意味] 1つ以上のDSAサービス/デーモンが起動されているためSystemwalker SQC DCM サービス/dcmdプロセスが起動できません。 [対処方法] 停止を行った直後に起動を行うと、いくつかのDSAサービ
DSA1310E				

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				ス/デーモンが停止処理中のためにSystemwalker SQC DCMサービス/dcmdプロセスが起動できない場合があります。 少し時間が経った後にDSA サービス/デーモンが停止したことを確認し、再度起動を行ってください。 時間が経っても再起動できない場合には、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
1551	エラー	Incorrect configuration of module '%1'. DSA: %1. Thread %2. パラメタ '%3' に誤りがあります。DSAは終了します。	DSA: %1. Thread %2. Parameter '%3' is incorrect. DSA will terminate.	[意味] 動作定義ファイルのパラメーターに誤りがあります。 %1:DSA名 %2:スレッドID %3:パラメーター [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA1551E				
1565	エラー	リモートマシンのパフォーマンス情報の読み込みに失敗しました。 %1 %2	Failed to read performance data from the remote machine %1 %2	[意味] リモートマシンのパフォーマンスデータの取得に失敗しました。 %1:リモートマシン名 %2:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA1565E				
1566	エラー	'domain', 'user', 'password' パラメタが正しいか確認してください。 %1	Logon failed. Check that the 'domain', 'user', and 'password' parameters are correct. %1	[意味] ログインに失敗しました。接続定義ファイルのパラメーターに誤りがあります。 %1:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA1566E				
1701	エラー	データベースのオープンに失敗しました。 PDB database: %1.	Failed to open PDB database: %1.	[意味] PDBのオープンに失敗しました。 %1:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA1701E				

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
1800	情報	データベースの作成に成功しました。	PDB database is created successfully.	[意味] PDBの作成に成功しました。
DSA1800I				[対処方法] 対処する必要はありません。
1900	エラー	データベースのオープンに失敗しました。 PDB database: %1.	Failed to open PDB database: %1.	[意味] PDBのオープンに失敗しました。
DSA1900E				%1:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
1902	エラー	データベースの作成に失敗しました。SQL file execution failed: %1.	Failed to create PDB database, SQL file execution failed: %1.	[意味] PDBの作成に失敗しました。
DSA1902E				%1:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
1903	エラー	データベースの作成に失敗しました。TRD file execution failed: %1.	Failed to create PDB database, TRD file execution failed: %1.	[意味] PDBの作成に失敗しました。
DSA1903E				%1:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
1906	エラー	トランザクションの実行に失敗しました。PDB database: %1.	Failed to execute transaction against the PDB database: %1.	[意味] PDBに対するトランザクションの実行に失敗しました。
DSA1906E				%1:エラーメッセージ [対処方法] 通常はPDBへレコードを書き込む時にエラーが発生した場合に出力されます。 エラーメッセージが“database is locked”の場合、収集データの書き込みとコンテンツ表示の読み出しが競合した場合に時々出力されますが、頻発しなければ問題ありません。 それ以外の場合には、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
1907	エラー	データベースの更新に失敗しました。SQL file execution failed: %1.	Failed to update PDB database, SQL file execution failed: %1.	[意味] PDBの更新に失敗しました。
DSA1907E				%1:エラーメッセージ

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				[対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
1908	エラー	データベースの更新に失敗しました。TRD file execution failed: %1.	Failed to update PDB database, TRD file execution failed: %1.	[意味] PDBの更新に失敗しました。 %1:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA1908E				
1909	エラー	データベースの更新に失敗しました。Failed to create field_name_backup table: %1.	Database update error. Failed to create field_name_backup table: %1.	[意味] PDBの更新に失敗しました。 %1:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA1909E				
1910	エラー	データベースの更新に失敗しました。Failed to delete field_name_backup table: %1.	Database update error. Failed to delete field_name_backup table: %1.	[意味] PDBの更新に失敗しました。 %1:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA1910E				
1911	エラー	メモリの獲得に失敗しました。	Failed to allocate memory block: out of memory.	[意味] メモリの獲得に失敗しました。 [対処方法] システムでメモリ枯渇状態が発生していた場合には枯渇状態を解消してください。メモリ枯渇状態が発生していない場合には、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA1911E				
1912	エラー	データベースの組み込みに失敗しました。 "%1": %2	Failed to attach database "%1": %2.	[意味] PDBのファイル組み込みに失敗しました。 %1:データベースファイル名 %2:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA1912E				
1913	エラー	データベースの作成に失敗しました。SQL file execution failed: %1	Failed to create data database, SQL file execution failed: %1.	[意味] PDBの作成に失敗しました。 %1:エラーメッセージ [対処方法]
DSA1913E				

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				保守情報を採取し技術員に連絡してください。
1914	エラー	システム登録に失敗しました。PDB database: %1	Failed to execute system register SQL against the PDB database: %1.	[意味] PDBのsystemテーブルへのシステム登録に失敗しました。 %1:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA1914E				
1915	エラー	データベース定義の読み込みに失敗しました。 - system_database table	Failed to read the PDB database configuration from the system_database table.	[意味] PDBの定義の読み込みに失敗しました。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA1915E				
1916	エラー	データベースの切り離しに失敗しました。 "%1": %2	Failed to detach database "%1": %2.	[意味] PDBのファイル切り離しに失敗しました。 %1:データベースファイル名 %2:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA1916E				
1917	エラー	データベースのオープンに失敗しました。 "%1": %2	Failed to open database file "%1": %2.	[意味] PDBのオープンに失敗しました。 %1:パス名 %2:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA1917E				
1918	エラー	テーブル情報の読み込みに失敗しました。 - system_tables table	Failed to read the PDB database tables information from the system_tables table.	[意味] PDBのテーブル情報の読み込みに失敗しました。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA1918E				
1919	エラー	アクセス/作成に失敗しました。 - PDB database directory "%1": %2	Failed to access/create PDB database directory "%1": %2	[意味] PDBのディレクトリのアクセスまたは作成に失敗しました。 %1:ディレクトリ名 %2:エラーメッセージ [対処方法]
DSA1919E				

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				保守情報を採取し技術員に連絡してください。
2000	情報	停止シグナルを受信しました。	The module received the Stop signal.	[意味] プロセスが停止指示を受信しました。 [対処方法] 対処する必要はありません。
DSA2000I				
2001	情報	接続先のサーバは %1 です。ポート番号は %2 です。	Remote server is %1 on port %2.	[意味] 接続先のサーバ情報を表示します。 %1:ホスト名またはIPアドレス %2:ポート番号 [対処方法] 対処する必要はありません。
DSA2001I				
2002	情報	ポート %1 をリスンします。	Listening on port %1.	[意味] コネクション確立待ちとなった事を表示します。 %1:ポート番号 [対処方法] 対処する必要はありません。
DSA2002I				
2100	エラー	初期化に失敗しました。 エラーコード : %1	DSA initialization failed with code %1.	[意味] DSA起動時に初期化に失敗しました。 %1:エラーコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA2100E				
2101	エラー	リカバリ不能なエラーが発生しました。	The module halted due to an unrecoverable error.	[意味] リカバリ不能なエラーが発生したためプロセスが停止しました。 [対処方法] 本メッセージの前にエラーの内容を示すメッセージが出力されますので、メッセージに従って対処してください。
DSA2101E				
2102	エラー	サーバ名が指定されていません。	No server name specified.	[意味] 接続するManagerのサーバ名が指定されていません。 [対処方法] DSAconfiguration.txtファイル内の[DsaForwarder]および[DsaForwarder_sum]セクションの、server=で接続する
DSA2102E				

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				Managerのサーバ名を正しく指定してください。
2103	エラー	ポート番号、サービス名が指定されていません。	No port or service name specified.	[意味] 接続するManagerのポート番号が指定されていません。 [対処方法] DSAconfiguration.txtファイル内の[DsaForwarder]および[DsaForwarder_sum]セクションのport=2344の設定が正しいか確認してください。
DSA2103E				
2174	エラー	セクションの解析に失敗しました。%1	Failed to parse config section. %1	[意味] セクションの解析に失敗しました。 %1:セクション名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA2174E				
2175	エラー	セクションの確認に失敗しました。%1	Failed to validate config section. %1	[意味] セクションの有効化に失敗しました。 %1:セクション名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA2175E				
2176	エラー	DSA groups file のオープンや解析に失敗しました。'%1'. %2%3	Failed to open and parse the DSA groups file '%1'. %2%3	[意味] DSA groupsファイルのオープンや解析に失敗しました。 %1:ファイル名 %2:エラー行番号 %3:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA2176E				
2177	エラー	DSA groups file '%1' がグループに定義されていません。	DSA groups file '%1' does not define any groups.	[意味] DSA groupsファイルにグループが定義されていません。 %1:ファイル名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA2177E				
2300	エラー	%1の処理が失敗しました。Error: %2	The DSA function %1 failed with error: %2	[意味] 処理が失敗しました。
DSA2300E				

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				%1:処理名 %2:エラーコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
2301 DSA2301E	エラー	入力レコードに、%1 の誤りがあります。	The input record is invalid: %1	[意味] 入力レコードに誤りがあります。 %1:レコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
2302 DSA2302E	エラー	レコード %1 には、有効な情報がありません。	No default or input command is specified for record: %1	[意味] レコードに有効な情報がありません。 %1:レコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
2304 DSA2304E	エラー	コマンド '%1' の復帰値の取得に失敗しました。System error: %2	Failed to get the return code for the command '%1'. System error: %2	[意味] コマンドの復帰値の取得に失敗しました。 %1:コマンド名 %2:エラーコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
2305 DSA2305E	エラー	メモリの獲得に失敗しました。Block size %1	Memory allocation failed for a block size of %1	[意味] メモリの獲得に失敗しました。 %1:獲得しようとしたメモリのブロックサイズ [対処方法] システムでメモリ枯渇状態が発生していた場合には枯渇状態を解消してください。それ以外の場合には技術員に連絡してください。
2306 DSA2306E	エラー	Bad file のオープンに失敗しました。DSA error=%1	Failed to open bad file. DSA error=%1	[意味] Badファイルのオープンに失敗しました。 %1:エラーコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
2307	エラー	指定されたパラメタに誤りがあります。'%1=%2'	Invalid specified or default '%1=%2'	[意味] 指定されたパラメーターに誤りがあります。 %1:パラメーター名 %2:値 [対処方法] 定義の誤りを修正し、再度 sqcSetPolicy(ポリシー適用コマンド)を実行してください。
DSA2307E				
2308	エラー	作業ディレクトリパスの獲得に失敗しました。	Unable to obtain the path to the working directory.	[意味] 作業ディレクトリパスの獲得に失敗しました。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA2308E				
2309	エラー	コマンド '%1' は、処理されません。	Command '%1' is not processed.	[意味] コマンドは処理されません。 %1:コマンド名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA2309E				
2310	エラー	RDF または TDF ファイルが指定されていません。	At least one each of a RDF and TDF file must be specified if TIS processing is required.	[意味] RDF または TDF ファイルが指定されていません。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA2310E				
2311	エラー	パラメタの形式に誤りがあります。'%1=%2'	Invalid parameter format: '%1=%2'.	[意味] パラメーターの形式に誤りがあります。 %1:パラメーター名 %2:値 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA2311E				
2312	エラー	%1 が見つかりません。File '%2'	Failed to find %1 file '%2'.	[意味] ファイルが見つかりません。 %1:ファイル種別 %2:ファイル名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA2312E				

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
2313	エラー	ファイル'%1'のオープンに失敗しました。コマンド'%2'は実行されません。'%3'	Failed to open file '%1'. Command '%2' is not processed. Error = %3.	[意味] ファイルのオープンに失敗したためコマンドは実行されません。 %1:ファイル名 %2:コマンド名 %3:エラーコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA2313E				
2314	エラー	コマンドの実行時間が%1秒を超過しました。処理を停止します。%2	Maximum command process time of %1 seconds exceeded. Command aborted: %2	[意味] コマンドの実行時間が超過したため処理を停止しました。 %1:秒 %2:コマンド名 [対処方法] システム負荷が高い場合などに出力されることがありますが、頻発しなければ問題ありません。 頻発する場合は、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA2314E				
2315	エラー	内部エラー: 不当なパラメタが渡されました。	Internal error: Invalid parameter passed to a function.	[意味] 内部エラーが発生しました。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA2315E				
2316	エラー	TIS インタフェースエラー=%1	TIS interface error=%1.	[意味] TISインタフェースエラーが発生しました。 %1:エラーコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA2316E				
2317	エラー	TIS エラー=%1	TIS error=%1	[意味] TISエラーが発生しました。 %1:エラーコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA2317E				

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
2318	エラー	コマンド %1 が失敗しました。Error=%2	Failed to execute command %1. Error= %2.	[意味] コマンドが失敗しました。 %1:コマンド名 %2:エラーコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA2318E				
2319	エラー	実行コマンドが指定されていません。	Command to be executed is empty.	[意味] 実行コマンドが指定されていません。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA2319E				
2320	エラー	コマンドが展開できません。	The command '%1' could not be expanded.	[意味] コマンドが展開できませんでした。 %1:コマンド名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA2320E				
2321	エラー	コマンド '%1' の展開サイズが、割り当てサイズ %2 を超えました。	The command '%1' expanded to a size greater than the maximum allowable size of %2.	[意味] コマンドの展開サイズが割り当てサイズを超えました。 %1:コマンド名 %2:サイズ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA2321E				
2322	エラー	コマンド '%1' が見つかりません。	Failed to find command '%1'.	[意味] コマンドが見つかりません。 %1:コマンド名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA2322E				
2326	エラー	ファイルのオープンに失敗しました。File '%1' Error = %2	Failed to open file '%1'. Error = %2.	[意味] ファイルのオープンに失敗しました。 %1:ファイル名 %2:エラーコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA2326E				

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
2327	エラー	Entry point '%1' が見つかりません。Module '%2' Error=%3	Entry point '%1' not found in module '%2'. Error=%3.	[意味] エントリポイントが見つかりません。 %1:エントリポイント名 %2:モジュール名 %3:エラーコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA2327E				
2330	エラー	ファイル '%1' の読み込みに失敗しました。Error=%2	Failed to read from file '%1'. Error=%2.	[意味] ファイルの読み込みに失敗しました。 %1:ファイル名 %2:エラーコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA2330E				
2331	エラー	コマンドの実行時間が %1秒を超過しました。処理を停止します。%2	Maximum command process time of %1 seconds exceeded. Command aborted: %2	[意味] 製品内部で実行するコマンドが一定の時間を経過しても終了しませんでした。 %1:時間 %2:コマンド名 [対処方法] 頻発しなければ問題ありません。 頻発する場合は、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA2331E				
2500	エラー	パラメタに誤りがあります。	Invalid parameters.	[意味] パラメーターに誤りがあります。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA2500E				
2502	エラー	一時ファイルへのレコード書き込みに失敗しました。	Failed to write a record into a temporary output file.	[意味] 一時ファイルへのレコード書き込みに失敗しました。 ログデータ(Troubleshoot)出力先の容量不足の可能性があります。 [対処方法] ログデータ(Troubleshoot)出力先のディスクの空き容量を
DSA2502E				

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				確保して、常駐プロセスを再起動してください。 上記対処で問題を解決することができない場合、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
2503 DSA2503E	エラー	出力ファイル '%1' へのアクセスに失敗しました。	Failed to access the output file '%1'	[意味] 出力ファイルへのアクセスに失敗しました。 %1:ファイル名 [対処方法] ウイルス対策ソフトやバックアップソフトなどと、ファイルの獲得が競合している可能性があります。本メッセージが出力された時間帯に、それらのソフトウェアが動作していなかったか確認してください。動作していた場合は、トラブルシューティングガイド「他のソフトウェアとの組み合わせに関するトラブルシューティング」を参考に対処を行ってください。 それ以外の場合には、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
2505 DSA2505E	エラー	'%1' から '%2' へのファイルのリネームに失敗しました。	Failed to rename the file '%1' to '%2'.	[意味] ファイルのリネームに失敗しました。 %1:旧ファイル名 %2:新ファイル名 [対処方法] ウイルス対策ソフトやバックアップソフトなどと、ファイルの獲得が競合している可能性があります。本メッセージが出力された時間帯に、それらのソフトウェアが動作していなかったか確認してください。動作していた場合は、トラブルシューティングガイド「他のソフトウェアとの組み合わせに関するトラブルシューティング」を参考に対処を行ってください。 それ以外の場合には、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
2506 DSA2506E	エラー	一時ファイル '%1' のオープンに失敗しました。	Failed to open the temporary output file '%1'	[意味]

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				一時ファイルのオープンに失敗しました。 %1:ファイル名 [対処方法] ウイルス対策ソフトやバックアップソフトなどと、ファイルの獲得が競合している可能性があります。本メッセージが出力された時間帯に、それらのソフトウェアが動作していなかったか確認してください。動作していた場合は、トラブルシューティングガイド「他のソフトウェアとの組み合わせに関するトラブルシューティング」を参考に処置を行ってください。 それ以外の場合には、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
2507 DSA2507E	エラー	ファイル '%1' の、'%2' への結合に失敗しました。	Failed to append file '%1' to '%2'.	[意味] ファイルに追加書きできませんでした。 %1:入力ファイル名 %2:出力ファイル名 [対処方法] 一時ディレクトリに空き容量があるか確認してください。 空き容量がある場合には、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
2508 DSA2508E	エラー	出力ディレクトリのアクセス/作成に失敗しました。'%1': %2	Failed to access/create output directory '%1': %2.	[意味] 出力ディレクトリのアクセス/作成に失敗しました。 %1:ディレクトリ名 %2:エラーコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
2700 DSA2700E	エラー	サーバへの接続ができません。	Unable to connect to the server.	[意味] Managerに接続できませんでした。 [対処方法] 次の確認を行ってください。 1. Managerが正常に動作しているかどうか、確認してください。

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				2. Managerとネットワーク接続できるかどうか、確認してください。 3. 該当サーバに定義されているManagerのホスト名/IPアドレスに誤りがないか、 sqcSetMgrInfo(Agent/Proxy Manager用)コマンドの-vオプションで確認してください。 定義の確認および変更方法については、導入手引書「Agent/Proxy Managerが認識するManagerのIPアドレス/ホスト名の変更」を参照してください。 4. Agent/Proxy Managerのシステムに高負荷がかかっていた場合、システムの負荷が戻っても、本メッセージが出力される場合があります。その場合は、Systemwalker SQC DCMサービス/cmdcプロセスを再起動して、復旧するか確認してください。 上記の対処を行ってもメッセージが出力される場合には、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
2701 DSA2701E	エラー	サーバへのデータ転送ができません。	Unable to transmit data to the server.	[意味] Managerにデータが転送できませんでした。 [対処方法] メッセージが継続的に出力されていないければ、一時的に転送できませんでしたが、その後復旧していますので対処する必要はありません。 メッセージが継続的に出力されている場合には次の確認を行ってください。 ・Managerが正常に動作しているかどうか、確認してください。 Managerが正常に動作している場合には、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
2702 DSA2702E	エラー	Loginが拒否されました。	Login rejected by the server.	[意味] Managerへのログインが拒否されました。 [対処方法]

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				Managerが正常に動作しているかどうか、確認してください。 Managerが正常に動作している場合には、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
2951	エラー	システムコール (%1) に失敗しました。: %2	System call (%1) failed: %2	[意味] システムコールに失敗しました。 %1:システムコール名 %2:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA2951E				
3073	警告	コマンドの実行時間 %1 秒が %2 回連続して超過しました。処理を停止します。%3	Maximum command process time of %1 seconds exceeded %2 times sequentially. Command aborted: %3.	[意味] 1分～10分の収集間隔で性能情報を収集するために発行しているコマンドの実行時間が%2回連続で%1秒を超過したために、処理を停止しています。 %1:コマンドの実行監視時間 %2:連続して超過した回数 %3:詳細情報 [対処方法] 長時間システム負荷が高い場合などに、コマンドの処理が遅延し、本メッセージが出力される場合があります。 %3で表示されたコマンドが正常に動作するかどうかを確認してください。 正常に動作する場合、問題は解消されているため、対処不要です。 正常に動作しない場合は、コマンドの処理が遅延する原因を解消してください。 %3で表示されたコマンドが「netstat -an」の場合は、トラブルシューティングガイド「WIN_NET_SYSTEMまたはUX_NET_SYSTEMの情報が収集できない」を参照してください。
DSA3073W				
3100	エラー	%1の処理が失敗しました。Error=%2	The DSA function '%1' failed. Error='%2'.	[意味] 処理が失敗しました。 %1:機能名
DSA3100E				

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				%2:エラーコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
3101 DSA3101E	エラー	指定された開始時刻と終了時刻の關係に誤りがあります。'%1' '%2'	The specified end date and time of '%1' is not greater than the start date and time of '%2'.	[意味] 指定された開始時刻と終了時刻の關係に誤りがあります。 %1:終了日時 %2:開始日時 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
3102 DSA3102E	エラー	指定されたインターバルに誤りがあります。'%1=%2'	The specified interval is not valid: '%1=%2'.	[意味] 指定された収集間隔に誤りがあります。 %1:収集間隔 %2:値 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
3104 DSA3104E	エラー	パラメタに誤りがあります。'%1=%2'	Invalid specified or default '%1=%2'.	[意味] パラメーターに誤りがあります。 %1:パラメーター %2:値 [対処方法] 定義の誤りを修正し、再度 sqcSetPolicy(ポリシー適用コマンド)を実行してください。
3105 DSA3105E	エラー	パラメタの形式に誤りがあります。'%1=%2'	Invalid parameter format: '%1=%2'.	[意味] パラメーターの形式に誤りがあります。 %1:パラメーター %2:値 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
3106 DSA3106E	エラー	指定された時間は、有効な時間に変換できません。'%1=%2'	Unable to convert date and/or time '%1=%2' parameter to valid time.	[意味] 指定された時間は有効な時間に変換できません。 %1:時間 %2:値 [対処方法]

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				保守情報を採取し技術員に連絡してください。
3108	エラー	ファイル名の解析に失敗しました。'%1'	Failed to parse the bad file name '%1'.	[意味] ファイル名の解析に失敗しました。 %1:ファイル名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA3108E				
3109	エラー	パラメタが 0 より小さい値になっています。'%1=%2'	The parameter '%1=%2' is less than zero.	[意味] パラメーターが0より小さい値になっています。 %1:パラメーター %2:値 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA3109E				
3110	エラー	%1 が見つかりません。file '%2'	Failed to find %1 file '%2'.	[意味] ファイルが見つかりません。 %1:種別 %2:ファイル名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA3110E				
3111	エラー	RDF または TDF ファイルの指定が必要です。	At least one each of a RDF and TDF file must be specified if TIS processing is required.	[意味] RDF または TDF ファイルの指定が必要です。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA3111E				
3115	エラー	作業ディレクトリの獲得に失敗しました。	Unable to obtain the path to the working directory.	[意味] 作業ディレクトリの獲得に失敗しました。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA3115E				
3116	エラー	コマンドが見つかりません。'%1'	Failed to find command '%1'.	[意味] コマンドが見つかりません。 %1:コマンド名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA3116E				

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
3117	エラー	ロードに失敗しました。 Module '%1' Error= %2.	Failed to load module '%1'. Error=%2.	[意味] モジュールのロードに失敗 しました。 %1:モジュール名 %2:エラーコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に 連絡してください。
DSA3117E				
3118	エラー	Entry point '%1' が 見つかりません。Module '%2' Error=%3	Entry point '%1' not found in module '%2'. Error=%3.	[意味] エントリポイントが 見つかりません。 %1:エントリポイント名 %2:モジュール名 %3:エラーコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に 連絡してください。
DSA3118E				
3119	エラー	初期化に失敗しました。 Module '%1' Error= %2	The module '%1' failed to initialize. Error=%2.	[意味] 初期化に失敗しました。 %1:モジュール名 %2:エラーコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に 連絡してください。
DSA3119E				
3120	エラー	コマンドが展開でき ません。'%1'	The command '%1' could not be expanded.	[意味] コマンドが展開でき ません。 %1:コマンド名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に 連絡してください。
DSA3120E				
3121	エラー	コマンド '%1' の展開 サイズが、割り当て サイズ %2 を超え ました。	The command '%1' expanded to a size greater than the maximum allowable size of %2.	[意味] コマンドの展開 サイズが割り当て サイズを超え ました。 %1:コマンド名 %2:サイズ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に 連絡してください。
DSA3121E				
3123	エラー	実行コマンドが指 定されていません。	Command to be executed is empty.	[意味] 実行コマンドが指 定されてい ません。 [対処方法]
DSA3123E				

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				保守情報を採取し技術員に連絡してください。
3125	エラー	ファイル'%1'の作成に失敗しました。コマンド'%2'は実行されません。Error=%3	Failed to create file '%1'. Command '%2' is not processed. Error=%3.	[意味] ファイルの作成に失敗したためコマンドは実行されません。 %1:ファイル名 %2:コマンド名 %3:エラーコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA3125E				
3126	エラー	ファイル'%1'のオープンに失敗しました。コマンド'%2'は実行されません。Error = %3	Failed to open file '%1'. Command '%2' is not processed. Error = %3.	[意味] ファイルのオープンに失敗したためコマンドは実行されません。 %1:ファイル名 %2:コマンド名 %3:エラーコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA3126E				
3127	エラー	ファイル'%1'の読み込みに失敗しました。Error=%2	Failed to read from file '%1'. Error=%2.	[意味] ファイルの読み込みに失敗しました。 %1:ファイル名 %2:エラーコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA3127E				
3129	エラー	コマンド %1 の実行に失敗しました。Error=%2	Failed to execute command %1. Error=%2	[意味] コマンドの実行に失敗しました。 %1:コマンド名 %2:エラーコード [対処方法] 頻発しなければ問題ありません。
DSA3129E				
3130	エラー	コマンド'%1'の復帰値が獲得できませんでした。Error=%2	Failed to obtain the return code for the command '%1'. Error=%2	[意味] コマンドの復帰値が獲得できませんでした。 %1:コマンド名 %2:エラーコード
DSA3130E				

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				[対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
3133 DSA3133E	エラー	メモリの獲得に失敗しました。Block size %1	Memory allocation failed for a block size of %1.	[意味] メモリの獲得に失敗しました。 %1:獲得しようとしたメモリのブロックサイズ [対処方法] システムでメモリ枯渇状態が発生していた場合には枯渇状態を解消してください。それ以外の場合には技術員に連絡してください。
3136 DSA3136E	エラー	Bad file のオープンに失敗しました。DSA error=%1	Failed to open bad file. DSA error=%1.	[意味] Bad fileのオープンに失敗しました。 %1:エラーコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
3138 DSA3138E	エラー	TIS インタフェースエラー=%1	TIS interface error=%1.	[意味] TISインタフェースエラーが発生しました。 %1:エラーコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
3139 DSA3139E	エラー	TIS エラー=%1	TIS errors=%1	[意味] TISエラーが発生しました。 %1:エラーコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
3140 DSA3140E	エラー	TIS tag data の設定に失敗しました。	Failed to set TIS tag data.	[意味] TIS tag dataの設定に失敗しました。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
3141 DSA3141E	エラー	コマンドの復帰に失敗しました。	Parser failed to return any commands.	[意味] コマンドの復帰に失敗しました。 [対処方法]

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				保守情報を採取し技術員に連絡してください。
3142	エラー	Parser が異常復帰しました。Error=%1	Parser returned error=%1.	[意味] Parserが異常復帰しました。 %1:エラーコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA3142E				
3147	エラー	エラー数が %1 を超えました。	The number of errors has exceeded the maximum of %1.	[意味] エラー数が最大数を超えました。 %1:最大数 [対処方法]保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA3147E				
3150	エラー	内部エラー: 不当なパラメタが渡されました。	Internal error: Invalid parameter passed to a function.	[意味] 内部エラーが発生しました [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA3150E				
3151	エラー	パラメタ '%1' は、展開できませんでした。	The parameter '%1' could not be expanded.	[意味] パラメーターが展開できませんでした。 %1:パラメーター [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA3151E				
3200	エラー	TIS session のオープンに失敗しました。%1	Failed to open TIS session. %1.	[意味] TISセッションのオープンに失敗しました。 %1: [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA3200E				
3201	エラー	制御レコードの受信に失敗しました。	Failed to receive an input DSA record.	[意味] 制御レコードの受信に失敗しました。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA3201E				
3202	エラー	TIS でエラーが発生しました。%1	Error processing record with TIS. %1	[意味] TISでエラーが発生しました。 %1:エラーコード
DSA3202E				

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				[対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
3203	エラー	レコードの出力処理で失敗しました。	Failed to output the processed records.	[意味] レコードの出力処理で失敗しました。 [対処方法] 次のような原因が考えられますので直前に出力されているメッセージ等から原因を判断し対処してください。 ディスク容量に空きがない場合は空き容量を増やしてください。 I/Oエラーが発生している場合には、エラーの原因を調査してください。 それ以外の場合には、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA3203E				
3204	エラー	レコードの入力処理で失敗しました。	Error processing input records.	[意味] レコードの入力処理で失敗しました。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA3204E				
3205	エラー	TIS からのcheckpointの取得に失敗しました。 %1	Error getting checkpoint data from TIS. %1.	[意味] TISからのチェックポイントの取得に失敗しました。 %1: [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA3205E				
3206	エラー	開始checkpointの取得に失敗しました。	Error getting start checkpoint data.	[意味] 開始チェックポイントの取得に失敗しました。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA3206E				
3207	エラー	定義パラメタ '%1' は不当です。	Configuration parameter '%1' is invalid.	[意味] 定義パラメーターが不当です。 %1:パラメーター [対処方法]
DSA3207E				

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				保守情報を採取し技術員に連絡してください。
3208	エラー	ライブラリのロードに失敗しました。%1 %2	Failed to load %1. %2.	[意味] ライブラリのロードに失敗しました。 %1:パス名 %2:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA3208E				
3209	エラー	エントリポイント '%1' が見つかりません。in %2.	Entry point '%1' was not found in %2.	[意味] エントリポイントが見つかりません。 %1:エントリポイント名 %2:ライブラリ名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA3209E				
3210	エラー	%1 の初期化に失敗しました。code %2	Initialization of %1 failed with code %2.	[意味] 初期化に失敗しました。 %1:ライブラリ名 %2:エラーコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA3210E				
3600	情報	%1 のディスク空き容量は、しきい値の範囲内です。	Free disk space on path %1 is no longer under threshold	[意味] ディスク空き容量がしきい値の範囲内になりました。 %1:パス名 [対処方法] 対処する必要はありません。
DSA3600I				
3650	警告	%1 のディスク空き容量が、警告レベル %2 MB になりました。	Free disk space on path %1 reached warning level of %2 MB	[意味] ディスク空き容量が警告レベルになりました。 %1:パス名 %2:サイズ [対処方法] ディスクの空き容量を確保してください。
DSA3650W				
3700	エラー	DSA record type が指定されていません。	DSA record type is not specified.	[意味] DSAレコードタイプが指定されていません。
DSA3700E				

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				[対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
3702 DSA3702E	エラー	監視対象のパス名が指定されていません。	At least one path must be specified for monitoring.	[意味] ディスクスペースの空き容量監視設定でパス名が指定されていません。 [対処方法] 導入手引書「ディスクスペースの空き領域の監視」を参照し指定内容を確認してください。
3703 DSA3703E	エラー	監視パラメタ '%1' は、次の形式で指定してください。 <warning limit>,<critical limit>,<path to monitor>	Monitoring parameter '%1' must be of the following form: <warning limit>,<critical limit>,<path to monitor>	[意味] ディスクスペースの空き容量監視設定に誤りがあります。 %1:監視パラメーター [対処方法] 導入手引書「ディスクスペースの空き領域の監視」を参照し指定内容を確認してください。
3704 DSA3704E	エラー	%1 のディスク空き容量が、異常レベル %2 MB になりました。	Free disk space on path %1 reached critical level of %2 MB	[意味] ディスク空き容量が異常レベルになったため常駐プロセスはシステム保護のため停止します。 %1:パス名 %2:サイズ [対処方法] ディスクの空き容量を確保して、常駐プロセスを再起動してください。 Solaris版またはLinux版の場合、ディスクの使用量に関する情報を取得できなかった可能性があります。その場合は、dcmdプロセスを再起動した後にメッセージが出力されなければ問題ありません。メッセージが出力された場合は、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
3705 DSA3705E	エラー	%1 のディスク空き容量が、異常レベル %2 MB になりました。	Free disk space on path %1 reached critical level of %2 MB	[意味] 常駐プロセスはシステム保護のため停止します。 %1:パス名 %2:サイズ [対処方法]

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				ディスクの空き容量を確保して、常駐プロセスを再起動してください。
3800	エラー	TISセッションのオープンに失敗しました。 %1	Failed to open TIS session. %1.	[意味] TISセッションのオープンに失敗しました。 %1:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA3800E				
3801	エラー	イベントタイプが指定されませんでした。 : DSA_EVENT configuration	Event type name parameter is not specified in the DSA_EVENT configuration.	[意味] イベントタイプが指定されませんでした。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA3801E				
3802	エラー	初期化に失敗しました。 : event transfer	Failed to initialize event transfer.	[意味] 初期化に失敗しました。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA3802E				
3803	エラー	レコード処理でエラーが発生しました。 : TIS %1	Error processing record with TIS. %1.	[意味] TISのレコード処理でエラーが発生しました。 %1:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA3803E				
3804	エラー	中間レコードの出力に失敗しました。	Failed to output the processed records.	[意味] 中間レコードの出力に失敗しました。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA3804E				
3805	エラー	イベントの受信に失敗しました。	Failed to receive an input event.	[意味] イベントの受信に失敗しました。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA3805E				
3806	エラー	入力レコードの処理に失敗しました。	Error processing input records.	[意味] 入力レコードの処理に失敗しました。 [対処方法]
DSA3806E				

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				保守情報を採取し技術員に連絡してください。
4100	エラー	ARM 初期化処理に失敗しました。code %1	ARM initialization failed with code %1.	[意味] ARM初期化処理に失敗しました。 %1:エラーコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA4100E				
4221	エラー	メモリの獲得に失敗しました。Block size %1	Memory allocation failed for a block size of %1.	[意味] メモリの獲得に失敗しました。 %1:サイズ [対処方法] システムでメモリ枯渇状態が発生していた場合には枯渇状態を解消してください。それ以外の場合には保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA4221E				
4450	エラー	ファイルのオープンに失敗しました。%1: %2	Failed to open %1: %2.	[意味] ファイルのオープンに失敗しました。 %1:ファイル名 %2:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA4450E				
4500	エラー	Agent '%1' が応答中です。	Agent '%1' is responding now.	[意味] Agentは応答中です。 %1:Agent名 [対処方法] 対処する必要はありません。
DSA4500I				
4525	エラー	bad ファイルのオープンに失敗しました。 パラメタ 'bad_file_dir' と 'bad_file_name' が、正しく定義されているか、確認してください。 bad ファイルのログギングを中止します。	Failed to open the "bad" file. Verify that the configuration parameters 'bad_file_dir' and 'bad_file_name' are specified correctly. "Bad" file logging is disabled.	[意味] Badファイルのオープンに失敗しました。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA4525W				
4550	エラー	定義パラメタ '%1' に誤りがあります。	The configuration parameter '%1' is incorrect.	[意味] 定義パラメーターに誤りがあります。
DSA4550E				

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				%1:パラメーター名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
4551 DSA4551E	エラー	定義パラメタの取得に失敗しました。'%1'.	Failed to obtain the configuration parameter '%1'.	[意味] 定義パラメーターの取得に失敗しました。 %1:パラメーター名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
4552 DSA4552E	エラー	定義パラメタ 'snmp_agent' フィールド 'Agent ID' に誤りがあります。	The configuration parameter 'snmp_agent' field 'Agent ID' is incorrect.	[意味] 定義パラメーターsnmp_agentのAgent IDフィールドに誤りがあります。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
4553 DSA4553E	エラー	定義パラメタ 'snmp_agent' フィールド 'SNMP version' に誤りがあります。	The configuration parameter 'snmp_agent' field 'SNMP version' is incorrect.	[意味] 定義パラメーターsnmp_agentのSNMP versionフィールドに誤りがあります。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
4554 DSA4554E	エラー	定義パラメタ 'snmp_agent' フィールド 'agent address' に誤りがあります。	The configuration parameter 'snmp_agent' field 'agent address' is incorrect.	[意味] 定義パラメーターsnmp_agentのagent addressフィールドに誤りがあります。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
4555 DSA4555E	エラー	定義パラメタ 'snmp_agent' フィールド 'agent ID' が長すぎます。	The configuration parameter 'snmp_agent' field 'agent ID' is too long.	[意味] 定義パラメーターsnmp_agentのagent IDフィールドが長すぎます。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
4556 DSA4556E	エラー	内部の net-snmp configuration file 名が長すぎます。	The internal net-snmp configuration file name is too long.	[意味] 定義ファイルのファイル名が長すぎます。 [対処方法]

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				保守情報を採取し技術員に連絡してください。
4557	エラー	net-snmp MIB path が長すぎます。	The net-snmp MIB path is too long.	[意味] MIBのパス名が長すぎます。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA4557E				
4558	エラー	内部の net-snmp configuration file を作成できません。	Cannot create the internal net-snmp configuration file.	[意味] 定義ファイルを作成できませんでした。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA4558E				
4559	エラー	パラメタが '%1' の定義が必要です。	At least one parameter '%1' must be defined.	[意味] パラメーターが定義されていません。 %1:パラメーター名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA4559E				
4560	エラー	パスワード '%1' の生成に失敗しました。パスワードに誤りがあるか、短すぎます。 %2	Failed to generate password '%1'. The password is incorrect or too small. %2	[意味] パスワードの生成に失敗しました。パスワードに誤り、または、短すぎます。 %1:パスワード %2:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA4560E				
4561	エラー	SNMP agent '%1' のセッションのオープンに失敗しました。 %2	Failed to open a session with the SNMP agent '%1'. %2	[意味] SNMP agentとのセッションのオープンに失敗しました。 %1:SNMP agent名 %2:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA4561E				
4562	エラー	メモリが不足しています。	Not enough memory.	[意味] メモリ不足が発生しました。 [対処方法] システムでメモリ枯渇が発生していた場合には、枯渇状態を解消してください。
DSA4562E				

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				それ以外の場合には、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
4563	エラー	TIS セッションのオープンに失敗しました。 %1	Failed to open a TIS session. %1	[意味] TISセッションのオープンに失敗しました。 %1:エラーコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA4563E				
4564	エラー	TIS 処理に失敗しました。 %1 Record: %2	TIS processing failed. %1 Record: %2	[意味] TISの処理に失敗しました。 %1:エラーメッセージ %2:レコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA4564E				
4565	エラー	出力レコードの書き込みに失敗しました。	Failed to write output records.	[意味] 出力レコードの書き込みに失敗しました。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA4565E				
4566	エラー	Agent '%1' の応答がありません。	Agent '%1' is not responding.	[意味] Agentは応答できませんでした。 %1:Agent名 [対処方法] ネットワーク負荷が高い場合などに出力されることがありますが、頻発しなければ問題ありません。 頻発する場合は、ネットワーク環境や、監視対象の負荷状態を確認してください。
DSA4566E				
4568	エラー	内部エラー: snmplib が OID '%1' を解析できません。	Internal error: snmplib cannot parse OID '%1'.	[意味] OIDを解析できませんでした。 %1:OID名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA4568E				
4569	エラー	内部エラー: snmplib が MIB の OID ツリーを割り当てることができません。	Internal error: snmplib cannot locate the OID tree in MIBs. Variable	[意味] OIDを見つけることができませんでした。
DSA4569E				

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
		せん。'%1' はスカラーオブジェクトの可能性があります。	'%1' is assumed to be scalar.	%1:OID名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
4570 DSA4570E	エラー	TIS が SNMP agent レコードを受け付けられません。	TIS does not accept SNMP agent records.	[意味] TISがSNMP agentのレコードを受け入れられませんでした。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
4571 DSA4571E	エラー	ローカルのMIBに定義が存在しません。 %1 '%2' は無視されます。	Variable definition does not exist in local MIB. %1 All variables like '%2' will be ignored.	[意味] MIBに定義が存在しませんでした。定義は無視されます。 %1:エラーメッセージ %2:OID [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
4750 DSA4750E	エラー	SQLPLUS_PARSER: 不当なパラメタで関数がコールされました。	SQLPLUS_PARSER: function is called with invalid parameters.	[意味] 不当なパラメーターで関数がコールされました。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
4751 DSA4751E	エラー	SQLPLUS_PARSER: パラメタ '%1' が指定されていないか、正しくありません。	SQLPLUS_PARSER: the configuration parameter '%1' is not specified or is incorrect.	[意味] パラメーターが指定されていないか正しくありません。 %1:パラメーター [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
4752 DSA4752E	エラー	SQLPLUS_PARSER: パラメタ '%1' が長すぎます。	SQLPLUS_PARSER: the configuration parameter '%1' is too long.	[意味] パラメーターが長すぎます。 %1:パラメーター [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
4753 DSA4753E	エラー	SQLPLUS_PARSER: パスワードの復号に失敗しました。	SQLPLUS_PARSER: failed to decrypt the password.	[意味] Oracleアクセスのパスワードの復号に失敗しました。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
4754	エラー	SQLPLUS PARSE: メモリが不足しています。	SQLPLUS PARSE: not enough memory.	[意味] メモリ不足が発生しました。 [対処方法] システムでメモリ枯渇が発生していた場合には、枯渇状態を解消してください。 それ以外の場合には、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA4754E				
5300	エラー	メモリの獲得に失敗しました。	Failed to allocate memory block: out of memory.	[意味] メモリの獲得に失敗しました。 [対処方法] システムでメモリ枯渇状態が発生していた場合には枯渇状態を解消してください。それ以外の場合には保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA5300E				
5301	エラー	不当なパラメタ: %1	Invalid parameter: %1.	[意味] 不当なパラメーターです。 %1:パラメーター [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA5301E				
5302	エラー	%1 パラメタが指定されていません。	%1 parameter was not specified.	[意味] パラメーターが指定されていません。 %1:パラメーター名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA5302E				
5303	エラー	データベースのオープンに失敗しました。 PDB database: %1	Failed to open PDB database: %1.	[意味] データベースのオープンに失敗しました。 %1:データベース名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA5303E				
5304	エラー	データベース定義の読み込みに失敗しました。 - system_database table	Failed to read the PDB database configuration from the system_database table.	[意味] データベース定義の読み込みに失敗しました。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA5304E				

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
5305	エラー	データベースの作成に失敗しました。SQL file execution failed: %1	Failed to create PDB database, SQL file execution failed: %1.	[意味] データベースの作成に失敗しました。 %1:データベース名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA5305E				
5306	エラー	内部エラー: %1	Internal error: %1.	[意味] 内部エラーが発生しました。 %1:エラーコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA5306E				
5307	エラー	旧PDB内の system table が不当です。	Table system is invalid in old PDB.	[意味] 旧PDBのsystem tableが不当です。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA5307E				
5309	エラー	トランザクションの実行に失敗しました。PDB database: %1	Failed to execute transaction against the PDB database: %1.	[意味] トランザクションの実行に失敗しました。 %1:データベース名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA5309E				
5450	エラー	PDB のオープンに失敗しました。'%1': %2	Failed to open PDB database '%1': %2.	[意味] PDBのオープンに失敗しました。 %1:データベース名 %2:エラーコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA5450E				
5451	エラー	PDB の構成定義の読み込みに失敗しました。 - system_database table.	Failed to read the PDB database configuration from the system_database table.	[意味] PDBの構成定義の読み込みに失敗しました。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA5451E				
5452	エラー	PDB の削除リストの獲得に失敗しました。	Failed to obtain list of database files to delete.	[意味] PDBの削除リストの獲得に失敗しました。
DSA5452E				

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				[対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
5453 DSA5453E	エラー	PDB の削除に失敗しました。'%1': %2	Failed to delete old database file '%1': %2.	[意味] PDBの削除に失敗しました。 %1:データベース名 %2:エラーコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
5454 DSA5454E	エラー	情報の読み込みに失敗しました。 - system_tables table.	Failed to read information about PDB tables from the system_tables table.	[意味] PDBのテーブル情報の読み込みに失敗しました。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
5455 DSA5455E	エラー	テーブル '%1' の制御に失敗しました。管理タイプに誤りがあります。 %2 - Data: '%3'.	Management for table '%1' failed. Wrong data for management type %2. Data: '%3'.	[意味] 管理タイプに誤りがあるためテーブルの制御に失敗しました。 %1:テーブル名 %2:管理タイプ %3:データ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
5456 DSA5456E	エラー	テーブル '%1' の制御に失敗しました。管理タイプに誤りがあります。 %2	Management for table '%1' failed. Unknown management type %2.	[意味] 管理タイプが未知のためテーブルの制御に失敗しました。 %1:テーブル名 %2:管理タイプ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
5457 DSA5457E	エラー	テーブル '%1' の制御に失敗しました - File: '%2', SQL: '%3',Error: '%4', Management type: %5, Management data: '%6'.	Management for table '%1' in database file '%2' failed. Execution of management SQL returned error. Management SQL: '%3'. Error: '%4'. Management type: %5. Management data: '%6'.	[意味] テーブルの制御に失敗しました。 %1:テーブル名 %2:ファイル名 %3:SQL文 %4:エラーコード %5:管理タイプ

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				%6:データ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
5458 DSA5458E	エラー	メモリの獲得に失敗しました。	Failed to allocate memory block: out of memory.	[意味] メモリの獲得に失敗しました。 [対処方法] システムでメモリ枯渇状態が発生していた場合には枯渇状態を解消してください。メモリ枯渇状態が発生していない場合には、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
5459 DSA5459E	エラー	致命的なエラー: %1	Fatal error: %1	[意味] 致命的なエラーが発生しました。 %1:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
5559 DSA5559E	エラー	DSAレコード'%1'の出力に失敗しました。 - code: %2.	Failed to output DSA record '%1', code: %2.	[意味] DSAレコードの出力に失敗しました。 %1:レコード名 %2:エラーコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
5560 DSA5560E	エラー	DSAレコードの出力に失敗しました。 - DsaPutEnd(), code: %1.	Failed to output DSA records, DsaPutEnd() failed, code: %1.	[意味] DSAレコードの出力に失敗しました。 %1:エラーコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
5561 DSA5561E	エラー	systemテーブルのタイムゾーン情報の読み込みに失敗しました。	Failed to read timezone information from 'system' table in old database: %1.	[意味] systemテーブルのタイムゾーン情報の読み込みに失敗しました。 %1:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
5700	情報	JMX serverに接続しました。'%1'	Successfully connected to JMX server '%1'	[意味] JMXサーバに接続しました。 %1:JNDI形式のJMXサーバURL [対処方法] 対処する必要はありません。
DSA5700I				
5726	警告	JMX serverの接続に失敗しました。%1: %2	Failed to connect to JMXserver %1: %2	[意味] JMXサーバへの接続に失敗しました。 %1:JNDI形式のJMXサーバURL %2:エラーメッセージ [対処方法] JMXサーバが停止している場合は起動してください。 起動している場合は、収集テンプレート(template.dat)に指定した、Interstage Application Server連携 (Java EE環境) またはWebLogic Server連携の以下の定義を確認してください。 • USER • PASSWORD • PORT 誤りがある場合は、修正、セットアップを行った後で、Systemwalker SQC DCM サービス/dcmdプロセスを再起動してください。
DSA5726W				
5752	エラー	—	Failed to load configuration file %1: %2	[意味] 設定ファイルのオープンに失敗しました。 %1:ファイル名 %2:エラーメッセージ [対処方法] %2 (エラーメッセージ) に「Failed to decrypt password.」が含まれている場合は、収集テンプレート(template.dat)に指定した、Interstage Application Server連携 (Java EE環境) またはWebLogic Server連携の以下の定義を確認してください。 • PASSWORD
DSA5752E				

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				誤りがある場合は、修正、セットアップを行った後で、Systemwalker SQC DCM サービス/dcmdプロセスを再起動してください。 それ以外の場合は、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
5753	エラー	JMX serverの接続に失敗しました。%1: %2	Failed to connect to JMX server %1: %2	[意味] JMXサーバへの接続に失敗しました。 %1:JNDI形式のJMXサーバURL %2:エラーメッセージ [対処方法] ・ 収 集 テ ン プ レ ー ト (template.dat) に 指 定 し た 、 Interstage Application Server 連携 (Java EE 環境) または WebLogic Server 連携の以下の定義を確認してください。 — USER — PASSWORD — PORT 誤りがある場合は、修正、セットアップを行った後で、Systemwalker SQC DCM サービス/dcmdプロセスを再起動してください。 ・ 上記以外の場合は、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA5753E				
5758	エラー	REST serviceの接続に失敗しました。%1 : %2	Failed to connect to REST service %1: %2	[意味] %1:URL %2:HTTP status code [対処方法] ・ 収 集 テ ン プ レ ー ト (template.dat) に 指 定 し た 、 Interstage Application Server 連携 (Java EE 環境) の以下の定義を確認してください。 — USER — PASSWORD
DSA5758E				

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				誤りがある場合は、修正、セットアップを行った後で、Systemwalker SQC DCMサービス/dcmdプロセスを再起動してください。 上記以外の場合は、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
5759	エラー	REST serviceの接続に失敗しました。 %1	Failed to connect to REST service %1	[意味] %1:URL [対処方法] Interstageの各サービス/デーモンが起動していない場合、または、監視対象のIJServer クラスタが起動していない場合は起動させてください。 それ以外の場合は、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA5759E				
5800	情報	データベースの作成に成功しました。	PDB database is created successfully	[意味] データベースの作成に成功しました。 [対処方法] 対処する必要はありません。
DSA5800I				
5826	警告	データベースのアクセスに失敗しました。 %1 秒ごとにリトライします: %2	Failed to access PDB database, will retry each %1 seconds: %2	[意味] PDBのアクセスでエラーが発生しました。 %1:リトライ間隔(秒) %2:エラーメッセージ [対処方法] 内部リトライにより復旧した場合は、対処は不要です。 内部リトライで復旧せず、本メッセージが出力され続ける場合は、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA5826W				
5827	警告	トランザクションの実行に失敗しました。データベースを再オープンします。Error: %1	Failed to execute transaction against the PDB database. Now trying to re-open the database. Error: %1	[意味] PDBに対するトランザクションの実行に失敗しました。 %1:エラーメッセージ [対処方法] 通常はPDBヘレコードを書き込む時にエラーが発生した場合に出力されます。 エラーメッセージが“database is locked”の場合、収集デー
DSA5827W				

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				タの書き込みとコンテンツ表示の読み出しが競合した場合に時々出力されますが、頻発しなければ問題ありません。 それ以外の場合には、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
5850 DSA5850E	エラー	SQLファイル '%1' のオープンに失敗しました。: %2.	Failed to open SQL file '%1': %2.	[意味] SQLファイルのオープンに失敗しました。 %1:ファイル名 %2:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
5851 DSA5851E	エラー	SQLファイル '%1' の読み込みに失敗しました。: %2.	Failed to read SQL file '%1': %2.	[意味] SQLファイルの読み込みに失敗しました。 %1:ファイル名 %2:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
5852 DSA5852E	エラー	メモリの獲得に失敗しました。	Failed to allocate memory block: out of memory.	[意味] メモリの獲得に失敗しました。 [対処方法] システムでメモリ枯渇状態が発生していた場合には枯渇状態を解消してください。メモリ枯渇状態が発生していない場合には、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
5853 DSA5853E	エラー	アクセス/作成に失敗しました。 - PDB database directory '%1': %2	Failed to access/create PDB database directory '%1': %2	[意味] PDBのディレクトリのアクセスまたは作成に失敗しました。 %1:ディレクトリ名 %2:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
5854 DSA5854E	エラー	データベースのオープンに失敗しました。 PDB database: %1	Failed to open PDB database: %1	[意味] データベースのオープンに失敗しました。 %1:データベース名

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				[対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
5855 DSA5855E	エラー	致命的なエラー: %1	Fatal error: %1	[意味] 致命的なエラーが発生しました。 %1:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
5856 DSA5856E	エラー	データベース例外: %1	Database exception: %1	[意味] データベース例外が発生しました。 %1:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
5857 DSA5857E	エラー	database_type パラメータに無効なデータベース種別が指定されました。	An unsupported database type is specified in the database_type parameter.	[意味] database_type パラメーターの指定に誤りがあります。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
5858 DSA5858E	エラー	データベースの作成でタイムアウトが発生しました。 %1	Exceeded wait timeout for the PDB databaser to be created. %1	[意味] PDBの作成タイムアウトを超えました。 %1:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
5859 DSA5859E	エラー	データベース定義の読み込みに失敗しました。 - system_database table	Failed to read the PDB database configuration from the system_database table	[意味] PDBの定義の読み込みに失敗しました。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
5860 DSA5860E	エラー	テーブル情報の読み込みに失敗しました。 - system_tables table	Failed to read the PDB database tables information from the system_tables table	[意味] PDBのテーブル情報の読み込みに失敗しました。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
5861	エラー	制御レコードの処理に失敗しました。	Error processing an input DSA record	[意味] 制御レコードの処理に失敗しました。
DSA5861E				[対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
5862	エラー	制御レコードの受信に失敗しました。	Failed to receive an input DSA record	[意味] 制御レコードの受信に失敗しました。
DSA5862E				[対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
5863	エラー	トランザクションの実行に失敗しました。PDB database: %1	Failed to execute transaction against the PDB database: %1	[意味] トランザクションの実行に失敗しました。
DSA5863E				%1:データベース名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
5864	エラー	データベースの切り離しに失敗しました。 "%1": %2	Failed to detach database "%1": %2	[意味] PDBのファイル切り離しに失敗しました。
DSA5864E				%1:データベースファイル名 %2:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
5865	エラー	システム登録に失敗しました。PDB database: %1	Failed to execute system register SQL against the PDB database: %1	[意味] PDBのsystemテーブルへのシステム登録に失敗しました。
DSA5865E				%1:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
5866	エラー	データベースの組み込みに失敗しました。 "%1": %2.	Failed to attach database "%1": %2.	[意味] PDBのファイル組み込みに失敗しました。
DSA5866E				%1:データベースファイル名 %2:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
5867	エラー	システム機能 '%1' が失敗しました: %2	System function '%1' failed: %2	[意味] システム機能が失敗しました。 %1:機能名 %2:エラーコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA5867E				
6025	警告	ディレクトリの変更はできません。: %1	Unable to change directory to %1	[意味] ディレクトリの変更はできません。 %1:ディレクトリ名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA6025W				
6050	エラー	Msgmanageが起動できません。システムコール %1 が次のエラーで失敗しました。 %2	Cannot start msgmanage. %1 system call failed with the following error: %2	[意味] Msgmanageの起動ができません。 %1:システムコール名 %2:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA6050E				
6051	エラー	書き込みができません。アクセス権を確認してください。: pid file (%1)	Cannot write pid file (%1). Check file permissions.	[意味] ファイルの書き込みができません。 %1:pidファイル名 [対処方法] ファイルの格納先ディレクトリのアクセス権を確認して、アクセス権を付与してください。 上記の対処で解決できない場合は、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA6051E				
6052	エラー	コマンドラインのパラメータに誤りがあります。停止します。	Errors in command line arguments. Stopping.	[意味] コマンドラインのパラメーターに誤りがあります。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA6052E				
6053	エラー	定義ファイル '%1' の読み込みに失敗しました。: %2	Failed to load configuration file '%1': %2	[意味] 定義ファイルの読み込みに失敗しました。 %1:定義ファイル名
DSA6053E				

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				%2:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
6054 DSA6054E	エラー	%1' は定義されていません。	%1' variable is not defined.	[意味] 必要なパラメーターが定義されていません。 %1:定義名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
6055 DSA6055E	エラー	TIS session のオープンに失敗しました。 %1	Failed to open TIS session. %1	[意味] TISセッションのオープンに失敗しました。 %1:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
6056 DSA6056E	エラー	TIS の処理でエラーが発生しました。 %1	Error processing record with TIS. %1	[意味] TISの処理でエラーが発生しました。 %1:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
6101	エラー	監視項目(%3)の値が上方異常レベルを上回りました。(資源名: %2, 測定値:%5, しきい値:%6, 検出回数:%7, 検出基準回数:%8	Monitoring value of Object(%3) is above than upper error level. (Device Name:%2, Detect Value:%5, Threshold Value:%6, Detect Times:%7, Detect Check Times:%8)	[意味] 監視項目の値が上方異常レベルを上回りました。 ※%2には、「ホスト名:リソースID」が表示されます。 [対処方法] しきい値監視のメッセージです。運用環境に合わせて対処してください。
		監視項目(%3)の値が下方異常レベルを下回りました。(資源名: %2, 測定値:%5, しきい値:%6, 検出回数:%7, 検出基準回数:%8	Monitoring value of Object(%3) is below than lower error level. (Device Name:%2, Detect Value:%5, Threshold Value:%6, Detect Times:%7, Detect Check Times:%8)	[意味] 監視項目の値が下方異常レベルを下回りました。 ※%2には、「ホスト名:リソースID」が表示されます。 [対処方法] しきい値監視のメッセージです。運用環境に合わせて対処してください。
6102	警告	監視項目(%3)の値が上方警告レベルを上	Monitoring value of Object(%3) is above than	[意味]

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
		回りました。(資源名:%2, 測定値:%5, しきい値:%6, 検出回数:%7, 検出基準回数:%8)	upper warning level. (Device Name:%2, Detect Value:%5, Threshold Value:%6, Detect Times:%7, Detect Check Times:%8)	監視項目の値が上方警告レベルを上回りました。 ※%2には、「ホスト名:リソースID」が表示されます。 [対処方法] しきい値監視のメッセージです。運用環境に合わせて対処してください。
		監視項目(%3)の値が下方警告レベルを下回りました。(資源名:%2, 測定値:%5, しきい値:%6, 検出回数:%7, 検出基準回数:%8)	Monitoring value of Object(%3) is below than lower warning level. (Device Name:%2, Detect Value:%5, Threshold Value:%6, Detect Times:%7, Detect Check Times:%8)	[意味] 監視項目の値が下方警告レベルを下回りました。 ※%2には、「ホスト名:リソースID」が表示されます。 [対処方法] しきい値監視のメッセージです。運用環境に合わせて対処してください。
6103	情報	監視項目(%3)の値が上方異常レベルを下回りました。(資源名:%2, 測定値:%5, しきい値:%6, 検出回数:%7, 検出基準回数:%8)	Monitoring value of Object(%3) is below than upper error level. (Device Name:%2, Detect Value:%5, Threshold Value:%6, Detect Times:%7, Detect Check Times:%8)	[意味] 監視項目の値が上方異常レベルを下回りました。 ※%2には、「ホスト名:リソースID」が表示されます。 [対処方法] しきい値監視のメッセージです。運用環境に合わせて対処してください。
		監視項目(%3)の値が下方異常レベルを上回りました。(資源名:%2, 測定値:%5, しきい値:%6, 検出回数:%7, 検出基準回数:%8)	Monitoring value of Object(%3) is above than lower error level. (Device Name:%2, Detect Value:%5, Threshold Value:%6, Detect Times:%7, Detect Check Times:%8)	[意味] 監視項目の値が下方異常レベルを上回りました。 ※%2には、「ホスト名:リソースID」が表示されます。 [対処方法] しきい値監視のメッセージです。運用環境に合わせて対処してください。
		監視項目(%3)の値が上方警告レベルを下回りました。(資源名:%2, 測定値:%5, しきい値:%6, 検出回数:%7, 検出基準回数:%8)	Monitoring value of Object(%3) is below than upper warning level. (Device Name:%2, Detect Value:%5, Threshold Value:%6, Detect Times:%7, Detect Check Times:%8)	[意味] 監視項目の値が上方警告レベルを下回りました。 ※%2には、「ホスト名:リソースID」が表示されます。 [対処方法] しきい値監視のメッセージです。運用環境に合わせて対処してください。
		監視項目(%3)の値が下方警告レベルを上回りました。(資源名:%2, 測定値:%5, しきい値:%6, 検出回数:%7, 検出基準回数:%8)	Monitoring value of Object(%3) is above than lower warning level. (Device Name:%2,	[意味] 監視項目の値が下方警告レベルを上回りました。

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
		値:%6, 検出回数:%7, 検出基準回数:%8)	Detect Value:%5, Threshold Value:%6, Detect Times:%7, Detect Check Times:%8)	※%2には、「ホスト名:リソース ID」が表示されます。 [対処方法] しきい値監視のメッセージで す。運用環境に合わせて対 処してください。
6302	エラー	設定ファイルに誤りが あります。(file='%1', line=%2)	Syntax error is found inside definition file. (file='%1', line=%2)	[意味] 設定ファイルに誤りがあります。 %1:ファイル名 %2:行番号 [対処方法] 設定ファイルの表示された行 に誤りがないか確認し、修正 してください。収集ポリシーの 作成時に出力された場合は 収集ポリシーを再度作成して ください。対処後も同じメッ セージが出力される場合は、 保守情報を採取し技術員に 連絡してください。
6303	警告	subsystem %1 が動作 していません。	subsystem %1 is inactive.	[意味] サブシステムが動作していま せん。 %1:サブシステム名 [対処方法] 処理は継続されます。動作し ていないサブシステムについ てデータ収集する必要がある か見直してください。収集する 必要がある場合は特に対処 する必要がありません。収集 する必要がない場合は設定 ファイル(jla.ini)から subsystem %1の指定を削除 してください。
6304	警告	Systemwalker Operation Manager の ログを正しく認識できな いため、無視します。 (log='%1')	Systemwalker Operation Manager's log can not be recognized. So it is ignored.(log='%1')	[意味] Systemwalker Operation Managerのログを正しく認識 できないため無視します。 %1:ログファイル名 [対処方法] 処理は継続されます。頻繁に 出力される場合は、保守情報 を採取し技術員に連絡してく ださい。
6305	エラー	ファイルに関する処理 に失敗したため JLA	File operation failed so JLA stopped. (detail='%1', errno=%2)	[意味]

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
		が停止しました。(詳細=%1', errno=%2)		ファイルに関する処理に失敗したため、Systemwalker Operation Manager連携機能が停止しました。 %1:詳細情報 %2:エラーコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
6306	エラー	言語コード変換処理に失敗したため JLA が停止しました。(詳細=%1', errno=%2)	Language code conversion failed so JLA stopped.(detail='%1', errno=%2)	[意味] 言語コード変換処理に失敗したため、Systemwalker Operation Manager連携機能が停止しました。 %1:詳細情報 %2:エラーコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
6307	エラー	異常が発生したため処理を停止しました。(詳細=%1', errno=%2)	An error occurred so JLA stopped.(detail='%1', errno=%2)	[意味] 異常が発生したため、Systemwalker Operation Manager連携機能の処理を停止しました。 %1:詳細情報 %2:エラーコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
6350	エラー	[service%1] エラーが発生したため、トランザクションログ監視エンジンを停止しました。%2	[service%1] Transaction Log watcher engine stopped, because an error occurred.%2	[意味] エラーが発生したためトランザクションログ監視エンジンを停止しました。 %1:サービス名 %2:エラーメッセージ [対処方法] トランザクションログ監視エンジンの環境設定および定義ファイルに誤りがないか確認してください。誤りがない場合は、可変ファイル格納ディレクトリ下の「log」ディレクトリに存在するファイルを採取し、技術員に連絡してください。
6351	エラー	トランザクションログ定義ファイルの読出しに	Can not read the transaction log watcher	[意味]

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
		失敗しました。(行番号=%1, コード=%2)	definition file. (line=%1, code=%2)	トランザクションログ定義ファイルの読出しに失敗しました。 %1:行番号 %2:エラーコード [対処方法] トランザクションログ定義ファイルの%1で示される行番号に、%2に示される以下のコードに対応する誤りがないか確認してください。 102: ファイル・ストリームからの文字列の読取りに失敗しました。 200: ブロック名が正しくありません。 201: 不当なブロック名が指定されました。 300: 不当な値が指定されました。 301: ワイルドカードの指定方法に誤りがあります。 302: 不当な文字が指定されています。 303: 定義文字数が長すぎます。 307: 値が指定されていません。 310: 指定形式に誤りがあります。 311: 指定可能な定義回数を超過しました。 312: 指定値が重複しています。 400: パラメーター名が正しくありません。 401: 不当なパラメーターが指定されました。 402: 必須の定義文が指定されていません。 500: シンボル名が正しくありません。 501: 必須トークンが指定されていません。 502: 定義文が指定されていません。 900: メモリ獲得に失敗しました。

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				誤りがない場合には、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
6352	エラー	[service%1] ログファイル '%2'の読出しに失敗しました。 %3	[service%1] Can not read a log file, '%2'.%3	[意味] トランザクションログファイルの読出しに失敗しました。 %1:サービス名 %2:ログファイル名 %3:エラーメッセージ [対処方法] トランザクションログ定義ファイルに指定されたログファイルの設定に誤りがないか確認してください。誤りがない場合は、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
6353	エラー	[service%1] ログファイル '%2'の読出しで、ログ形式との不一致が連続して発生しました。 %3	[service%1] Invalid log form detected in a log file '%2', continuously.%3	[意味] トランザクションログファイルの読出しでログ形式との不一致が連続して発生しました。 %1:サービス名 %2:ログファイル名 %3:エラーメッセージ [対処方法] トランザクションログ定義ファイルに指定されたログ形式の設定に誤りがないか確認してください。誤りがない場合は、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
7053	エラー	レコード処理に失敗しました。 %1	Record processing failed. %1	[意味] レコードの処理に失敗しました。 %1:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA7053E				
7125	警告	bad ファイルのオープンに失敗しました。 定義パラメタ 'bad_file_dir' と 'bad_file_name' が正しく定義されているか、確認してください bad ファイルのロギングを中止します。	Failed to open the "bad" file. Verify that the configuration parameters 'bad_file_dir' and 'bad_file_name' are specified correctly. "Bad" file logging is disabled.	[意味] Badファイルのオープンに失敗しました。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA7125W				

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
7150	エラー	定義パラメタ '%1' が正しくありません。	The configuration parameter '%1' is incorrect.	[意味] 定義パラメーターに誤りがあります。 %1:パラメーター名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA7150E				
7151	エラー	TISセッションのオープンに失敗しました。 %1	Failed to open a TIS session. %1	[意味] TISセッションのオープンに失敗しました。 %1:エラーコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA7151E				
7152	エラー	出力レコードの書き込みに失敗しました。	Failed to write output records.	[意味] 出力レコードの書き込みに失敗しました。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA7152E				
7153	エラー	システムコールが失敗しました。 Method: %1 Parameter: %2 Error: %3 %4	A system call failed. Method: %1 Parameter: %2 Error: %3 %4	[意味] システムコールに失敗しました。 %1:メソッド %2:パラメーター %3:エラー %4:メッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA7153E				
7154	エラー	レコード '%1' がTISのレコード定義内に見つかりません。	The record %1 was not found in the TIS record definitions.	[意味] TISのレコード定義内にレコードが見つかりません。 %1:レコード名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA7154E				
7155	エラー	TISのプロパティに誤りがあります。 Property name: %1 TIS record definition: %2	A required TIS property is missing. Property name: %1 TIS record definition: %2	[意味] TISのプロパティに誤りがあります。 %1:プロパティ名 %2:レコード名/フィールド名
DSA7155E				

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				[対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
7156 DSA7156E	エラー	TISのプロパティに無効な値があります。 Property name: %1 TIS record definition: %2	A TIS property contains an invalid value. Property name: %1 TIS record definition: %2	[意味] TISのプロパティに無効な値があります。 %1:プロパティ名 %2:レコード名/フィールド名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
7157 DSA7157E	エラー	フィールドがレコード '%1' に定義されていません。	No counter fields are defined for the record %1.	[意味] フィールドがレコードに定義されていません。 %1:レコード名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
7158 DSA7158E	エラー	Agentに接続できません。 Agent: %1 Error: %2 %3	Unable to connect to agent. Agent: %1 Error: %2 %3	[意味] Agentに接続できません。 %1:Agent名 %2:エラーコード %3:メッセージ [対処方法] %1のAgentに接続できなかった場合に出力されます。 インストールレス型Agent管理機能についての設定に誤りがないか、ネットワークの状態が不安定でないか、または、被監視サーバが高負荷状態でないかを確認してください。 それ以外の場合には、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
7159 DSA7159E	エラー	Agentのリフレッシュ処理に失敗しました。 Agent: %1 Error: %2 %3	Refresh method failed for agent. Agent: %1 Error: %2 %3	[意味] Agentのリフレッシュ処理に失敗しました。 %1:Agent名 %2:エラーコード %3:メッセージ [対処方法]

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				保守情報を採取し技術員に連絡してください。
7160	エラー	WMIクラスがAgentから抽出できません。	WMI class cannot be extracted from agent.	[意味] WMIクラスがAgentから抽出できません。 %1:WMIのクラス名 %2:Agent名 %3:エラーコード %4:メッセージ [対処方法] %2のAgentについて、WMIで監視することができない項目があります。収集できない項目については、「付録A インストールレス型Agent(WMI通信)の収集項目とWMIカウンタの対応一覧」を参照してください。 イベントの監視を行っている場合は抑止を検討してください。
DSA7160E		Class: %1 Agent: %2 Error: %3 %4	Class: %1 Agent: %2 Error: %3 %4	
7161	エラー	WMIカウンタがAgentから抽出できません。	WMI counter cannot be extracted from agent.	[意味] WMIカウンタがAgentから抽出できません。 %1:WMIのカウント名 %2:WMIのクラス名 %3:Agent名 %4:エラーコード %5:メッセージ [対処方法] %3のAgentについて、WMIで監視することができない項目があります。収集できない項目については、「付録A インストールレス型Agent(WMI通信)の収集項目とWMIカウンタの対応一覧」を参照してください。 イベントの監視を行っている場合は抑止を検討してください。
DSA7161E		Counter: %1 Class: %2 Agent: %3 Error: %4 %5	Counter: %1 Class: %2 Agent: %3 Error: %4 %5	
7162	エラー	WMIカウンタは数値または文字列ではありません。	WMI counter is not a number or a string.	[意味] WMIカウンタは数値または文字列ではありません。 %1:WMIのカウント名 %2:WMIのクラス名
DSA7162E		Counter: %1 Class: %2	Counter: %1 Class: %2 Agent: %3	

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
		Agent: %3		%3:Agent名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
7163	エラー	Agentからデータを抽出できません。	Unable to extract data from agent.	[意味] Agentからデータを抽出できません。 %1:Agent名 %2:エラーコード %3:メッセージ [対処方法] %1のAgentについて、WMIからデータを抽出できない場合に出力されます。 WMIの設定に誤りがないか、ネットワークの状態が不安定でないか、または、被監視サーバが高負荷状態でないかを確認してください。 それ以外の場合には、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA7163E		Agent: %1 Error: %2 %3	Agent: %1 Error: %2 %3	
7164	エラー	以下のカウンタに必要なWMIの権限の取得に失敗しました。	Failed to obtain WMI qualifiers for the following counter.	[意味] 以下のカウンタに必要なWMIの権限の取得に失敗しました。 %1:WMIのカウンタ名 %2:WMIのクラス名 %3:Agent名 %4:エラーコード %5:メッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA7164E		Counter: %1 Class: %2 Agent: %3 Error: %4 %5	Counter: %1 Class: %2 Agent: %3 Error: %4 %5	
7165	エラー	WMIカウンタのタイプが不当です。	WMI counter has invalid type.	[意味] WMIカウンタのタイプが不当です。 %1:WMIのカウンタ名 %2:WMIのクラス名 %3:Agent名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA7165E		Counter: %1 Class: %2 Agent: %3	Counter: %1 Class: %2 Agent: %3	

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
7166	エラー	WMIベースカウンタがAgentから抽出できません。 Counter: %1 Class: %2 Agent: %3 Error: %4 %5	WMI "base" counter cannot be extracted from agent. Counter: %1 Class: %2 Agent: %3 Error: %4 %5	[意味] WMIベースカウンタがAgentから抽出できません。 %1:WMIのカウント名 %2:WMIのクラス名 %3:Agent名 %4:エラーコード %5:メッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA7166E				
7167	エラー	データ収集時間がサンプル間隔を超えました。 'sample_interval'パラメータの設定変更を検討してください。 詳細はbad ファイルを参照してください。	Data collection took more time than the sample interval. Consider increasing the 'sample_interval' configuration parameter. Check the "bad" file for more details.	[意味] データ収集時間がサンプル間隔を超えました。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA7167E				
7200	情報	SAFデータベースの作成に成功しました。	SAF database is created successfully	[意味] SAFデータベースの作成に成功しました。 [対処方法] 対処する必要はありません。
DSA7200I				
7226	警告	SAFデータベースへのアクセスに失敗しました。リトライ間隔=%1秒: %2	Failed to access SAF database, will retry each %1 seconds: %2	[意味] SAFデータベースのアクセスでエラーが発生しました。 %1:リトライ間隔(秒) %2:エラーメッセージ [対処方法] 内部リトライにより復旧した場合は、対処は不要です。 内部リトライで復旧せず、本メッセージが出力され続ける場合は、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA7226W				
7227	警告	SAFデータベースのトランザクションの実行に失敗しました。データベースを再オープンします。エラー: %1	Failed to execute transaction against the SAF database. Now trying to re-open the database. Error: %1	[意味] SAFデータベースに対するトランザクションの実行に失敗しました。 %1:エラーメッセージ [対処方法]
DSA7227W				

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				内部処理の再オープンにより復旧した場合は、対応は不要です。 再オープンで復旧せず、本メッセージが出力され続ける場合は、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
7228 DSA7228W	警告	SAFデータベースからレコードの取得に失敗しました。データベースを再オープンします。 エラー: %1	Failed to obtain forward records from SAF database. Now trying to re-open the database. Error: %1	[意味] SAFデータベースからレコードの取得に失敗しました。 %1:エラーメッセージ [対処方法] 内部処理の再オープンにより復旧した場合は、対応は不要です。 再オープンで復旧せず、本メッセージが出力され続ける場合は、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
7250 DSA7250E	エラー	SQLファイル '%1' のオープンに失敗しました。: %2.	Failed to open SQL file '%1': %2.	[意味] SQLファイルのオープンに失敗しました。 %1:ファイル名 %2:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
7251 DSA7251E	エラー	SQLファイル '%1' の読み込みに失敗しました。: %2.	Failed to read SQL file '%1': %2.	[意味] SQLファイルの読み込みに失敗しました。 %1:ファイル名 %2:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
7252 DSA7252E	エラー	database_typeパラメタに無効なデータベース種別が指定されました。	An unsupported database type is specified in the database_type parameter.	[意味] database_typeパラメーターの指定に誤りがあります。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
7253 DSA7253E	エラー	アクセス/作成に失敗しました。- SAF database directory '%1': %2	Failed to access/create SAF database directory '%1': %2	[意味] SAFデータベースのディレクトリのアクセスまたは作成に失敗しました。

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				%1:ディレクトリ名 %2:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
7254 DSA7254E	エラー	制御レコードの処理に失敗しました。	Error processing an input DSA record	[意味] 制御レコードの処理に失敗しました。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
7255 DSA7255E	エラー	制御レコードの受信に失敗しました。	Failed to receive an input DSA record	[意味] 制御レコードの受信に失敗しました。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
7256 DSA7256E	エラー	メモリの獲得に失敗しました。	Failed to allocate memory block: out of memory.	[意味] メモリの獲得に失敗しました。 [対処方法] システムでメモリ枯渇状態が発生していた場合には枯渇状態を解消してください。メモリ枯渇状態が発生していない場合には、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
7257 DSA7257E	エラー	データベースで例外が発生しました。: %1	Database exception: %1	[意味] データベース例外が発生しました。 %1:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
7258 DSA7258E	エラー	致命的なエラー: %1	Fatal error: %1	[意味] 致命的なエラーが発生しました。 %1:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
7259 DSA7259E	エラー	トランザクションの実行に失敗しました。SAF database: %1	Failed to execute transaction against the SAF database: %1	[意味] SAFデータベースに対するトランザクションの実行に失敗しました。

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				%1:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
7260 DSA7260E	エラー	定義ファイル '%1' のロードに失敗しました。: %2 %3	Failed to load module config file '%1': %2 %3	[意味] 定義ファイルのロードに失敗しました。 %1:ファイル名 %2:エラーコード %3:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
7261 DSA7261E	エラー	TIS session のオープンに失敗しました。%1	Failed to open TIS session. %1	[意味] TISセッションのオープンに失敗しました。 %1:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
7262 DSA7262E	エラー	SAFデータベースからレコードの取得に失敗しました: %1	Failed to obtain forward records from SAF database: %1	[意味] SAFデータベースからレコードの取得に失敗しました。 %1:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
7263 DSA7263E	エラー	'%1' の処理が失敗しました: %2	DSA library function %1 failed. %2	[意味] 処理が失敗しました。 %1:処理名 %2:エラーコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
7553 DSA7553E	エラー	レコード処理に失敗しました。%1	Record processing failed. %1	[意味] レコードの処理に失敗しました。 %1:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
8025	警告	bad ファイルのオープンに失敗しました。	Failed to open the 'bad' file.	[意味] Badファイルのオープンに失敗しました。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA8025W		定義パラメタ 'bad_file_dir' と 'bad_file_name' が正しく定義されているか、確認してください bad ファイルのロギングを中止します。	Verify that the configuration parameters 'bad_file_dir' and 'bad_file_name' are specified correctly. 'Bad' file logging is disabled.	
8026	警告	サーバアドレス情報の獲得に失敗しました。	Failed to obtain server address info for server=	[意味] サーバのアドレスの取得に失敗しました。 %1:サーバ名 %2:エラーメッセージ [対処方法] 接続アカウント定義ファイルで設定した接続先サーバのホスト名に誤りがある場合、修正してください。ホスト名に誤りがない場合、接続先サーバのホスト名をIPアドレスで指定してください。 上記対処で問題を解決することができない場合、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA8026W		server= '%1' SERVER IS IGNORED %2	%1. SERVER IS IGNORED %2	
8027	警告	サーバへの接続ができません。 %1. %2.	Unable to connect to the server %1. %2.	[意味] サーバに接続できませんでした。 %1:サーバ名 %2:システムコール %3:エラーメッセージ [対処方法] ・接続アカウント定義ファイルもしくはリモート監視定義ファイルで設定した接続先サーバの情報に誤りがないか、確認してください。誤りがある場合、修正、セットアップを行ってください。 ・定義ファイルで設定した接続先サーバあるいはサービスが停止している場合、起動してください。 上記対処で問題を解決することができない場合、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA8027W		%3	%3	

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
8028	警告	サーバへのデータ転送ができません。%1. %2	Unable to transmit data to the server %1. %2	[意味] サーバにデータを転送できませんでした。 %1:サーバ名 %2:エラーメッセージ [対処方法] 接続アカウント定義ファイルで設定した接続先サーバあるいはサービスが停止している場合、起動してください。 それ以外の場合には、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA8028W				
8029	警告	サーバからデータを受信できません。%1. %2	Unable to receive data to the server %1. %2	[意味] サーバからデータを受信できませんでした。 %1:サーバ名 %2:エラーメッセージ [対処方法] 接続アカウント定義ファイルで設定した接続先サーバあるいはサービスが停止している場合、起動してください。 それ以外の場合には、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA8029W				
8030	警告	サーバとの接続が切断されました。%1.	server %1 disconnects.	[意味] サーバとの接続が切断されました。 %1:サーバ名 [対処方法] - 使用手引書「インストールレス型Agent管理」- 「■通信方式」の注意事項を確認してください。 - 接続アカウント定義ファイルで設定した接続先サーバあるいはサービスが停止している場合、起動してください。 - インストールレス型Agent管理の被監視サーバの設定が正しく行われているか確認してください。 上記対処で問題を解決することができない場合、保守情報
DSA8030W				

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				を採取し技術員に連絡してください。
8031	警告	ファイルのオープンに失敗しました。 %s.	Failed to open file %s.	[意味] ファイルをオープンできませんでした。 %s:ファイル名 [対処方法] ファイルをエディタなどで開いている場合、ファイルを閉じてください。 それ以外の場合には、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA8031W				
8032	警告	サーバ '%1' の接続エラーまたはタイムアウトが発生しました。	Connect error or timeout for server=%1	[意味] サーバの接続エラーまたはタイムアウトが発生しました。 %1:サーバ名 [対処方法] ・接続アカウント定義ファイルもしくはリモート監視定義ファイルで設定した接続先サーバの情報の誤りがないか、確認してください。誤りがある場合、修正、セットアップを行ってください。 ・定義ファイルで設定した接続先サーバあるいはサービスが停止している場合、起動してください。 上記対処で問題を解決することができない場合、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA8032W				
8033	警告	%1 SOCKET エラー: %2	%1 SOCKET error: %2	[意味] ソケットエラーです。 %1:システムコール %2:エラーメッセージ [対処方法] ・接続アカウント定義ファイルもしくはリモート監視定義ファイルで設定した接続先サーバの情報の誤りがないか、確認してください。誤りがある場合、修正、セットアップを行ってください。 ・定義ファイルで設定した接続先サーバあるいはサービス
DSA8033W				

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				が停止している場合、起動してください。 上記対処で問題を解決することができない場合、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
8050 DSA8050E	エラー	ファイルに'command_file'パラメタ、または、コマンドが指定されていません。	command_file parameter is not specified or no commands are specified in the file.	[意味] command_fileパラメーターの指定に誤りがあります。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
8051 DSA8051E	エラー	%1から読み込みエラー	Error reading from %1.	[意味] 読み込みエラー %1:パラメーター [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
8052 DSA8052E	エラー	serverパラメタがありません。	No server parameter(s).	[意味] Serverパラメーターが指定されていません。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
8053 DSA8053E	エラー	server '%1' のパラメタにportが指定されていません。または、portが無効です。	port is not specified in the parameter server=%1 or port is invalid.	[意味] portパラメーターの指定に誤りがあります。 %1:サーバ名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
8054 DSA8054E	エラー	server '%1' のパラメタにloginが指定されていません。	login is not specified in the parameter server=%1.	[意味] loginパラメーターの指定に誤りがあります。 %1:サーバ名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
8055 DSA8055E	エラー	server '%1' のパラメタにpasswordが指定されていません。または、passwordが無効です。	password is not specified in the parameter server=%1 or password is invalid.	[意味] passwordパラメーターの指定に誤りがあります。 %1:サーバ名 [対処方法]

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				リモート監視定義ファイルで接続先サーバのログインパスワードが正しく設定されていない可能性がありますので、確認してください。 それ以外の場合には、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
8056 DSA8056E	エラー	server '%1' のパラメタのaddressが無効です。	Invalid address parameter server=%1.	[意味] passwordパラメーターの指定に誤りがあります。 %1:サーバ名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
8057 DSA8057E	エラー	メモリが不足しています。	Not enough memory.	[意味] メモリ不足が発生しました。 [対処方法] システムでメモリ枯渇が発生していた場合には、枯渇状態を解消してください。 それ以外の場合には、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
8058 DSA8058E	エラー	TIS sessionのオープンに失敗しました。 %1	Failed to open a TIS session. %1	[意味] TISセッションのオープンに失敗しました。 %1:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
8060 DSA8060E	エラー	定義パラメタ '%1' に誤りがあります。	The configuration parameter '%1' is incorrect.	[意味] 定義パラメーターが不当です。 %1:パラメーター [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
8061 DSA8061E	エラー	%1 SOCKET エラー: %2	%1 SOCKET error: %2	[意味] ソケットエラーです。 %1:システムコール %2:エラーメッセージ [対処方法] ・接続アカウント定義ファイルもしくはリモート監視定義ファイルで設定した接続先サーバ

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				の情報に誤りがないか、確認してください。誤りがある場合、修正、セットアップを行ってください。 ・定義ファイルで設定した接続先サーバあるいはサービスが停止している場合、起動してください。 上記対処で問題を解決することができない場合、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
8062 DSA8062E	エラー	server='%1' のパラメタのprotocolが無効です。	Invalid protocol parameter server=%1.	[意味] protocolパラメーターの指定に誤りがあります。 %1:サーバ名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
8063 DSA8063E	エラー	server '%1' のパラメタのIDが無効です。	Invalid ID parameter server=%1.	[意味] IDパラメーターの指定に誤りがあります。 %1:サーバ名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
8064 DSA8064E	エラー	無効なファイル名: '%1'.	Invalid file name: '%1'.	[意味] ファイル名の指定に誤りがあります。 %1:ファイル名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
8065 DSA8065E	エラー	TIS 処理に失敗しました。 %1 Record: %2	TIS processing failed. %1 Record: %2	[意味] TISの処理に失敗しました。 %1:エラーメッセージ %2:レコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
8066 DSA8066E	エラー	出力レコードの書き込みに失敗しました。	Failed to write output records.	[意味] 出力レコードの書き込みに失敗しました。 [対処方法]

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				保守情報を採取し技術員に連絡してください。
8092	エラー	サーバ '%1' の接続エラーまたはタイムアウトが発生しました。	Connect error or timeout for server=%1	[意味] サーバとの接続にエラーまたはタイムアウトが発生しました。 %1:サーバ名 [対処方法] ・接続アカウント定義ファイルもしくはリモート監視定義ファイルで設定した接続先サーバの情報の誤りがないか、確認してください。誤りがある場合、修正、セットアップを行ってください。 ・定義ファイルで設定した接続先サーバあるいはサービスが停止している場合、起動してください。 上記対処で問題を解決することができない場合、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA8092E				
8150	エラー	パラメタ '%1' が指定されていないか、または正しくありません。	%1 parameter is not specified or is invalid.	[意味] パラメーターが指定されていないか、または指定されたパラメーターが誤っています。 %1:パラメーター名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA8150E				
8151	エラー	SOAPエラー: %1 詳細: %2	SOAP error: %1 Detail: %2	[意味] SOAPエラーです。 %1:エラーメッセージ %2:詳細メッセージ(詳細メッセージがある場合のみ出力されます) [対処方法] 以下の原因が考えられます。 1.接続先サーバとの接続に使用するユーザー名、パスワードに誤りがあります。 2.接続先サーバのホスト名/IPアドレスに誤りがあります。 3.接続先サーバとの接続に使用するユーザーに、参照権限がありません。
DSA8151E				

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				4.接続先サーバとネットワーク接続ができない、または接続先サーバが停止しています。 原因が1,2の場合、接続アカウント定義ファイルまたはリモート監視定義ファイルを修正して、再度セットアップを行ってください。 原因が3の場合は、接続先サーバで、使用するユーザーに参照権限を付与してください。 原因が4の場合は、接続先サーバとのネットワーク接続を修正するか、または接続先サーバを起動してください。 上記対処で問題を解決することができない場合、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
8152	エラー	レコード '%1' がTISのレコード定義内に見つかりません。	The record %1 was not found in the TIS record definitions.	[意味] TISのレコード定義内にレコードが見つかりません。 %1:レコード名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA8152E				
8153	エラー	TISのプロパティに誤りがあります。 Property name: %1 TIS record/field name: %2	A required TIS property is missing. Property name: %1 TIS record/field name: %2	[意味] TISのプロパティに誤りがあります。 %1:プロパティ名 %2:レコード名/フィールド名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA8153E				
8154	エラー	フィールドがレコード '%1' に定義されていません。	No counter fields are defined for the record %1.	[意味] フィールドがレコードに定義されていません。 %1:レコード名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA8154E				
8155	エラー	レコード/フィールド '%3' 内のプロパティ '%1' の値 '%2' が不当です。	Invalid property '%1' value '%2' in record/field '%3'.	[意味] レコード/フィールド内のプロパティの値に誤りがあります。 %1:プロパティ名
DSA8155E				

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				%2:プロパティの値 %3:レコード名/フィールド名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
8157 DSA8157E	エラー	メモリが不足しています。	Not enough memory.	[意味] メモリ不足が発生しました。 [対処方法] システムでメモリ枯渇が発生していた場合には、枯渇状態を解消してください。 それ以外の場合には、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
8158 DSA8158E	エラー	TIS sessionのオープンに失敗しました。 %1	Failed to open a TIS session. %1	[意味] TISセッションのオープンに失敗しました。 %1:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
8160 DSA8160E	エラー	定義パラメタ '%1' に誤りがあります。	The configuration parameter '%1' is incorrect.	[意味] 定義パラメーターに誤りがあります。 %1:パラメーター名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
8165 DSA8165E	エラー	TIS 処理に失敗しました。 %1 Record: %2	TIS processing failed. %1 Record: %2	[意味] TISの処理に失敗しました。 %1:エラーメッセージ %2:レコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
8166 DSA8166E	エラー	出力レコードの書き込みに失敗しました。	Failed to write output records.	[意味] 出力レコードの書き込みに失敗しました。 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
8327	警告	認証に失敗しました (%1)。	Authentication has failed for the specified server (%1).	[意味] OpenStackの認証に失敗しました。 %1:URL [対処方法] %1のURLに接続できなかった場合に出力されます。 インストールレス型Agent管理機能についての設定に誤りがないか、ネットワークの状態が不安定でないか、または、被監視サーバが高負荷状態でないかを確認してください。 それ以外の場合には、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA8327W				
8328	警告	Telemetry serviceにアクセスできませんでした (%1)。	Telemetry service is not accessible on the specified server (%1).	[意味] OpenStack Telemetry serviceにアクセスできませんでした。 %1:URL [対処方法] %1のURLに接続できなかった場合に出力されます。 インストールレス型Agent管理機能についての設定に誤りがないか、ネットワークの状態が不安定でないか、または、被監視サーバが高負荷状態でないかを確認してください。 それ以外の場合には、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA8328W				
8329	警告	Compute serviceにアクセスできませんでした (%1)。	Compute service is not accessible on the specified server (%1).	[意味] OpenStack Compute serviceにアクセスできませんでした。 %1:URL [対処方法] %1のURLに接続できなかった場合に出力されます。 インストールレス型Agent管理機能についての設定に誤りがないか、ネットワークの状態が不安定でないか、または、被監視サーバが高負荷状態でないかを確認してください。
DSA8329W				

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				それ以外の場合には、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
8350	エラー	空きメモリが不足しました。	Out of memory.	[意味] メモリの獲得に失敗しました。 [対処方法] システムでメモリ枯渇状態が発生していた場合には枯渇状態を解消してください。 メモリ枯渇状態が発生していない場合には、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA8350E				
8351	エラー	定義パラメタ '%1' が正しくありません。	The configuration parameter '%1' is incorrect.	[意味] 定義パラメーターに誤りがあります。 %1:パラメーター名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA8351E				
8352	エラー	TISセッションのオープンに失敗しました。 %1	Failed to open a TIS session. %1	[意味] TISセッションのオープンに失敗しました。 %1:エラーコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA8352E				
8353	エラー	レコード '%1' がTISのレコード定義内に見つかりません。	The record %1 was not found in the TIS record definitions.	[意味] TISのレコード定義内にレコードが見つかりません。 %1:レコード名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA8353E				
8354	エラー	フィールドがレコード '%1' に定義されていません。	No counter fields are defined for the record %1.	[意味] フィールドがレコードに定義されていません。 %1:レコード名 [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA8354E				
8359	エラー	出力レコードの書き込みに失敗しました。	Failed to write output records.	[意味] 出力レコードの書き込みに失敗しました。
DSA8359E				

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				[対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。

5.2 Windows 固有メッセージ

本節では、Windows固有のメッセージについて説明します。

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
1251	警告	起動に失敗しました。 : DSA '%1' (%2) %3	Failed to start DSA '%1' (%2) %3	[意味] DSAの起動に失敗しました。 %1: DSA名 %2: モジュールパス %3: エラーメッセージ [対処方法] - Interstage Application Server連携 (JavaEE 環境) または WebLogicServer連携 (注) の場合 template.dat の JAVA_HOME キーに設定したパスに誤りがないか確認してください。 誤りがある場合、修正、セットアップを行った後で、Systemwalker SQCD CMサービスを再起動してください。 - 注) 以下のいずれかの場合です。 - DSA 名が "ISJMXSNSR" の場合 - DSA 名が template.dat に設定した WebLogicServer連携用のセクション名の場合 - 上記対処で問題を解決することができない場合、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
6000	情報	スケジューラが起動しました。	The scheduler function has been activated.	[意味] スケジューラが起動しました。 [対処方法] 対処する必要はありません。
6001	情報	スケジューラが停止しました。	The scheduler function has been stopped.	[意味] スケジューラが停止しました。 [対処方法]

イベントID	種別	メッセージ文(日本語)	メッセージ文(英語)	対応
				対処する必要はありません。
6002	情報	シャットダウンのためスケジューラを停止します。	The scheduler function has been stopped because of a shut-down operation.	[意味] シャットダウンのためスケジューラを停止します。 [対処方法] 対処する必要はありません。
6060	エラー	サービスの設定に失敗しました。原因コード=%1	Service setup processing has failed. Cause code = %1	[意味] サービスの設定に失敗しました。 %1:原因コード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
6061	エラー	スケジューラの起動に失敗しました。原因コード=%1	Activation of the schedule function has failed. Cause code = %1	[意味] スケジューラの起動に失敗しました。 %1:原因コード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
6062	エラー	スケジューラの停止処理で異常が発生しました。原因コード=%1	An error occurred in stop processing of scheduler function. Cause code = %1	[意味] スケジューラの停止処理で異常が発生しました。 %1:原因コード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
6063	エラー	スケジューラで異常が発生しました。関数名=%1 原因コード=%2	An error occurred during execution of scheduler function. Function name = %1, Cause code = %2	[意味] スケジューラで異常が発生しました。 %1:関数名 %2:原因コード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
6064	エラー	性能情報の収集処理で異常が発生しました。機能名=%1 原因コード=%2	An error occurred in performance information collection processing. Function name = %1, Cause code = %2	[意味] 性能情報の収集処理で異常が発生しました。 %1:機能名 %2:原因コード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。

5.3 UNIX固有メッセージ

本節では、UNIX固有のメッセージについて説明します。

イベントID	種別	メッセージ	対応
DSA0543E	Error	Bad data received from command '%1': %2	[意味] コマンドの出力結果が想定外の形式で出力された場合に出力されます。 %1:コマンド名 %2:エラーメッセージ [対処方法] エラーメッセージから対処方法が判断できる場合は対処してください。 管理対象のミドルウェアが停止している場合にも本メッセージが出力されます。業務やクラスタの運用形態に合わせて収集動作を制御したい場合は、「1.1.4 sqcMdPolicy(ポリシー一時変更コマンド)」を参照し、ポリシーの一時変更を行ってください。 それ以外の場合には、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA0557W	Warning	Bad data received from command '%1': %2	[意味] コマンドの出力結果が想定外の形式で出力された場合に出力されます。 %1:コマンド名 %2:エラーメッセージ [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA0600E	Error	Scripting error detected at line %1 in script '%2': %3	[意味] TISのスクリプトエラーが発生しました。 %1:行番号 %2:スクリプト名 %3:エラーメッセージ [対処方法] しきい値監視の定義に誤りがないか確認してください。誤りがない場合は、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA0601E	Error	Invalid SampleStart record: %1	[意味] SampleStartレコードが正しくありません。 %1:レコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
DSA0604E	Error	There is no troubleshooting route code for default group %1	[意味] トラブルシュートの定義に誤りがあります。 %1:グループ名

イベントID	種別	メッセージ	対応
			[対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
6330	Error	Syntax error was found inside definition file.(file=%1, line=%2)	[意味] 定義ファイルで構文エラーを検出しました。 %1:ファイル名 %2:行番号 [対処方法] 定義ファイルを修正してください。 定義ファイルに問題が検出できない場合には、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
6331	Error	Error occurred so stopped. (detail=%1, errno=%2)	[意味] エラーが発生しました。 %1:詳細情報 %2:エラーコード [対処方法] 保守情報を採取し技術員に連絡してください。
6332	Warning	Log can not be analyzed so it was ignored. (detail=%1, log=%2)	[意味] ログファイルが分析できません。 %1:詳細情報 %2:ログファイル名 [対処方法] ・定義ファイルでのログのフォーマット定義が正しくない可能性がありますので、定義を確認、修正してください。 ・Interstage のログが壊れている可能性がありますので確認、対処してください。 上記対処で問題を解決することができない場合、保守情報を採取し技術員に連絡してください。
6333	Information	Definition file has been changed so it was reloaded.	[意味] 定義ファイルが変更されたため再読み込みが行われました。 [対処方法] 対処する必要はありません。

5.4 FJSVcirが出力するエラーメッセージ

FSP_FJSVCIR_CIRINST: ERROR: 101: 管理者権限が必要です。

FSP_FJSVCIR_CIRINST: ERROR: 101: CIRINST101: Administrator privilege is required.

【メッセージの意味】

実行する利用者に管理者権限がありません。

【対処方法】

システム管理者権限で再実行してください。

FSP_FJSVCIR_CIRINST: ERROR: 102: %sの作成に失敗しました。

FSP_FJSVCIR_CIRINST: ERROR: 102: CIRINST102: Failed to create %s

【パラメタの意味】

%s: ディレクトリ名

【メッセージの意味】

インストールに必要なディレクトリ作成に失敗しました。

【対処方法】

何らかの理由によりディレクトリ作成コマンド実行に失敗した可能性があります。再度インストーラまたはcirinstコマンドを実行しても解決しない場合は、システムのログを確認してください。

FSP_FJSVCIR_CIRINST: ERROR: 103: CIRINST103: 少なくとも%dMBの空き領域が必要です。

FSP_FJSVCIR_CIRINST: ERROR: 103: CIRINST103: It is required at least %dMB

【パラメタの意味】

%d: ディスク容量

【メッセージの意味】

システムの空き容量が不足しています。

【対処方法】

適用するシステムに十分な空き容量があるか確認してください。

[Windows] FSP_FJSVCIR_CIRINST: ERROR: 104: CIRINST104: CIRファイルのコピーに失敗しました。

[Linux][Solaris] FSP_FJSVCIR_CIRINST: ERROR: 104: CIRINST104: CIRインストーラファイルのコピーに失敗しました。

[Windows] FSP_FJSVCIR_CIRINST: ERROR: 104: CIRINST104: Failed to copy CIR files.

[Linux][Solaris] FSP_FJSVCIR_CIRINST: ERROR: 104: CIRINST104: Failed to copy CIR installer files.

【メッセージの意味】

インストールに必要なファイルのコピーに失敗しました。

【対処方法】

何らかの理由によりコピーコマンド実行に失敗した可能性があります。再度インストーラまたはcirinstコマンドを実行しても解決しない場合は、システムのログを確認してください。

FSP_FJSVCIR_CIRINST: ERROR: 105: CIRINST105: JREのコピーに失敗しました。

FSP_FJSVCIR_CIRINST: ERROR: 105: CIRINST105: Failed to copy JRE.

【メッセージの意味】

インストーラに必要なJREのコピーに失敗しました。

【対処方法】

何らかの理由によりコピーコマンド実行に失敗した可能性があります。再度インストーラまたはcirinstコマンドを実行しても解決しない場合は、システムのログを確認してください。

FSP_FJSVCIR_CIRINST: ERROR: 106: CIRINST106: CIRファイルのコピーに失敗しました。

FSP_FJSVCIR_CIRINST: ERROR: 106: CIRINST106: Failed to copy CIR

【メッセージの意味】

インストールに必要なファイルのコピーに失敗しました。

【対処方法】

何らかの理由によりコピーコマンド実行に失敗した可能性があります。再度インストーラまたはcirinstコマンドを実行しても解決しない場合は、システムのログを確認してください。

FSP_FJSVCIR_CIRINST: ERROR: 107: CIRINST107: 不正なオプションが指定されました。

FSP_FJSVCIR_CIRINST: ERROR: 107: CIRINST107: invalid option.

【メッセージの意味】

指定したオプションが間違っています。

【対処方法】

正しいオプションを指定してください。[-c]:コマンドインターフェース

FSP_FJSVCIR_CIRINST: ERROR: 108: CIRINST108: 配備すべきJREがバンドルされていません。

FSP_FJSVCIR_CIRINST: ERROR: 108: CIRINST108: JRE which should be deployed is not bundled.

【メッセージの意味】

システムに適用可能なJREが同梱されていません。

【対処方法】

適用システムのプラットフォームが製品のサポート範囲であるか確認してください。

FSP_FJSVCIR_CIRINST: ERROR: 109: CIRINST109: 未サポートOSです。

FSP_FJSVCIR_CIRINST: ERROR: 109: CIRINST109: Unsupported OS.

【メッセージの意味】

未サポートのOSです。

【対処方法】

適用システムのプラットフォームが製品のサポートOSか確認してください。

L

FSP_FJSVCIR_CIRINST: ERROR: 185: CIRINST185: lsb_releaseコマンドが見つかりません。以下のパッケージを追加してください。
- redhat-lsb

FSP_FJSVCIR_CIRINST: ERROR: 185: CIRINST185: lsb_release was not found. Please install the package below.
- redhat-lsb

【メッセージの意味】

lsb_releaseコマンドが見つかりません。

【対処方法】

redhat-lsbパッケージを追加してから、再度インストーラを実行してください。

L

FSP_FJSVCIR_CIRINST: ERROR: 186: CIRINST186: lsb_releaseコマンドが見つかりません。

FSP_FJSVCIR_CIRINST: ERROR: 186: CIRINST186: lsb_release was not found.

【メッセージの意味】

lsb_releaseコマンドが見つかりません。

【対処方法】

当該パッケージを追加してから、再度インストーラを実行してください。

FSP_FJSVCIR_CIRINST: ERROR: 201: CIRINST201: 管理者権限が必要です。

FSP_FJSVCIR_CIRINST: ERROR: 201: CIRINST201: Administrator privilege is required.

【メッセージの意味】

実行する利用者に管理者権限がありません。

【対処方法】

システム管理者権限で再実行してください。

FSP_FJSVCIR_CIRINST: ERROR: 203: CIRINST203: ファイルの削除に失敗しました。

FSP_FJSVCIR_CIRINST: ERROR: 203: CIRINST203: Failed to delete files.

【メッセージの意味】

FJSVcirのファイルの削除に失敗しました。

【対処方法】

何らかの理由により削除コマンド実行に失敗した可能性があります。再度cirremoveコマンドを実行しても解決しない場合は、システムのログを確認してください。

FSP_FJSVCIR_CIRINST: ERROR: 205: CIRINST205: 不正なオプションが指定されました。

FSP_FJSVCIR_CIRINST: ERROR: 205: CIRINST205: invalid option.

【メッセージの意味】

指定したオプションが間違っています。

【対処方法】

指定可能なオプションはありません。オプションを記述せずに実行してください。

インストールパラメータファイルが見つかりませんでした。

Specified installation parameters file was not found.

【メッセージの意味】

指定したインストールパラメータファイルが見つかりません。(サイレントモード)

【対処方法】

指定したインストールパラメータファイルの有無を確認して、正しく指定し直してください。

インストールに失敗しました。詳細はログを参照してください。

It failed to install. See log for details

【メッセージの意味】

インストール中にエラーが発生しました。(サイレントモード)

【対処方法】

以下のログファイルを確認してください。

[UNIX]

/var/opt/FJSVCir/cir/logs/cirlog0.log.0

[Windows]

%ProgramData%\Fujitsu\FujitsuF4CR\cir\logs\cirlog0.log.0

パラメータが不正です。正しいパラメータを指定してください。

Parameters are invalid. Please specify valid parameters.

【メッセージの意味】

指定したパラメータが間違っています。(サイレントモード)

【対処方法】

凡例に従ってパラメータを正しく指定してください。

内部データが壊れています。

Internal data is broken.

【メッセージの意味】

本ツールが利用している内部データが破損しています。

【対処方法】

以下のディレクトリ内のファイルを採取し、富士通技術員に連絡をお願いします。

[UNIX]

/var/opt/FJSVCIR/cir/

/etc/opt/FJSVCIR/cir/CIR.properties

[Windows]

%ProgramData%\Fujitsu\FujitsuF4CR\cir\

5.5 「アンインストールと管理(ミドルウェア)」機能が出力するエラーメッセージ

別プロセスですでに起動中です。

It has already been running in another process.

【メッセージの意味】

「アンインストールと管理(ミドルウェア)」を多重起動しようとした。または、インストーラ起動中に「アンインストールと管理(ミドルウェア)」を起動しようとした。

【対処方法】

すでに起動している「アンインストールと管理(ミドルウェア)」を終了してください。または、インストーラが終了したあと、「アンインストールと管理(ミドルウェア)」を起動してください。

不正なオプションが指定されました。

Specified option is invalid.

【メッセージの意味】

指定したオプションが間違っています。

【対処方法】

Usageに従って正しいオプションを指定してください。

指定された文字以外が入力されました。

Please enter a valid option.

【メッセージの意味】

利用可能な文字(項目番号またはy/n)以外が入力されました。

【対処方法】

画面を確認して、適切な文字を入力してください。

以下のソフトウェアのアンインストールに失敗しました:

Failed to uninstall of the following software packages:

【メッセージの意味】

このメッセージ以降に表示されるソフトウェアのアンインストールに失敗しました。

【対処方法】

このメッセージ以降に表示されているアンインストール失敗のメッセージを確認して、対処してください。

他のソフトウェアから参照されているため、アンインストールできません。

Unable to uninstall the software as it is referred from more than one software.

【メッセージの意味】

アンインストールしようとしたソフトウェアは、複数のソフトウェアから利用されているため、アンインストールできません。

【対処方法】

対処の必要はありません。

必須ソフトウェアのため、単体ではアンインストールできません。

Unable to uninstall the software as the software is mandatory.

【メッセージの意味】

アンインストールしようとしたソフトウェアは、他のソフトウェアの必須ソフトウェアとなっているため、アンインストールできません。

【対処方法】

対処の必要はありません。

内部データが壊れています。

Internal data is broken.

【メッセージの意味】

本ツールが利用している内部データが破損しています。

【対処方法】

以下のディレクトリ内のファイルを採取し、富士通技術員に連絡をお願いします。

[UNIX]

/var/opt/FJSVCIR/cir/

/etc/opt/FJSVCIR/cir/CIR.properties

[Windows]

%ProgramData%\Fujitsu\FujitsuF4CR\cir\

他製品の前提製品となっているため、アンインストールできません。

Unable to uninstall the software you were about to uninstall as the existence of the software is a precondition for the operation of another software.

【メッセージの意味】

アンインストールしようとしたソフトウェアは、他のソフトウェアの前提ソフトウェアとなっているため、アンインストールできません。

【対処方法】

対処の必要はありません。

異常終了しました。

The program terminated abnormally.

【メッセージの意味】

本ツールが異常終了しました。

【対処方法】

以下のディレクトリ内のファイルを採取し、富士通技術員に連絡をお願いします。

[UNIX]

/var/opt/FJ SVCIR/cir/

/etc/opt/FJ SVCIR/cir/CIR.properties

[Windows]

%ProgramData%\Fujitsu\FujitsuF4CR\cir\

アンインストール中に予期せぬエラーが発生しました。

An unexpected error has occurred during uninstall.

【メッセージの意味】

アンインストール処理中に異常が発生しました。

【対処方法】

以下のディレクトリ内のファイルを採取し、富士通技術員に連絡をお願いします。

[UNIX]

/var/opt/FJ SVCIR/cir/

/etc/opt/FJ SVCIR/cir/CIR.properties

[Windows]

%ProgramData%\Fujitsu\FujitsuF4CR\cir\

アンインストールに失敗しました。詳細はログを参照してください。

It failed to uninstall. See log for details.

【メッセージの意味】

アンインストール中にエラーが発生しました。(サイレントモード)

【対処方法】

以下のログファイルを確認してください。

[UNIX]

/var/opt/FJSVcir/cir/logs/cirlog0.log.0

[Windows]

%ProgramData%\Fujitsu\FujitsuF4CR\cir\logs\cirlog0.log.0

作業ディレクトリの初期化に失敗しました。

Failed to initialize the temp directory.

【メッセージの意味】

作業ディレクトリの初期化に失敗したため、「アンインストールと管理(ミドルウェア)」を起動できませんでした。

【対処方法】

再度「アンインストールと管理(ミドルウェア)」を起動してください。起動しなおしても解決しない場合は、他のプロセスが以下のディレクトリ配下のファイルにアクセスしていないか確認してください。

[UNIX]

/var/opt/FJSVcir/cir/temp/meta_db

[Windows]

%ProgramData%\Fujitsu\FujitsuF4CR\cir\temp\meta_db

[注意]アンインストールを完了するには再起動が必要です。

[Notice]Need to restart for uninstall completion.

【メッセージの意味】

アンインストールが完了しました。システムの再起動を行ってください。(サイレントモード)

【対処方法】

システムの再起動は自動実行されません。手動でシステムを再起動してください。

付録A インストールレス型Agent(WMI通信)の収集項目とWMIカウンタの対応一覧

インストールレス型Agent(WMI通信)の収集項目とWMIカウンタの対応の一覧です。

WMI クラス	WMI カウンタ	Record ID	Field Name
Win32_PerfRawData_PerfDisk_LogicalDisk	DiskReadsPerSec	WIN_LOGDIS KBUSY	lreadsec
	DiskWritesPerSec	WIN_LOGDIS KBUSY	lwritsec
	CurrentDiskQueueLength	WIN_LOGDIS KBUSY	lqueue
	DiskReadBytesPerSec	WIN_LOGDIS KBUSY	lreadbyt
	DiskWriteBytesPerSec	WIN_LOGDIS KBUSY	lwritbyt
	PercentDiskReadTime	WIN_LOGDIS KBUSY	lreadtim
	PercentDiskWriteTime	WIN_LOGDIS KBUSY	lwrittim
	PercentDiskTime	WIN_LOGDIS KBUSY	ldisktim
	PercentIdleTime	WIN_LOGDIS KBUSY	lidletim
	FreeMegabytes	WIN_DISKSP ACE	free
		WIN_DISKSP ACE	total
	PercentFreeSpace	WIN_DISKSP ACE	freepc
		WIN_DISKSP ACE	total
Win32_PerfRawData_PerfDisk_PhysicalDisk	DiskReadsPerSec	WIN_PHYDIS KBUSY	preadsec
	DiskWritesPerSec	WIN_PHYDIS KBUSY	pwritsec
	AvgDiskQueueLength	WIN_PHYDIS KBUSY	pqueue
	DiskReadBytesPerSec	WIN_PHYDIS KBUSY	preadbyt
	DiskWriteBytesPerSec	WIN_PHYDIS KBUSY	pwritbyt
	PercentDiskReadTime	WIN_PHYDIS KBUSY	preadtim
	PercentDiskWriteTime	WIN_PHYDIS KBUSY	pwrittim

WMI クラス	WMI カウンタ	Record ID	Field Name
	AvgDiskSecPerRead	WIN_PHYDIS KBUSY	psecread
	AvgDiskSecPerWrite	WIN_PHYDIS KBUSY	psecwrit
	AvgDiskSecPerTransfe r	WIN_PHYDIS KBUSY	psectran
	SplitIOPerSec	WIN_PHYDIS KBUSY	psplitio
	PercentDiskTime	WIN_PHYDIS KBUSY	pdisktim
	PercentIdleTime	WIN_PHYDIS KBUSY	pidletim
	DiskReadsPerSec	OSRESOURC E_PHYDISK	osrpread
	DiskWritesPerSec	OSRESOURC E_PHYDISK	osrpwrit
	DiskReadsPerSec DiskWritesPerSec	OSRESOURC E_PHYDISK	osrprtran
	DiskReadBytesPerSec	OSRESOURC E_PHYDISK	osrpreadby t
	DiskWriteBytesPerSec	OSRESOURC E_PHYDISK	osrpwritby t
	DiskReadBytesPerSec DiskWriteBytesPerSec	OSRESOURC E_PHYDISK	osrprtranby t
Win32_PerfRawData_PerfOS_Memory	AvailableBytes	WIN_MEMO RY	freemem
	CacheBytes	WIN_MEMO RY	cachtotl
	CacheBytesPeak	WIN_MEMO RY	cachpeak
	CacheFaultsPerSec	WIN_MEMO RY	cachflts
	CommitLimit	WIN_MEMO RY	comlim
	CommittedBytes	WIN_MEMO RY	comtot
	PageFaultsPerSec	WIN_MEMO RY	pagflts
	PagesInputPerSec	WIN_MEMO RY	pagins
	SystemCacheResidentB ytes	WIN_MEMO RY	sycchres
	SystemCodeResidentBy tes	WIN_MEMO RY	sycodres
	SystemCodeTotalBytes	WIN_MEMO RY	sycodtot

WMI クラス	WMI カウンタ	Record ID	Field Name
	SystemDriverResidentBytes	WIN_MEMORY	sydrvres
	SystemDriverTotalBytes	WIN_MEMORY	sydrvtot
	TransitionFaultsPerSec	WIN_MEMORY	tranflt
	WriteCopiesPerSec	WIN_MEMORY	writcopy
	PoolNonpagedAllocs	WIN_MEMORY	nopagalc
	PoolNonpagedBytes	WIN_MEMORY	nopagtot
	PoolPagedAllocs	WIN_MEMORY	pagalloc
	PoolPagedBytes	WIN_MEMORY	pagtot
	PoolPagedResidentBytes	WIN_MEMORY	pgrestot
	PagesOutputPerSec	WIN_MEMORY	pagouts
	AvailableBytes	OSRESOURC E_MEMORY	osrfreem
Win32_PerfRawData_PerfOS_PagingFile	PercentUsage	WIN_PAGEFI LE	pfusage
	PercentUsagePeak	WIN_PAGEFI LE	pfusagepk
Win32_PerfRawData_PerfOS_Processor	PercentDPCTime	WIN_CPUBU SY	cpudcp
	PercentInterruptTime	WIN_CPUBU SY	cpuint
	PercentPrivilegedTime	WIN_CPUBU SY	syscpu
	PercentUserTime	WIN_CPUBU SY	usrcpu
	PercentProcessorTime	WIN_CPUBU SY	totcpu
	PercentProcessorTime	WIN_CPUBU SY	cpupcent
	PercentProcessorTime	OSRESOURC E_PROCESSO R	osrcputime
		OSRESOURC E_PROCESSO R	osrcpupce nt
Win32_PerfRawData_Tcpip_NetworkInterface	BytesReceivedPerSec	WIN_NET_IN TERFACE	ifbytin

WMI クラス	WMI カウンタ	Record ID	Field Name
	BytesSentPerSec	WIN_NET_IN TERFACE	ifbytot
	OutputQueueLength	WIN_NET_IN TERFACE	ifqulen
	PacketsReceivedPerSec	WIN_NET_IN TERFACE	ifpktin
	PacketsSentPerSec	WIN_NET_IN TERFACE	ifpktot
	PacketsReceivedPerSec	OSRESOURC E_NET_INTE RFACE	osrrecvpkt
	PacketsSentPerSec	OSRESOURC E_NET_INTE RFACE	osrsendpkt
	PacketsSentPerSec	OSRESOURC E_NET_INTE RFACE	osrtotpkt
	BytesReceivedPerSec	OSRESOURC E_NET_INTE RFACE	osrrecvbyt
	BytesSentPerSec	OSRESOURC E_NET_INTE RFACE	osrsendbyt
	BytesTotalPerSec	OSRESOURC E_NET_INTE RFACE	osrtotbyt
Win32_PerfRawData_PerfOS_System	Processes	WIN_SYSTE M	tprocs
	Threads	WIN_SYSTE M	tthrds
	FileControlBytesPerSec	WIN_SYSTE M	fctlbyte
	FileControlOperationsPerSec	WIN_SYSTE M	fctlops
	FileReadBytesPerSec	WIN_SYSTE M	freadbyt
	FileReadOperationsPerSec	WIN_SYSTE M	freadops
	FileWriteBytesPerSec	WIN_SYSTE M	fwritbyt
	FileWriteOperationsPerSec	WIN_SYSTE M	fwritops
	ContextSwitchesPerSec	WIN_SYSTE M	thrwchs
	FloatingEmulationsPerSec	WIN_SYSTE M	flems

WMI クラス	WMI カウンタ	Record ID	Field Name
	ProcessorQueueLength	WIN_SYSTE M	cpuqueue
	SystemCallsPerSec	WIN_SYSTE M	syscalls